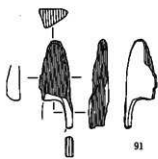
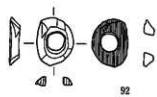


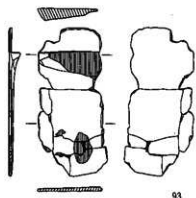
90



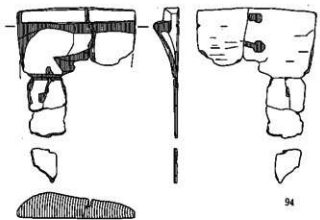
91



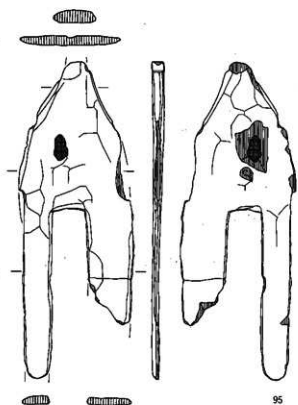
92



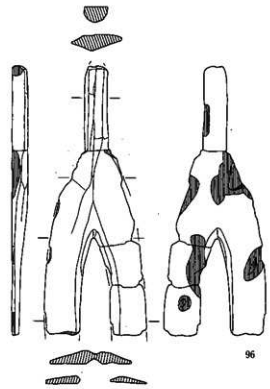
93



94



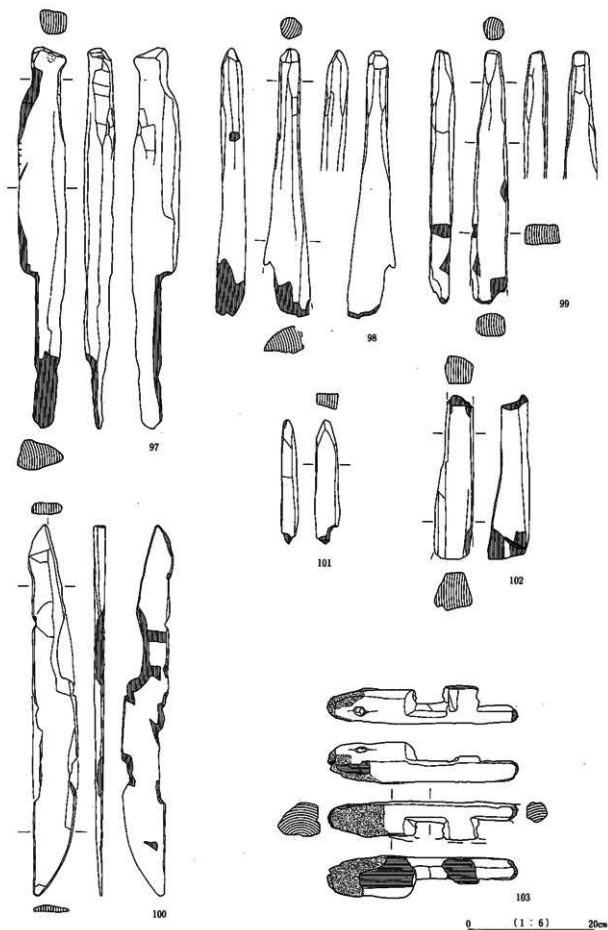
95



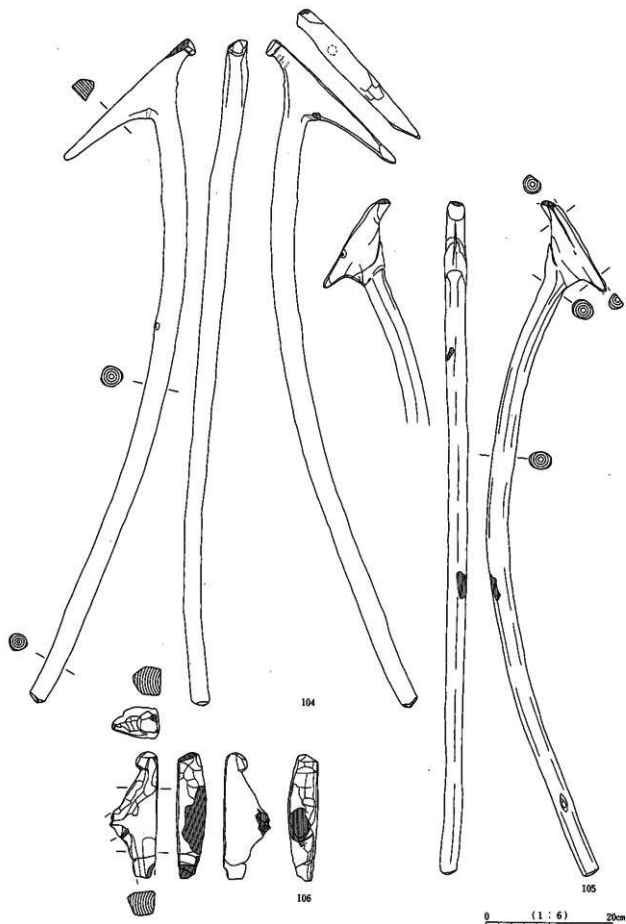
96

0 (1:6) 20cm

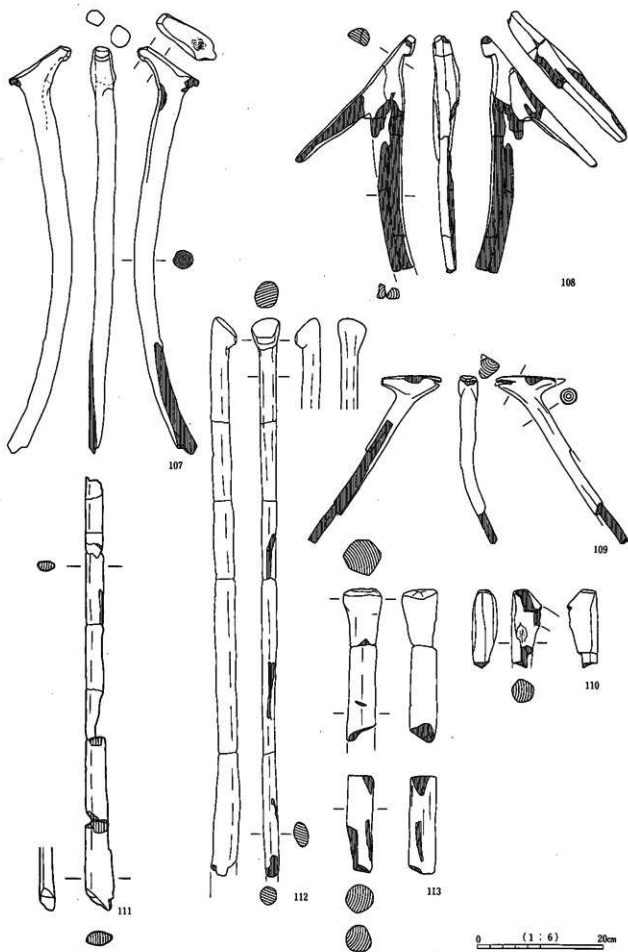
器具15 直柄平嵌・曲柄嵌木製品(90~96)



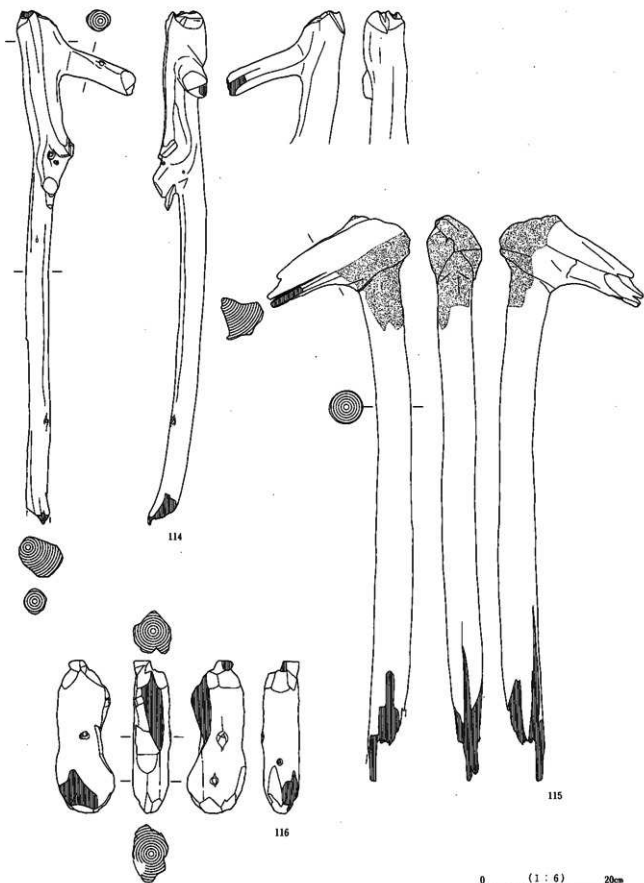
器具18 曲柄骨製品、その他(97~103)



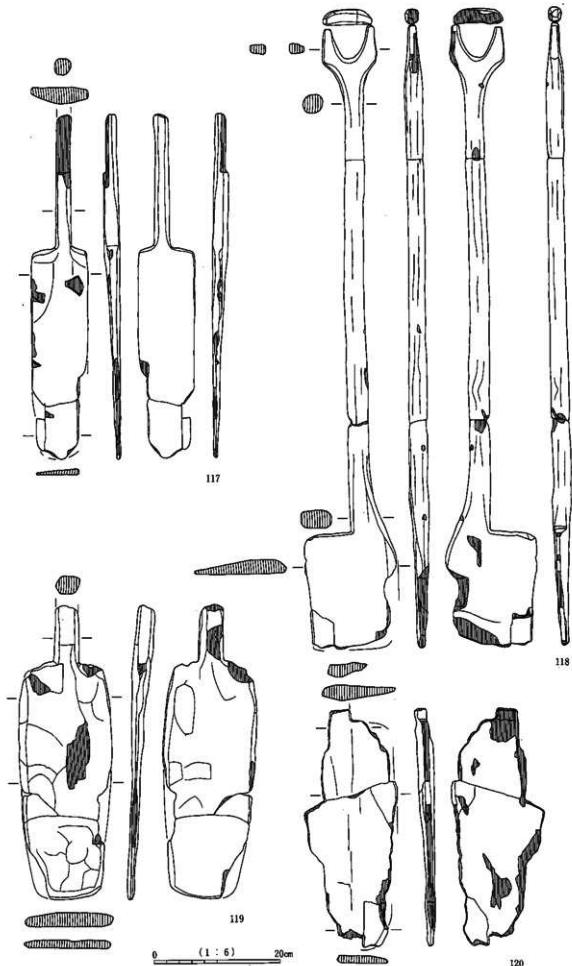
图版17 骨器(104~106)



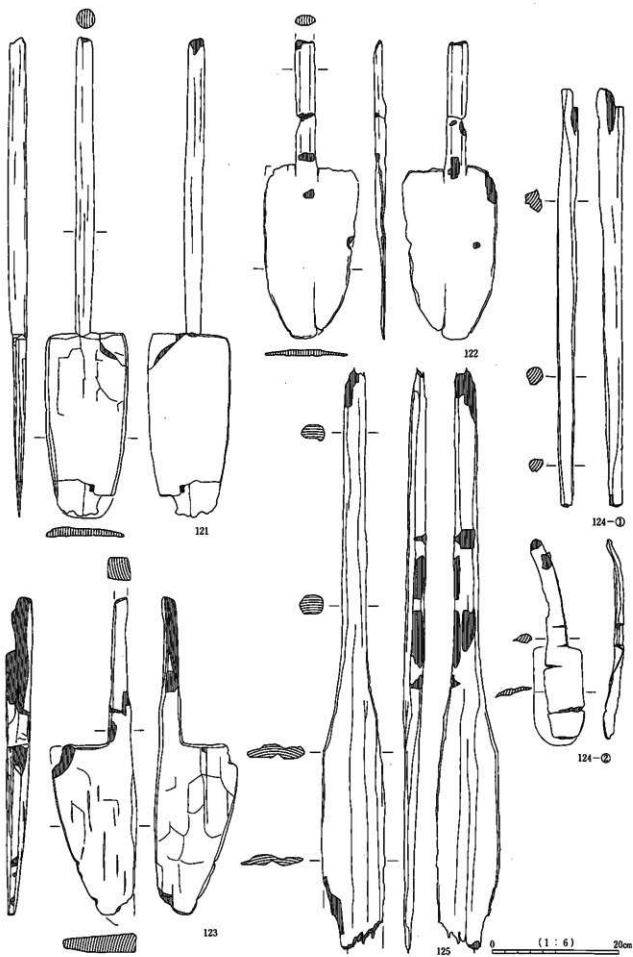
图版18 青铜兵器·反柄·铜柄(107~113)



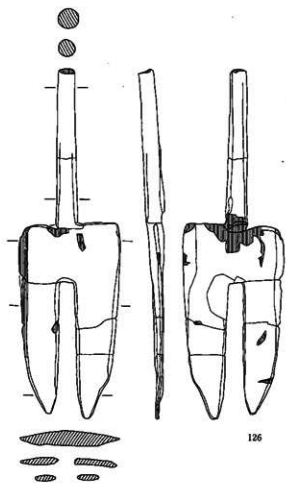
器具19 藤柄末製品、その他(114~116)



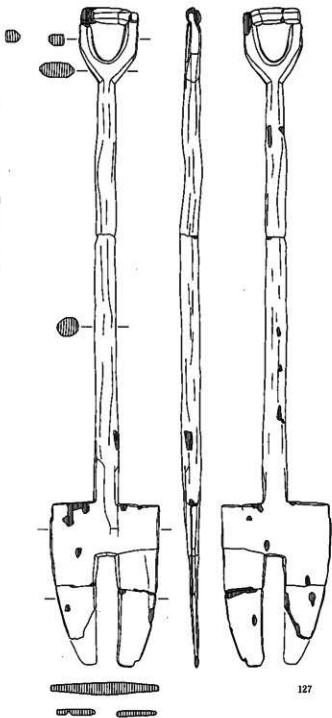
器具28 一木平鋸(117~120)



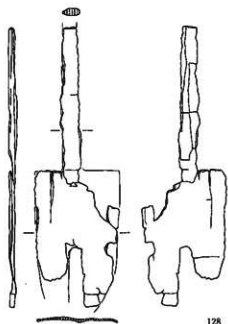
農具21 一木平鋤(121~125)



126



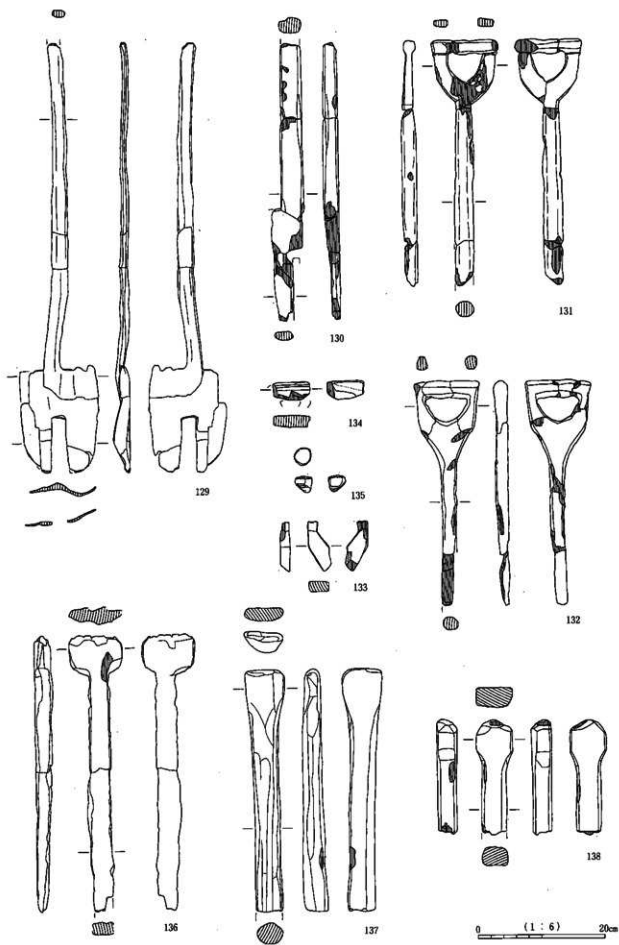
127



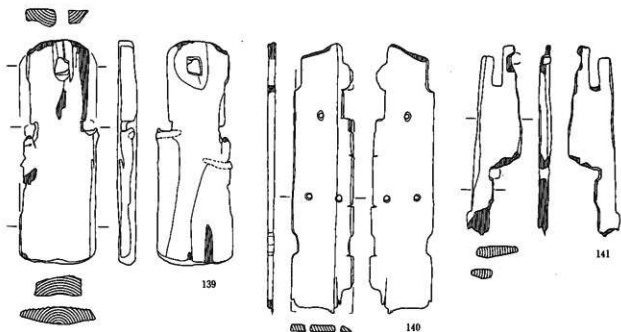
128

0 (1:6) 20cm

图版22 一木叉脚(126~128)



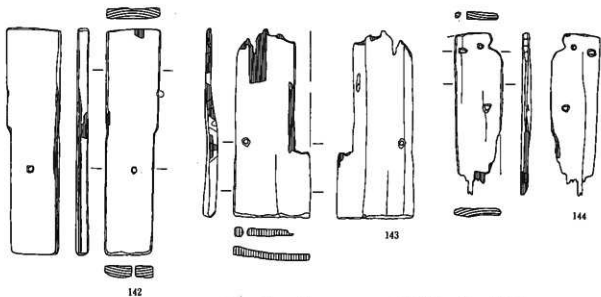
图版23 一木器・銅柄(128~138)



139

140

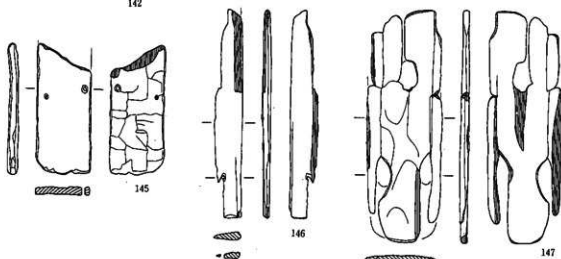
141



142

143

144

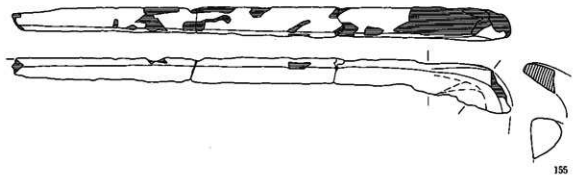
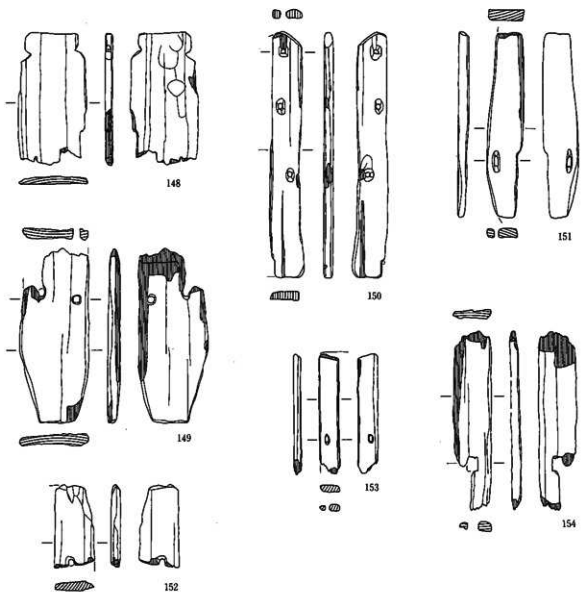


145

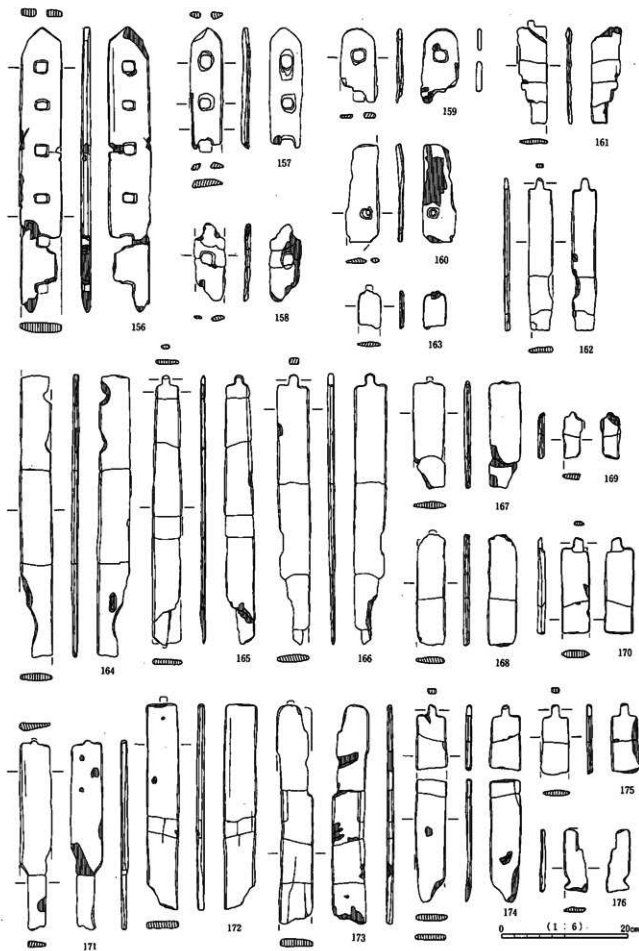
146

147

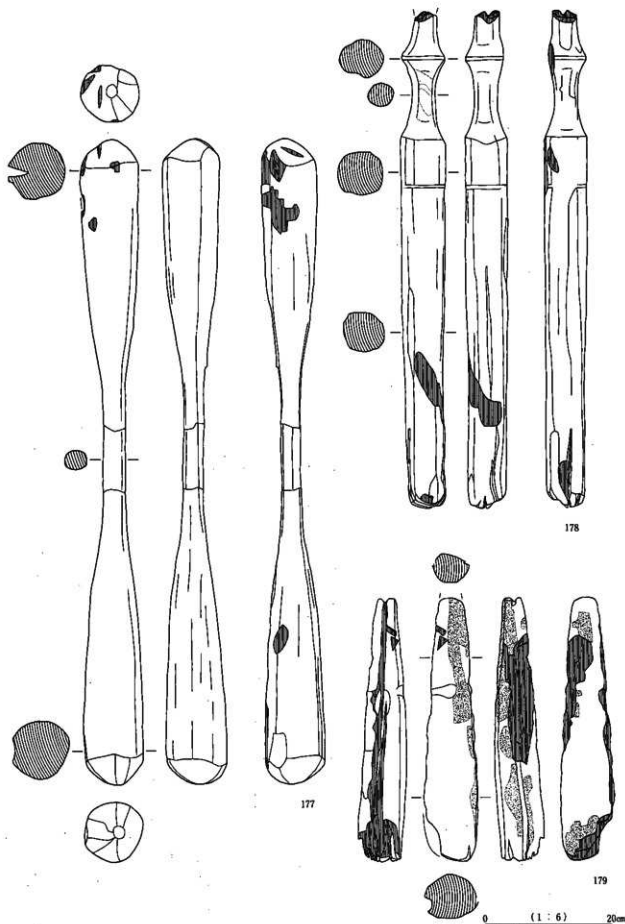
0 (1:6) 20cm



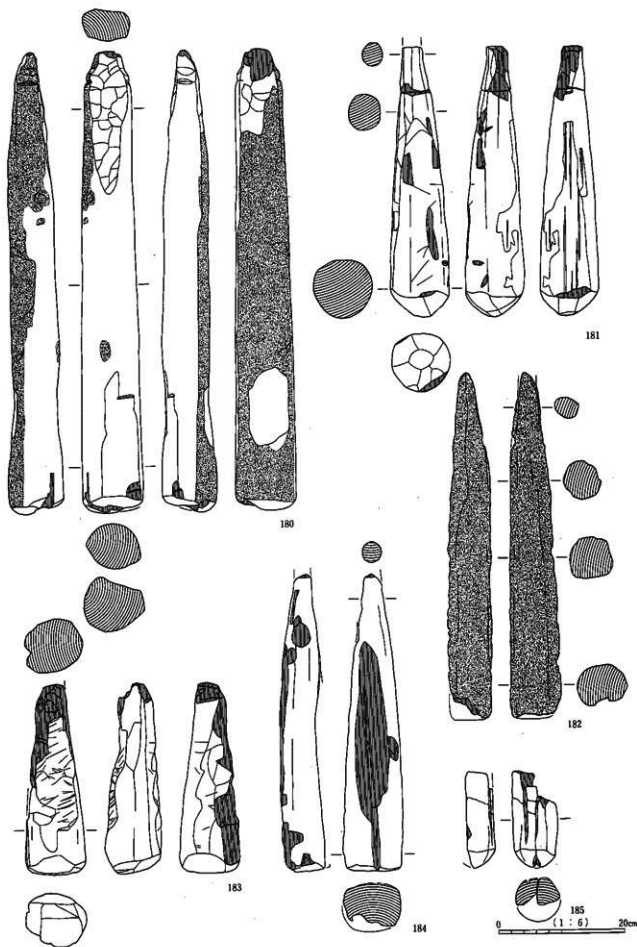
0 (1:6) 20cm



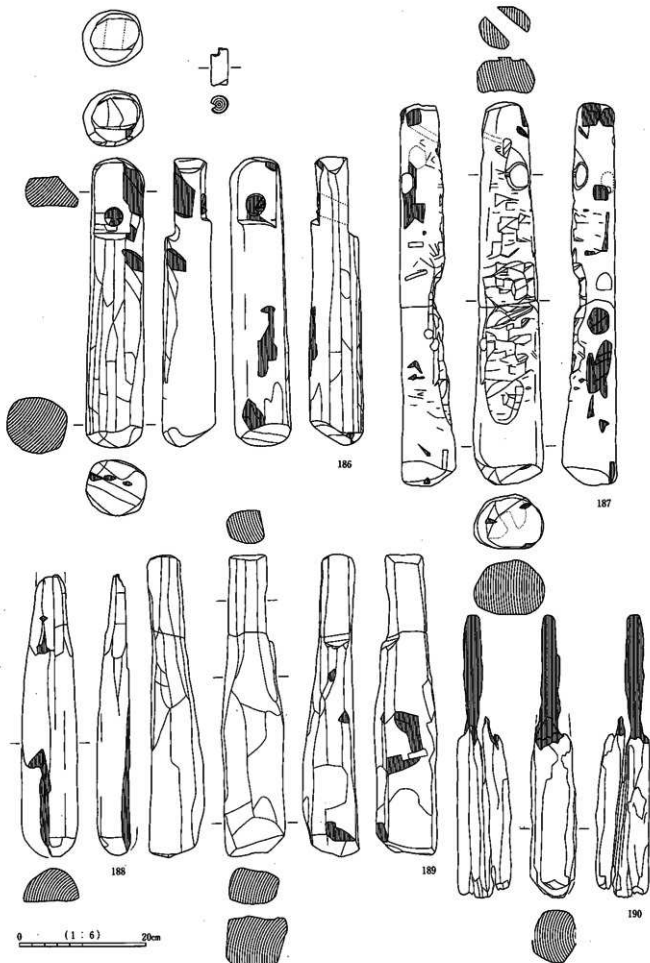
图版26 田下麻杵村(156~176)



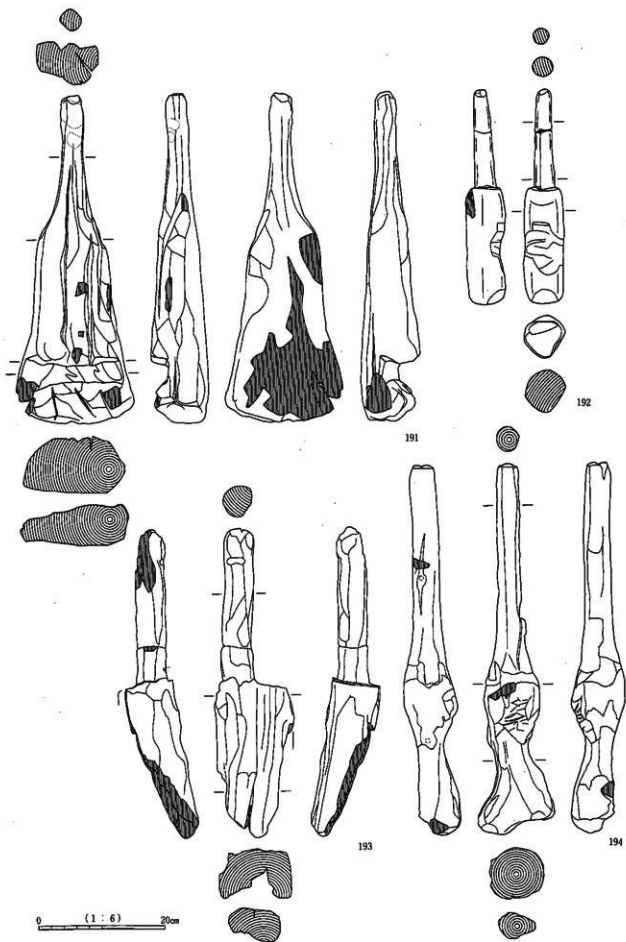
图版27 木杆(177~179)



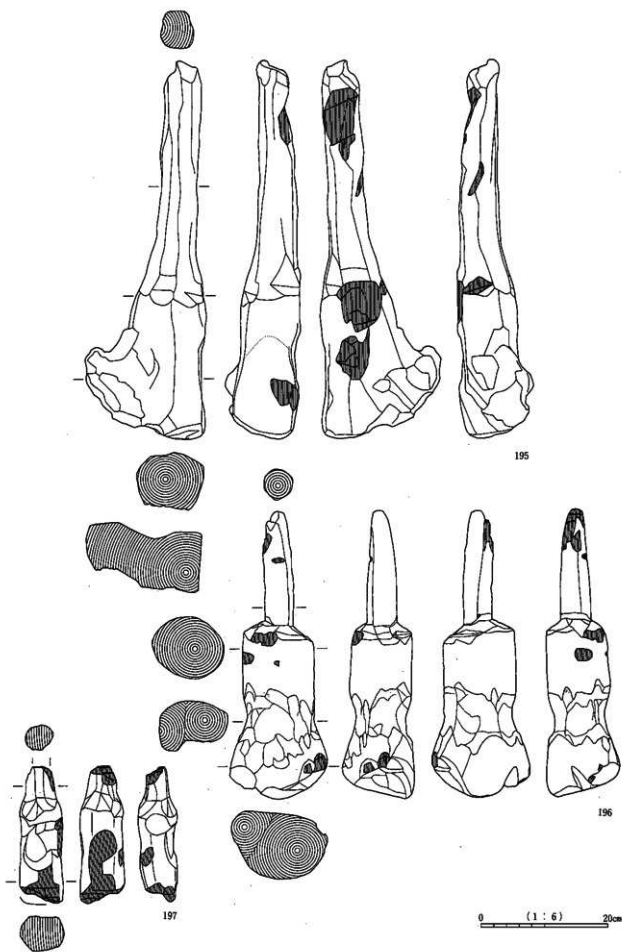
器具28 箭头(180~185)



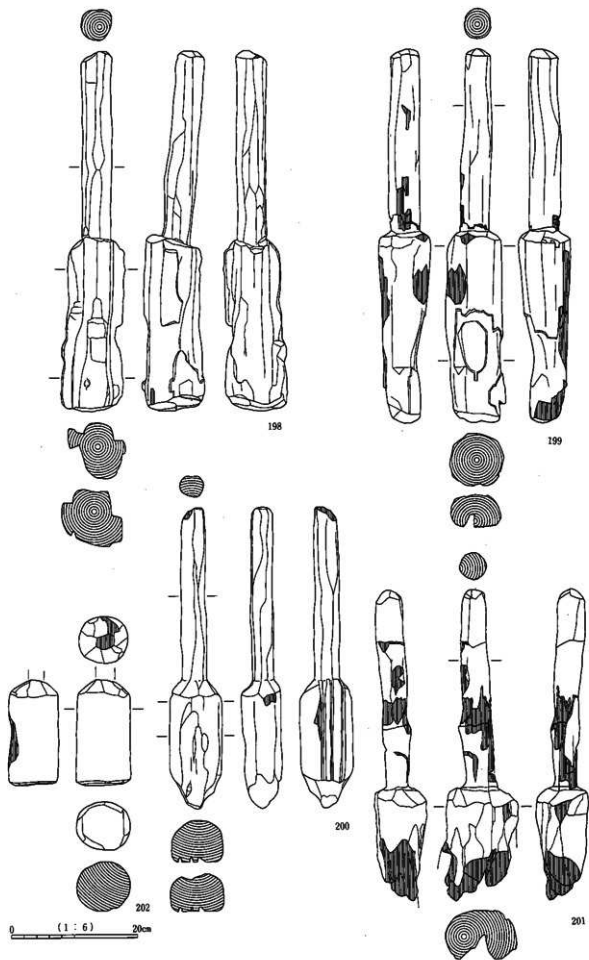
图版29 横杆·竖杆·杆末制品(186~190)



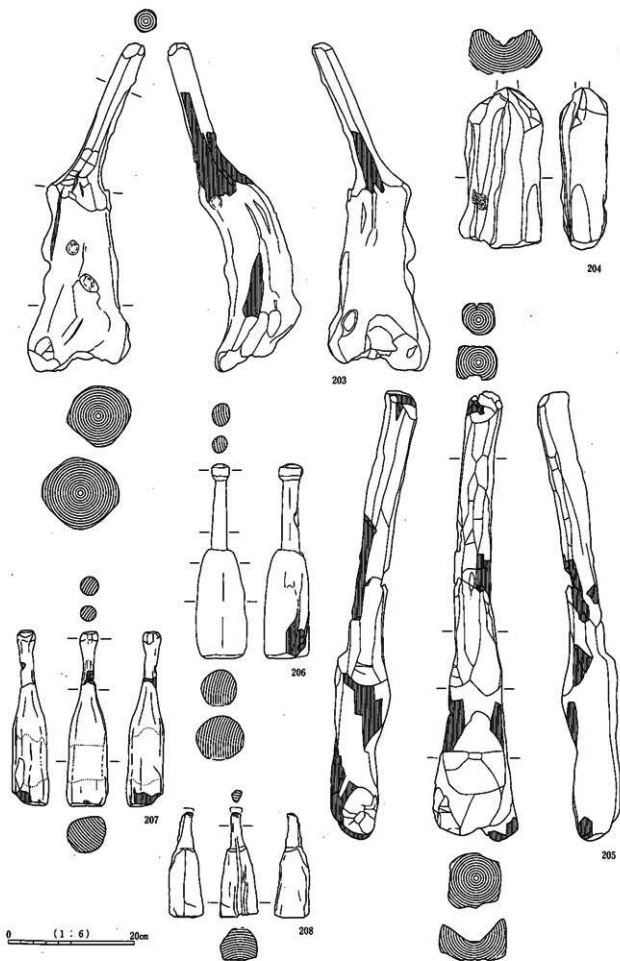
图版30 横纹(191~194)



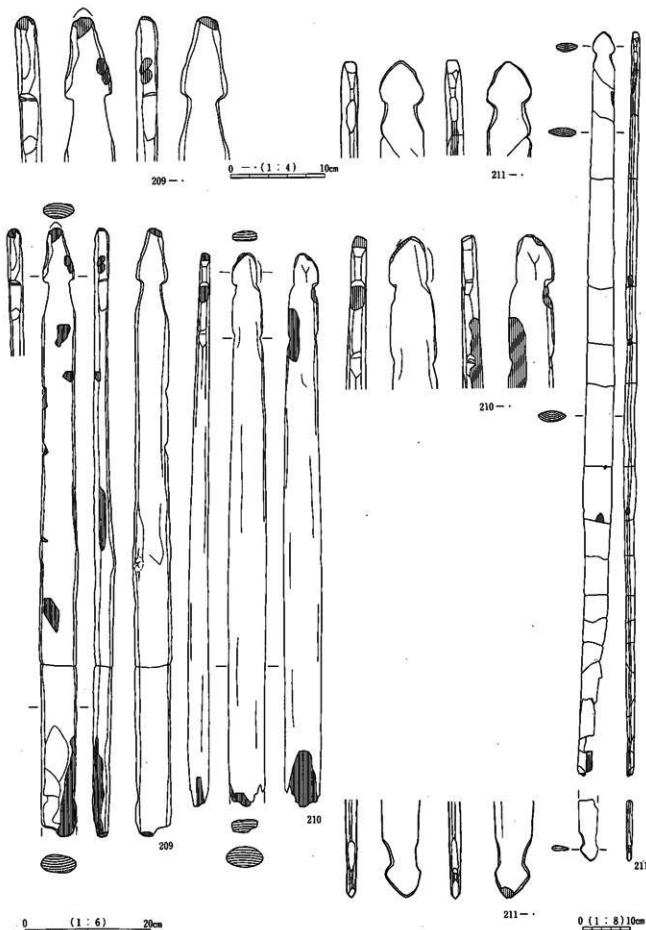
農具31 横切(195~197)



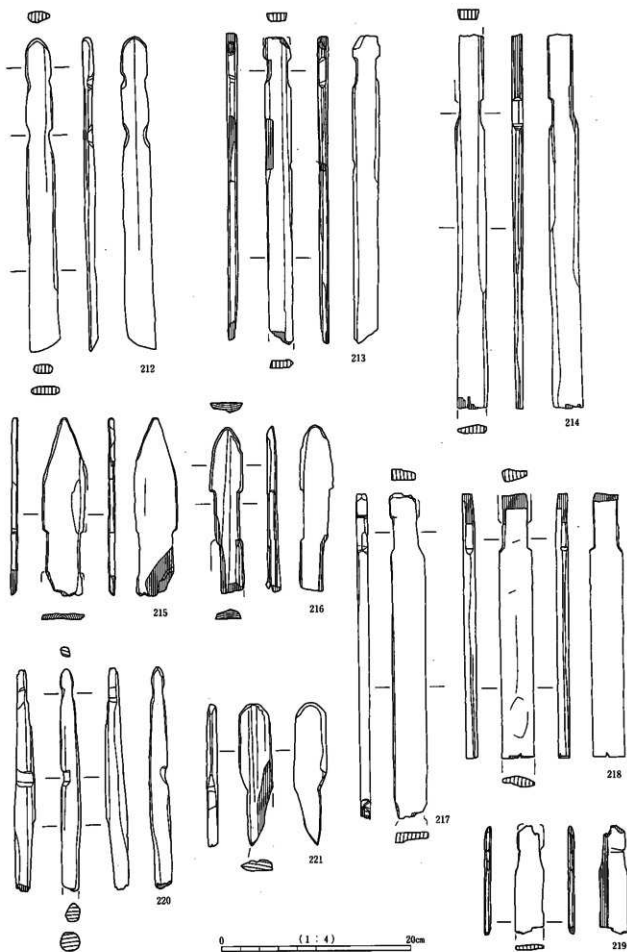
图版32 横植(198~202)



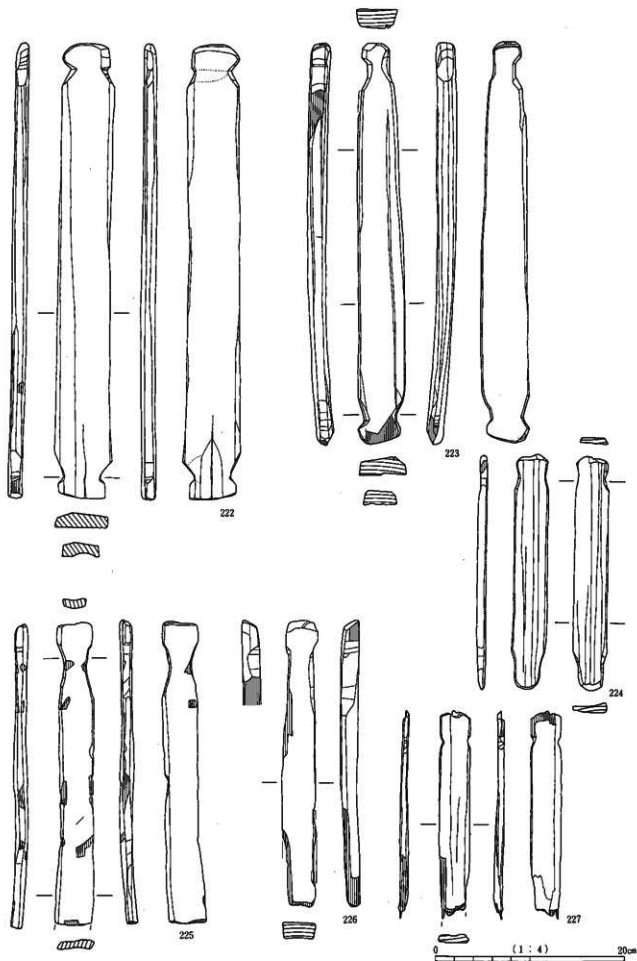
器具33 横断(203~208)



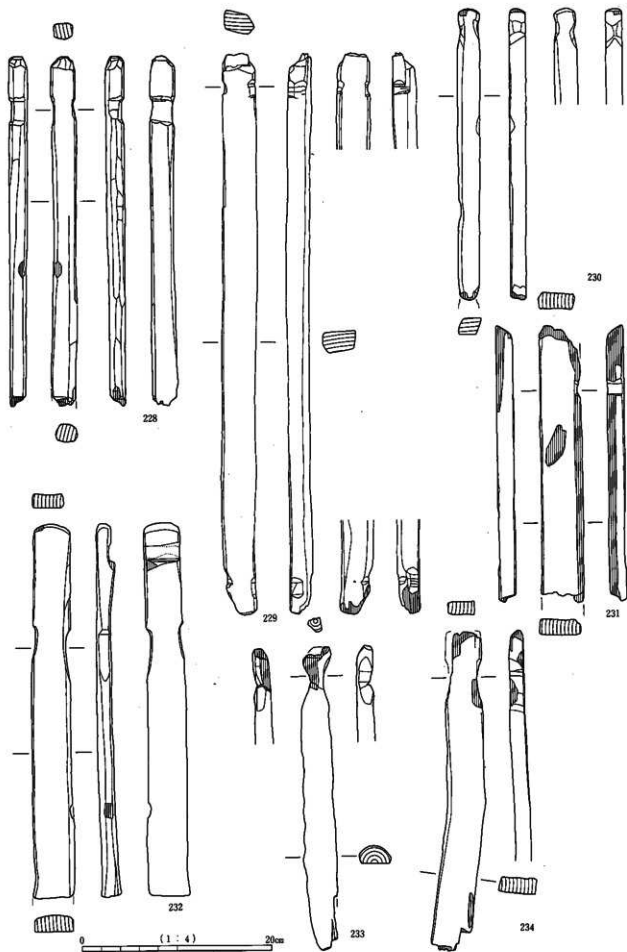
用途不明品 1 有頭状木製品(209~211)



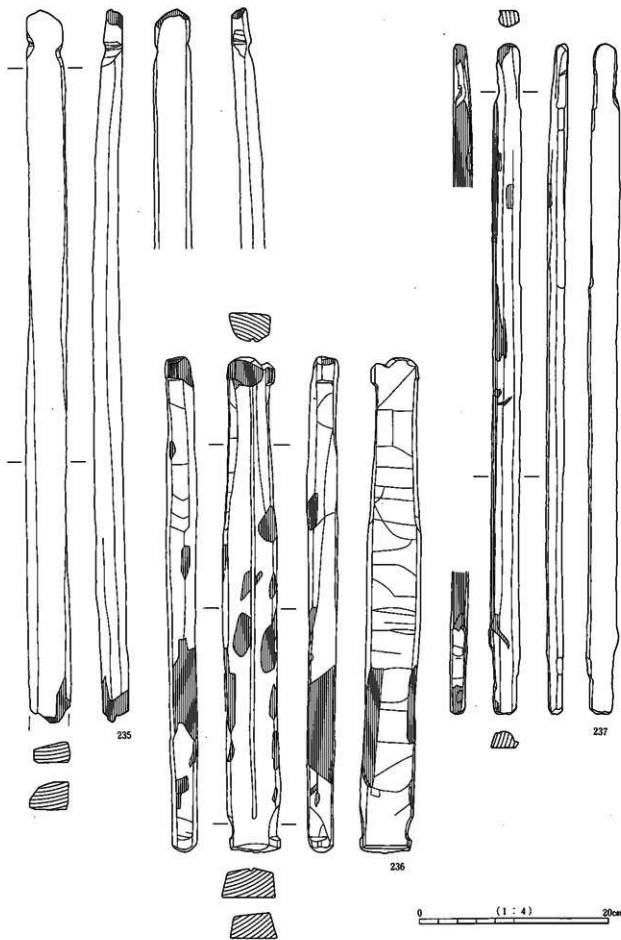
用途不明品 2 有頭杖木製品(212~221)



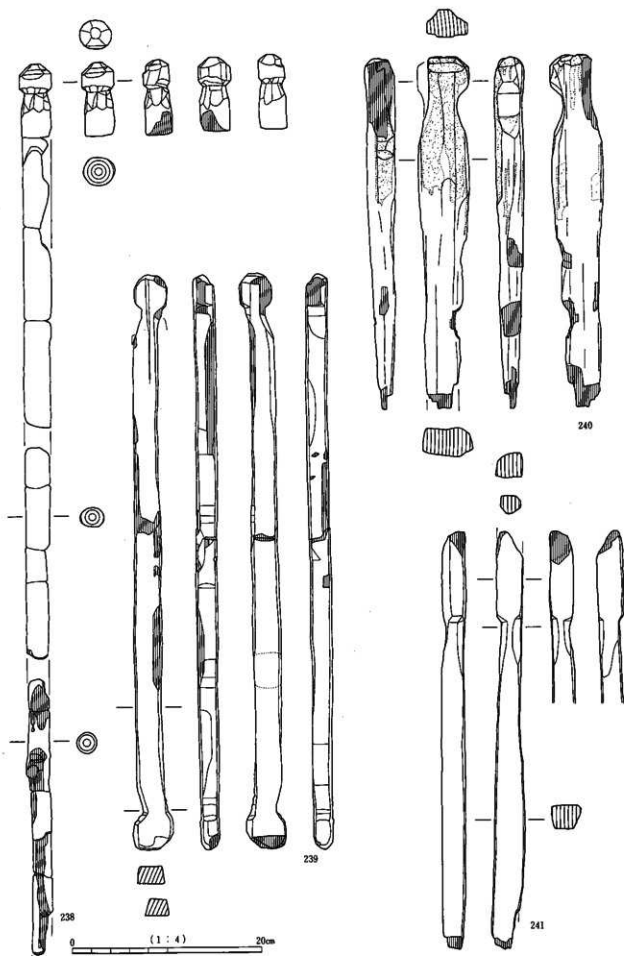
用途不明品 3 有頭状木製品(222~227)



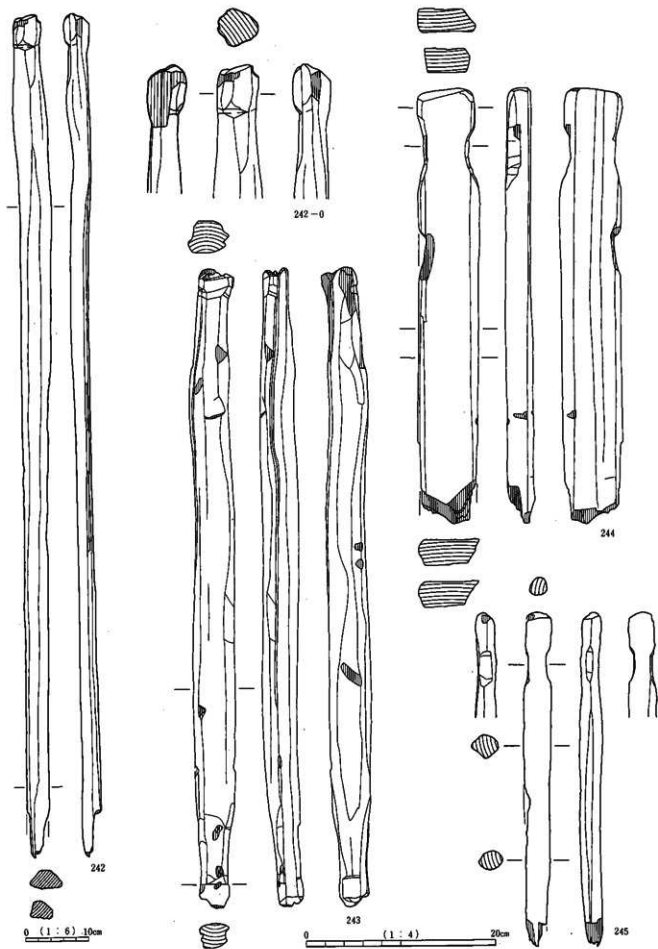
用途不明品 4 有頭状木製品(228~234)



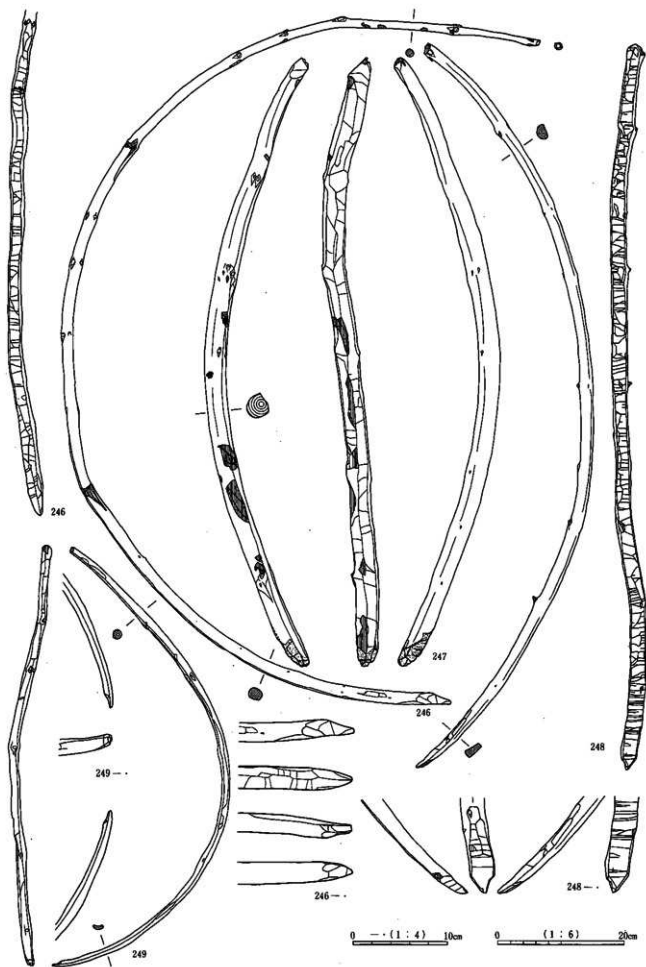
用途不明品 5 有頭状木製品(235~237)



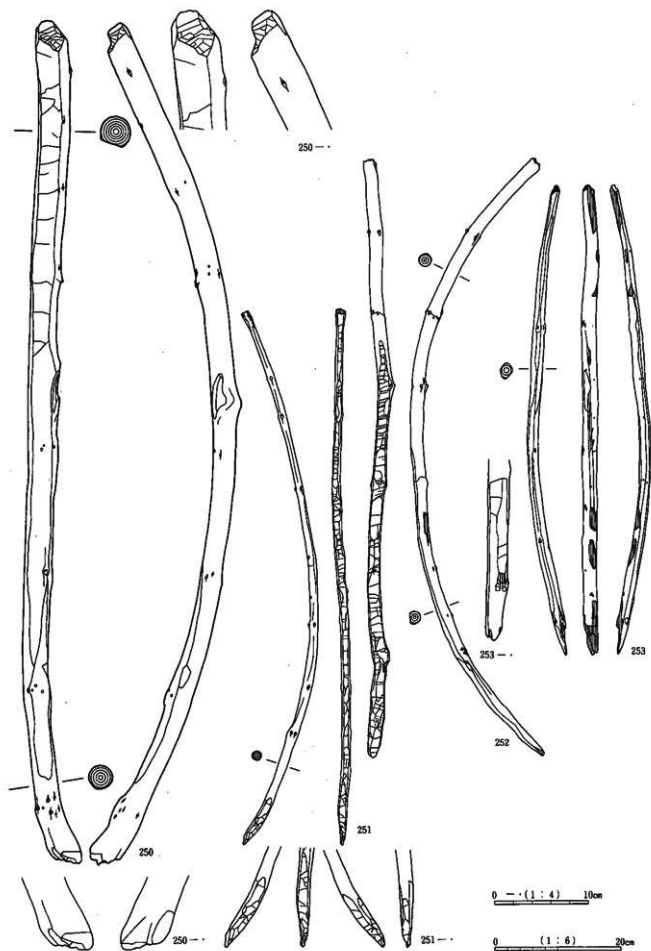
用途不明品 6 有頭状木製品(238~241)



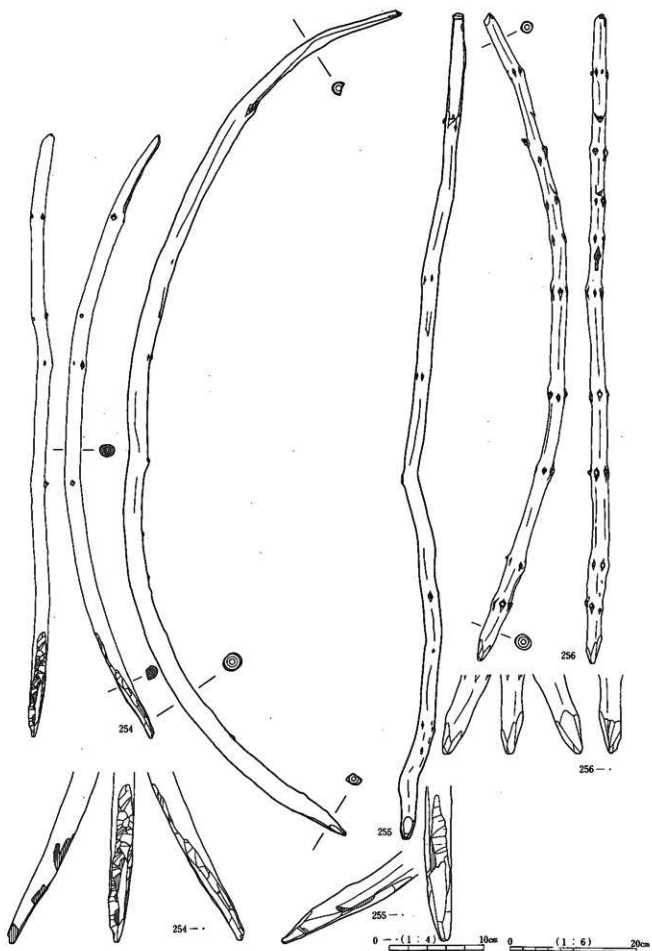
用途不明品 7 有眼状木製品(242~245)



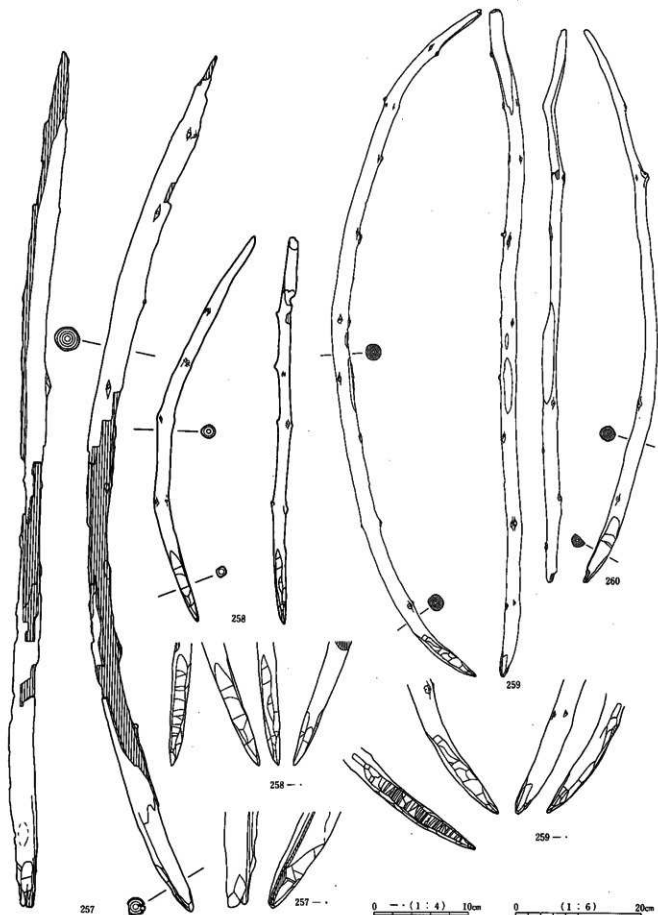
用途不明品 弓状木製品(246~249)



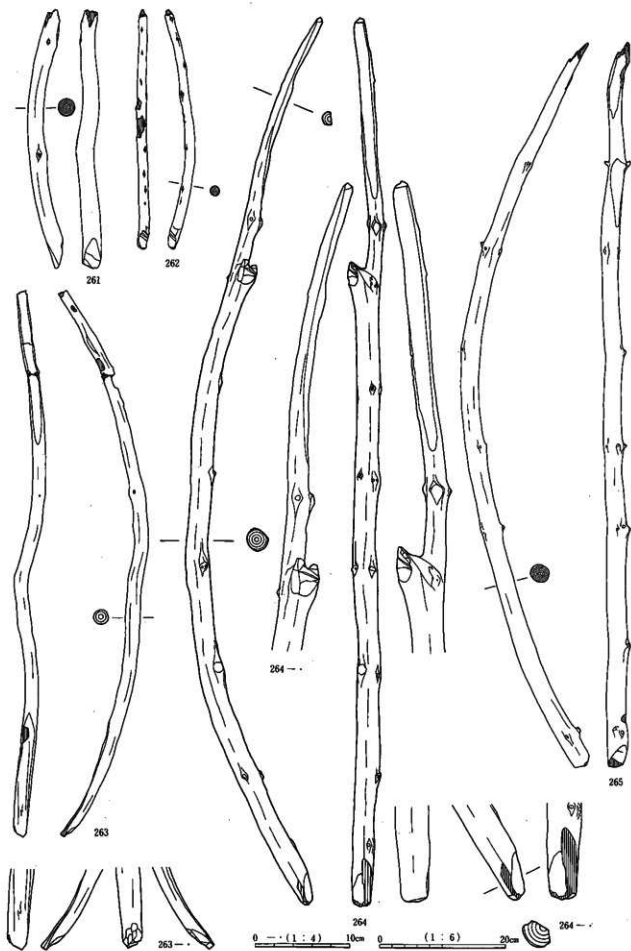
用途不明品 9 弓状木製品(250~253)



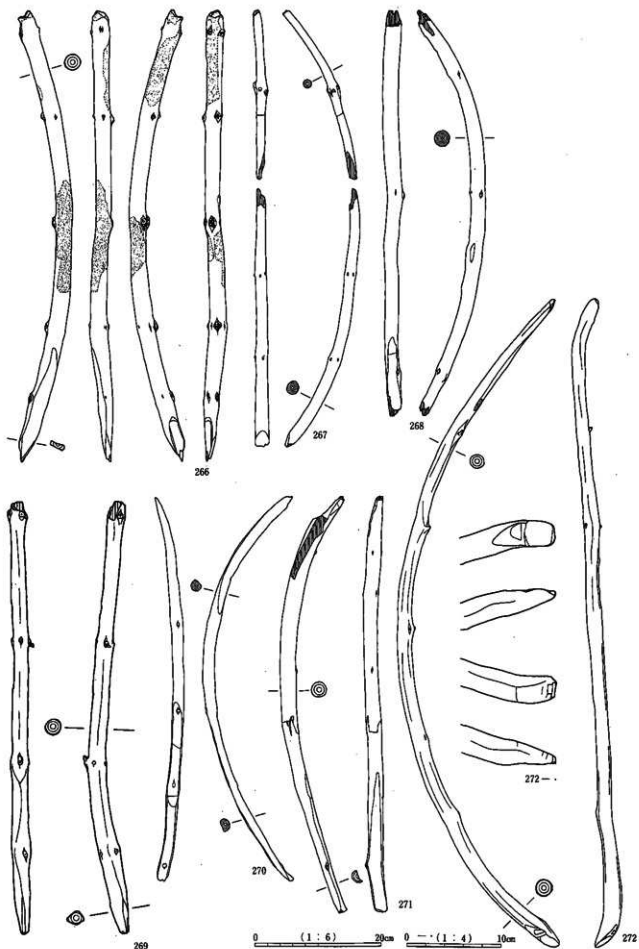
用途不明品10 马状木製品(254~256)



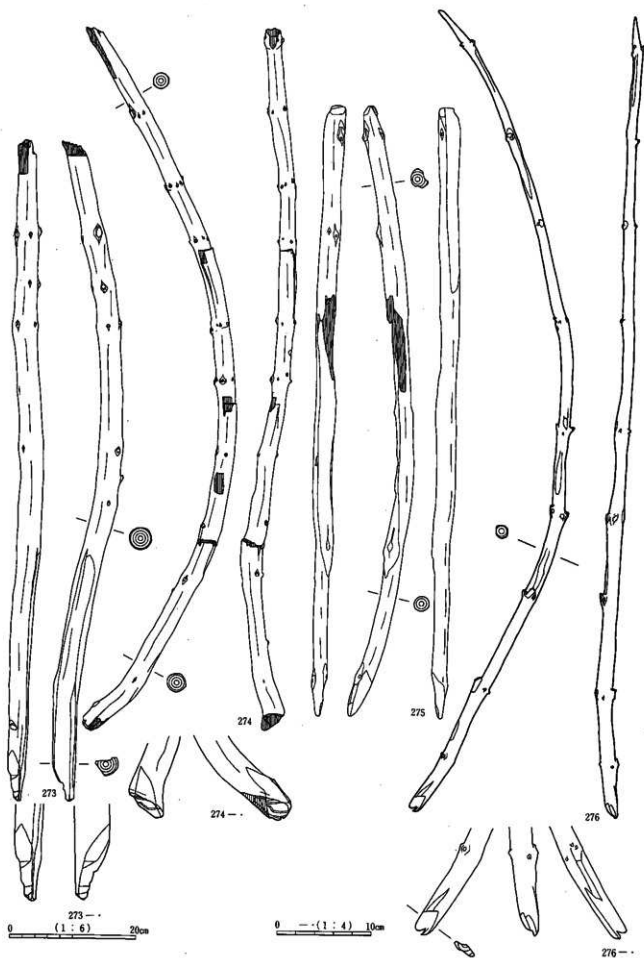
用途不明品11 弓状木製品(257~260)



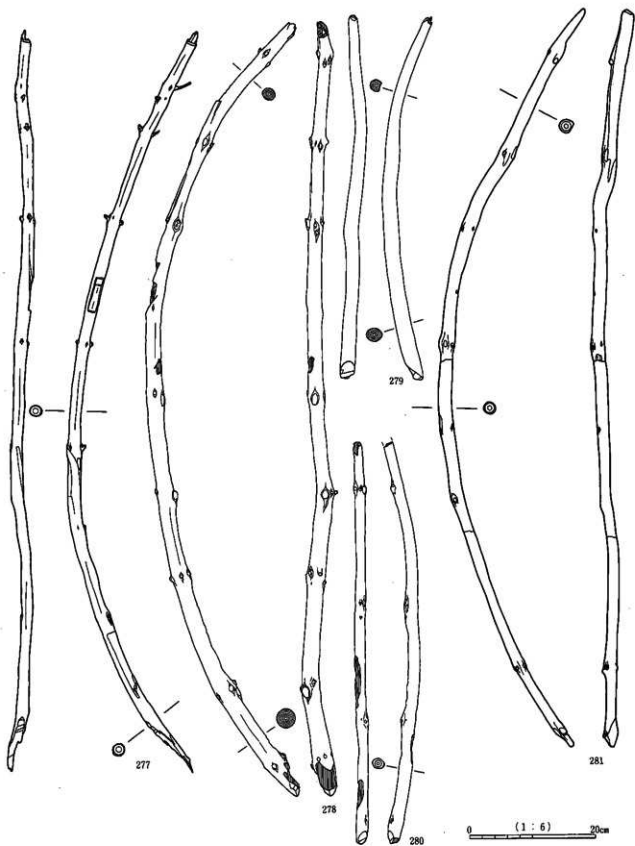
用途不明品12 弓状木製品(261~265)



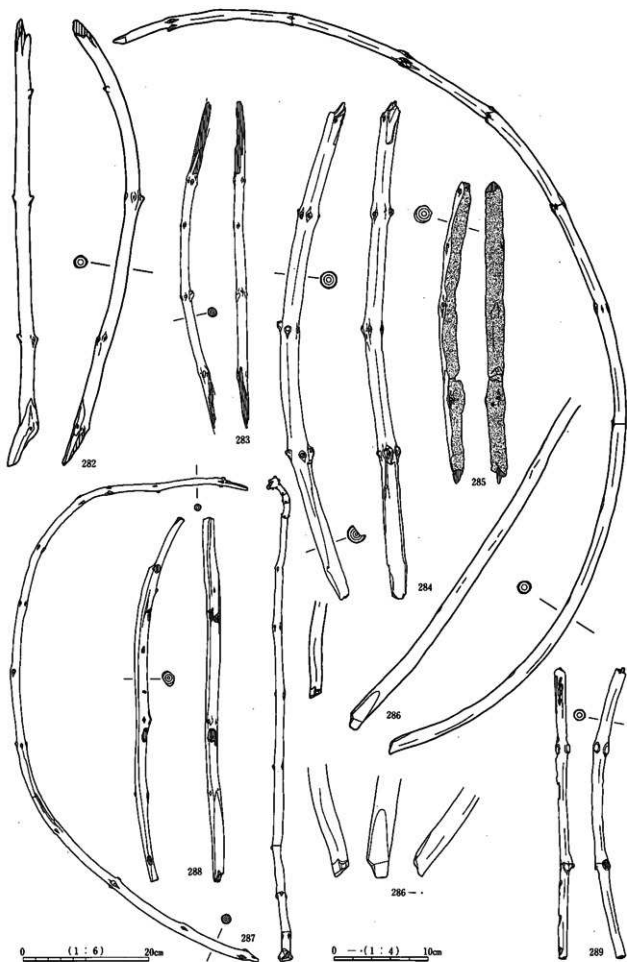
用途不明品13 弓状木製品(266~272)



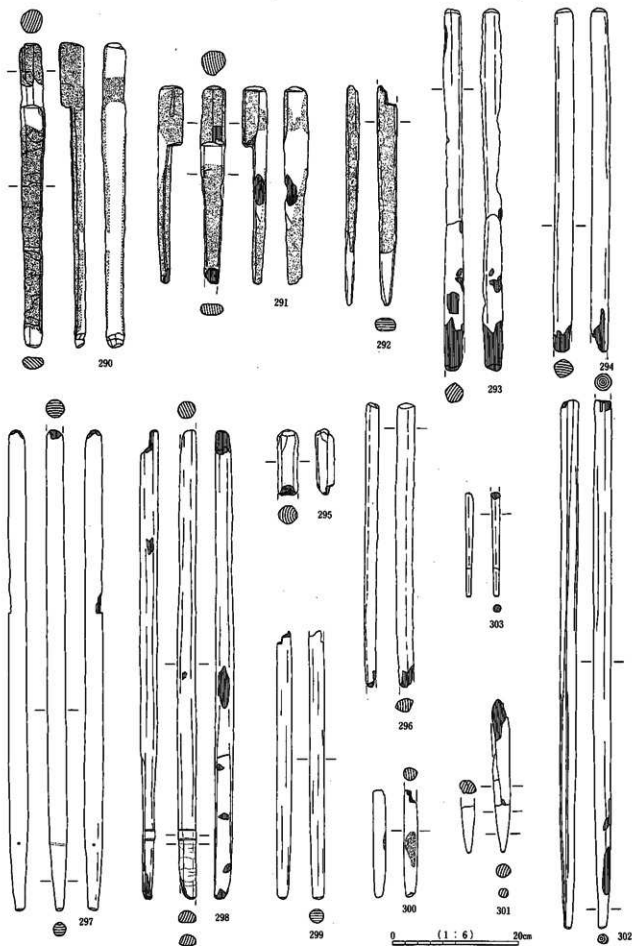
用途不明品14 弓状木製品(273~276)



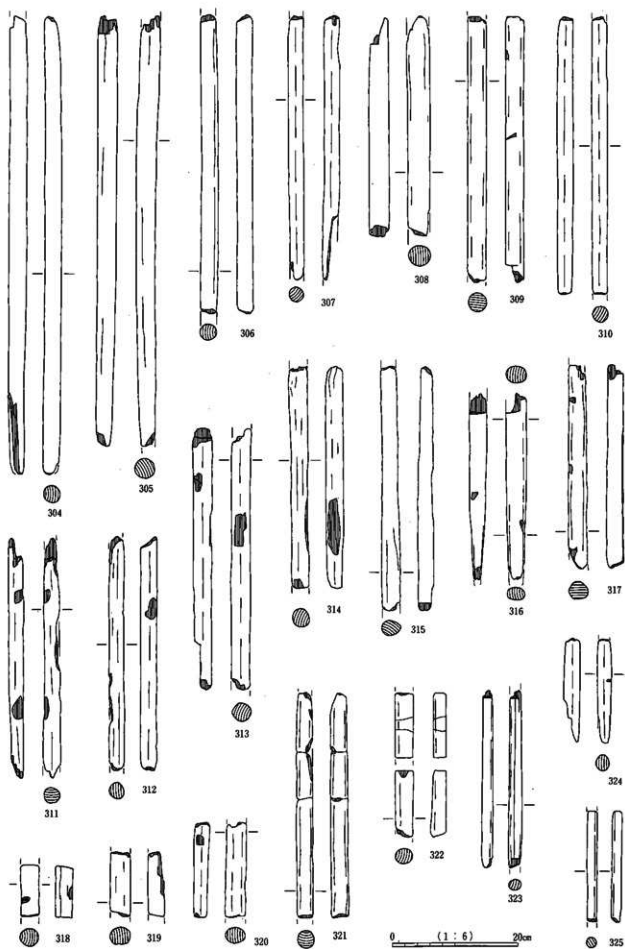
用途不明品15 弓状木製品(277~281)



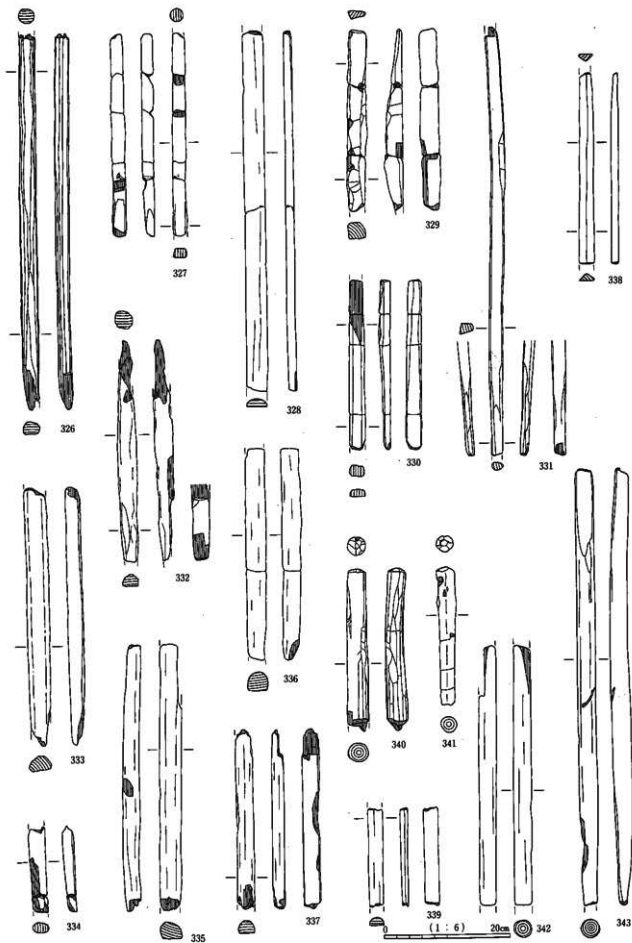
用途不明品16 弓状木製品(282~288)



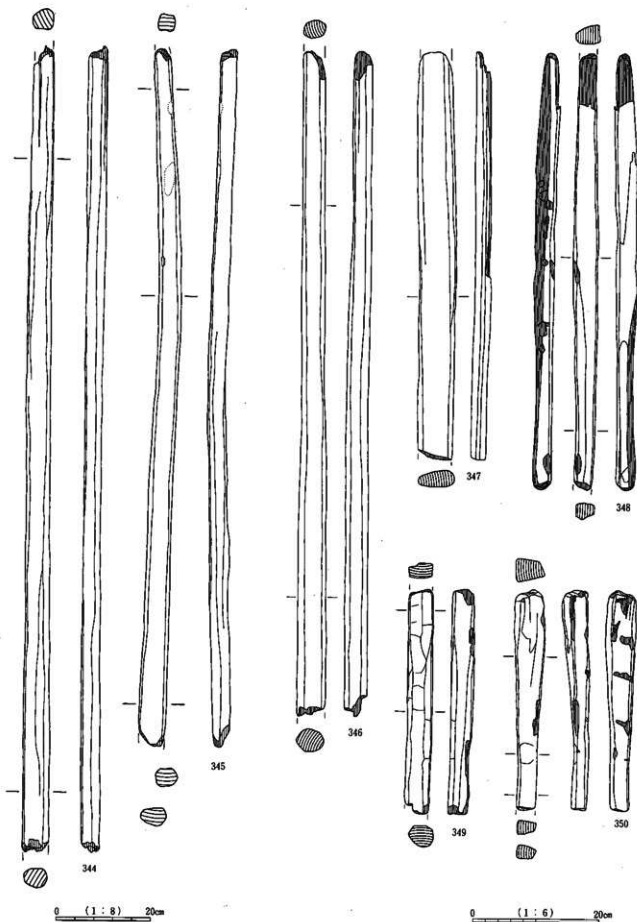
用途不明品17 棒状木製品(290~303)



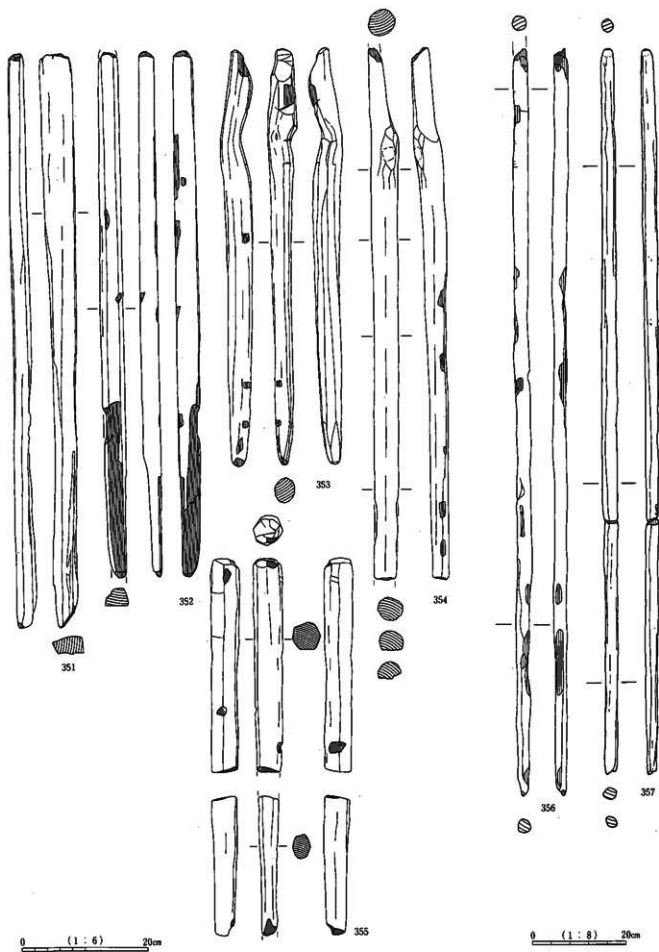
用途不明品18 棒状木製品(304~325)



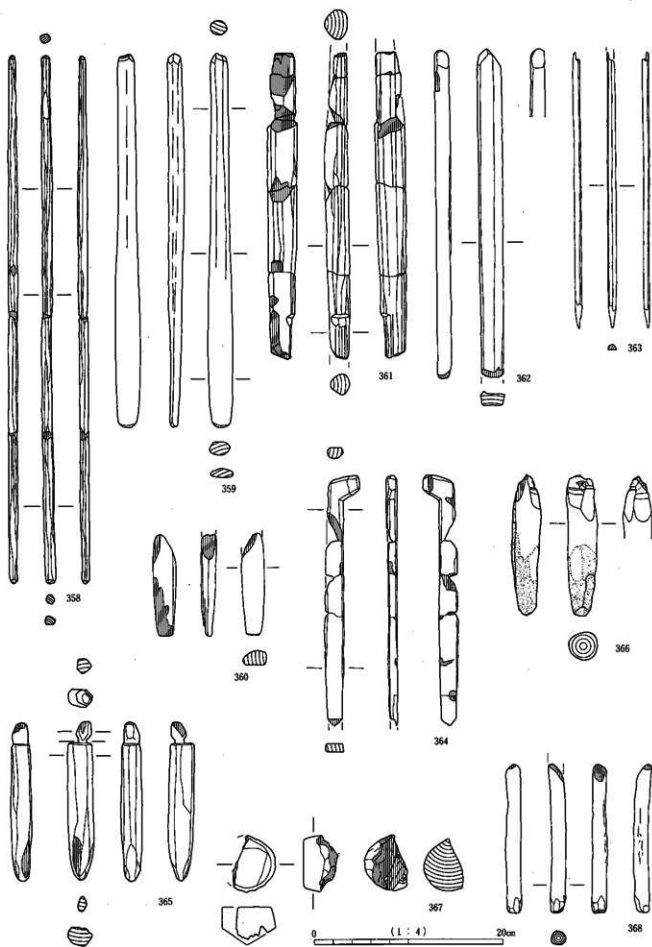
用途不明品19 棒状木製品(326~343)



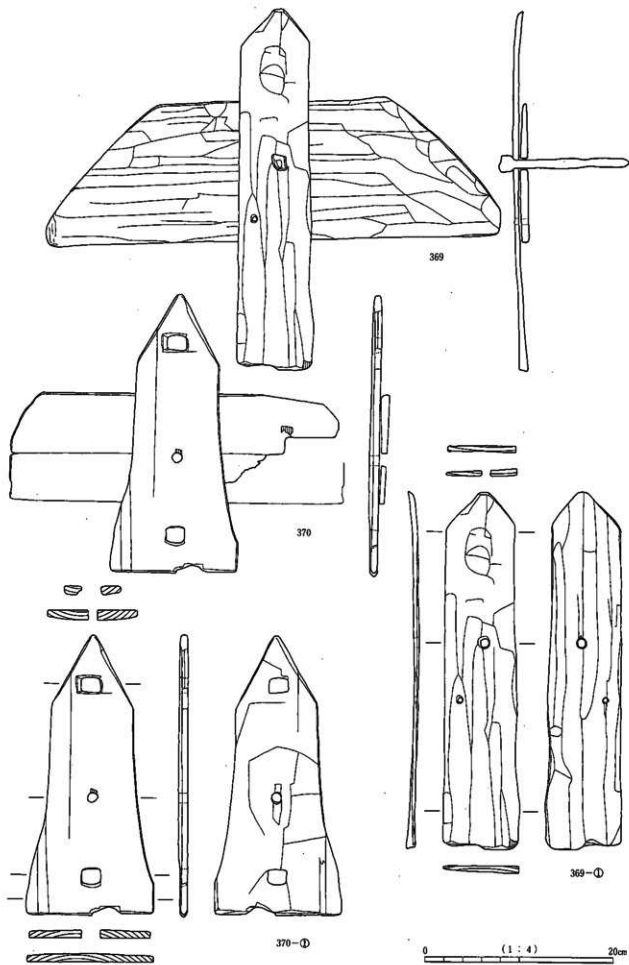
用途不明品20 棒状木製品(344~350)



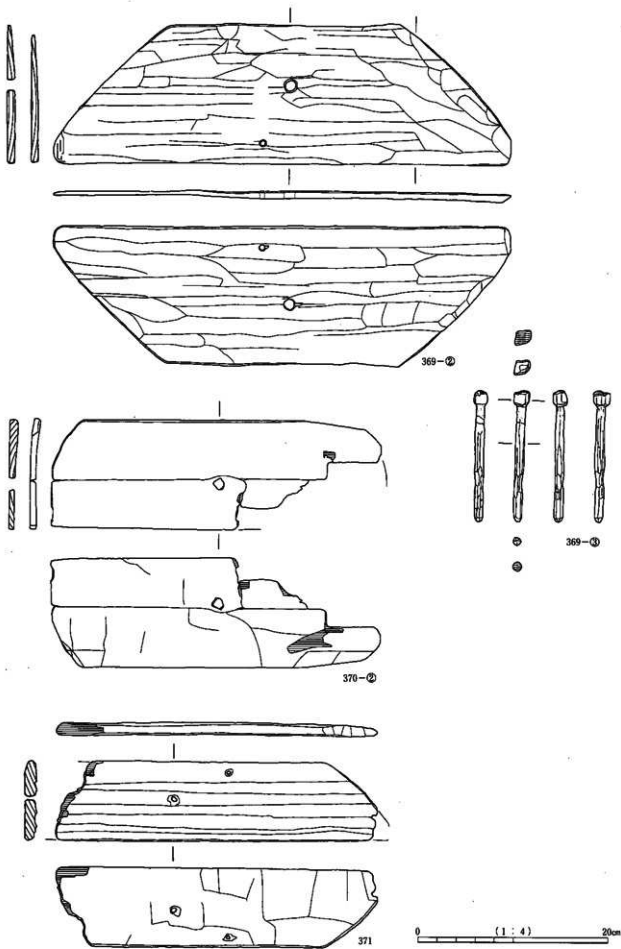
用途不明品21 棒状木製品(351~357)



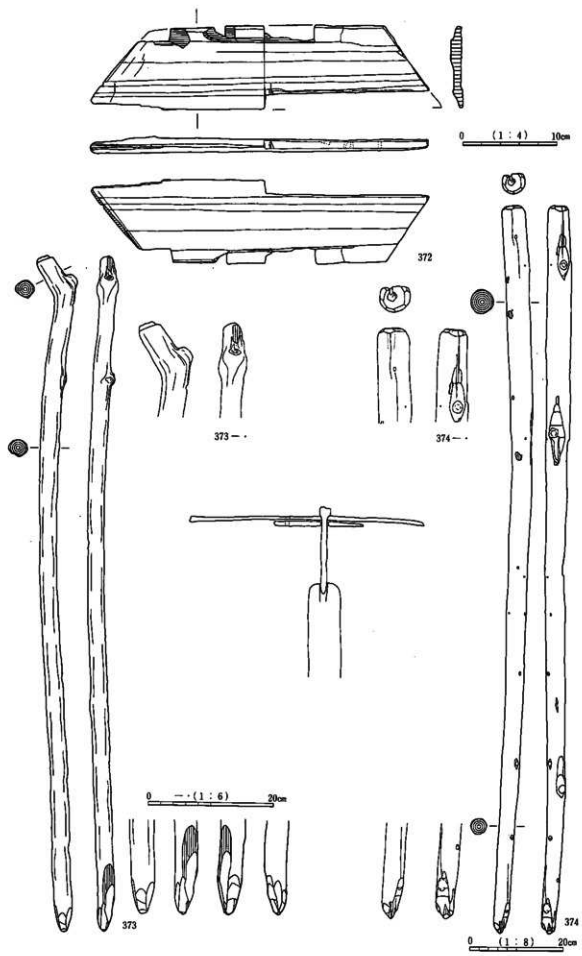
用途不明品22 棒状木製品、その他(358~388)



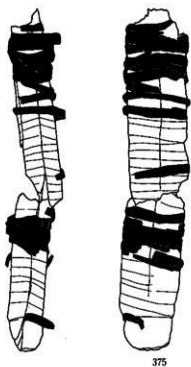
祭祀具 1 鳥形木製品(369~370)



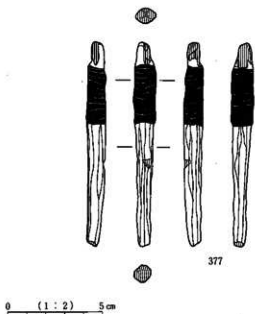
新石器 2 扁形木製品(369~371)



須賀具 3 鳥形木製品(372~374)

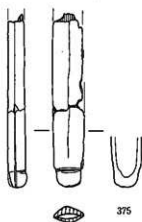


375

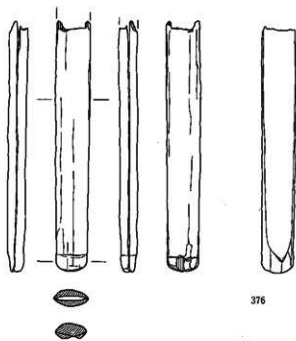


377

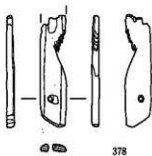
0 (1:2) 5cm



375



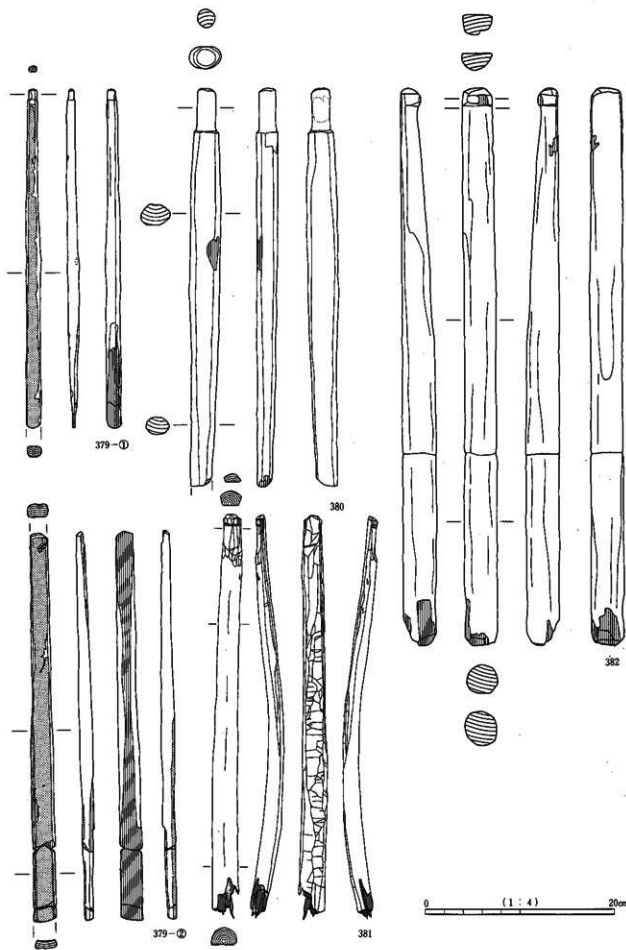
376



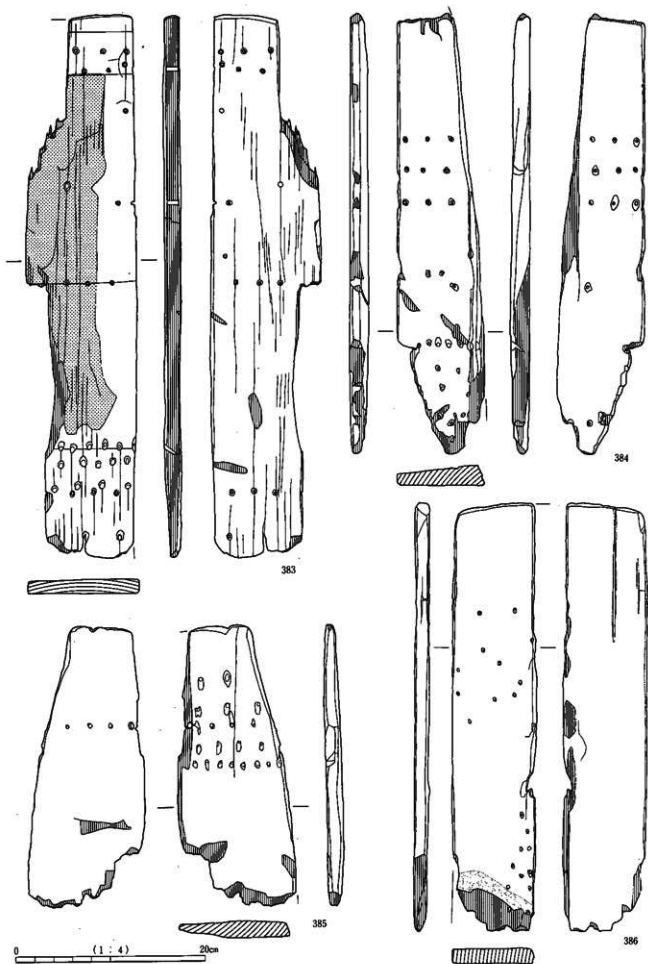
378

0 (1:4) 20cm

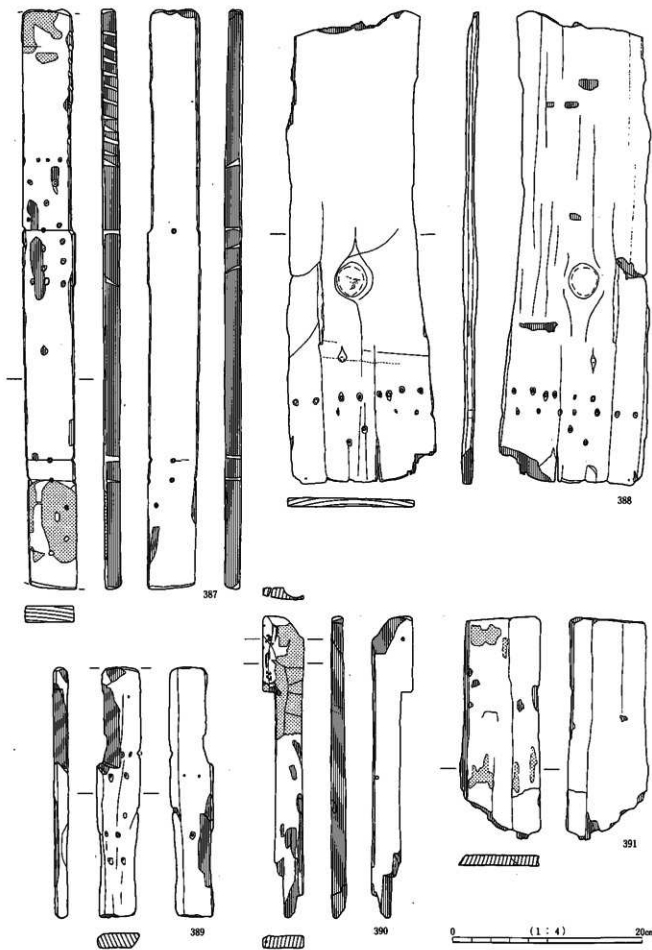
武器 1 柄、根抜き、形代(375~378)



武器 2 弓(379~382)



武器 3 唐(383~386)



武器4 盾(387~391)



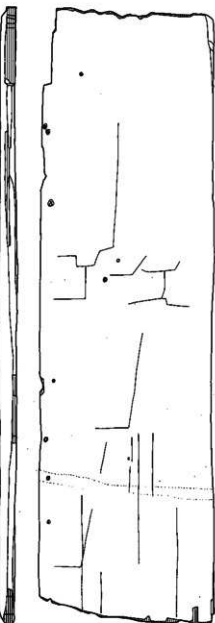
392



393



394-①



394-②

394-③

394-④



395



396



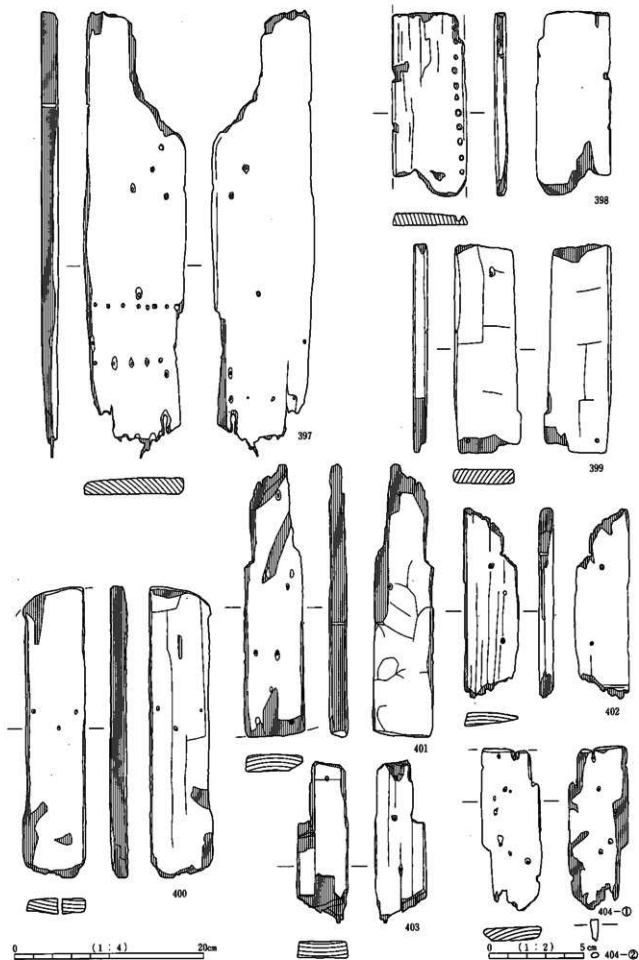
0

5 cm

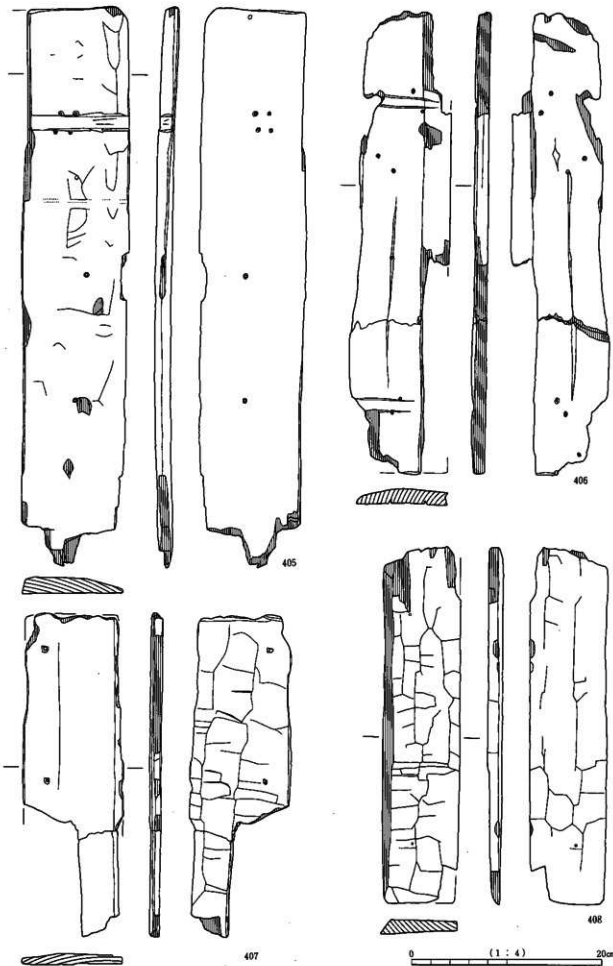
0

20 cm

武器 5 層 (392~396)



武器 6 種(387~404)



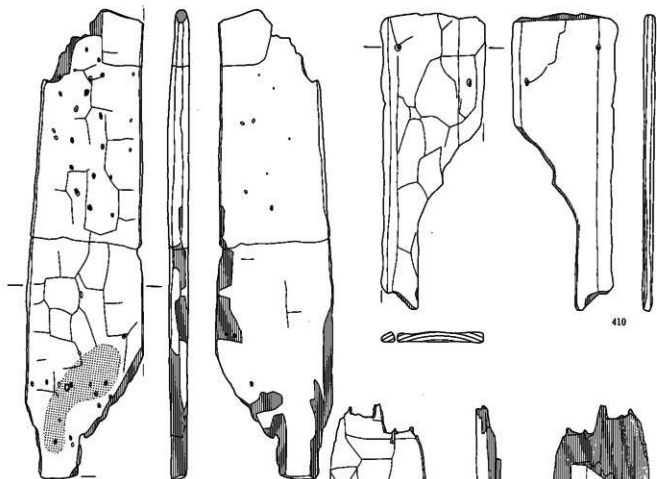
407

406

408

0 (1:4) 20cm

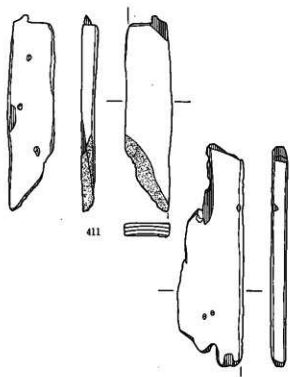
武器 7 番(405~408)



409-①

409-②

(1:2) 5cm



411

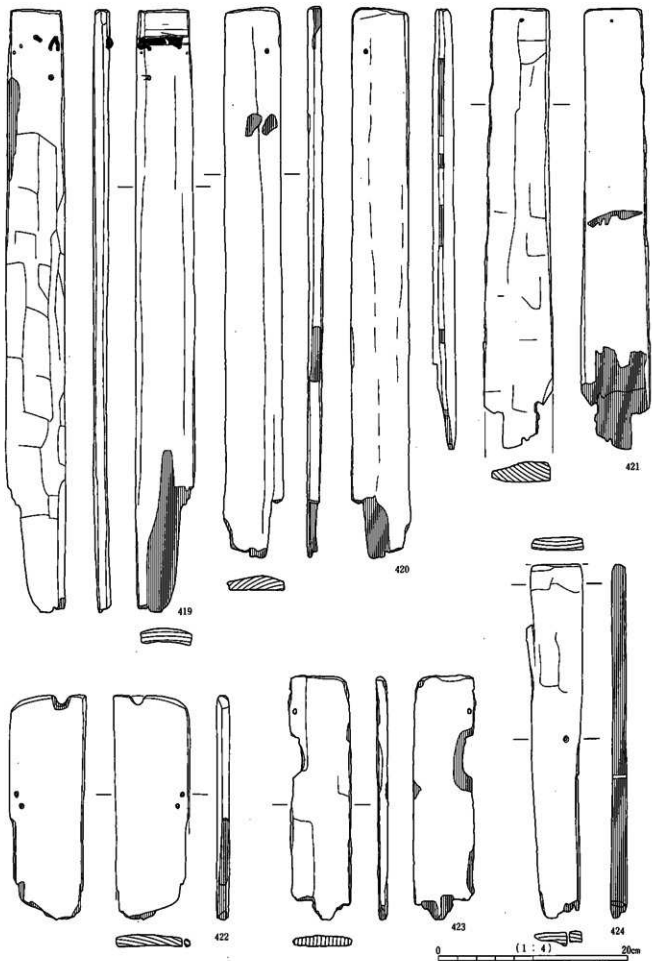
412

(1:4) 20cm

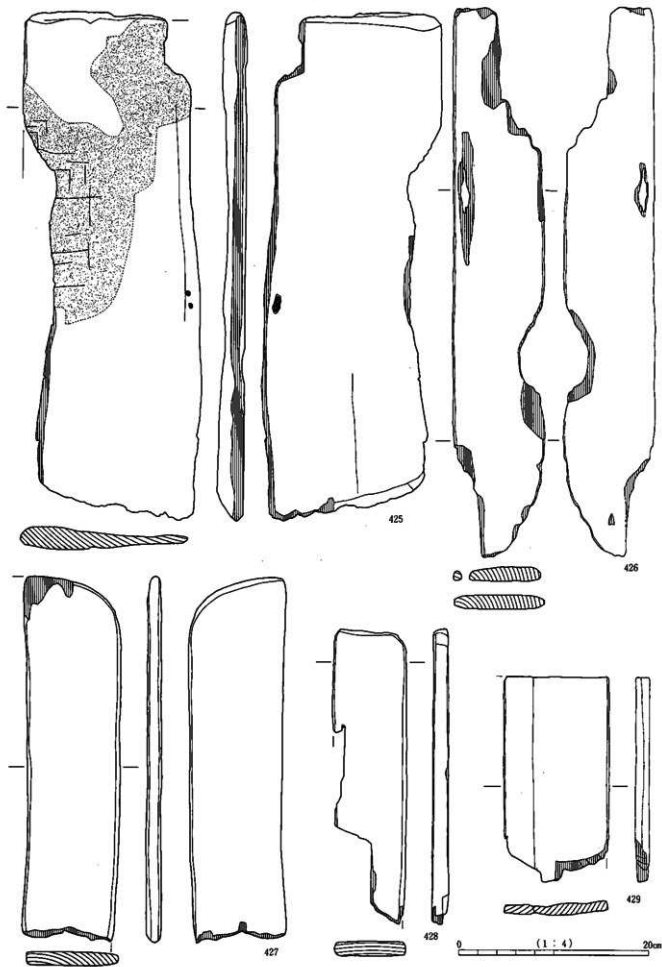
武器 盾 (409~413)



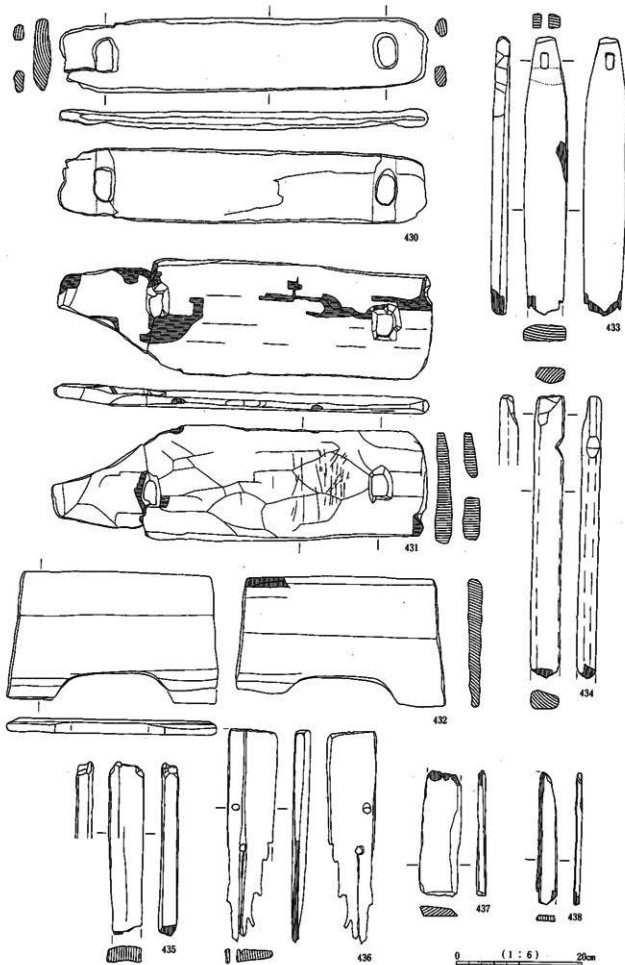
武器 3 層(414~418)



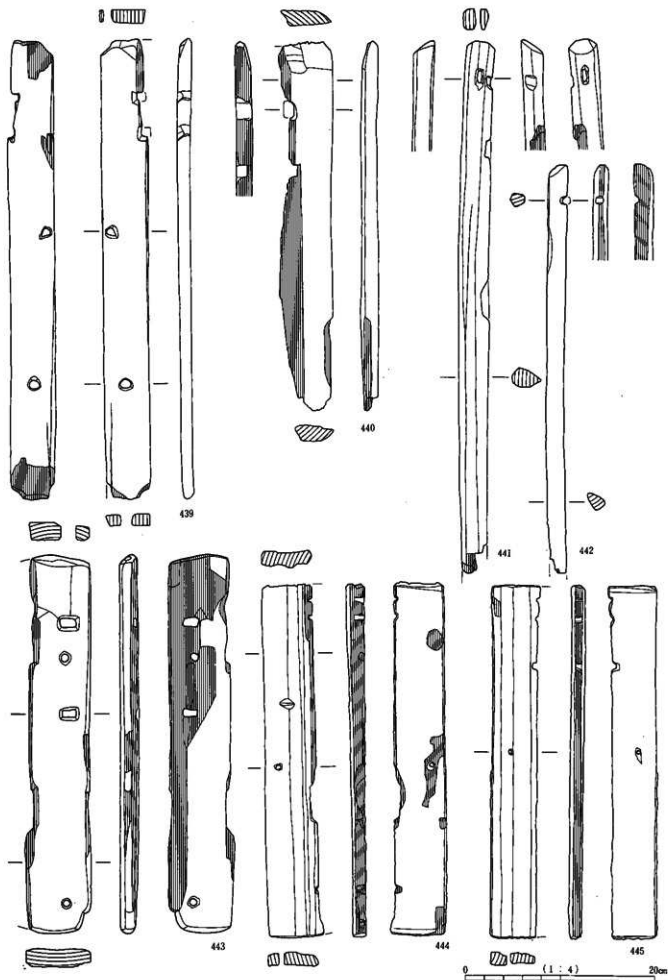
用途不明品23 有孔板(419~424)



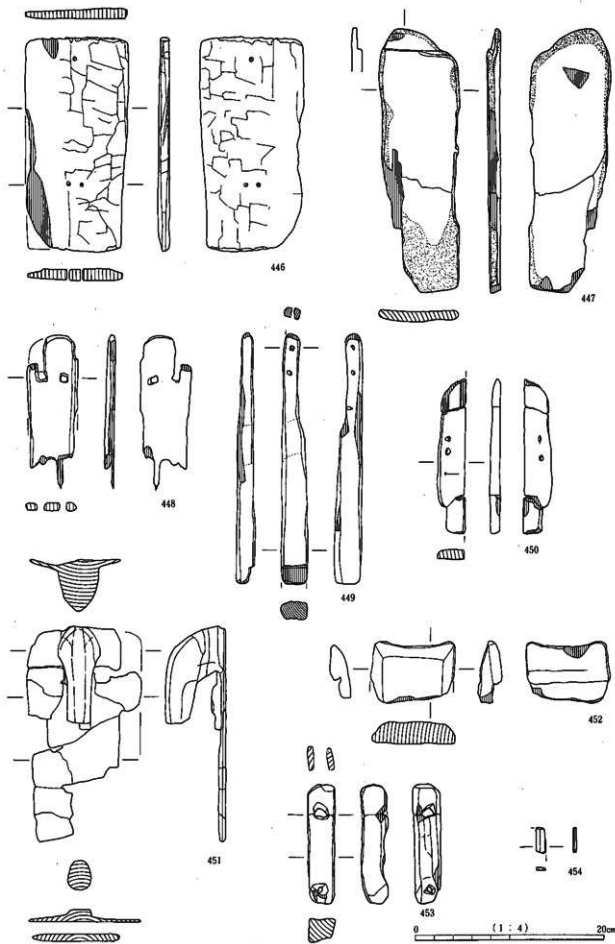
用途不明品24 有孔櫃(425~429)



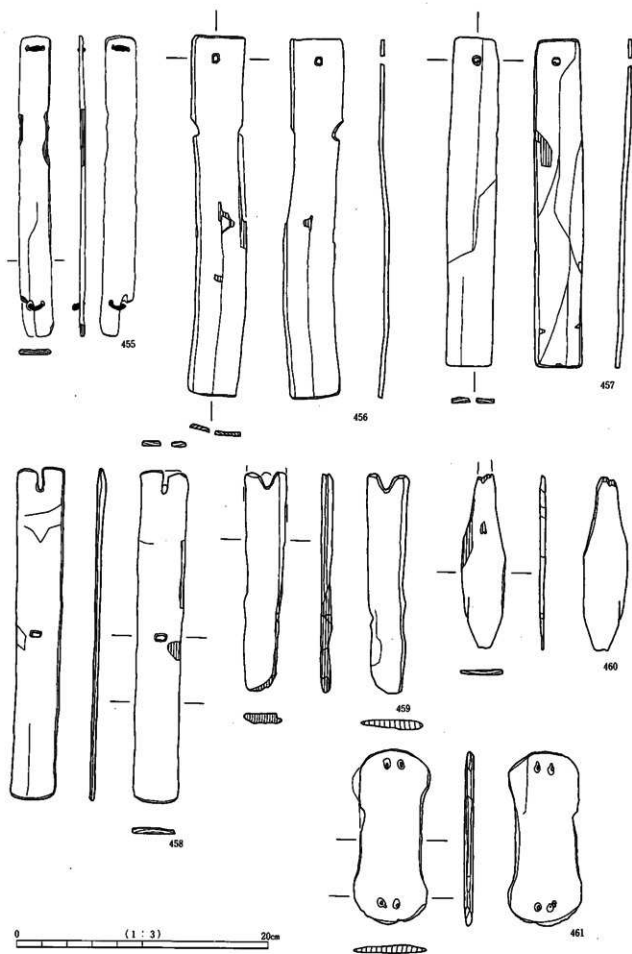
図版1 腰掛・机、その他(430~438)



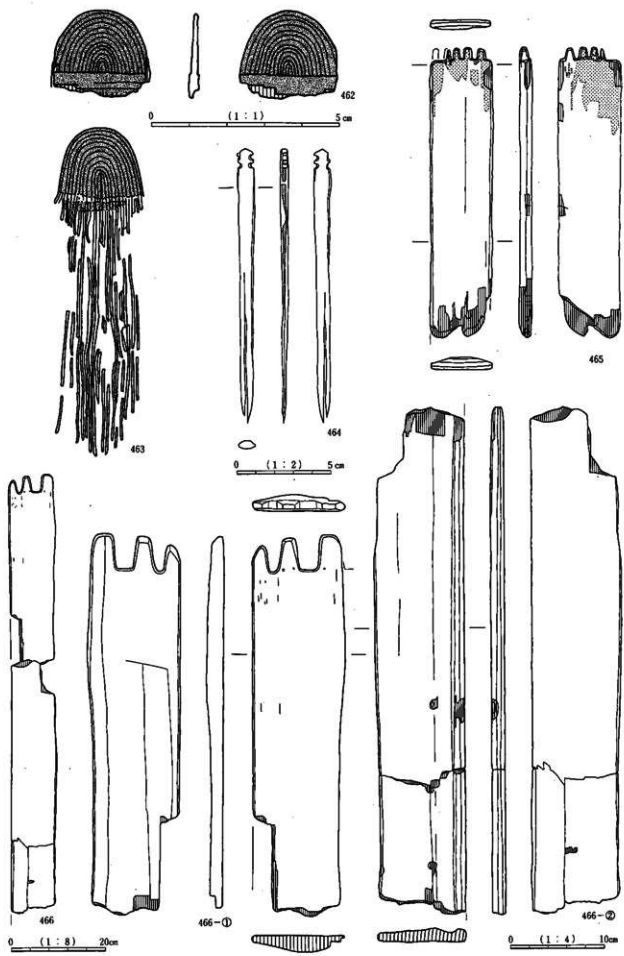
雑具 2 指物、その他(439~445)



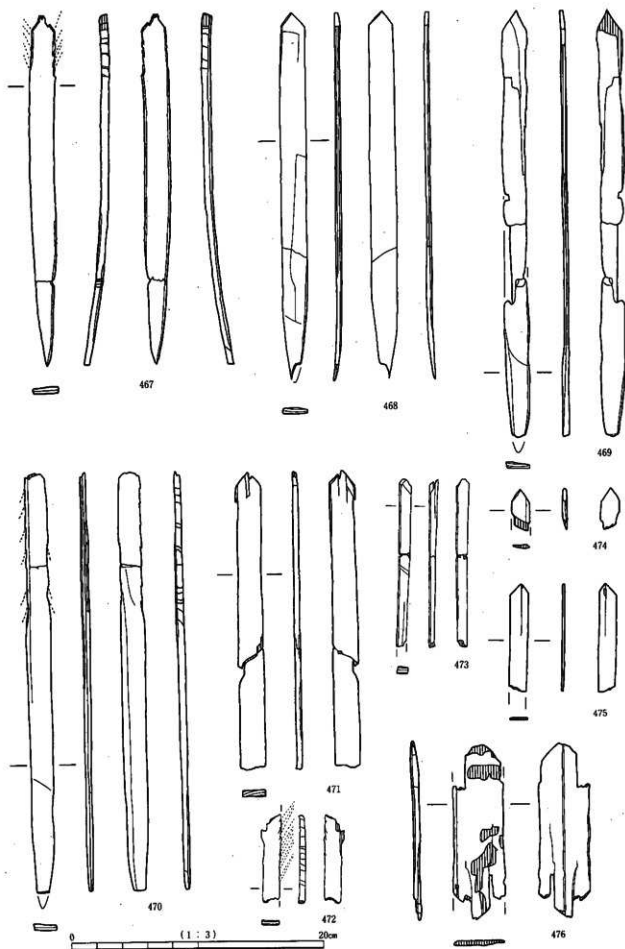
雑具3、容器1 把手・蓋、その他(446~454)



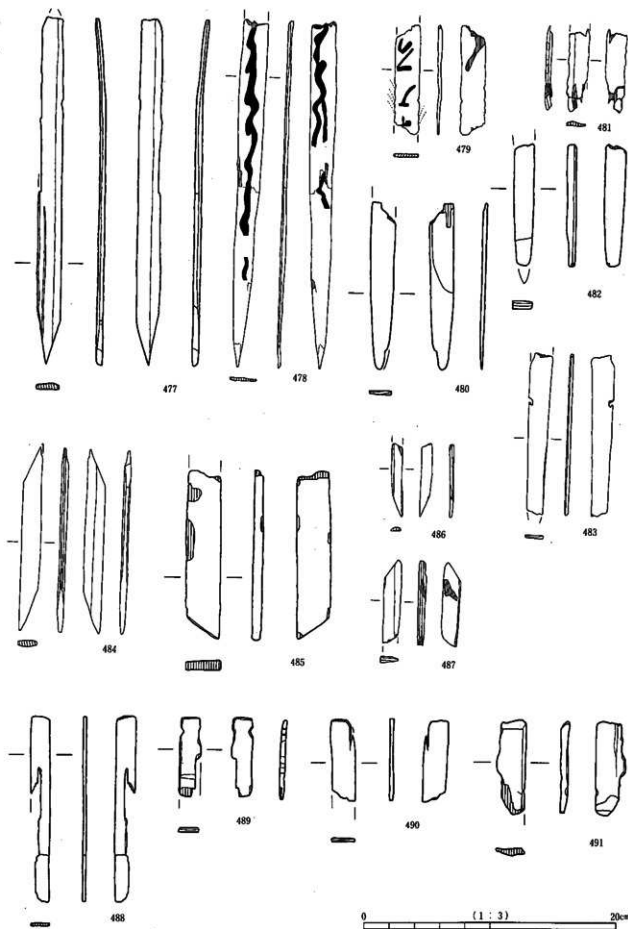
用途不明品25 木札状木製品(455~461)



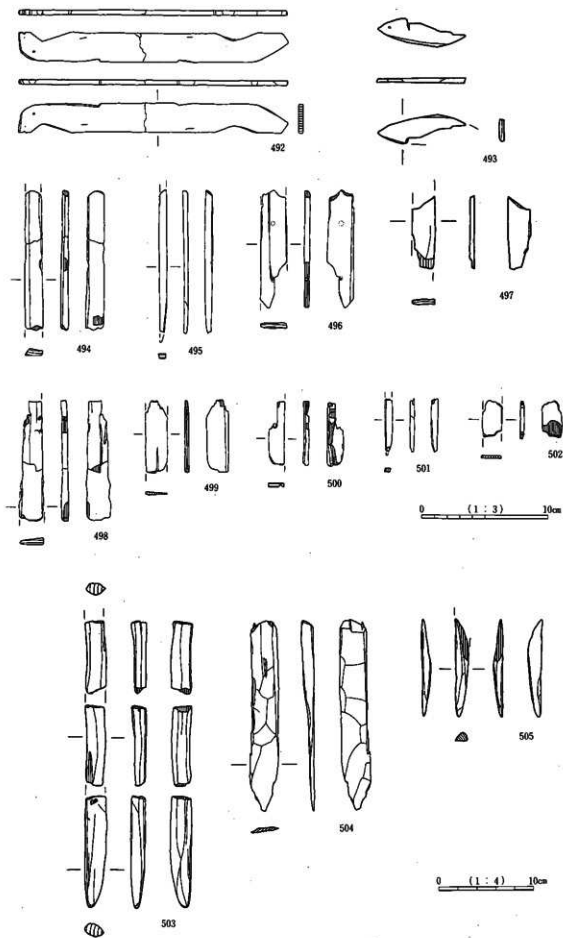
服飾具1・祭祀具4 裾・管・琴(462~468)



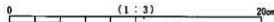
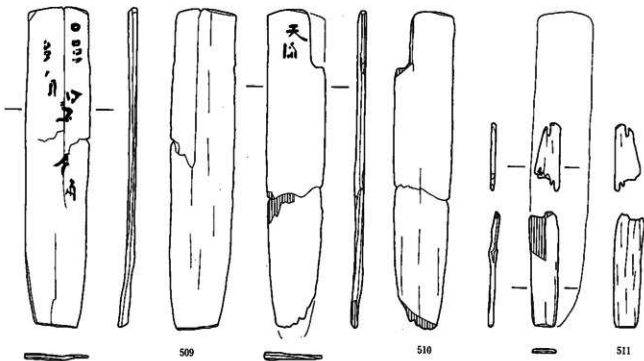
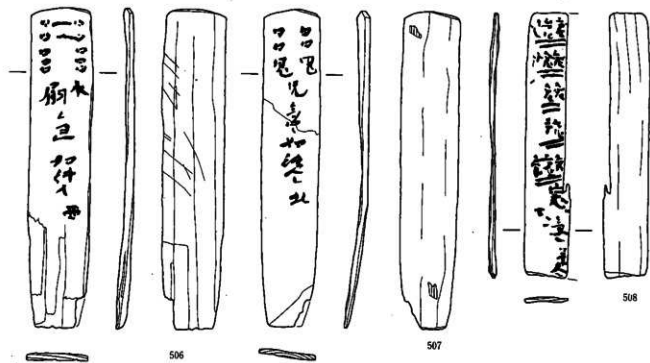
祭祀具 5 斎車(467~476)

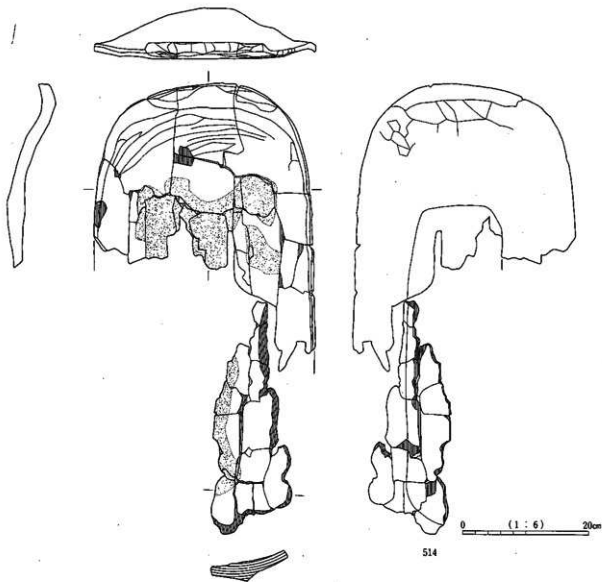


箭头 6 箭杆 (477~491)



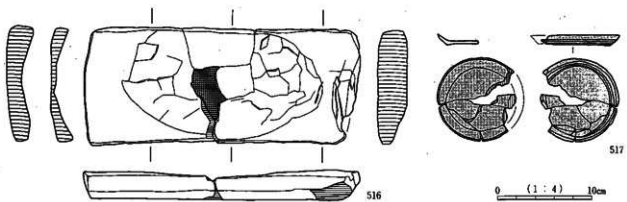
祭祀具 7 斎串・馬形、その他(492~505)





514

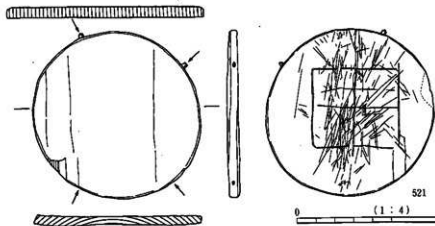
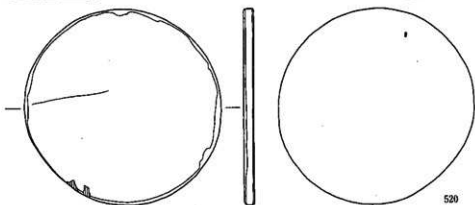
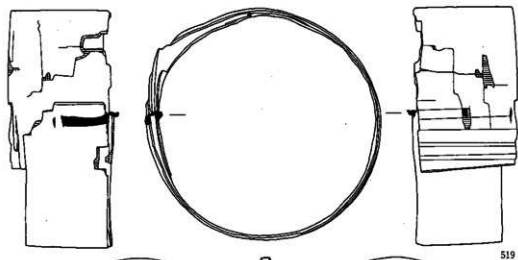
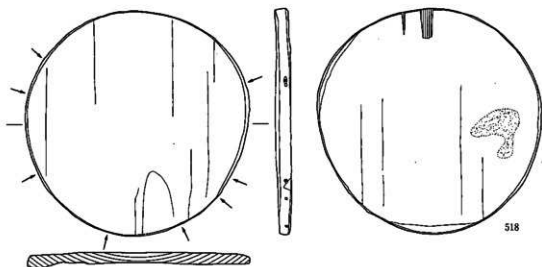
515



516

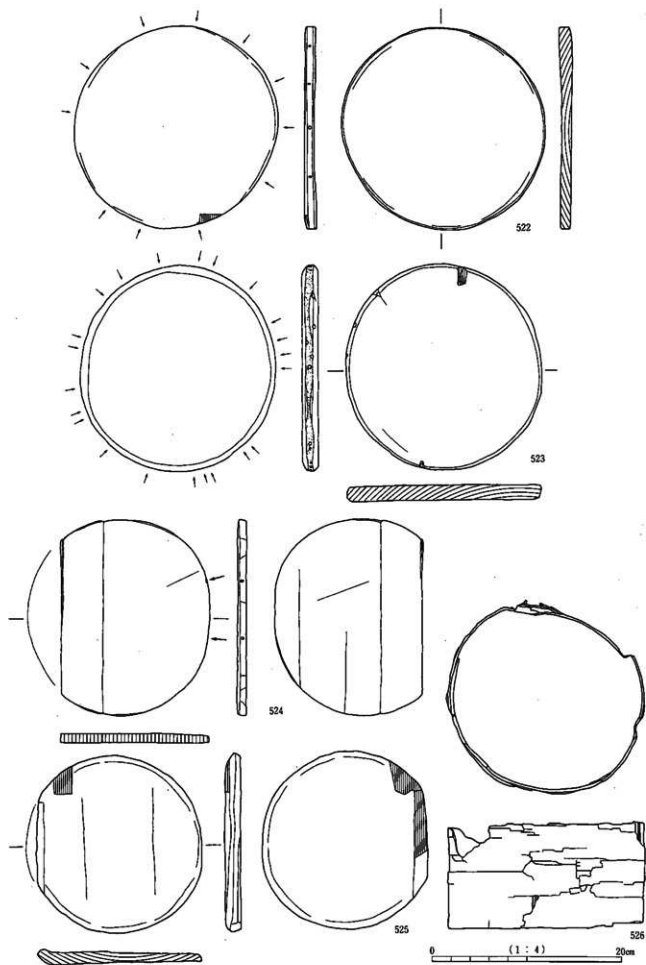
517

容器2 制物・洗物(514~517)

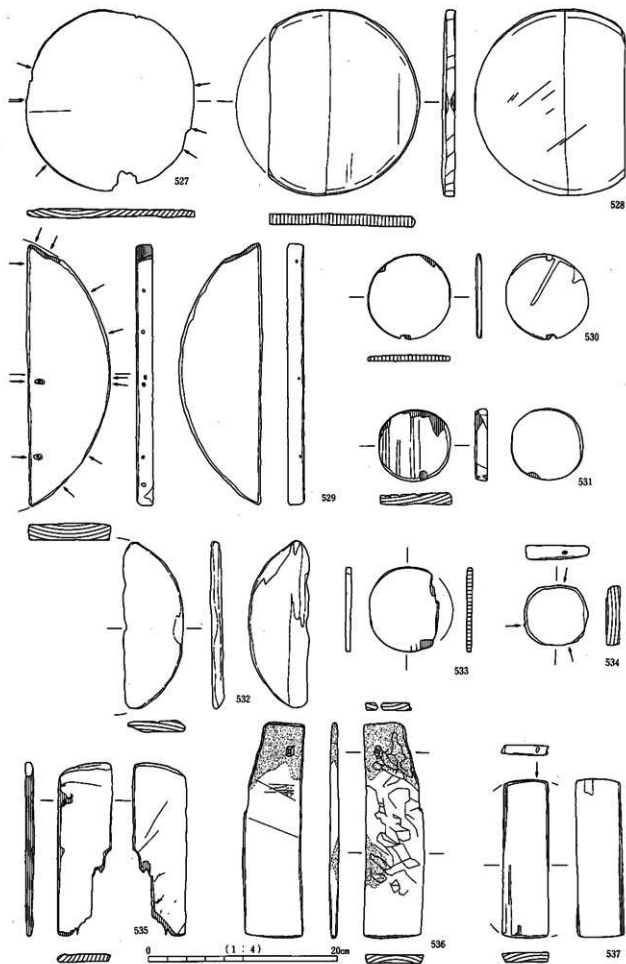


0 (1:4) 20cm

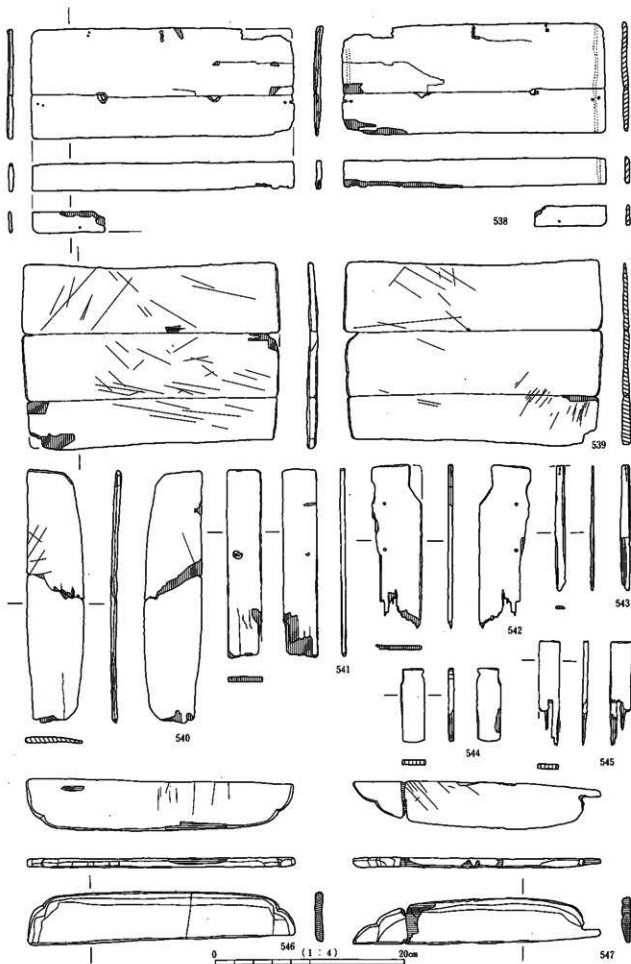
器 3 円形曲物(518~521)



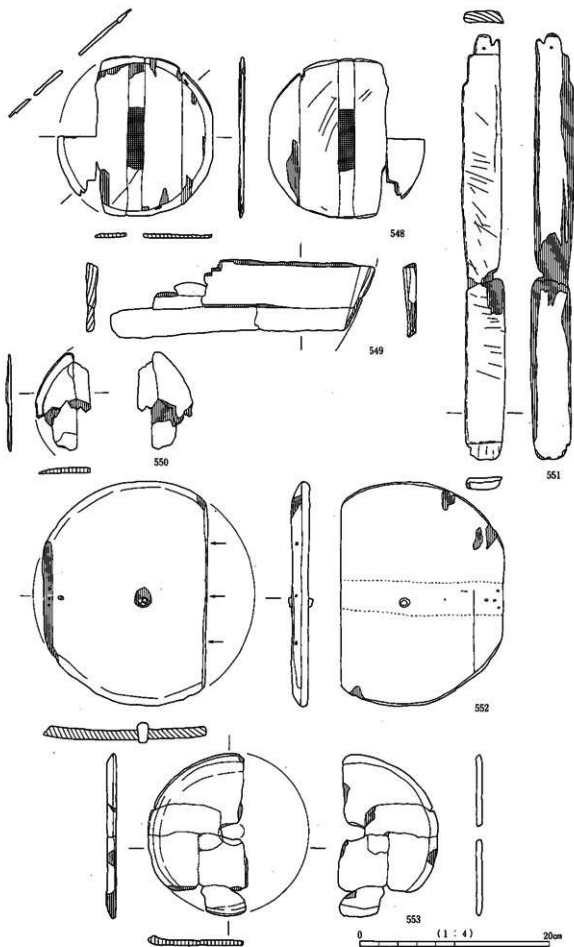
器4 円形曲物(522~526)



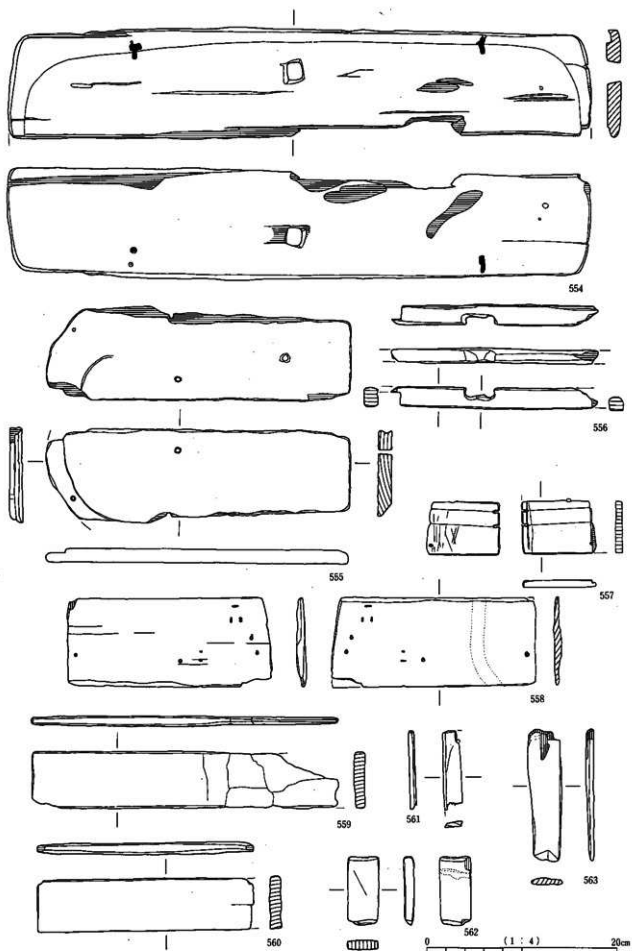
器種 5 円形曲物(527~537)



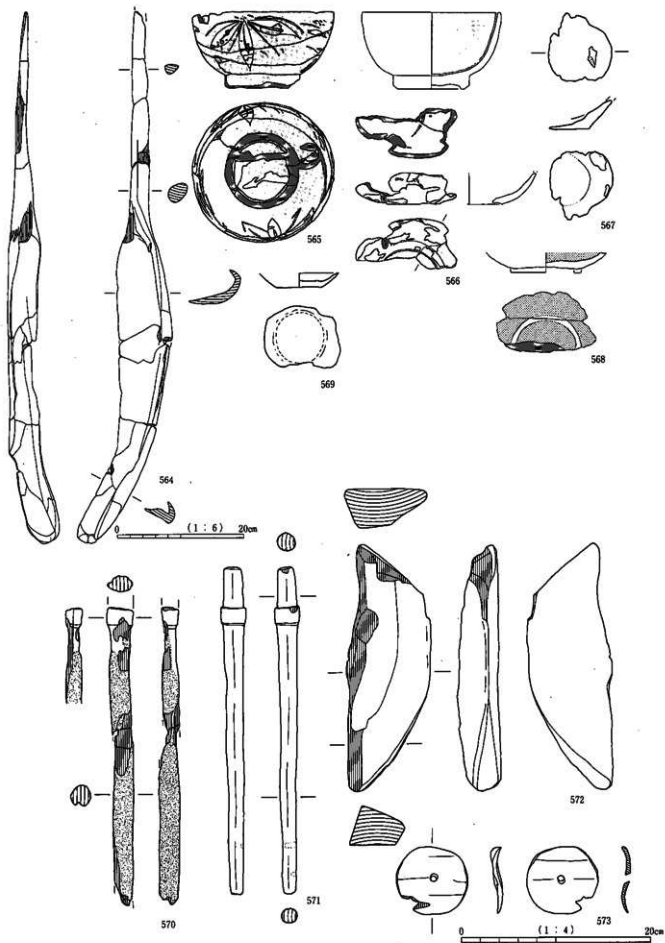
容器 6 折敷(538~547)



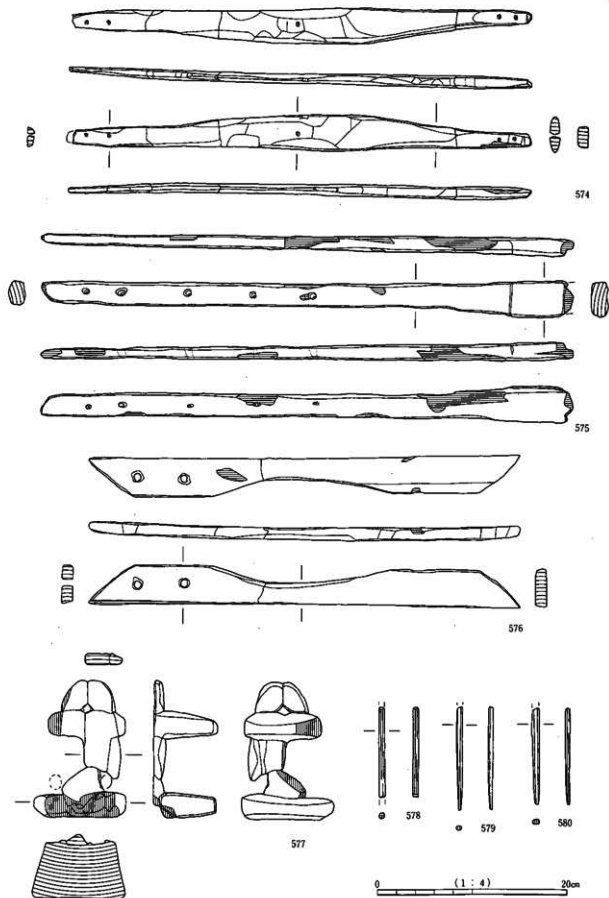
容器7 円形曲物(548~553)



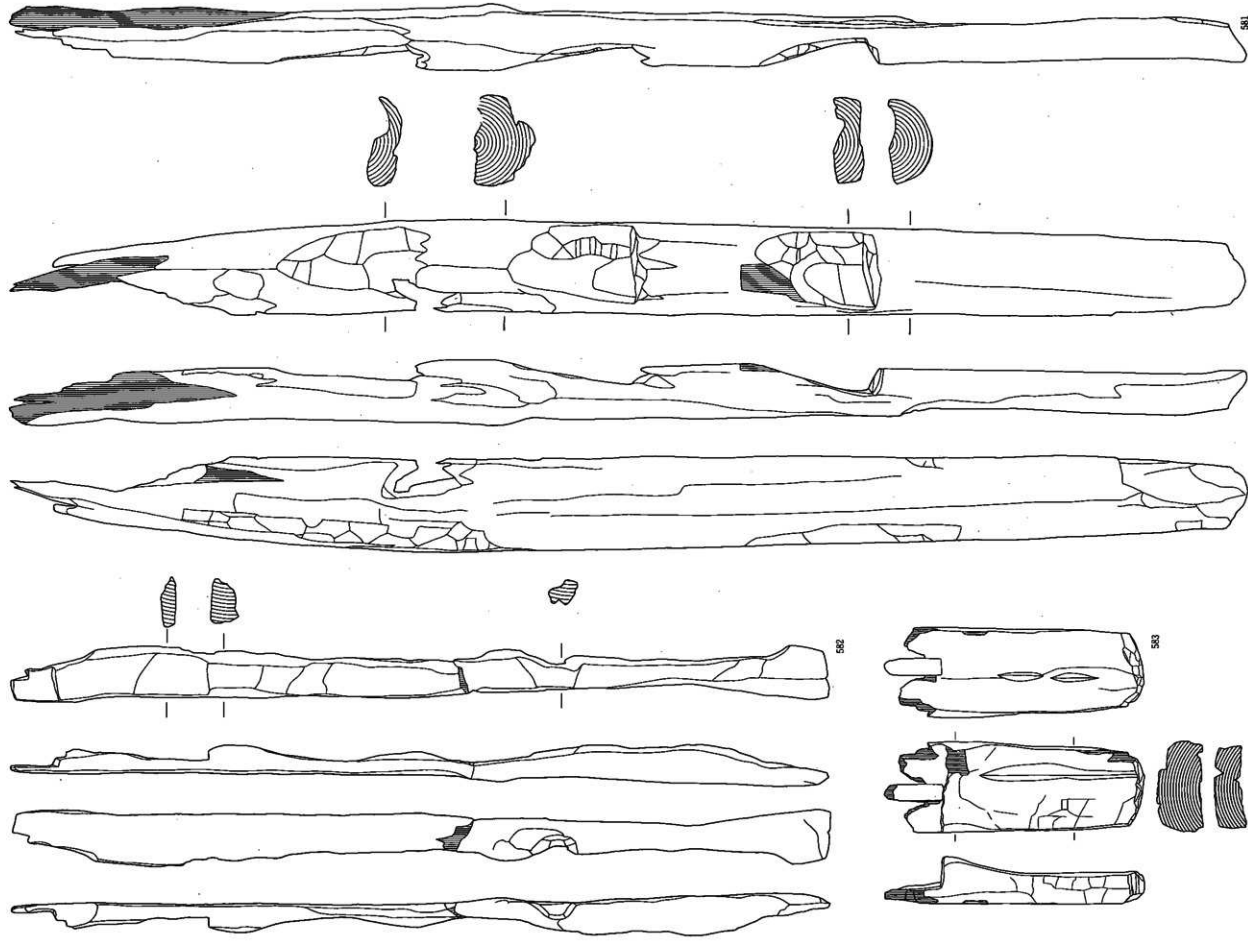
容器 ■ 円形曲物・折敷(554~563)



图版 86 纺织工具 1 刺物·挽物、棒·纺锤等、台(564~573)

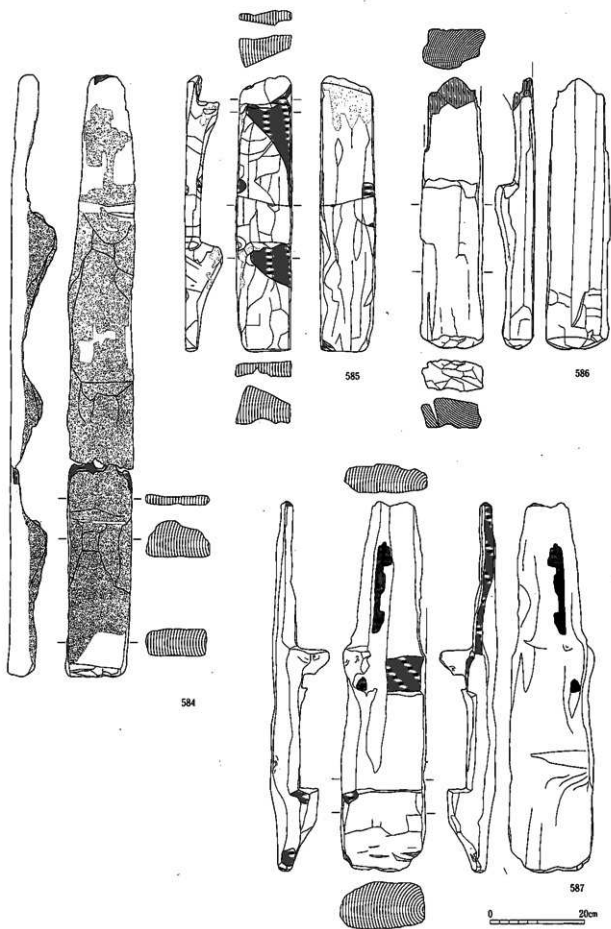


紡織具 2 雑具 4 原形具 2 認めかけ・下駄、簪、その他(574~580)

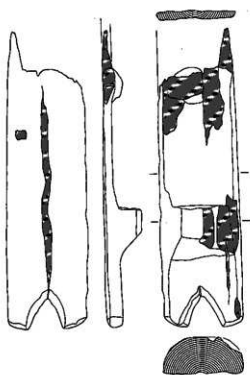


简册部分 1 竹简 (581~583)

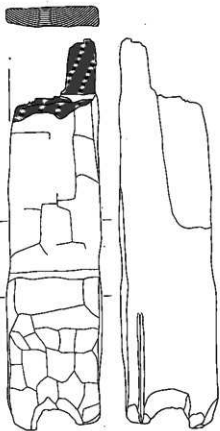
0 1.8 3.6 5.4 7.2 8.9 10.8 12.6 14.4 16.2 18.0 19.8 21.6 23.4 25.2 27.0 28.8 30.6 32.4 34.2 36.0 37.8 39.6 41.4 43.2 45.0 46.8 48.6 50.4 52.2 54.0 55.8 57.6 59.4 61.2 63.0 64.8 66.6 68.4 70.2 72.0 73.8 75.6 77.4 79.2 81.0 82.8 84.6 86.4 88.2 90.0 91.8 93.6 95.4 97.2 99.0 100.8



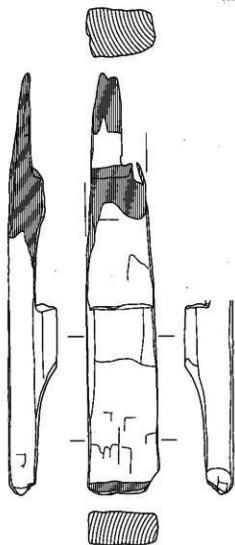
建筑部材 2 榑子(584~587)



588

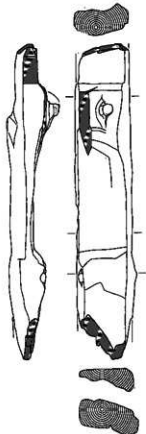


589



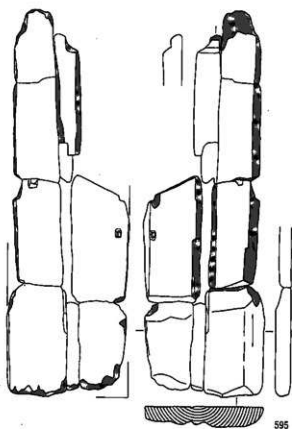
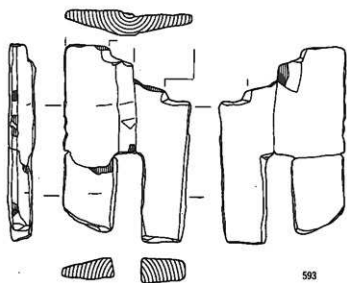
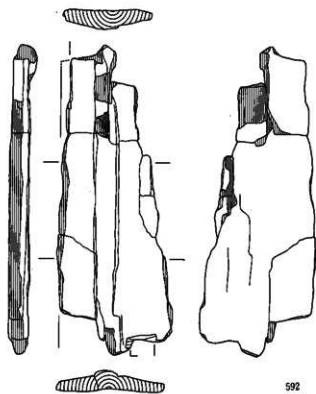
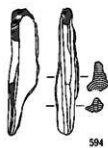
590

0 20cm



591

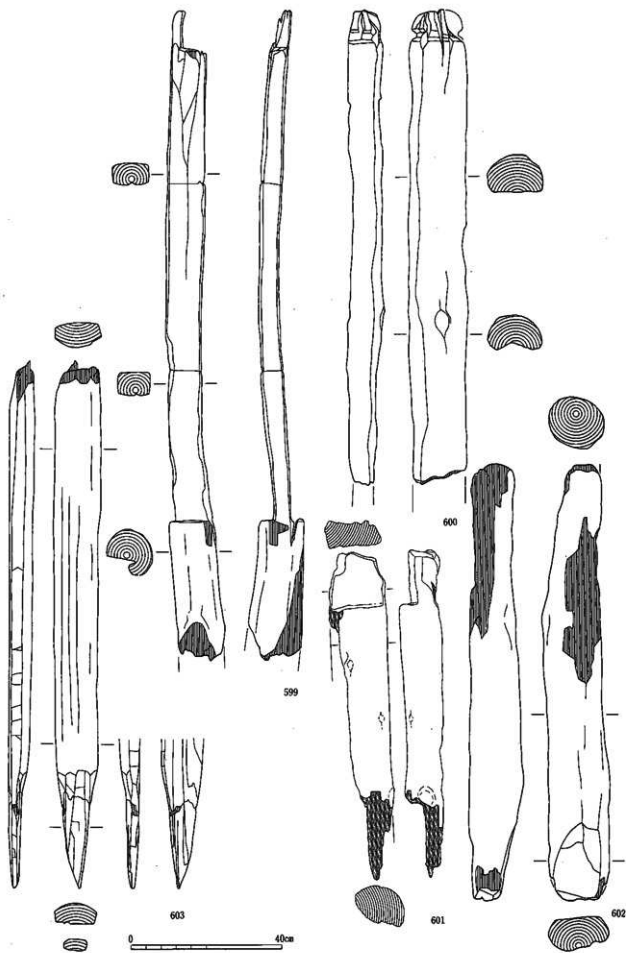
琉璃部材 3 梯子(588~591)



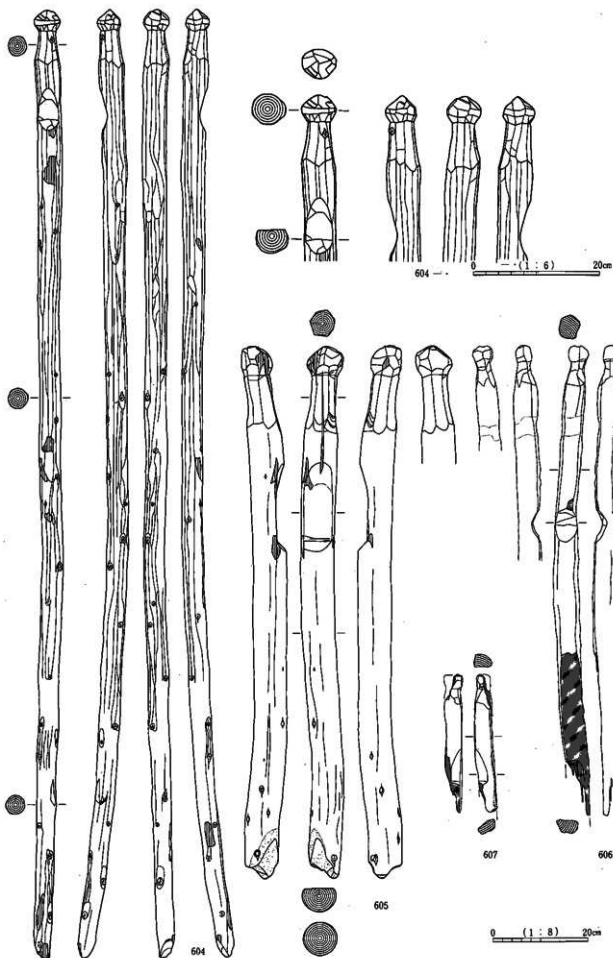
0 20cm



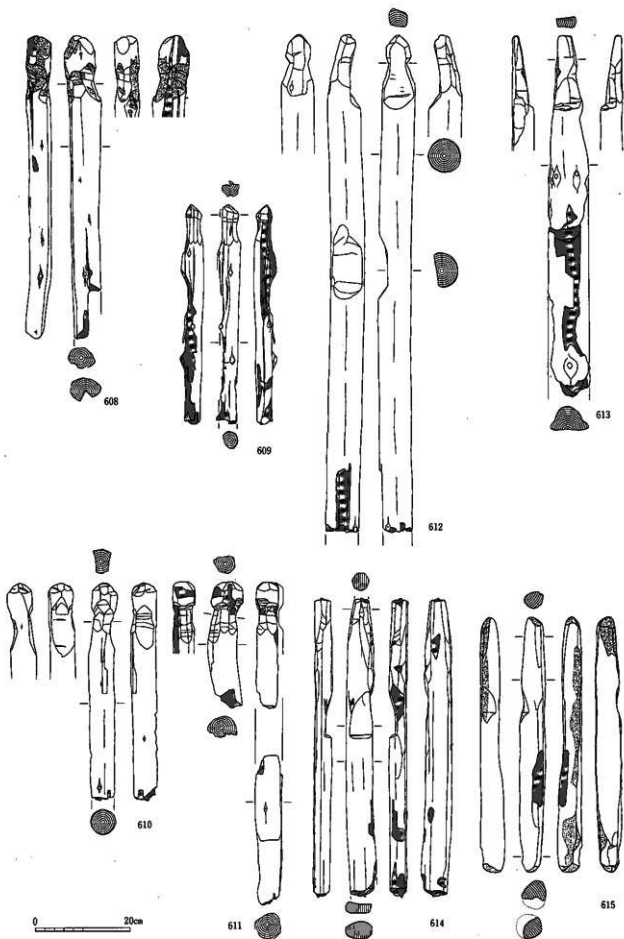
建築部材 5 柱(596~598)



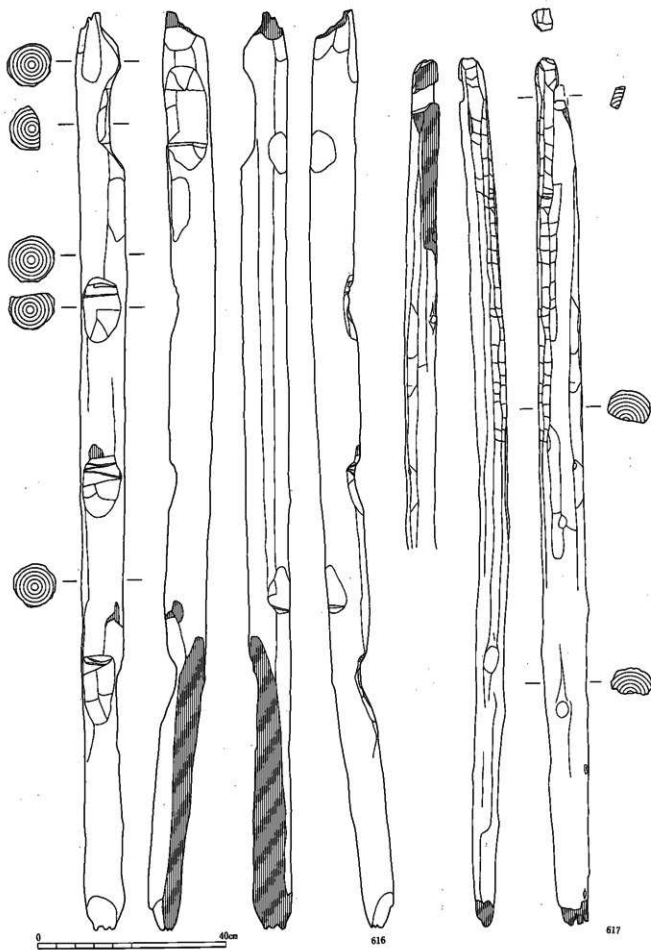
建築部材 柱(599~603)



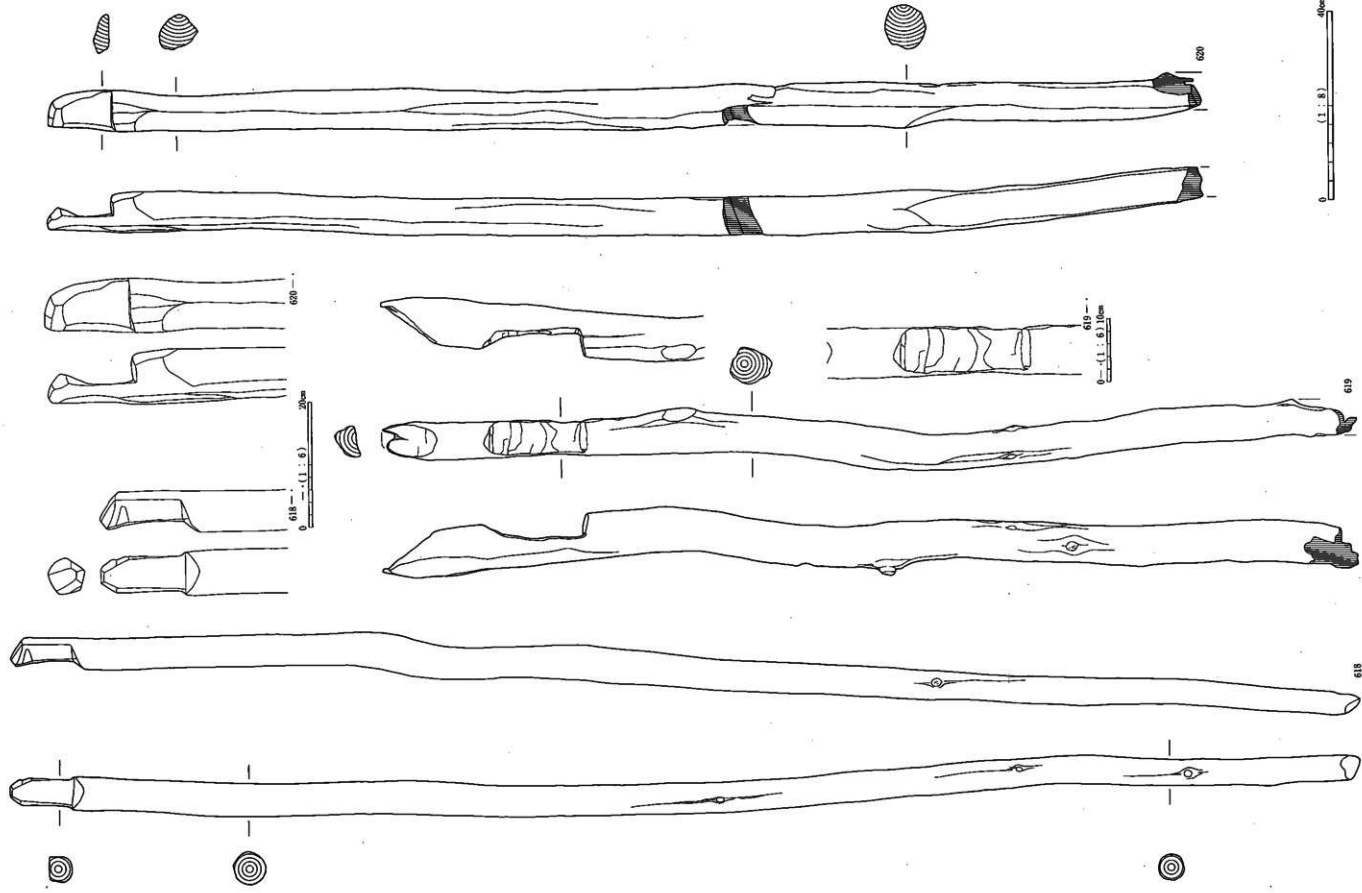
建築部材 ① 櫛木(604~607)



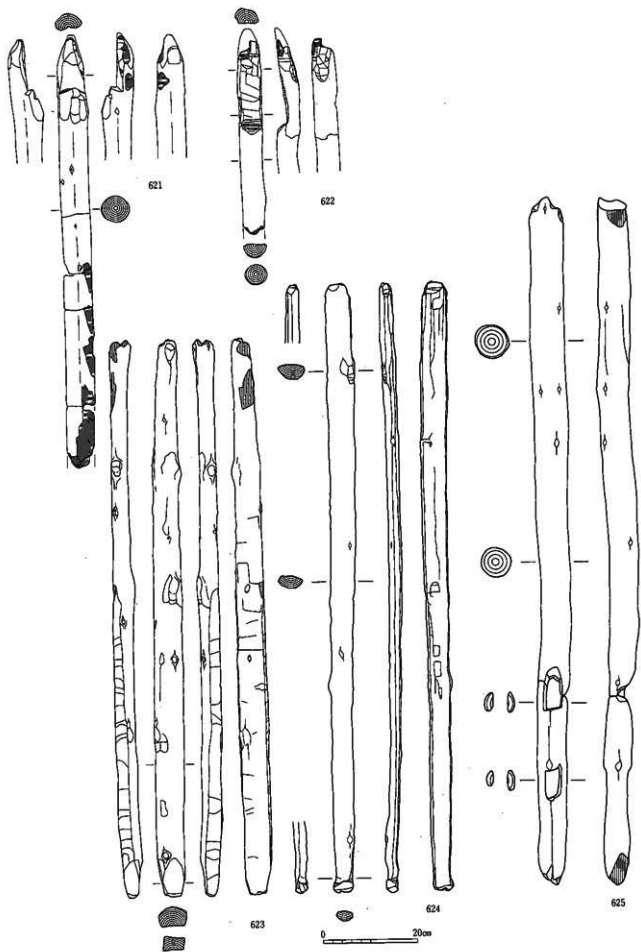
建築部材 9 櫓木(608~615)



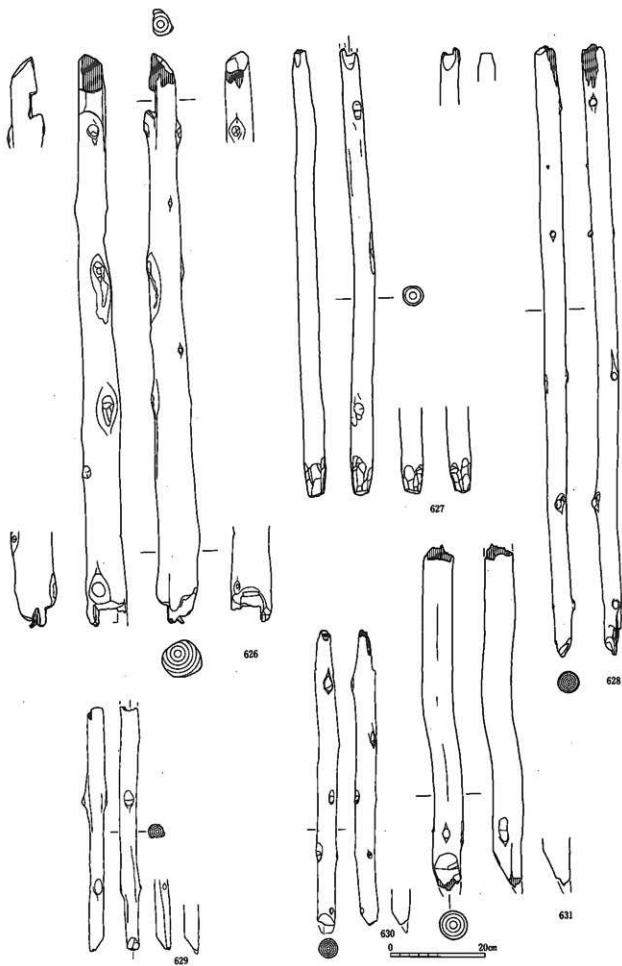
建筑部材10 櫟木(616~617)



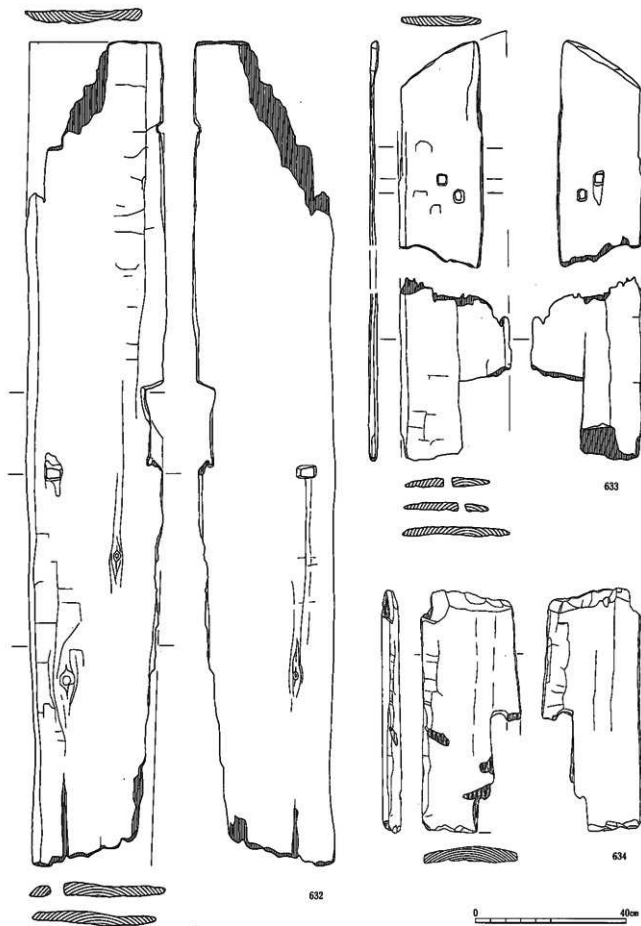
圖版 97 11 骨矢 (615-620)



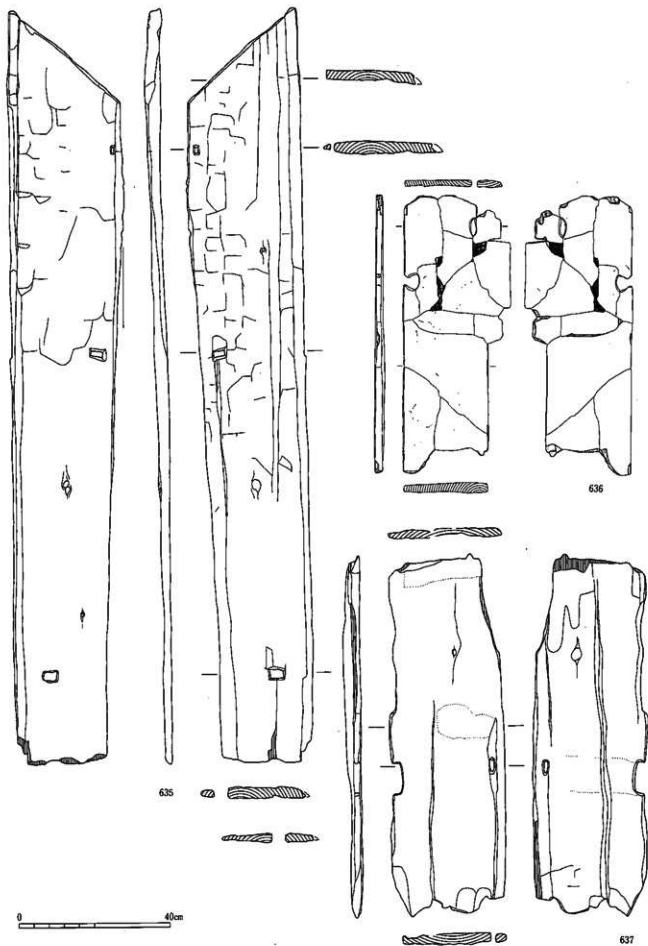
建築部材12 垂木(621~625)



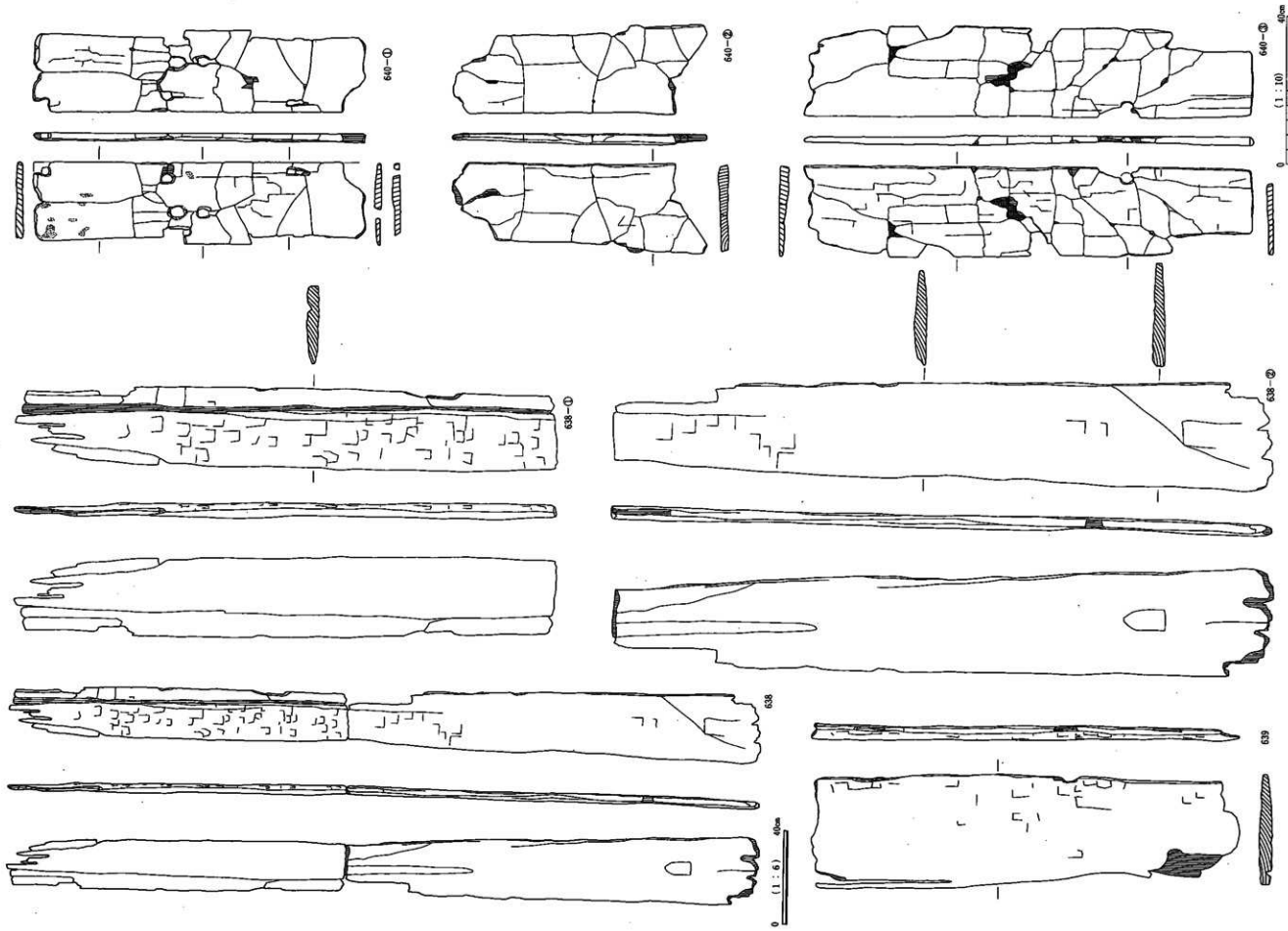
建甌部村13 簡木(626~631)



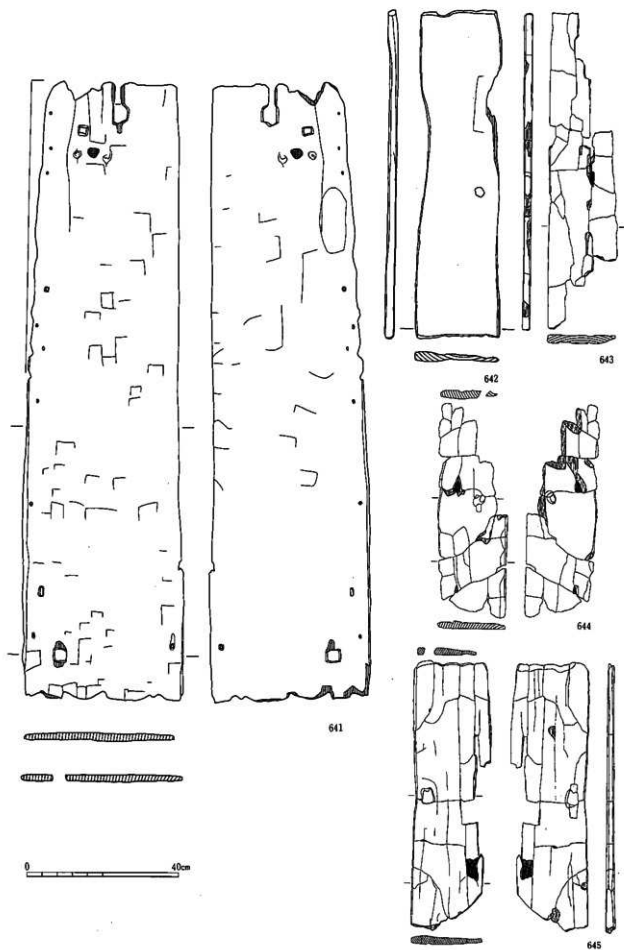
建儀部材14 大形有孔椽材(632~634)



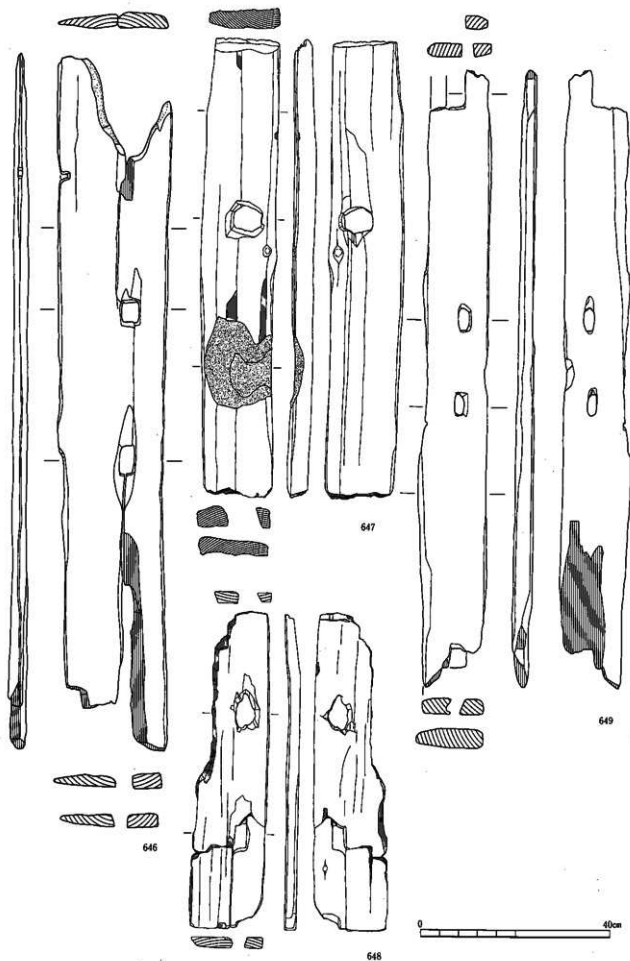
建築部材15 大形有孔板材(635~637)



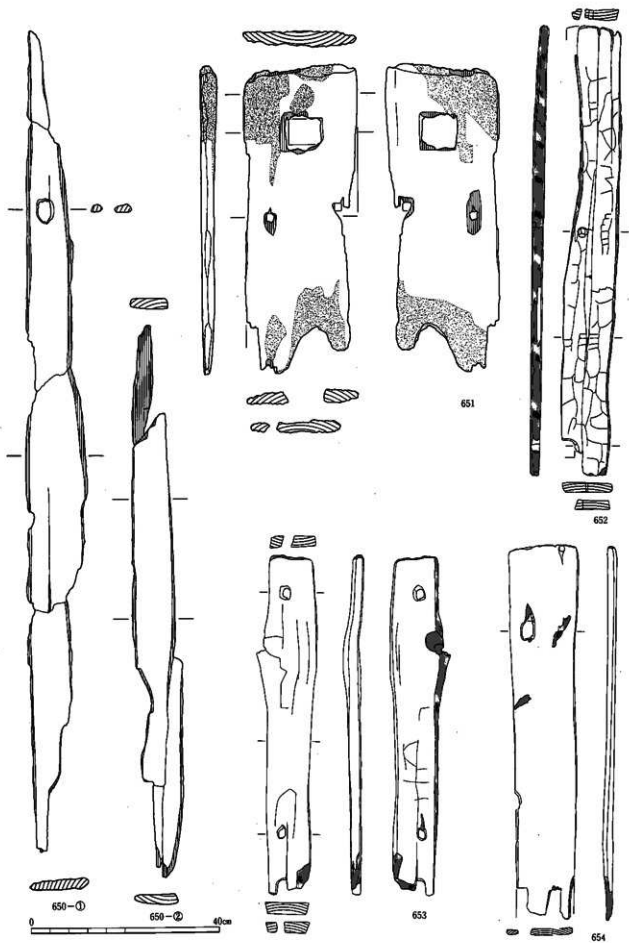
蘆葦碎片18 大形紙材(638-641)



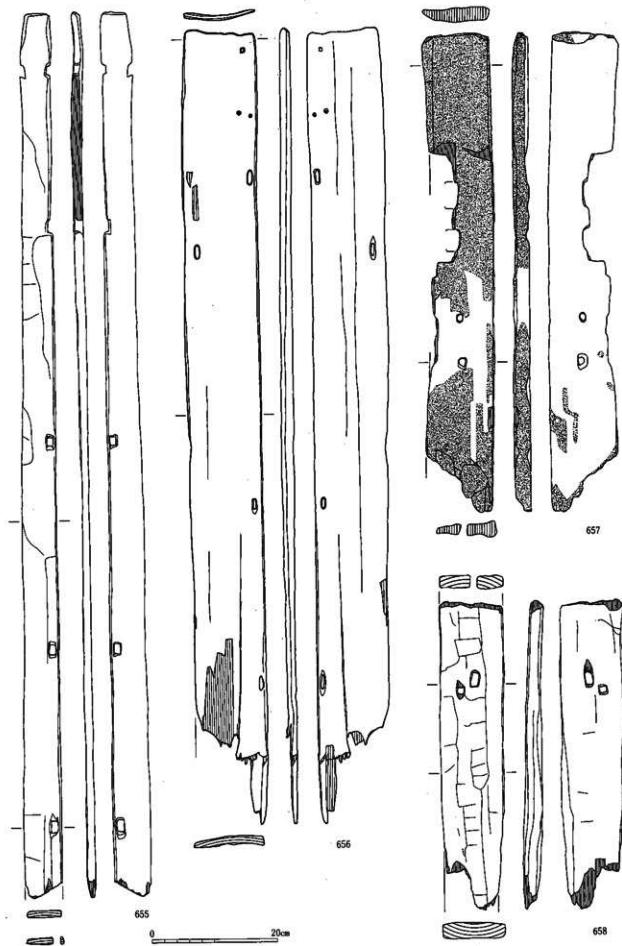
建筑部材17 大形有孔板材(641~645)



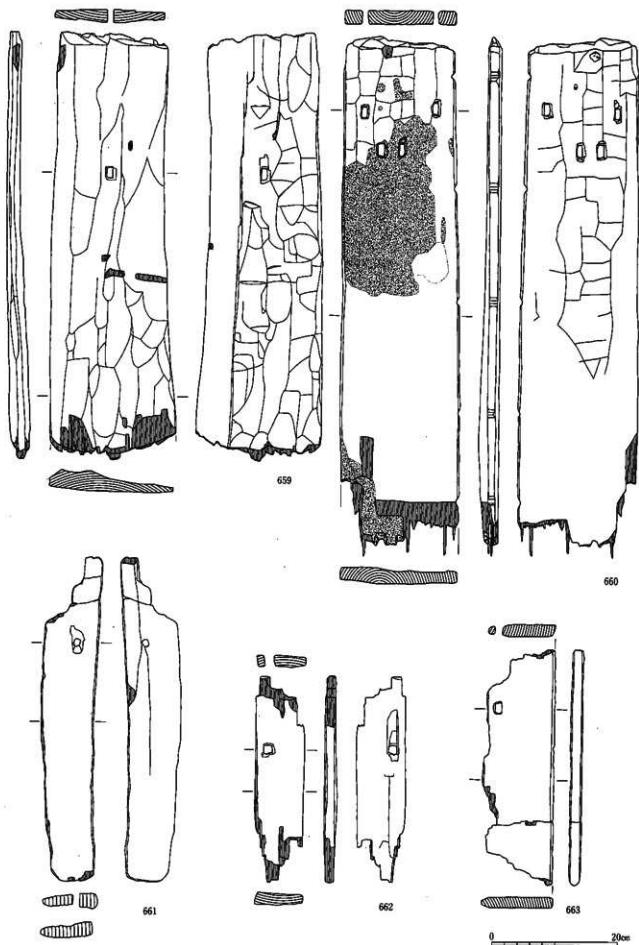
建橋部材18 大形有孔板材(646~649)



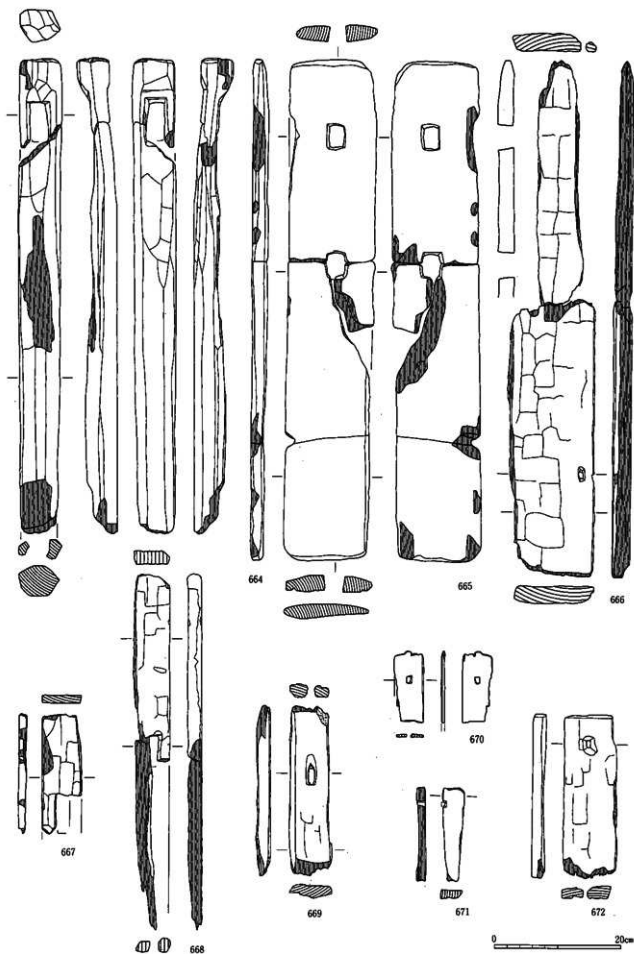
建築部材18 大形有孔板材(850~854)



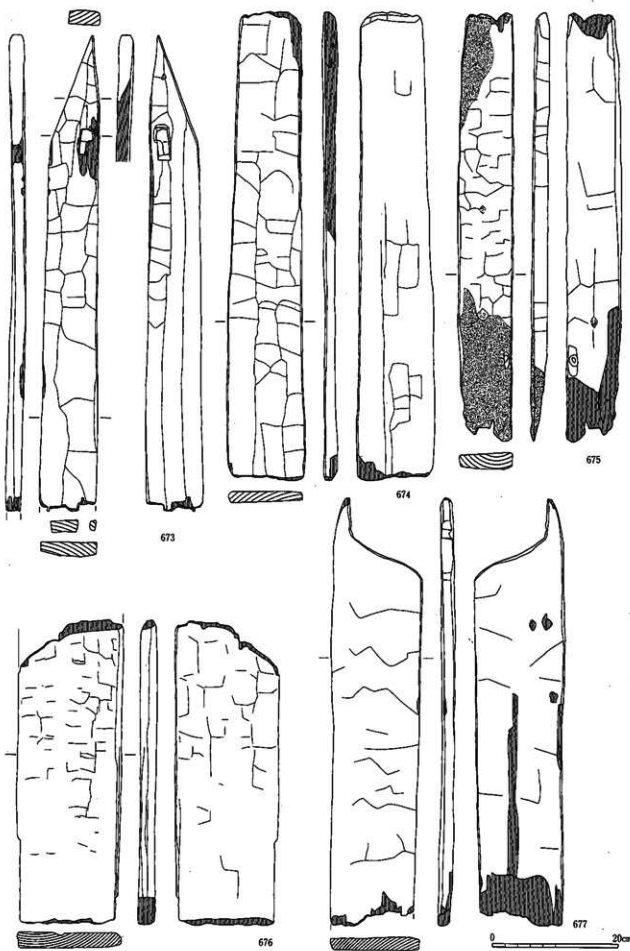
建築部材20 大形有孔板材(655~658)



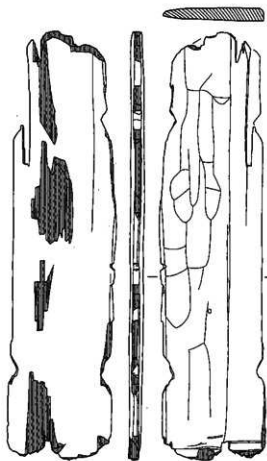
建築部材21 大形有孔板材(659~663)



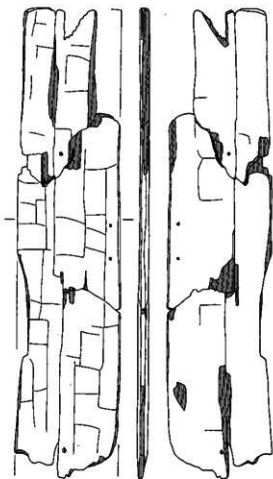
建築部材22 大形有孔板材(664~672)



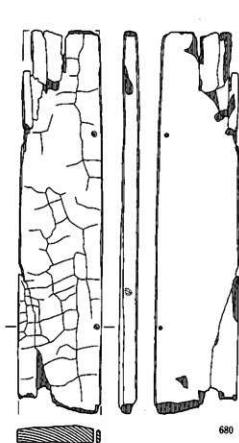
建筑部材23 大形板材(673~677)



678



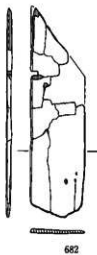
679



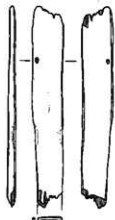
680



681



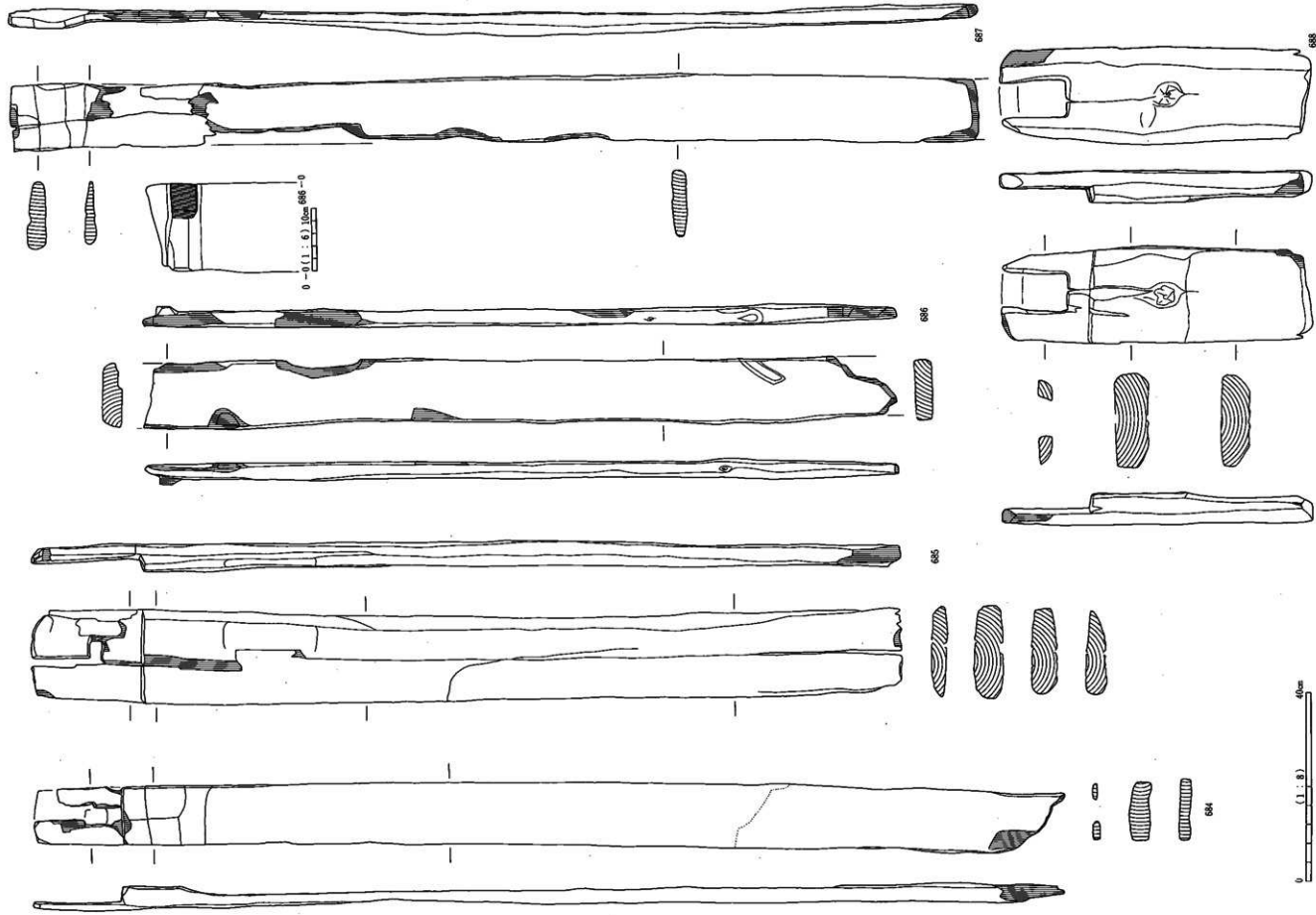
682



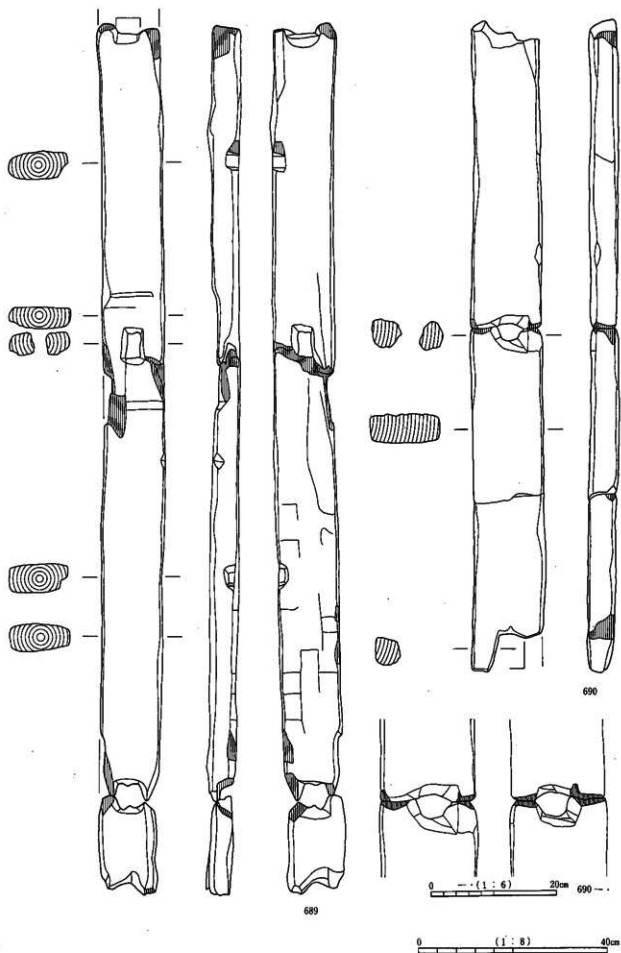
683

0 20cm

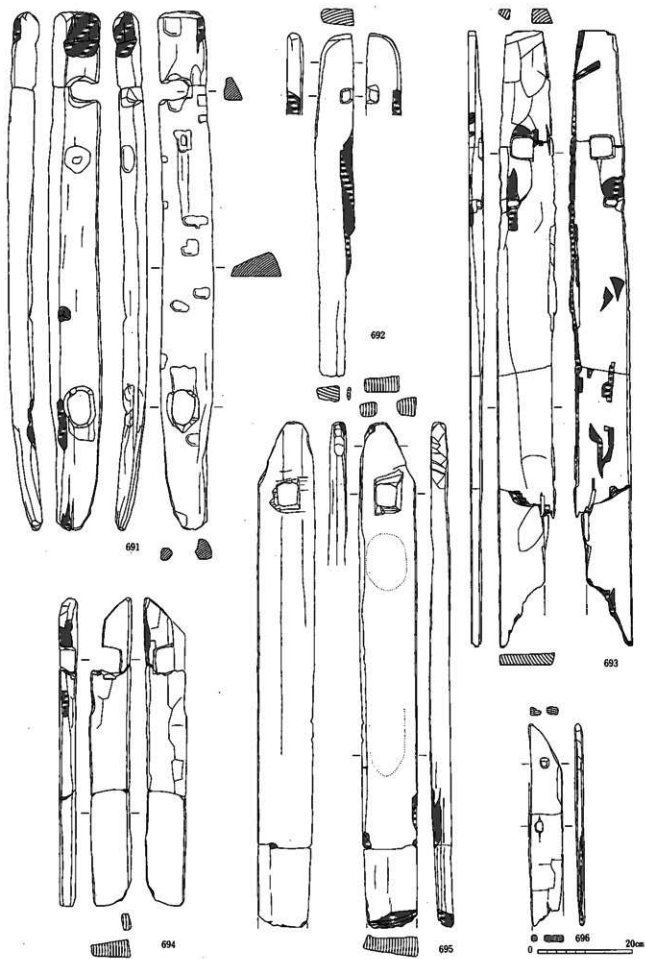
建築部材24 大形有孔板材(678~683)



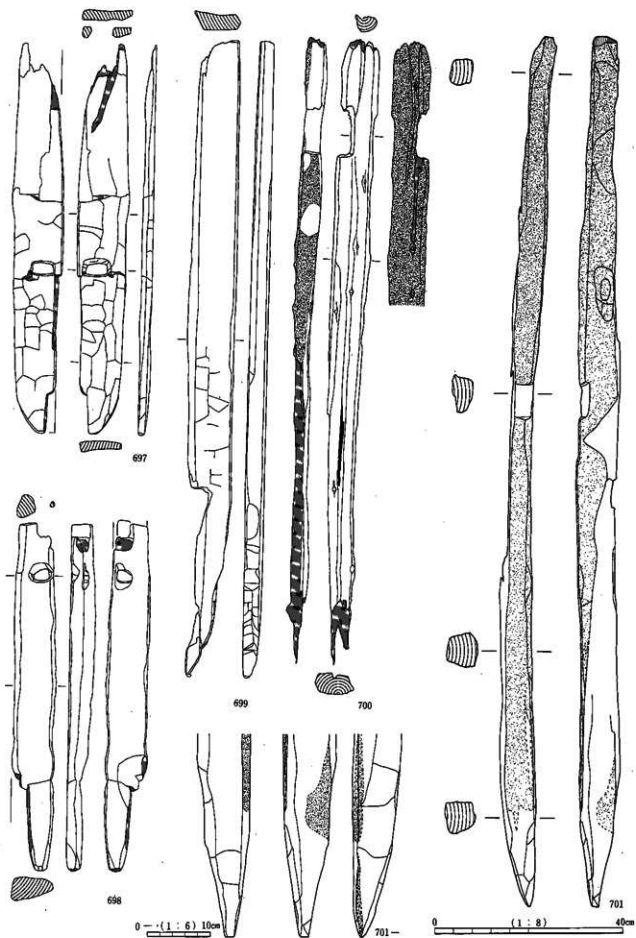
大形穿孔板(884-888)



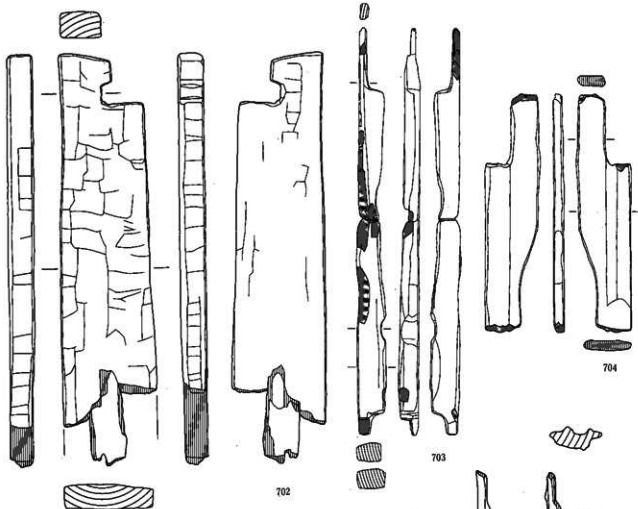
建筑部材26 大形有孔板材(689~690)



建築部材27 大形有孔板材(691~696)



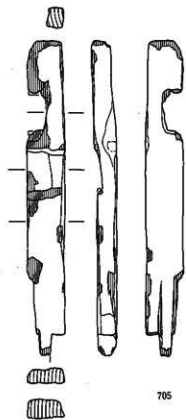
建築部材28 大形有孔板材(697~701)



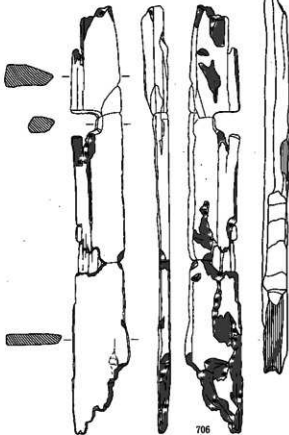
702

703

704



705



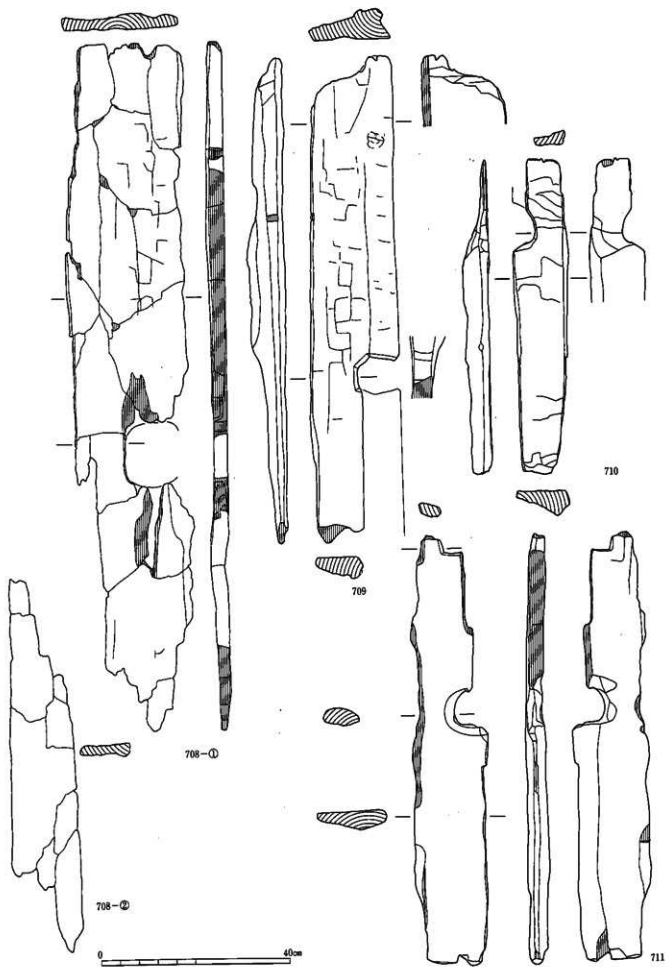
706



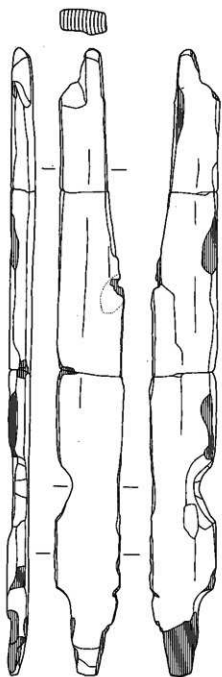
707

0 (1:8) 40cm

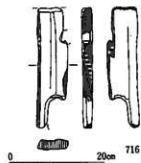
建筑部材29 大形有孔板材(702~707)



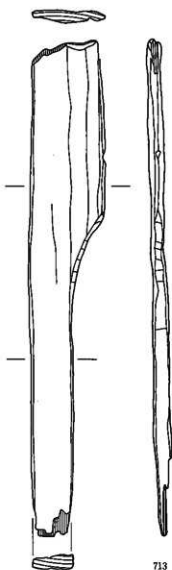
建築部材30 大形有孔板材(708~711)



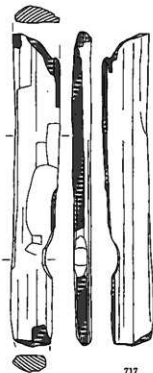
712



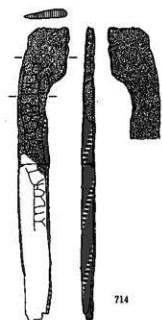
716



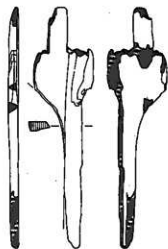
713



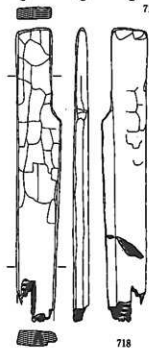
717



714

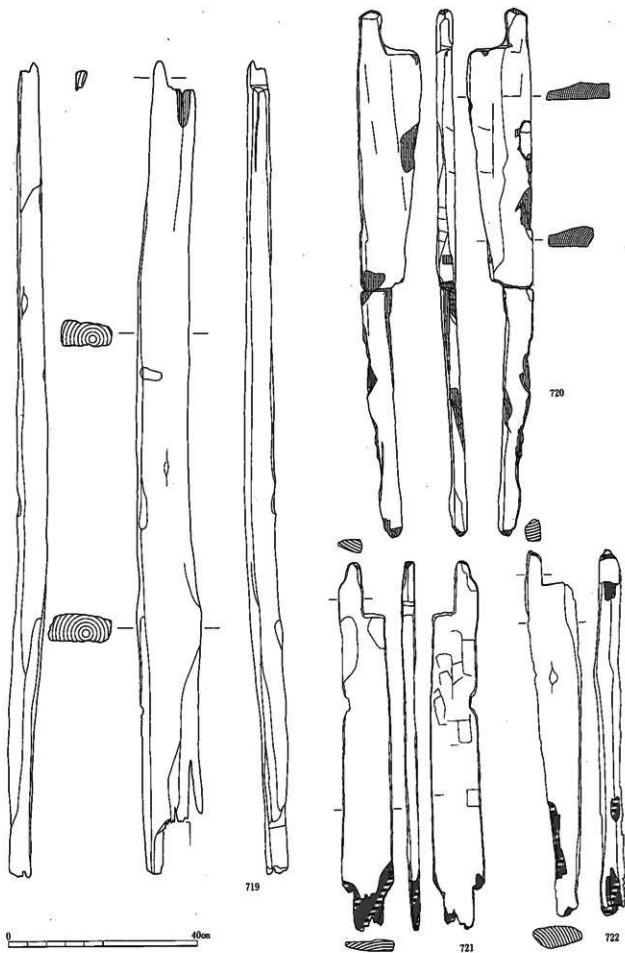


715

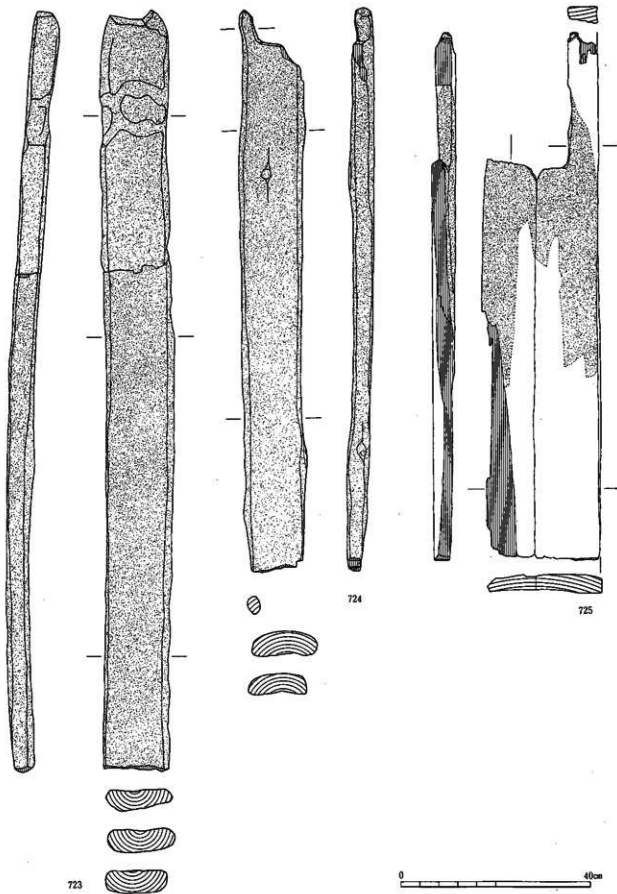


718

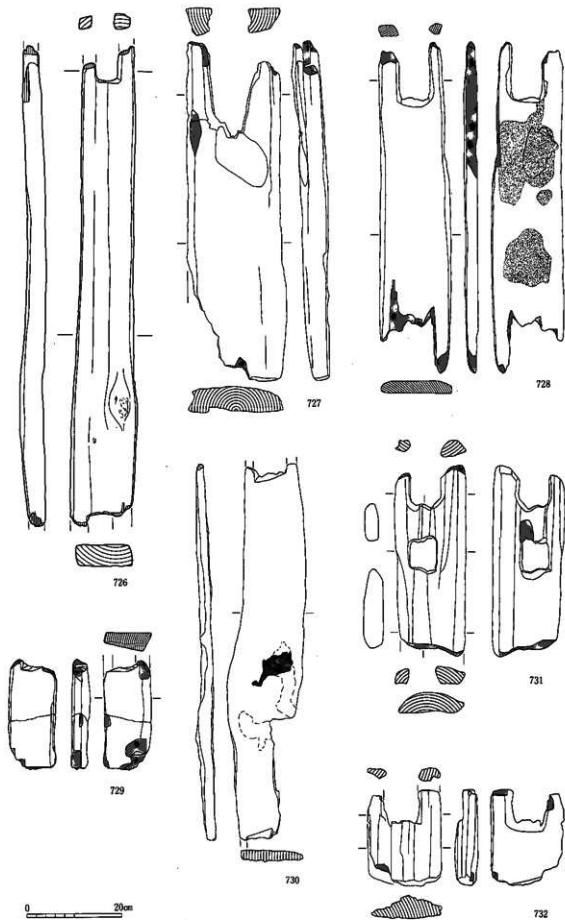
建築部材31 大形有孔板材(712~718)



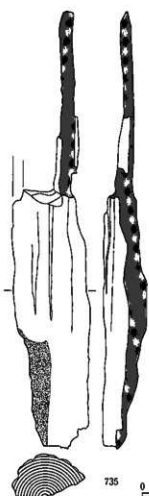
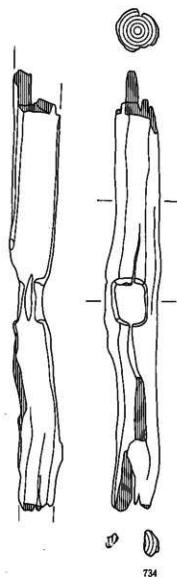
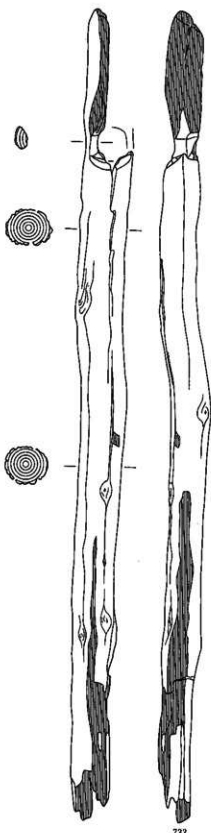
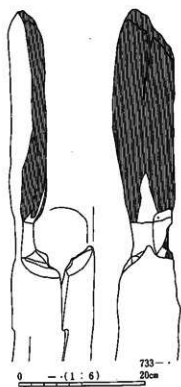
建筑部材32 大形有孔板目板材(719~722)



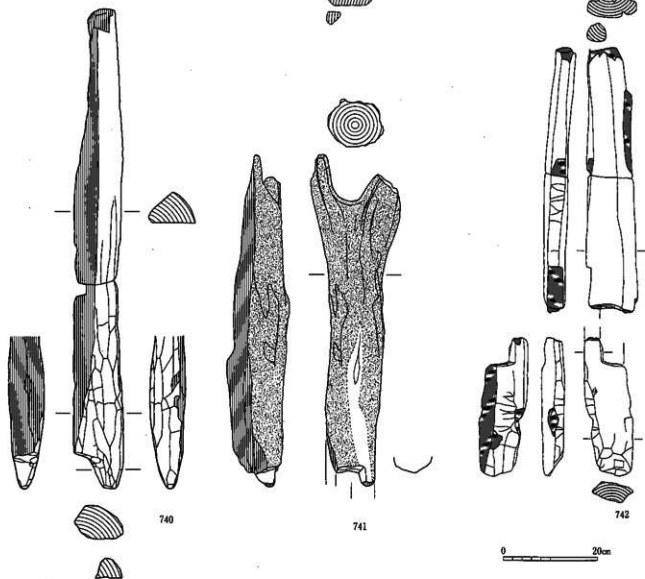
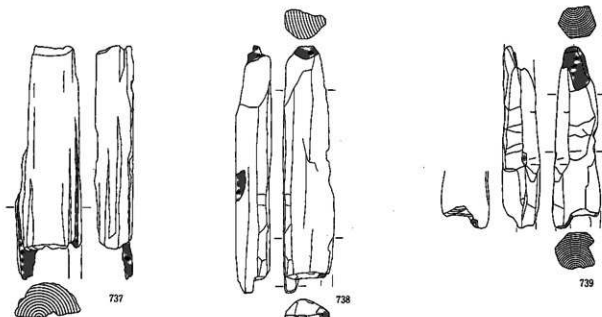
建筑部材33 大形有孔板目板材(723~725)



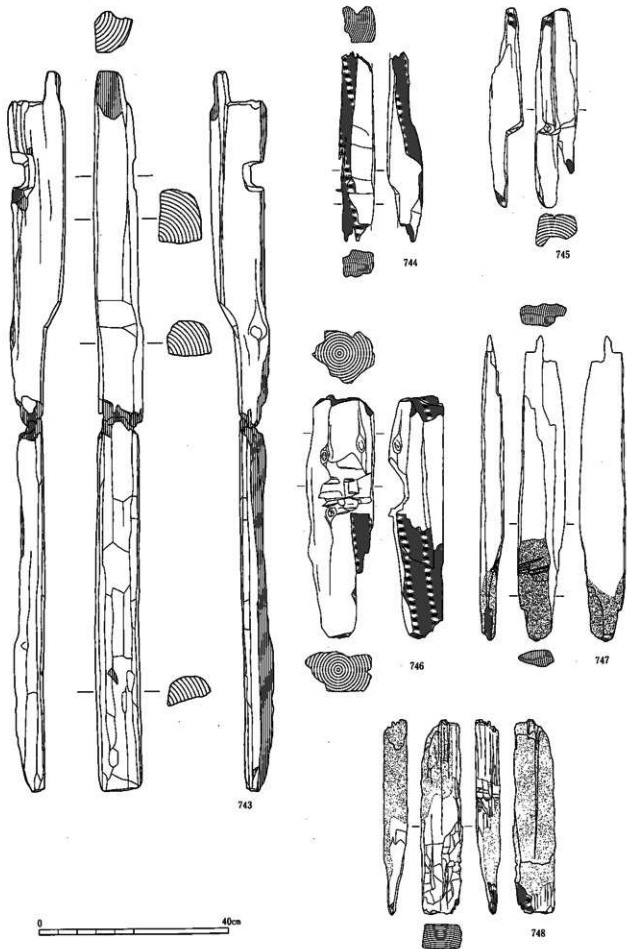
建筑部材34 大形有孔板目板材(726~732)



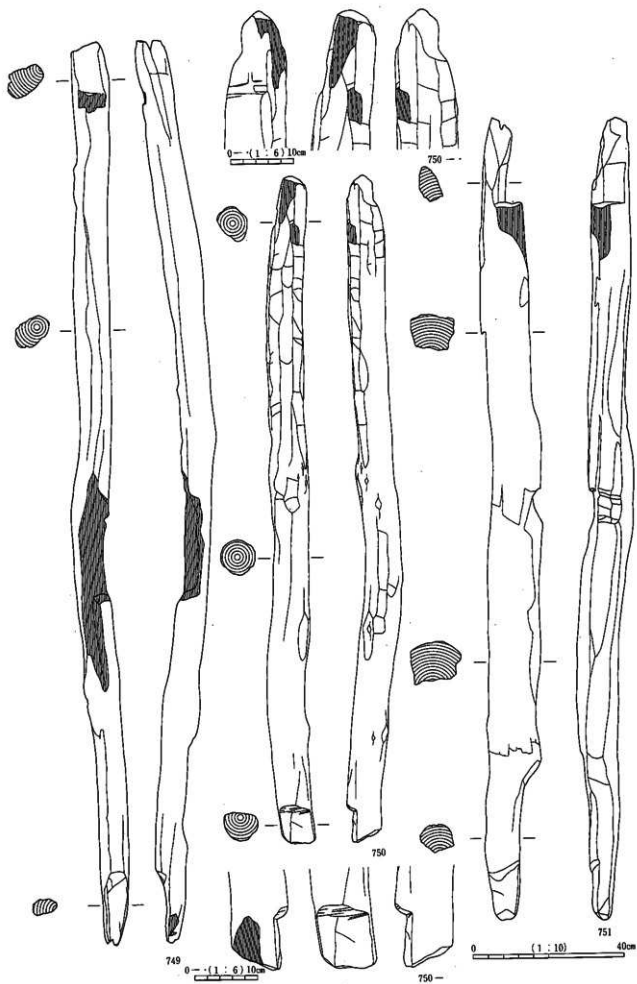
墓葬部材35 大形有孔丸木材(733~736)



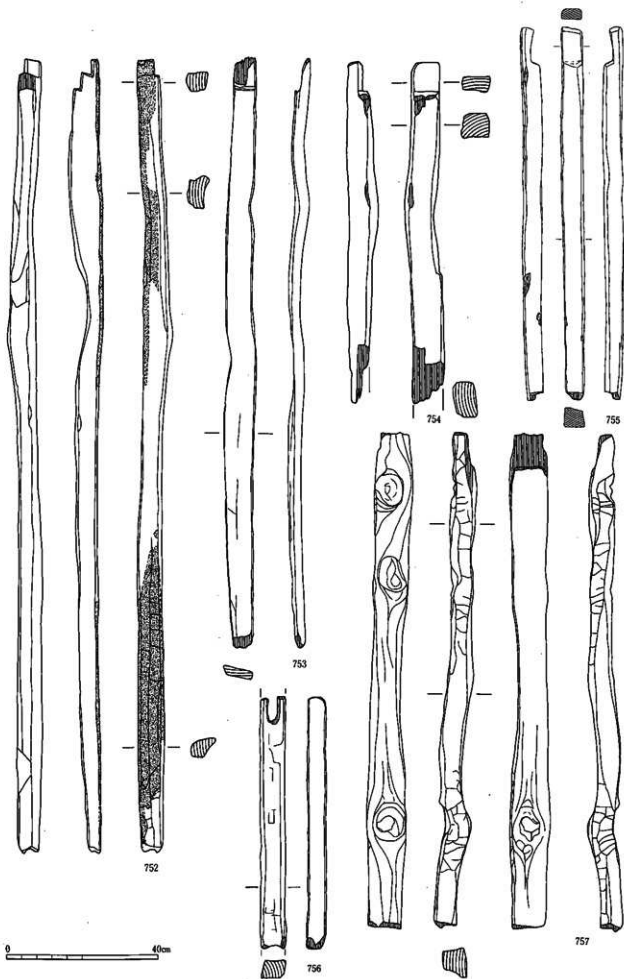
0 20cm



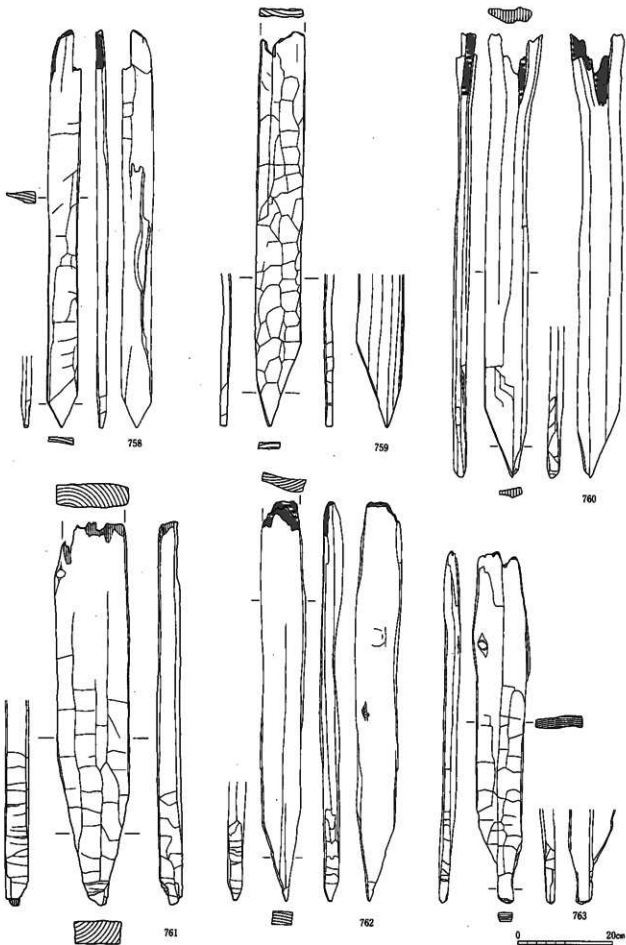
建築部材27 大形有孔丸木材(743~748)



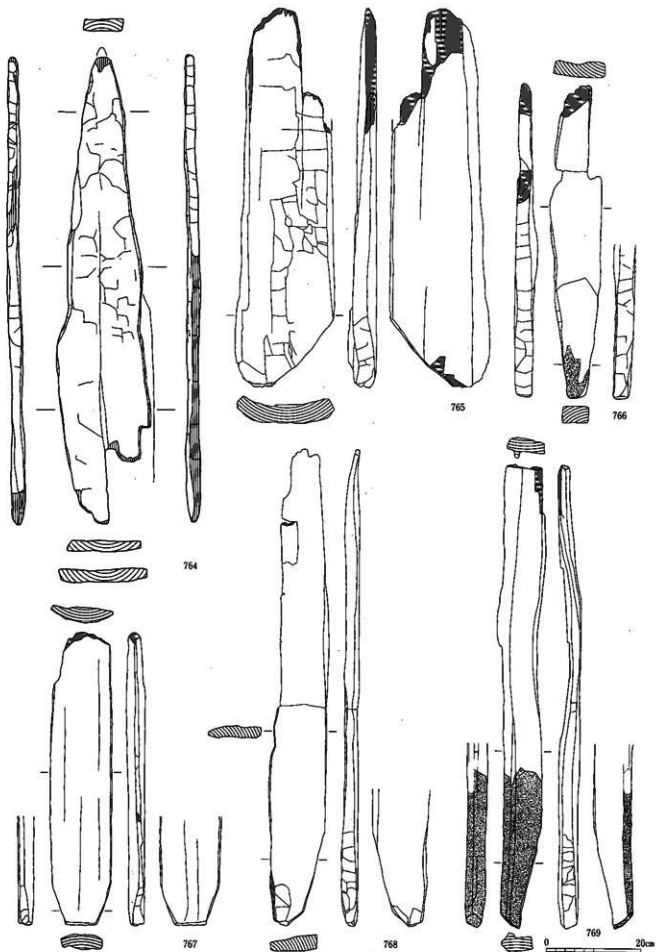
藤原部材38 大形丸木材(749~751)



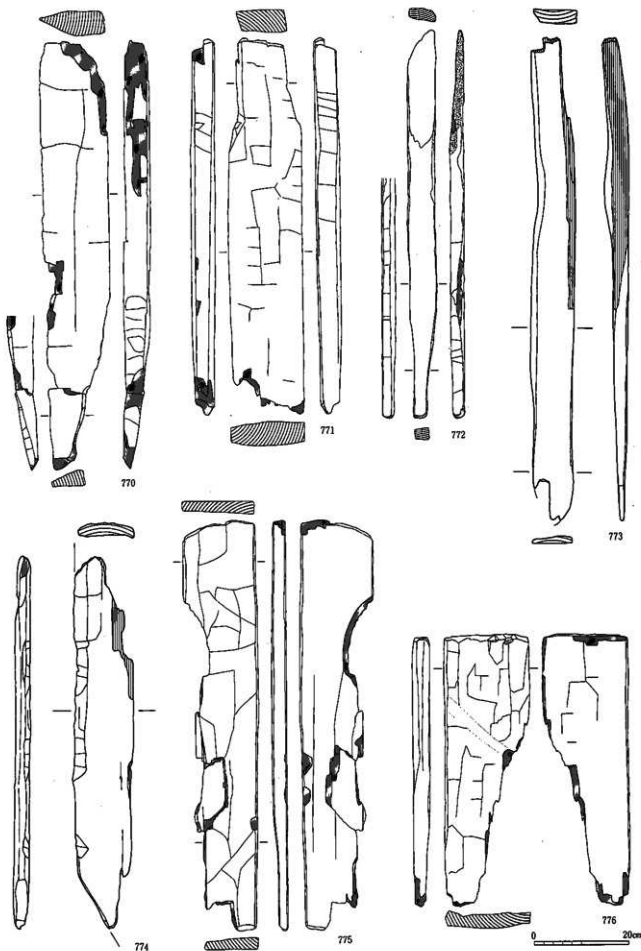
鹿角部材38 大形角材(752~757)



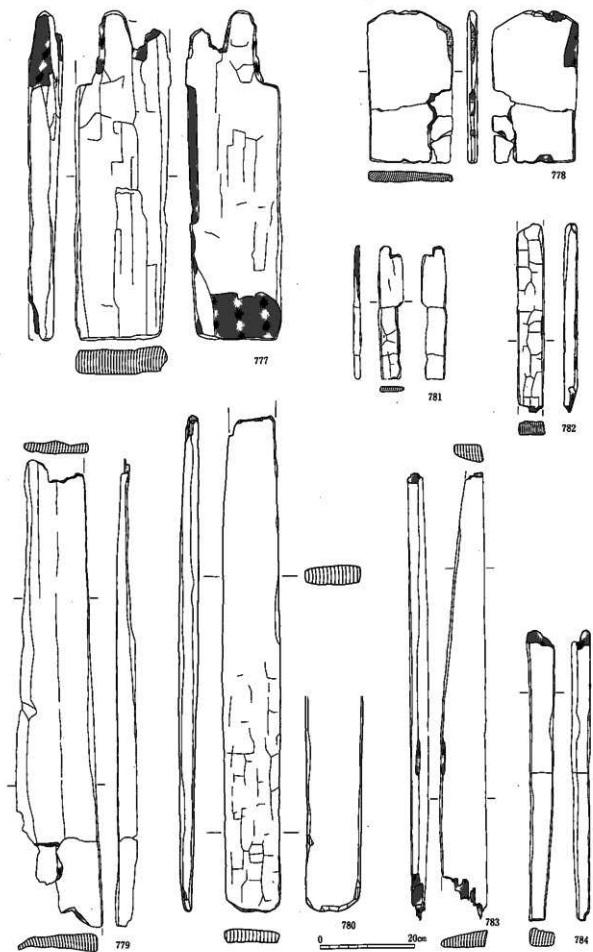
建築部材40 先増加工板材(758~763)



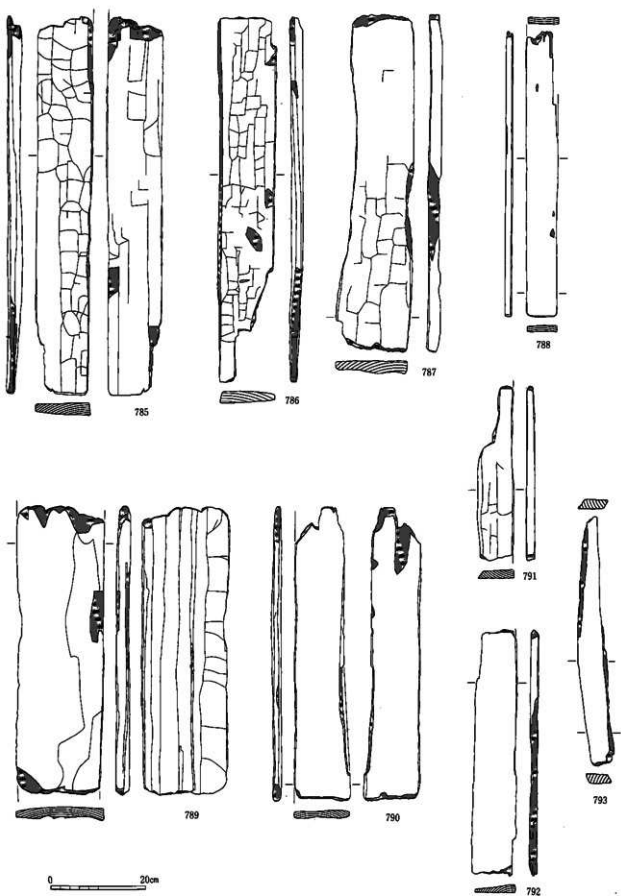
建築部材41 先端加工板材(764~769)



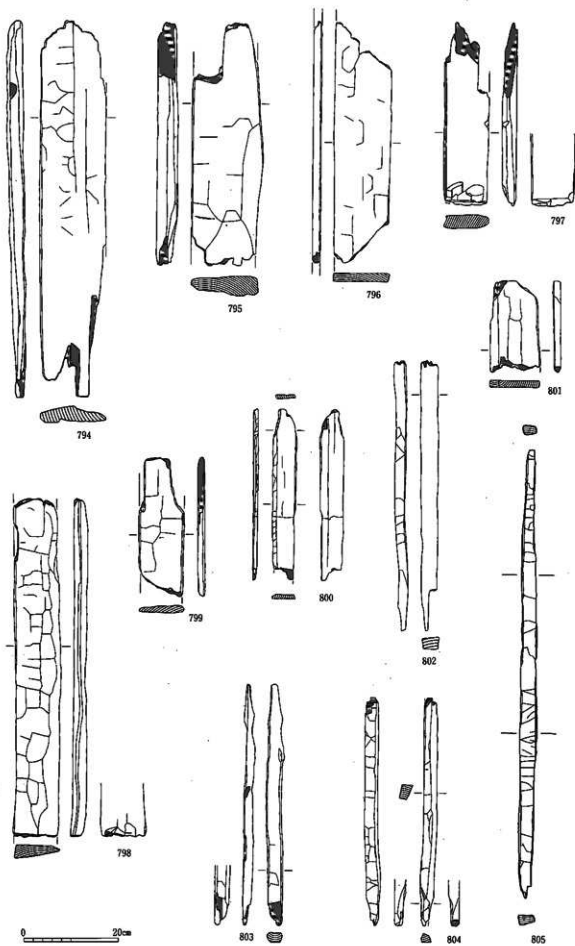
建築部材42 板目板材(770~776)



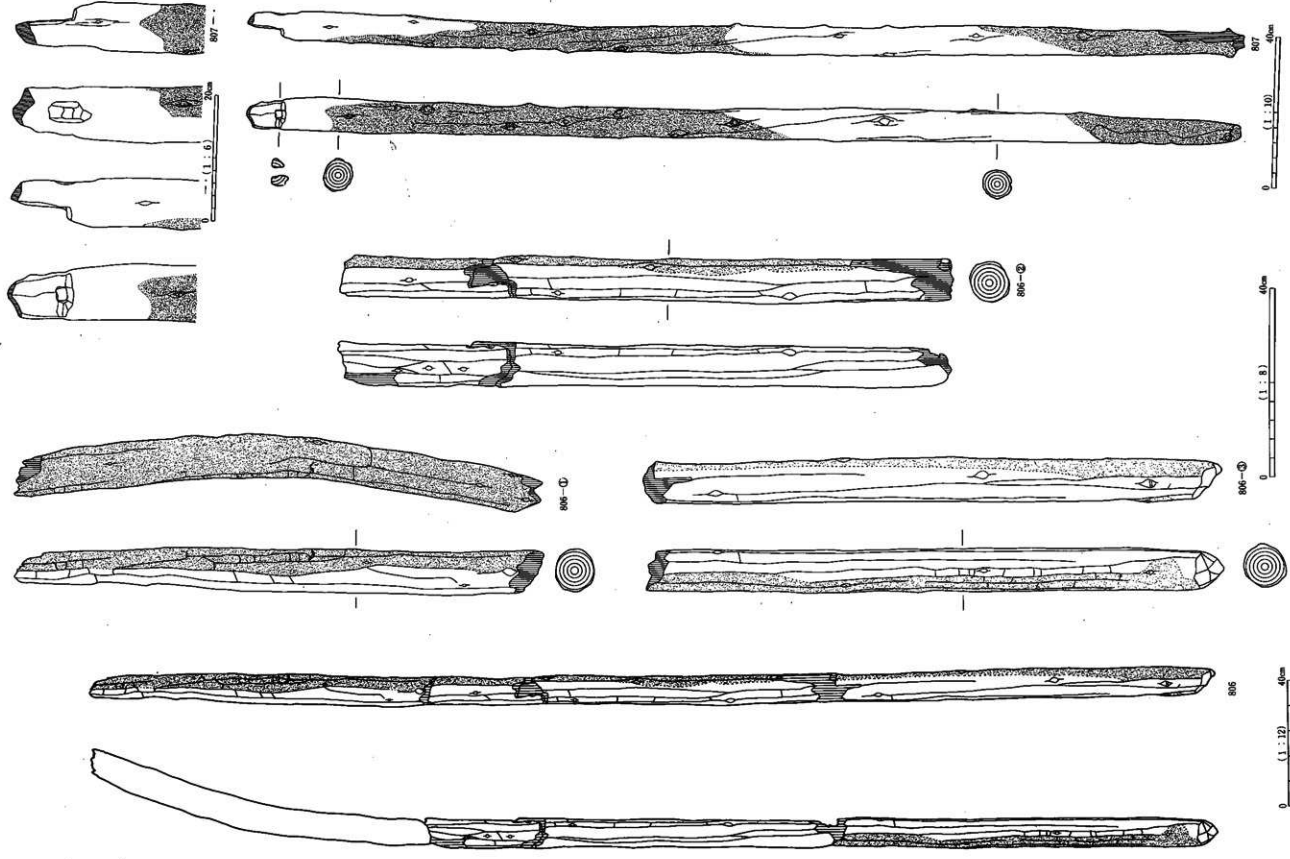
建筑部材43 柱目板材(777~784)



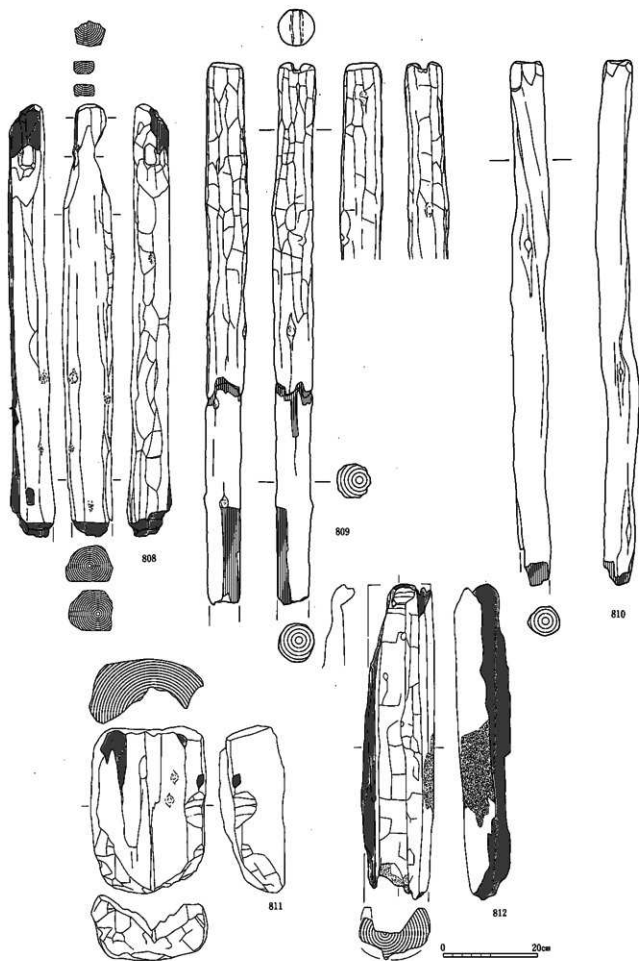
建築部材44 板目板材(785~793)



建築部材45・板目板材(794~805)



圖版附錄46 大形瓦木矛(806~807)



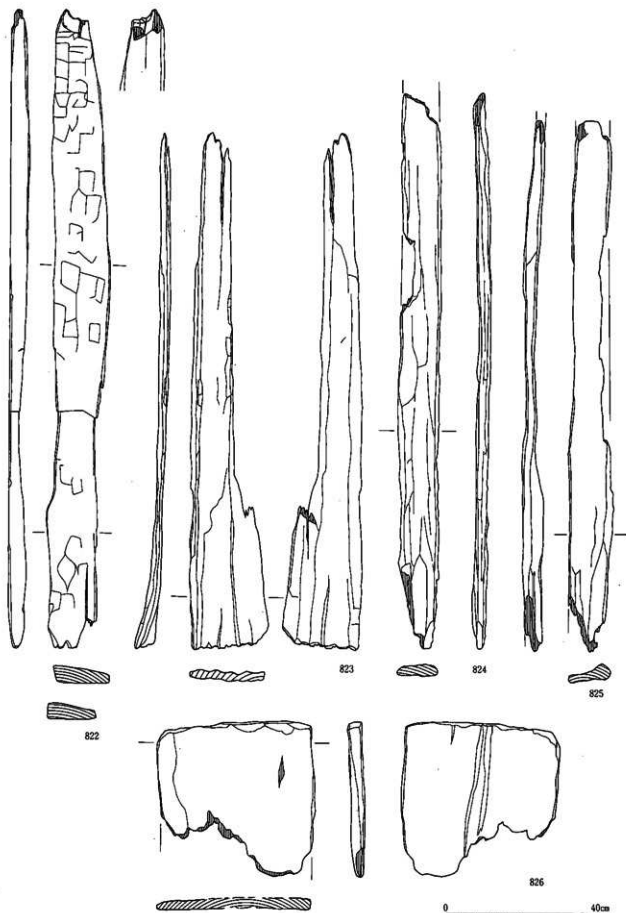
建築部材47部材 有孔丸木材、制物材(808~812)



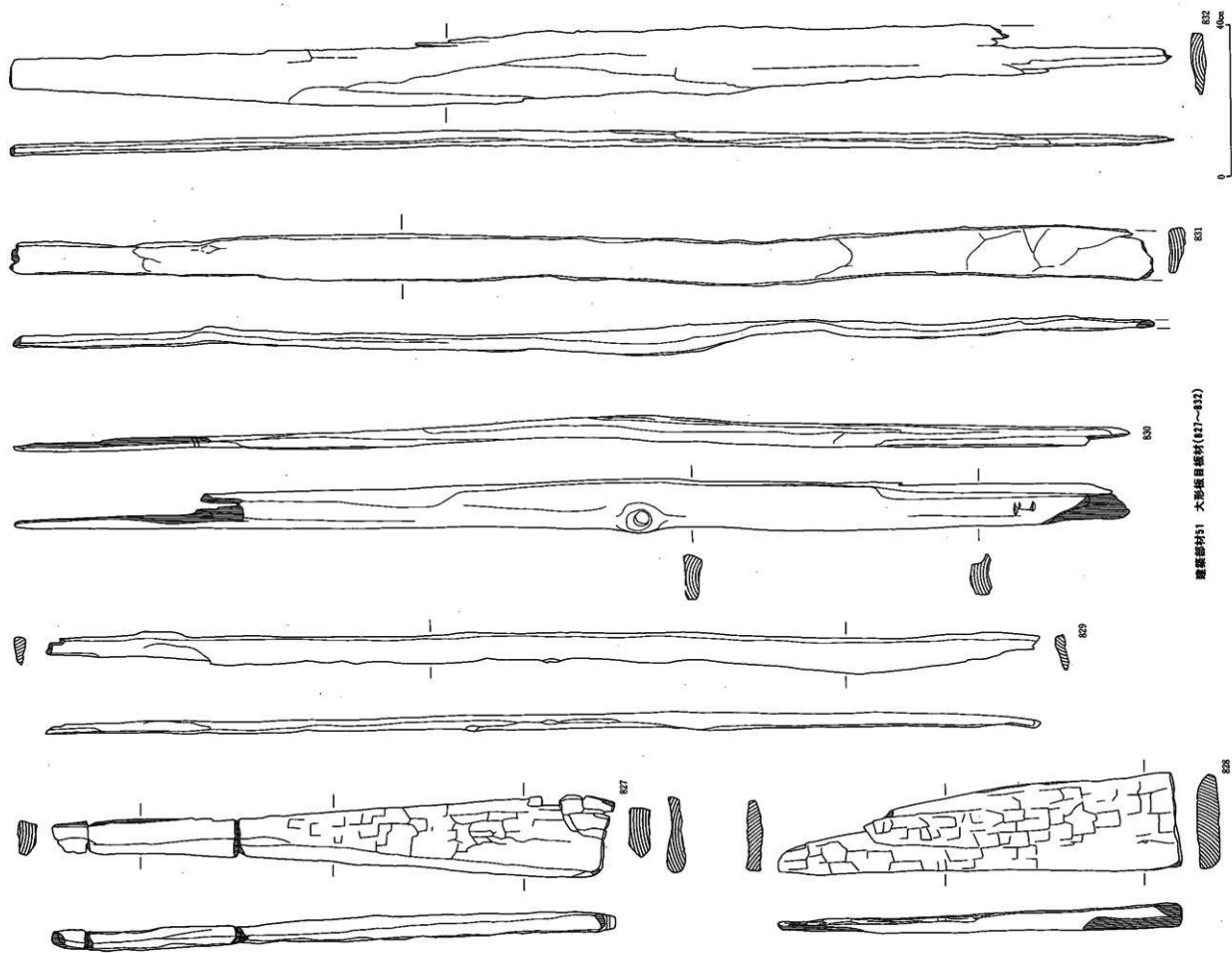
建築部材48 大形丸木材(813~817)



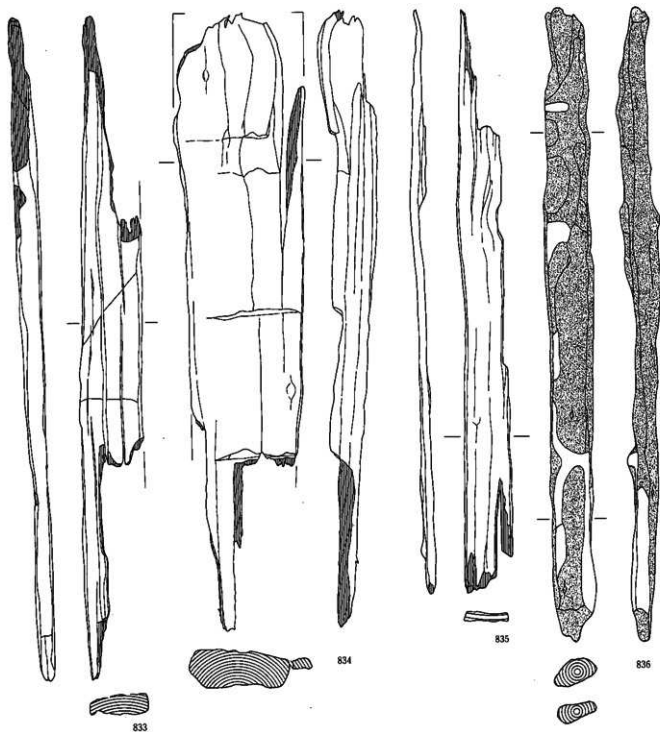
建築部材40 大形丸木材(818~821)



建築部材58 大形板目板材(822~826)

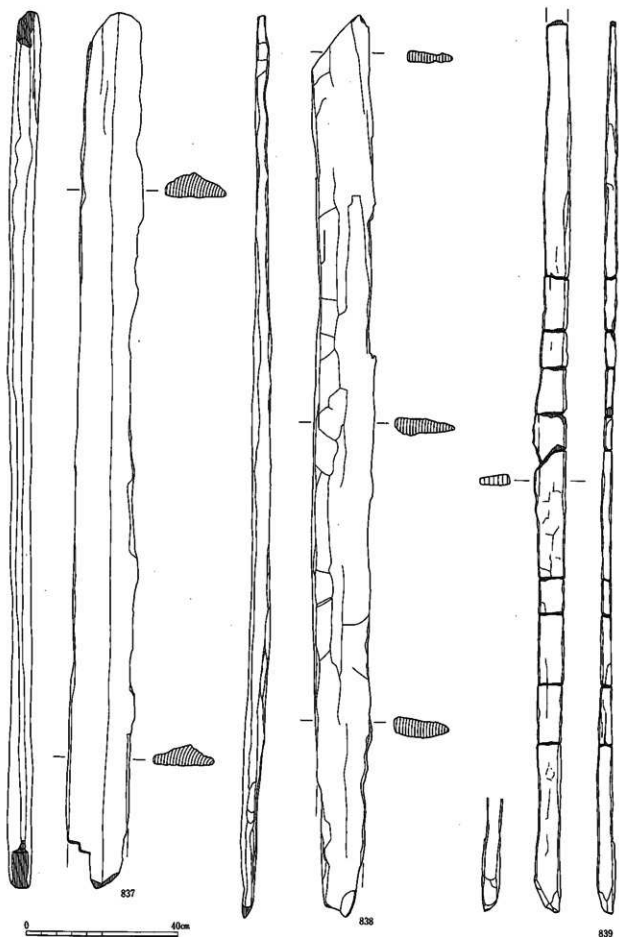


建築部材51 大形楯目櫛目材(827~832)

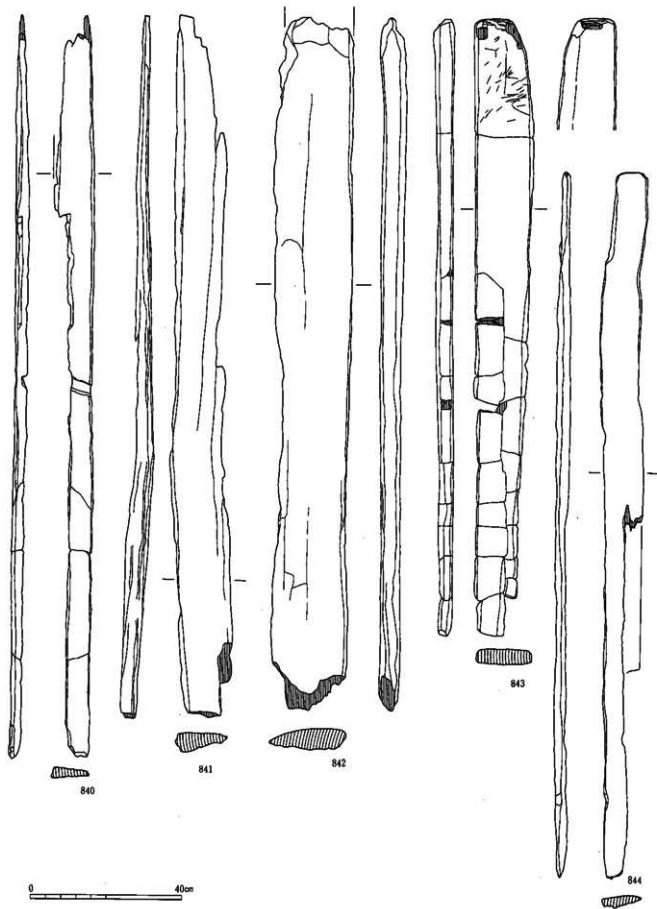


0 40cm

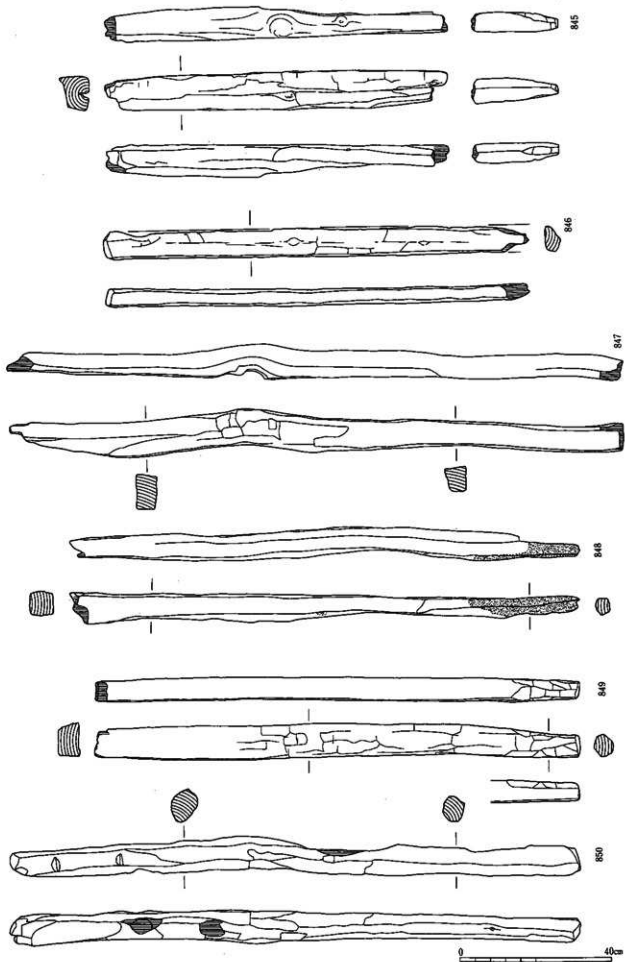
建築部材52 大形板目板材(833~836)



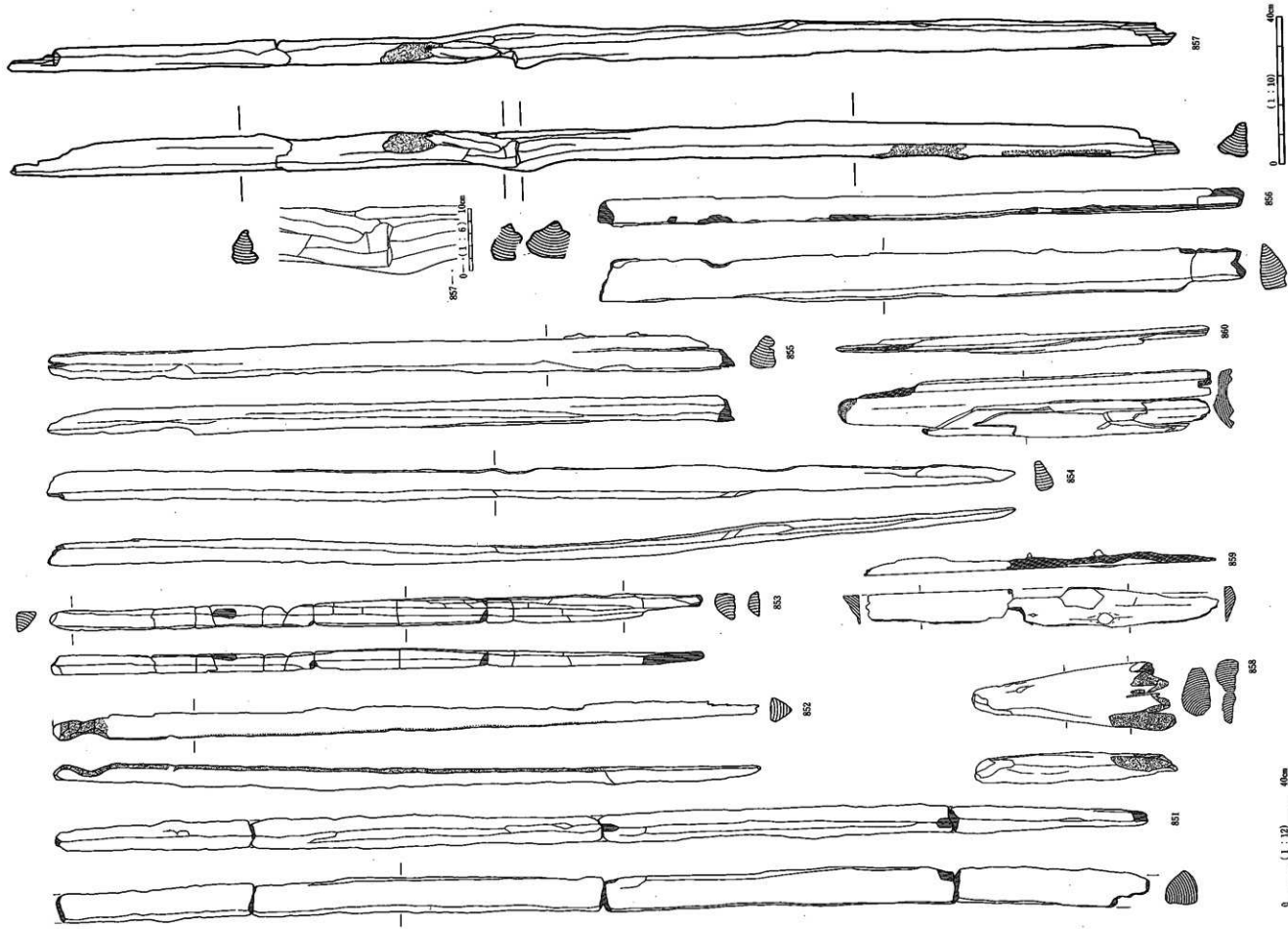
踏碇部材53 大形笹目板材(837~839)



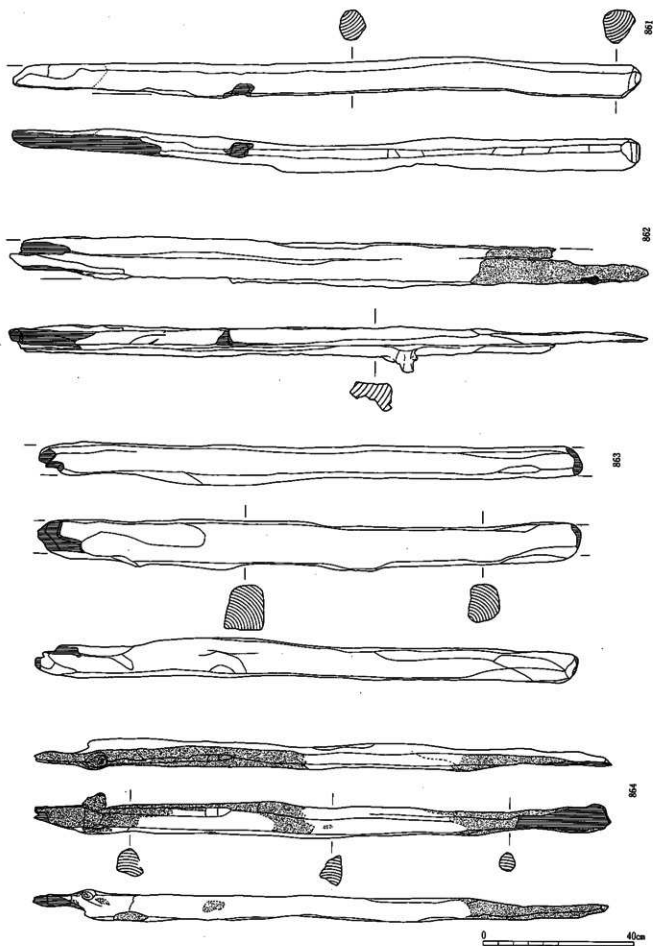
建築部材54 大形縦目板材(840~844)



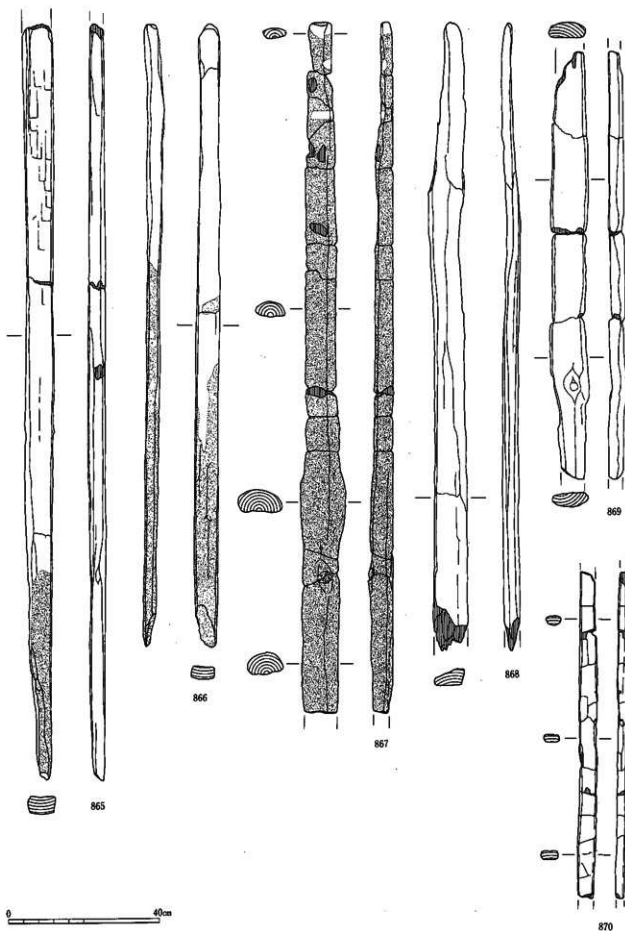
建落部材55 角材(845~850)



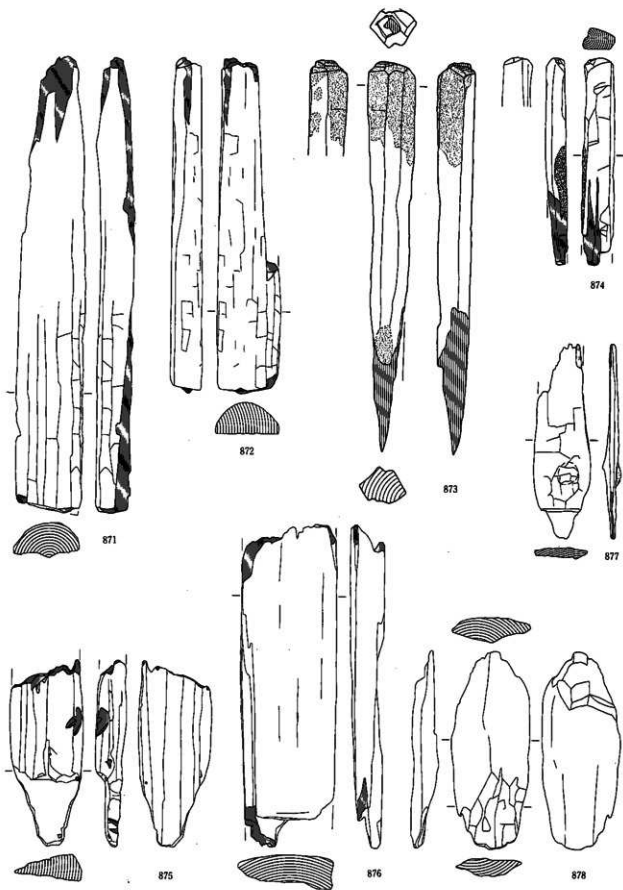
鐵器部付56 箭羽材(851~860)



建築部材57 割り材・角材(861~864)

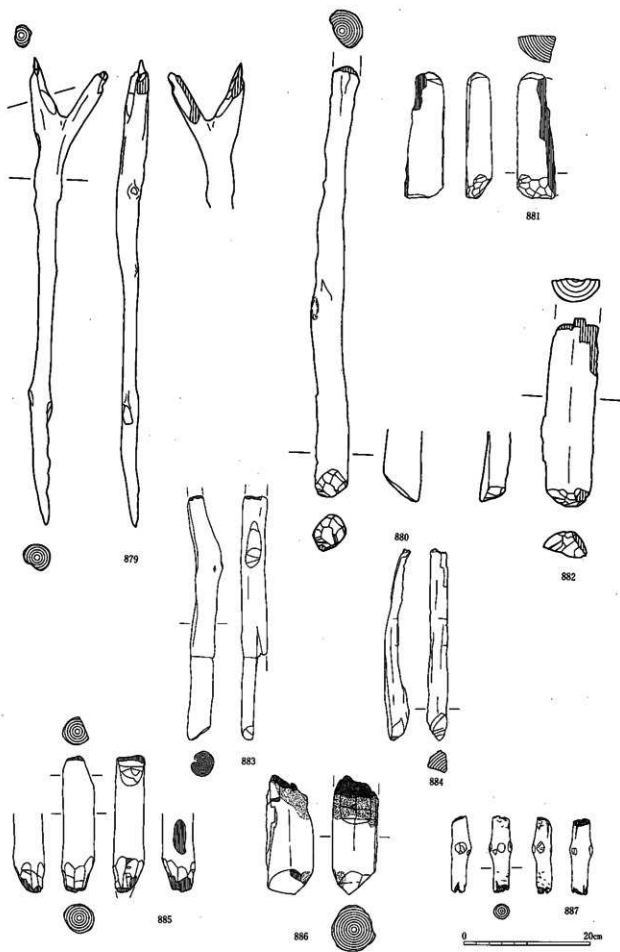


建築部材58 桐りだし材(865~870)

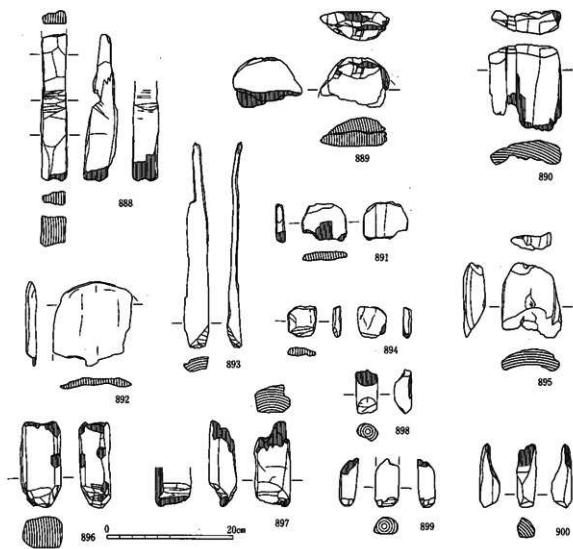


0 20cm

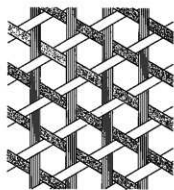
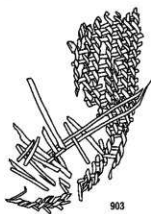
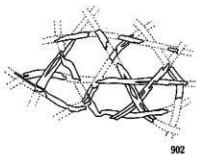
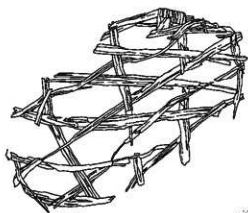
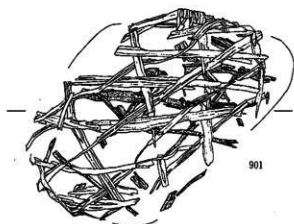
不明部材 削りだし材(871~878)



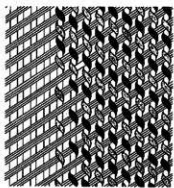
不明部材 丸木材、削りだし材(879~887)



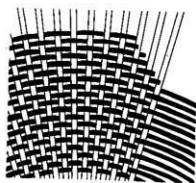
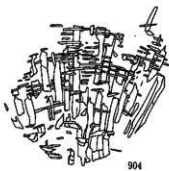
削り屑、その他(888~900)



模式图



0 模式图 10cm



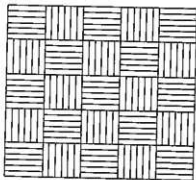
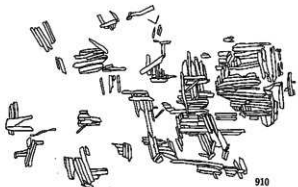
模式図



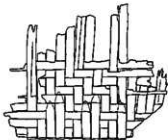
0 (1:4) 10cm



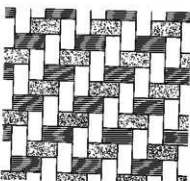
0 (1:2) 10cm



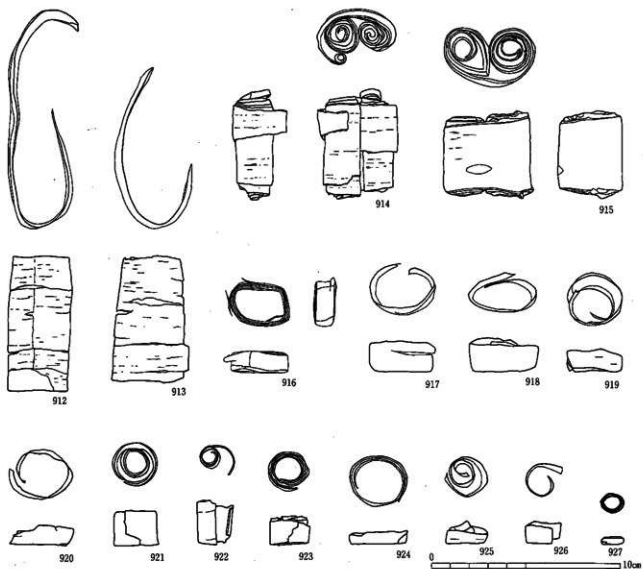
模式図



0 (1:4) 10cm



模式図



樹皮製品 (912~927)

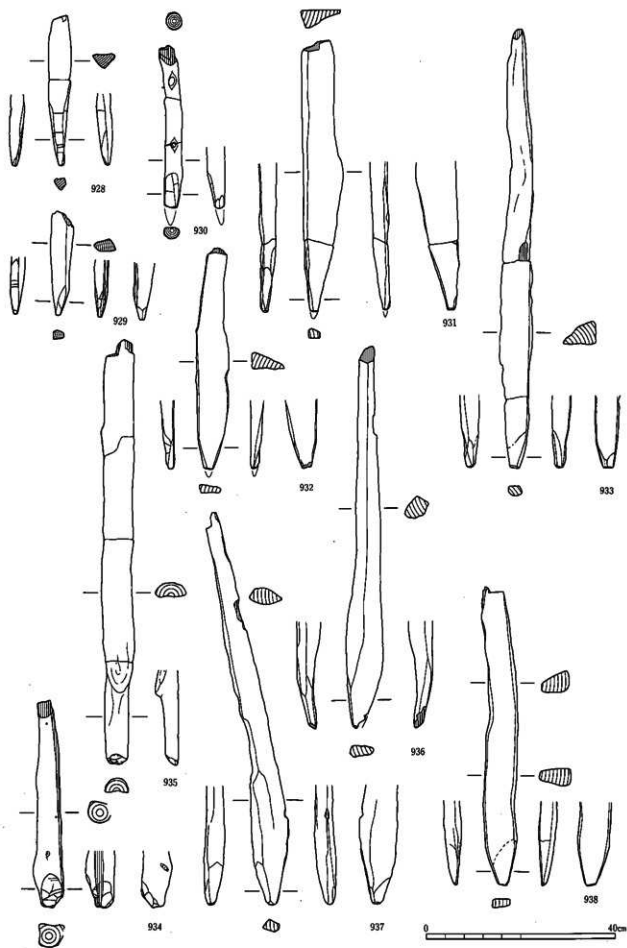
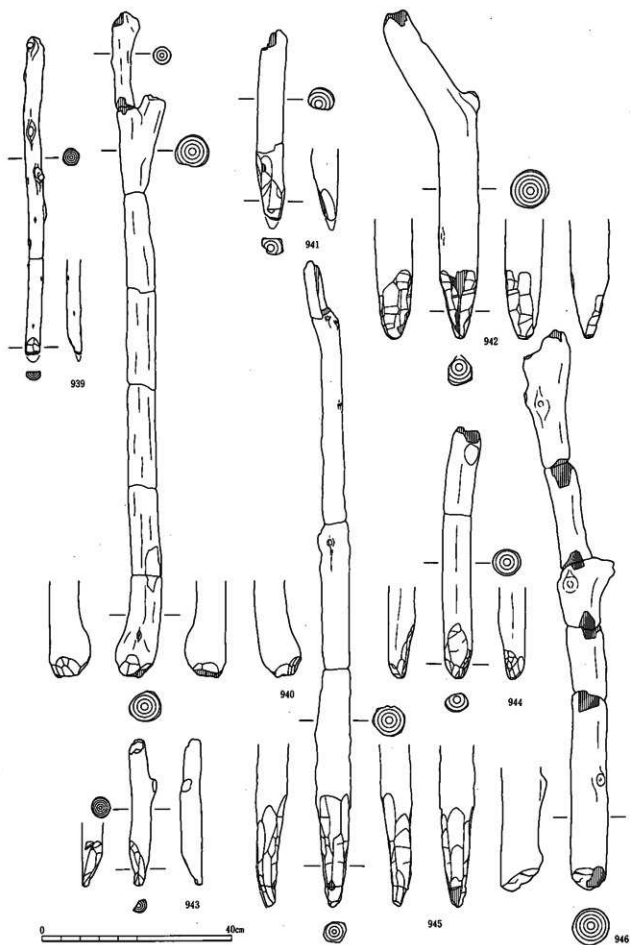


图1 SA1801、SA4003、SA4004(928~938)



坑2 SA4005、SA4006、SA4008(939~946)

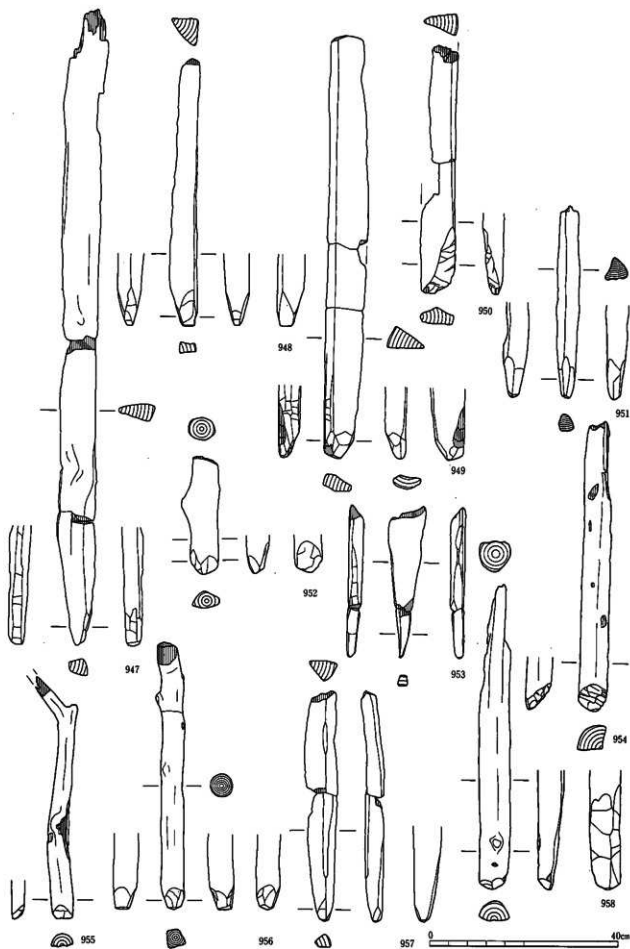


图 3 SA4006、SA4012、SC4015(947~958)

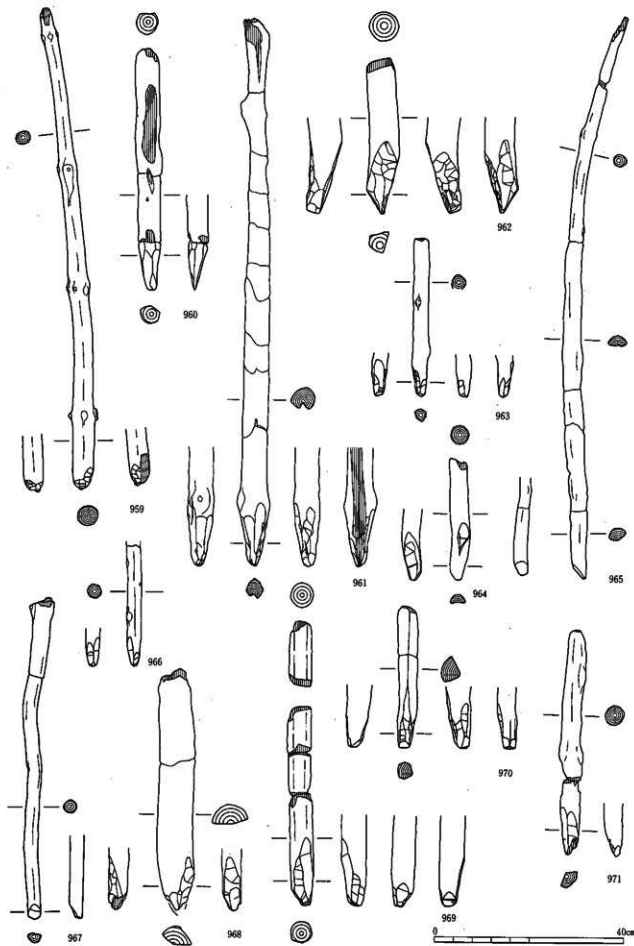


图 4 SA4011、SD3004(959~971)

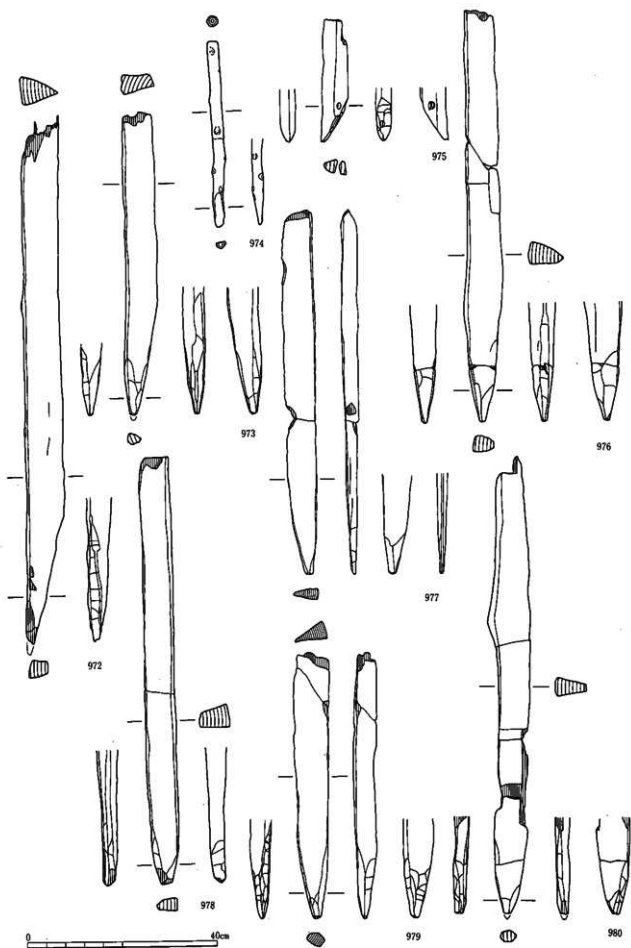
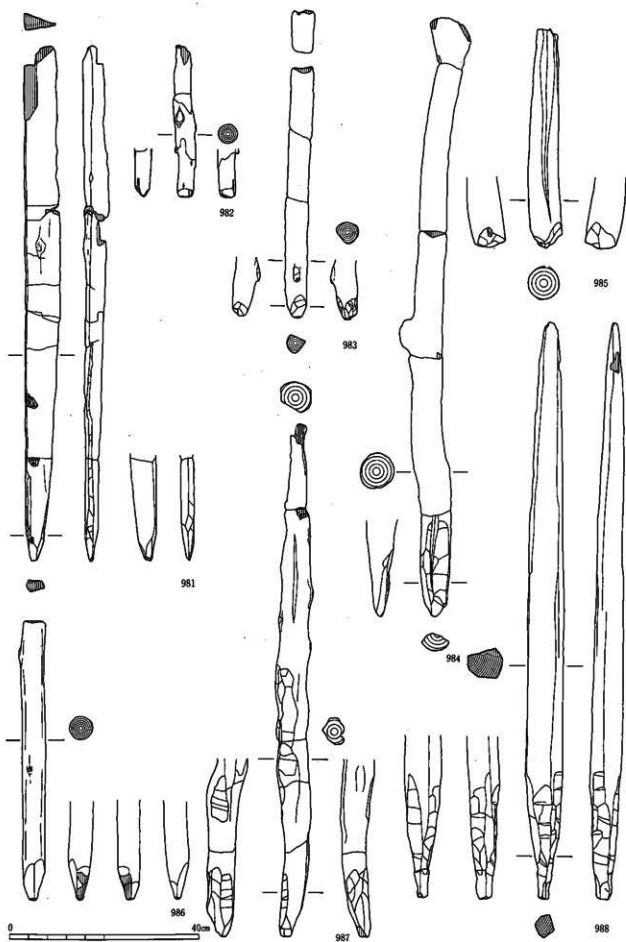
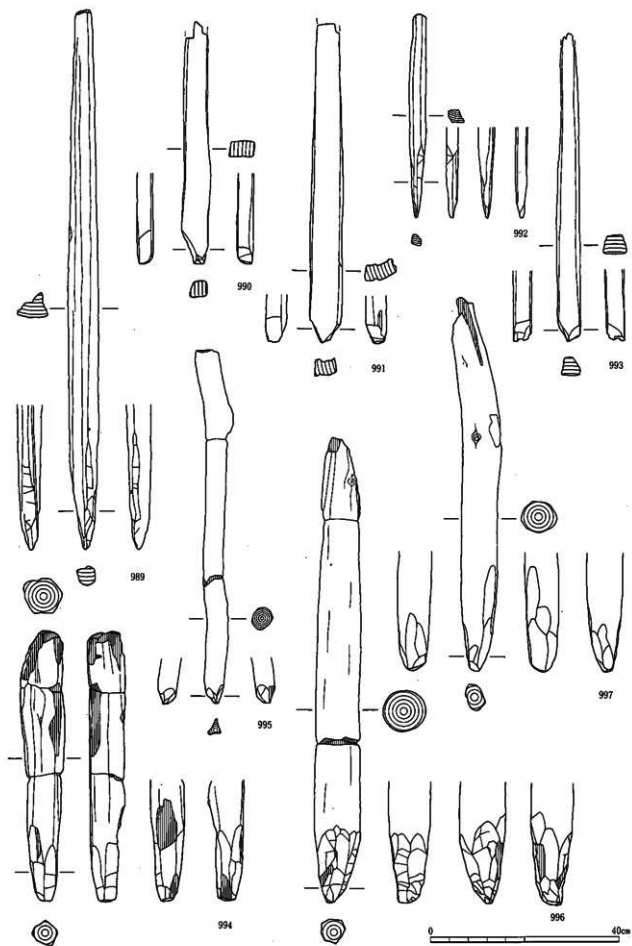


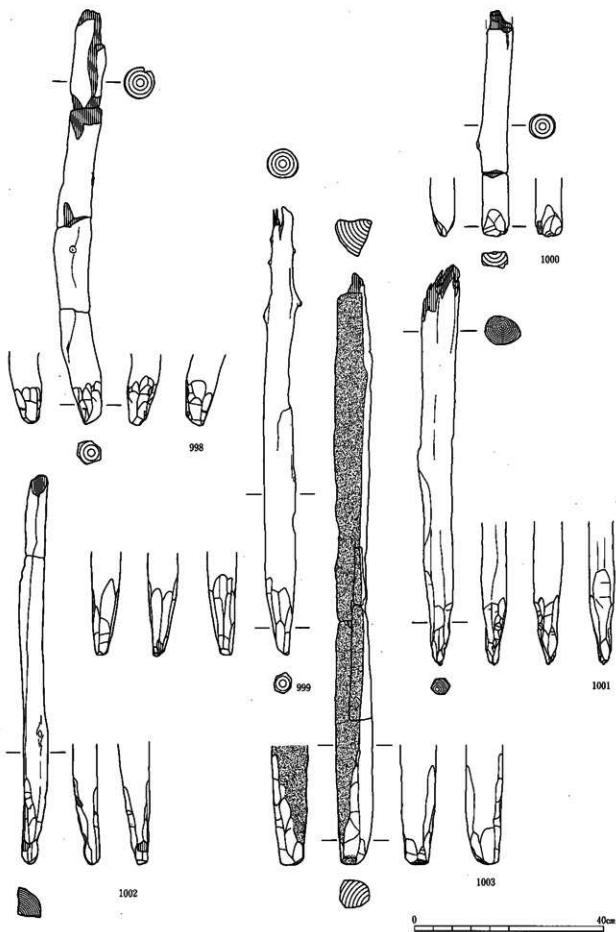
图 5 SC3521、SC3522、SC3524(972~980)



枕 6 SC3524、SC3526、SA3102(981~988)



枕7 SA3102、SA3104(988~997)



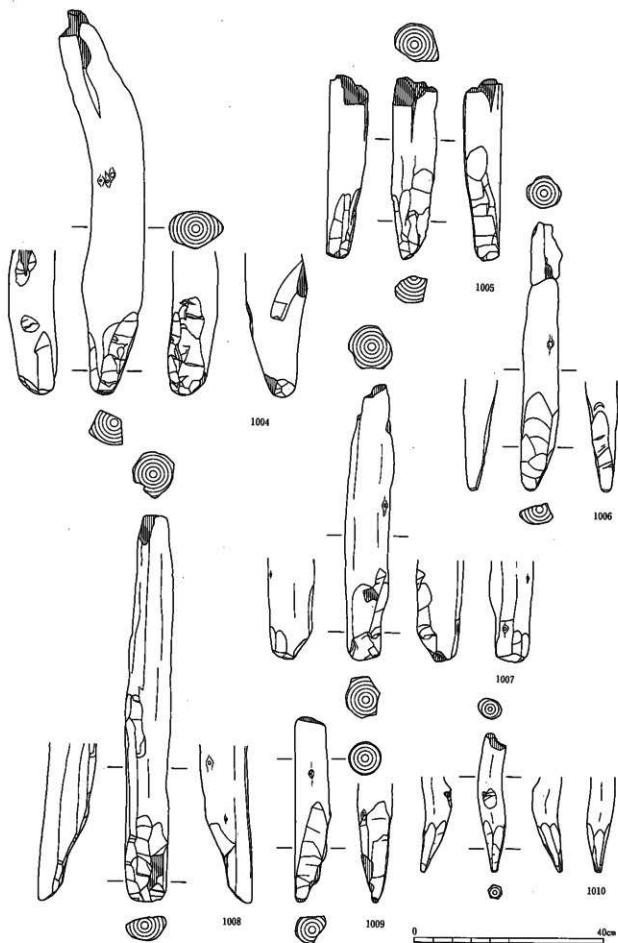


图 9 SA2181、SA4081(1004~1010)

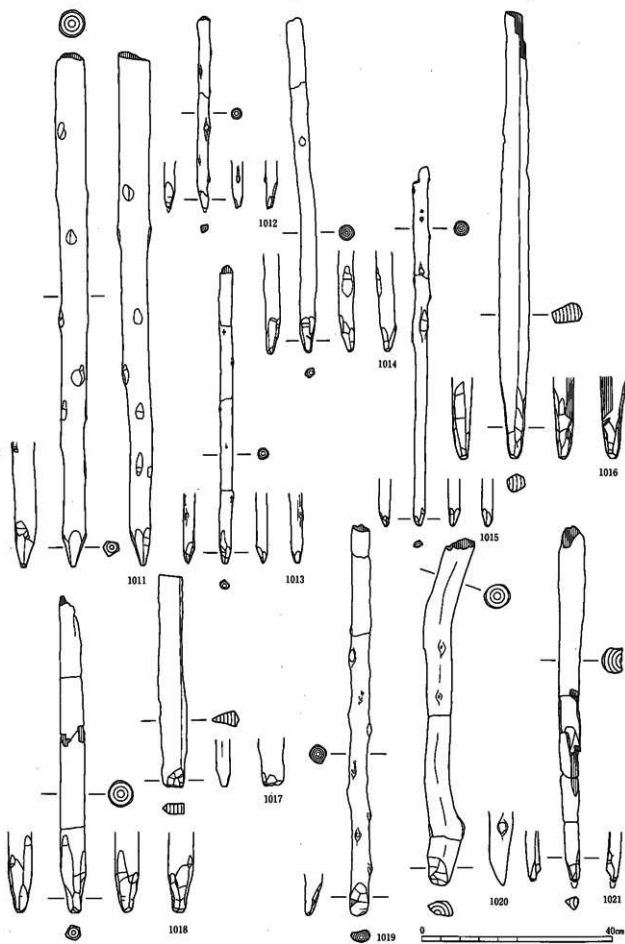


图10 SA4001、SA4002(1011~1021)

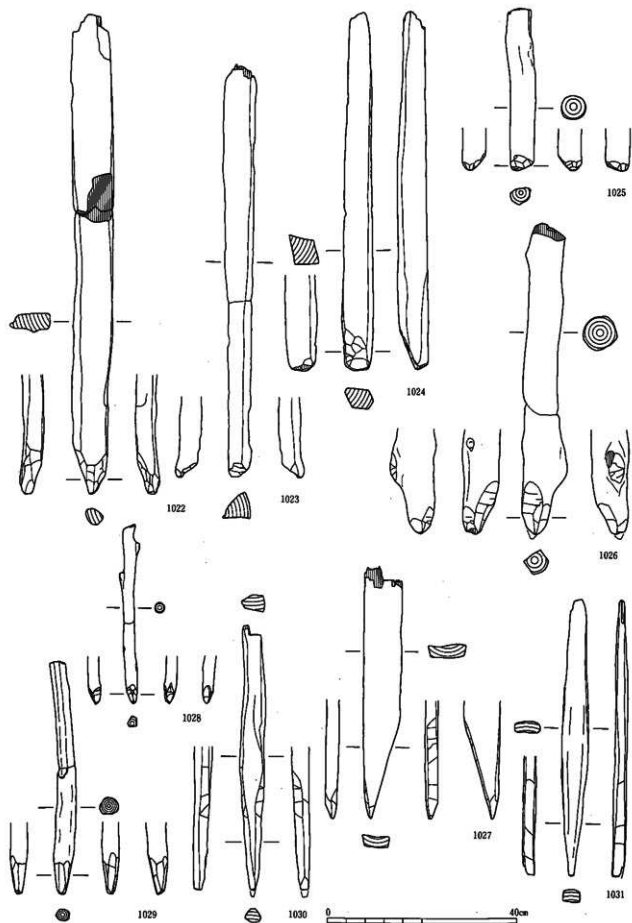
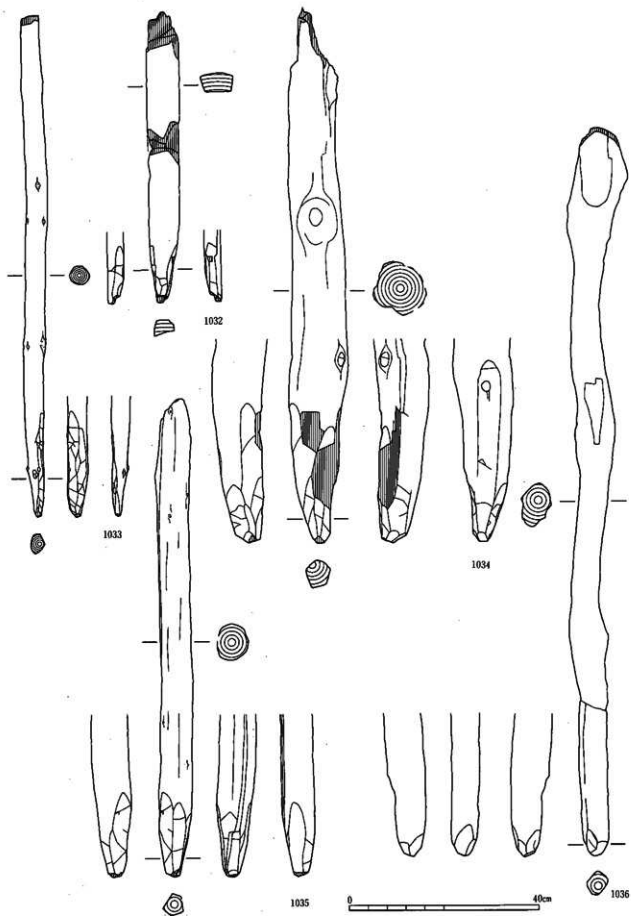


图11 SA4002, SA4007, SA4010, SD3003(1022~1031)



杭12 SD3003(1032~1036)

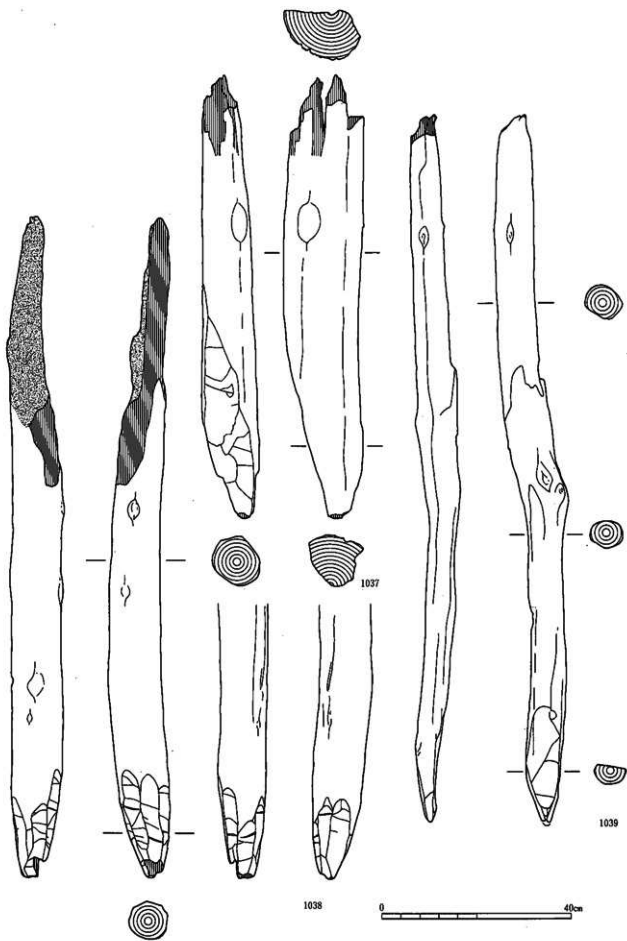
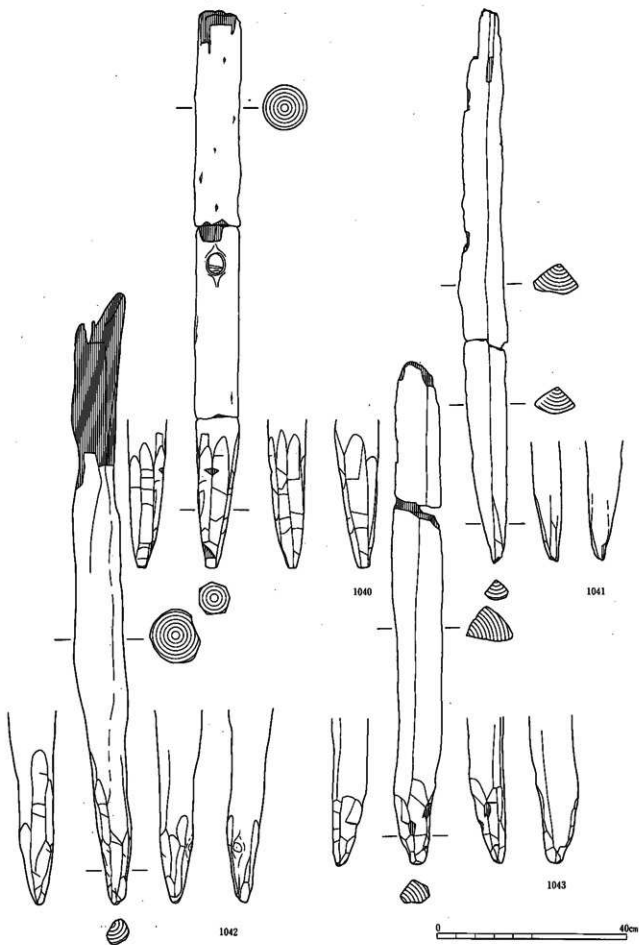
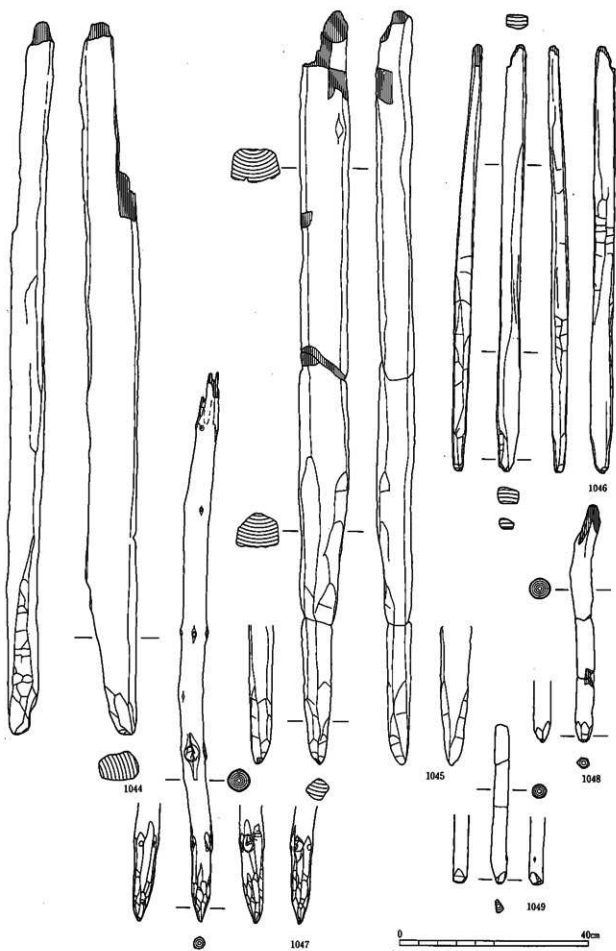


图 13 SD3003(1037~1039)



杭14 SD3003(1040~1043)



枕15 SD3001、SD3002、SA3005(1044~1049)

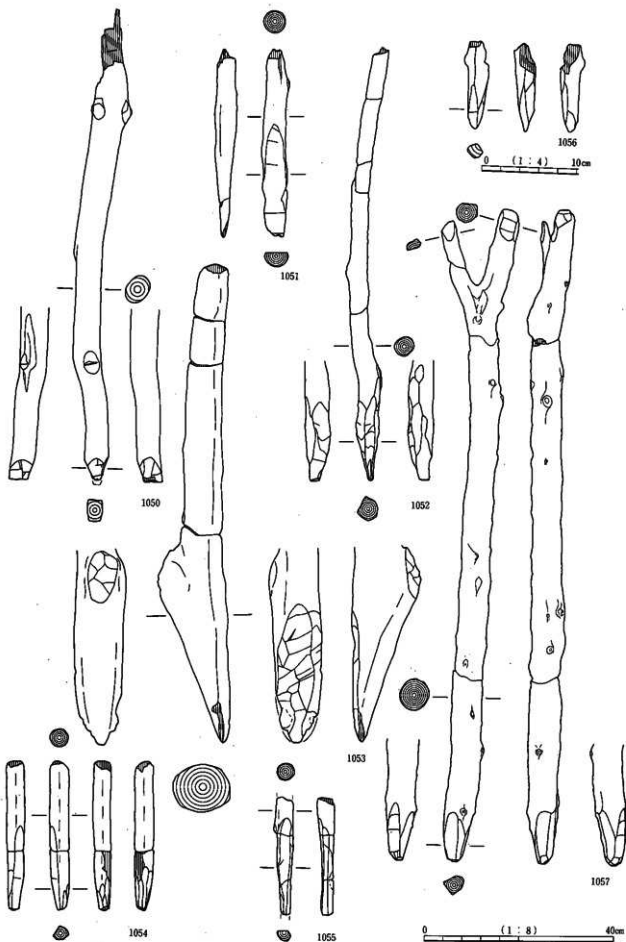
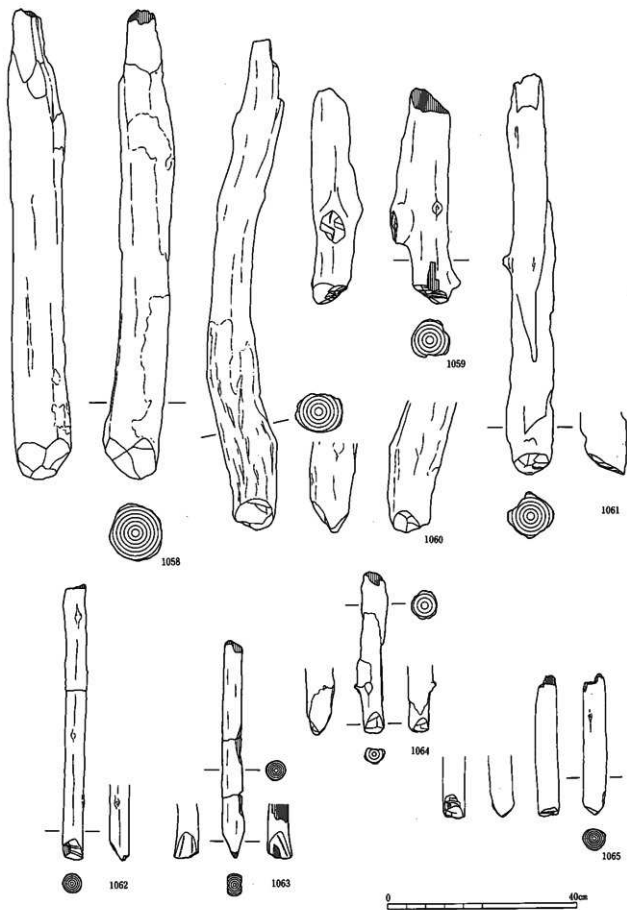
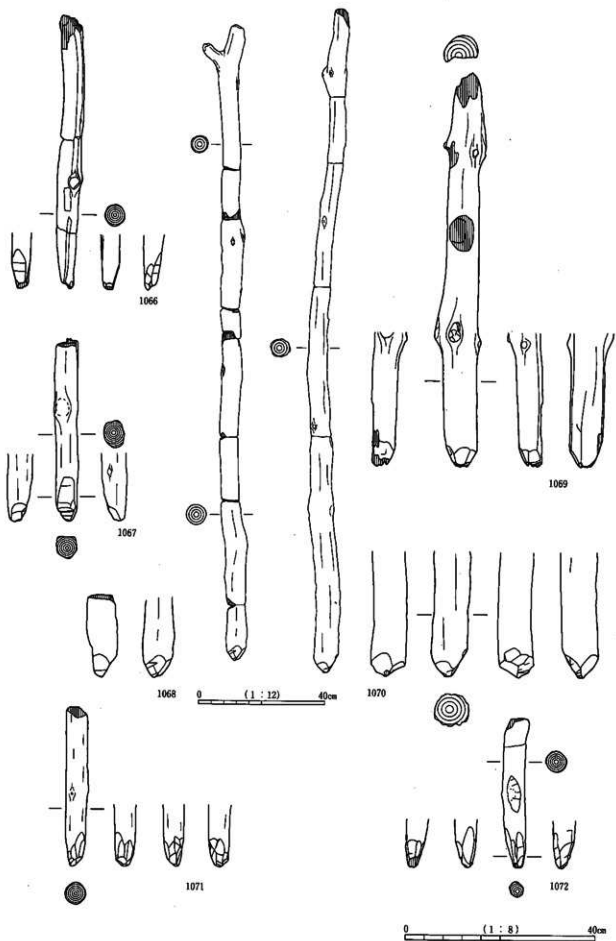
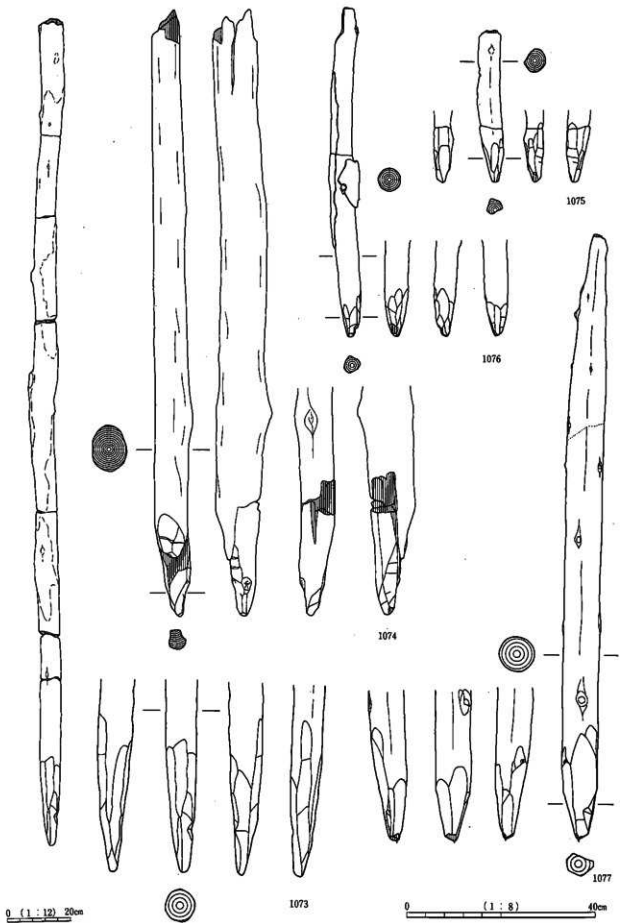


图16 SC3528、SA3514、SC3586、SA3101、SD4085(1050~1057)

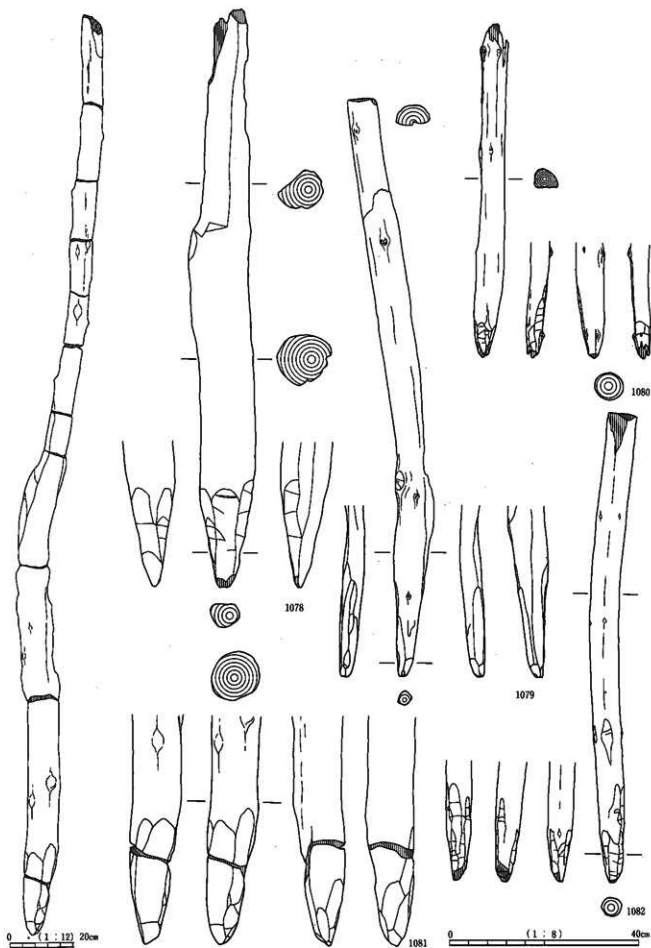


坑17 SD3004(1058~1065)

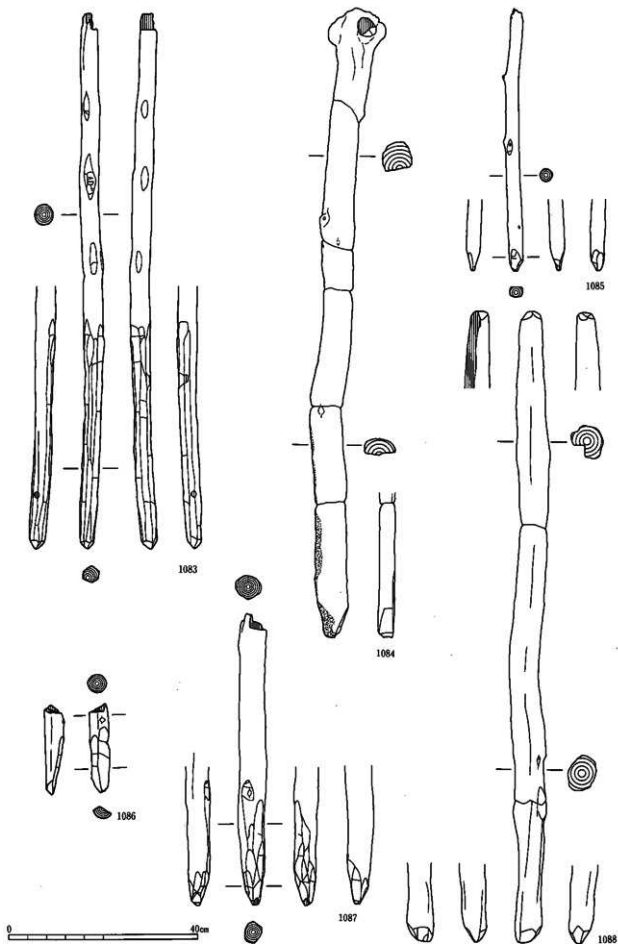




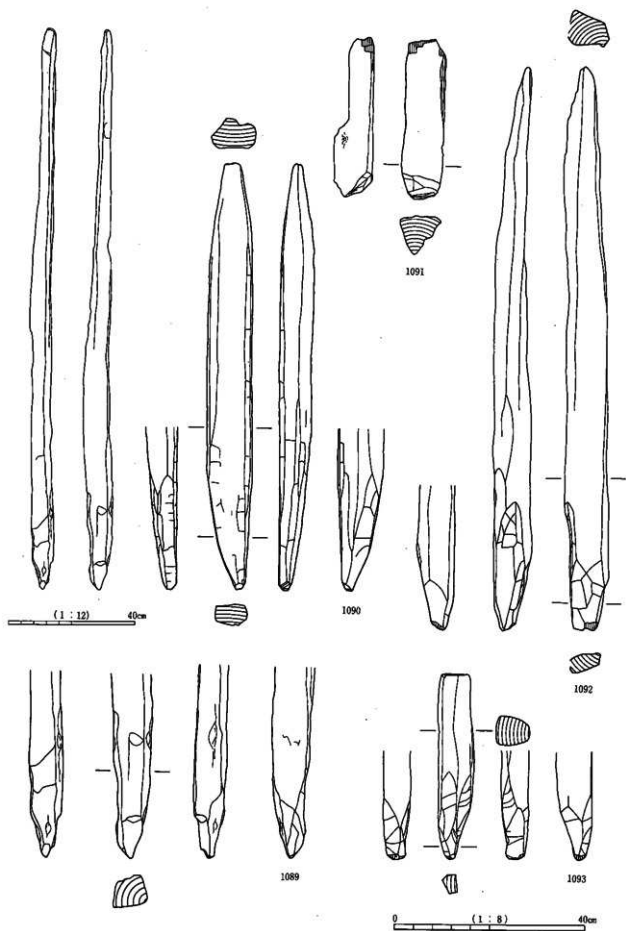
坑18 SD3004(1073~1077)



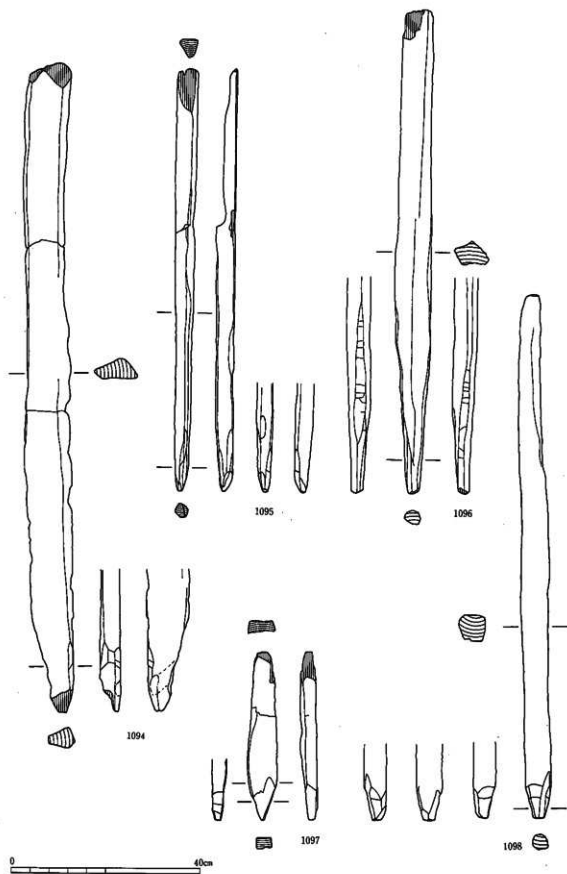
坑20 SD3004(1078~1082)



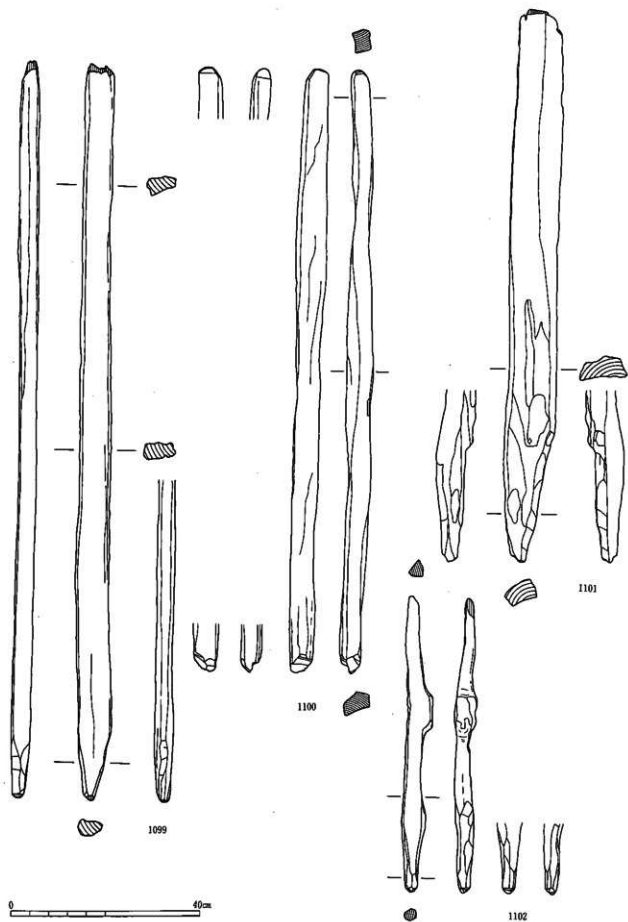
枕21 SD3004(1083~1088)

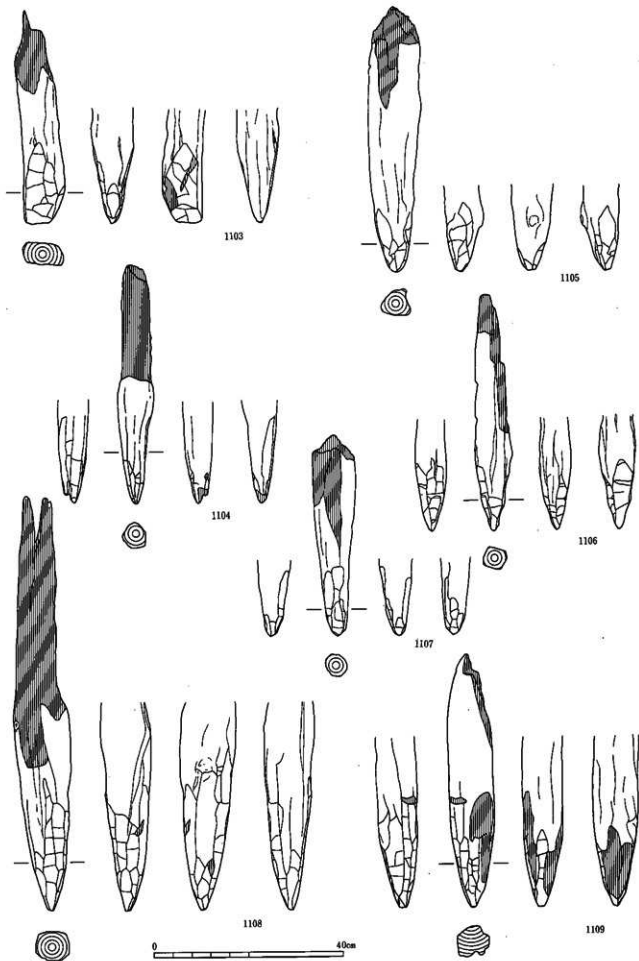


杭22 SD3004(1089~1093)

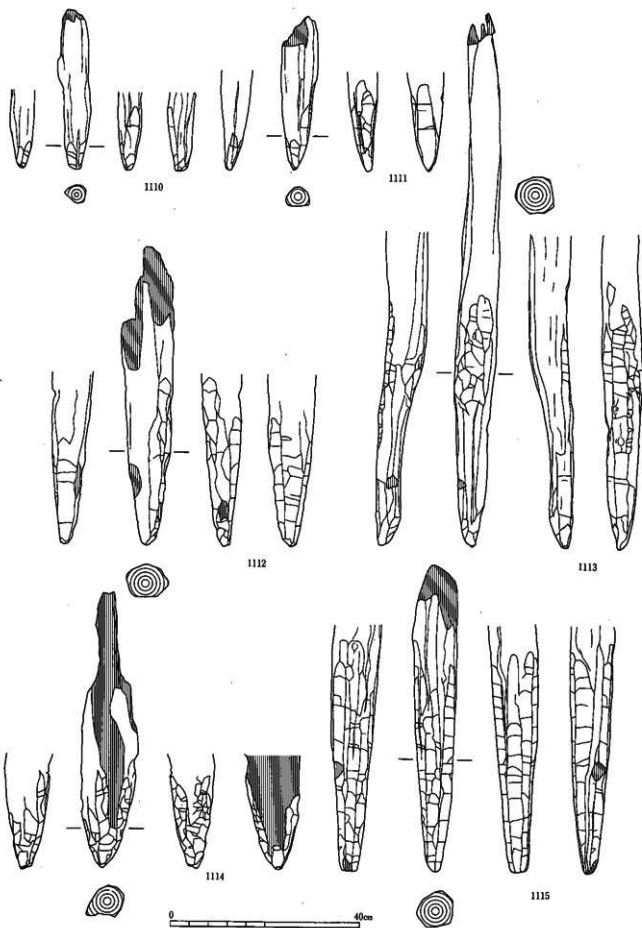


杭23 SD3004(1094~1098)

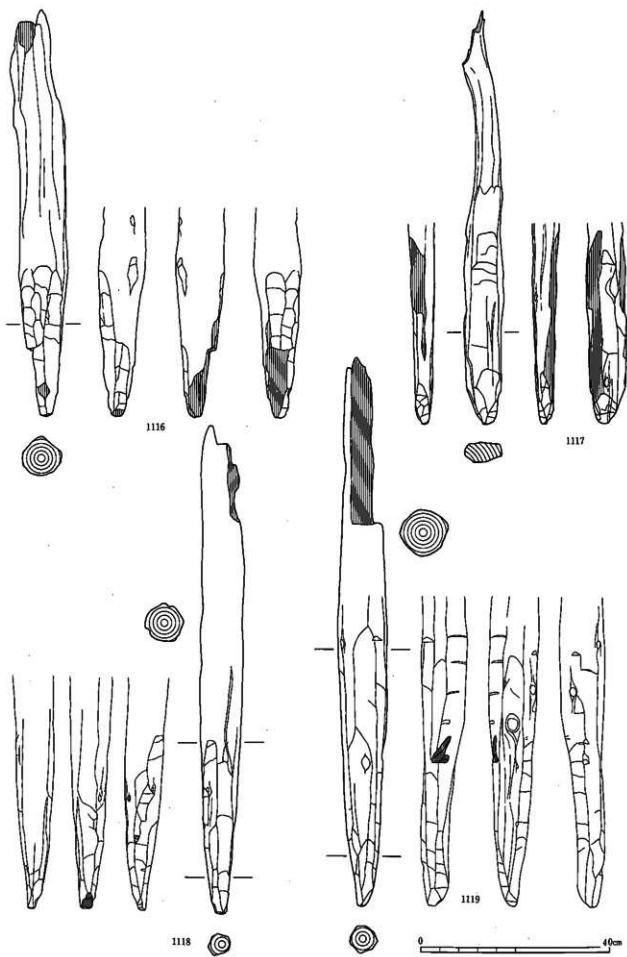




杭25 SD1016(1103~1109)



杭28 SD1016(1110~1115)



枕27 SD1018(1116~1119)

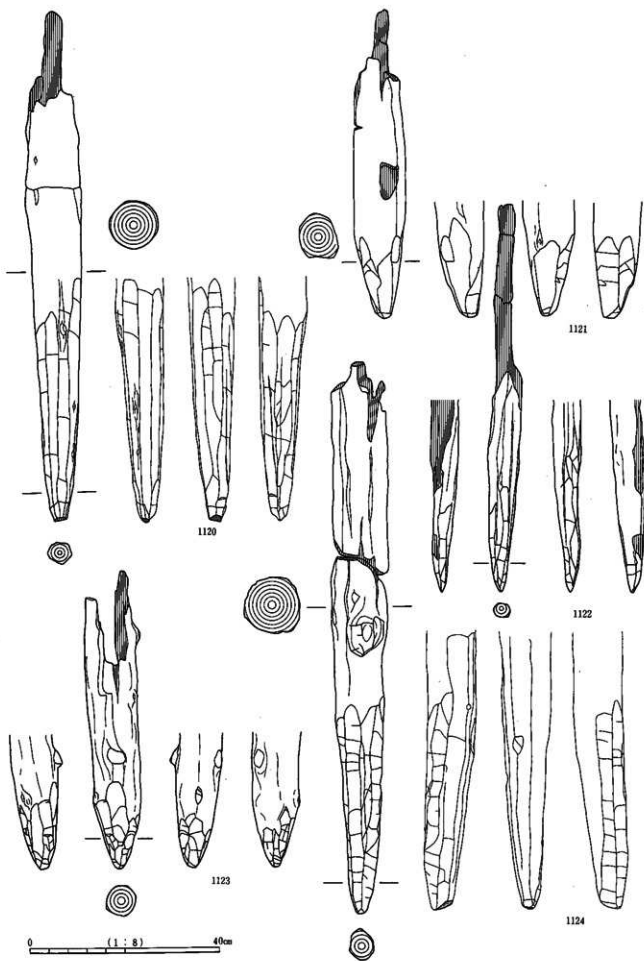
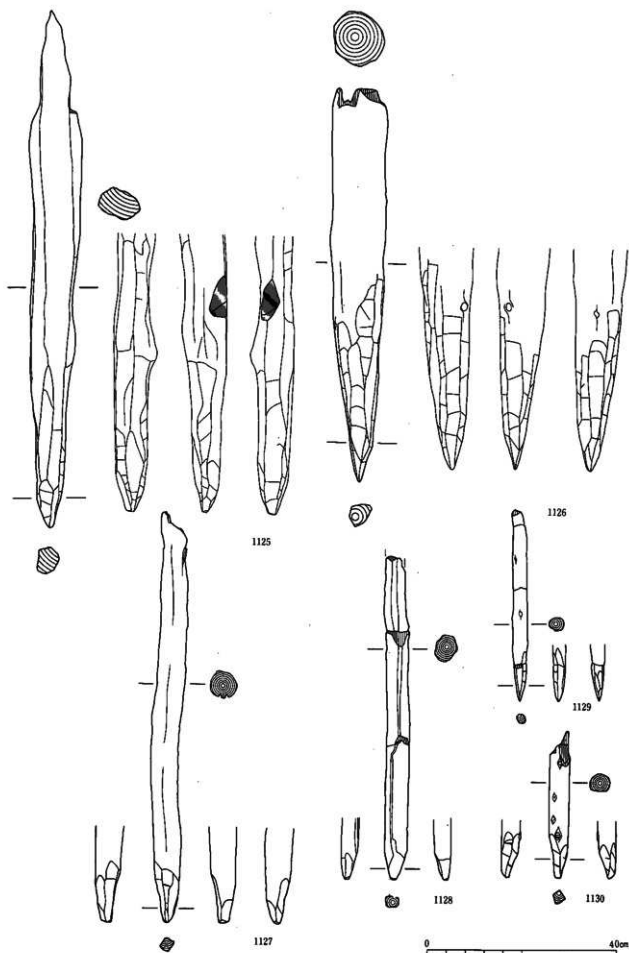
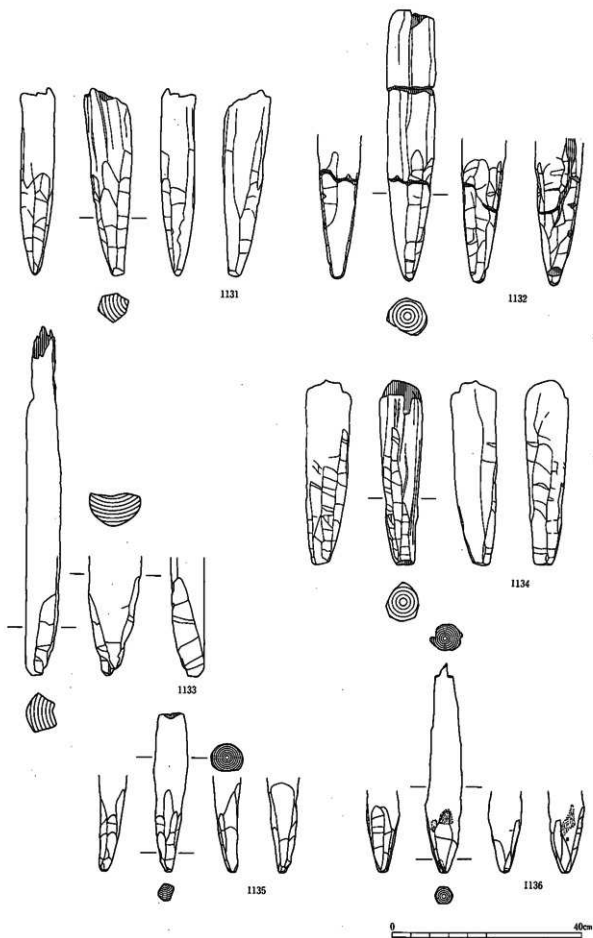
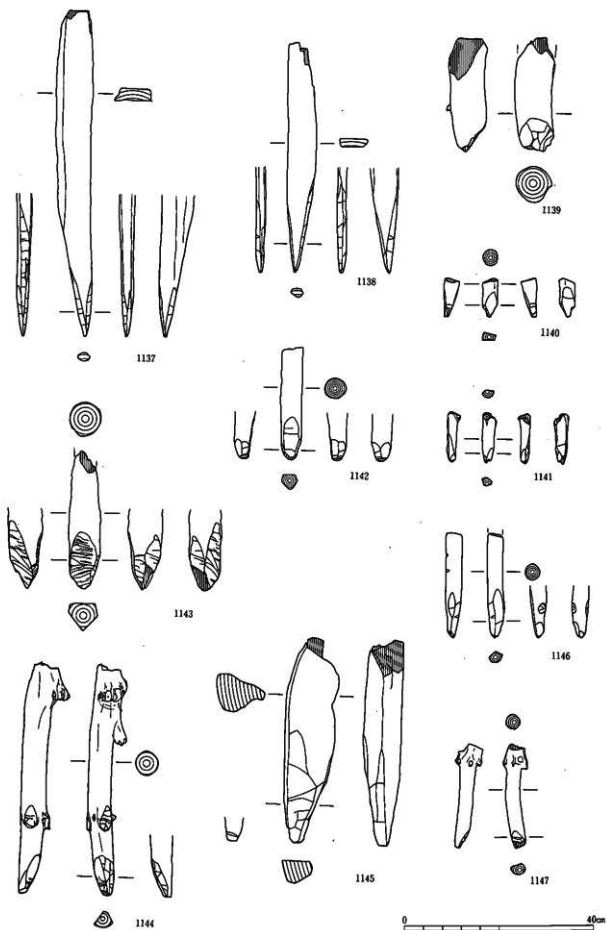


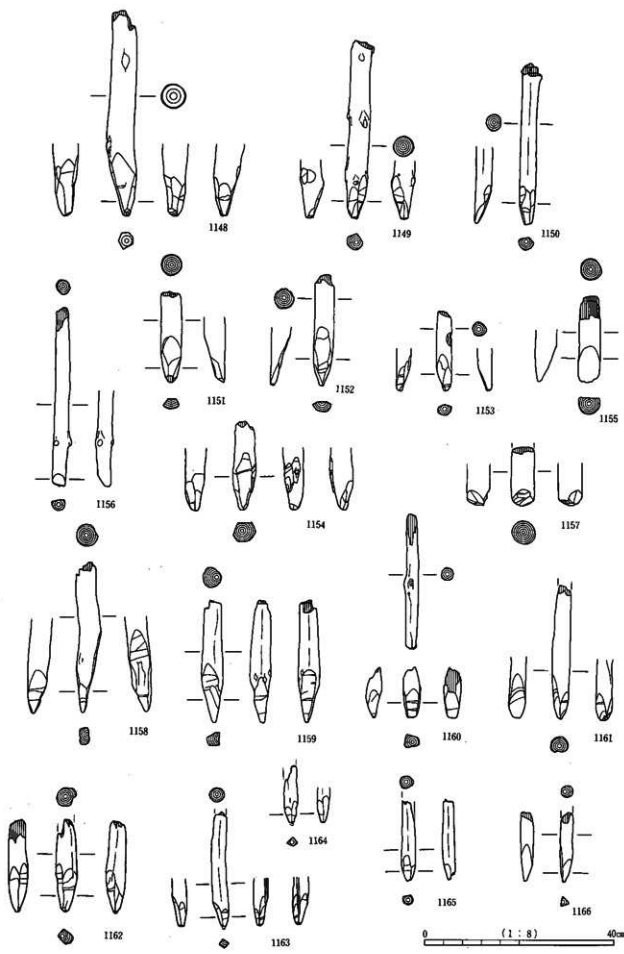
图28 SD1016(1120~1124)







杭21 SC3002、SD3006、中世・近世水田検出面(1137~1147)



0 (1 : 8) 40cm

图 32 SA3001、SA2005(1148~1166)

木製品観察表

木製品観察表

調査番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	材質
1 0004	えぶり (柄杓)	42.4×14.0×2.0 (12.4+α×2.6)	④ SD3004 I 弥生後期	柱目 丸木 芯もち	曲部の一部欠損 握り部欠損	外面に硬やかな隆起部をもち着柄部上方に「山」型の狭込みがある。曲部は6α所残存。間隔から10本歯が復元される。柄部は先端部周縁を削り込み、先端に向かって僅かに径を増す	クヌギ 節
2 0001	えぶり	50.2+α×15.5+α×4.4	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部側の木端/左の木口欠損	柄孔部には円形の窪みや隆起部をもち、表面は木目が目立つが平坦である。外面左側に炭化痕が残る。曲部は11α所。	クヌギ 節
3 0009	えぶり	55.3×17.1×4.9	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	片側刀部の一部欠損	刀部中央、着柄部下に抉りをもち刀部は両側縁部に向かってハの字に硬やかに広がる。側縁部は薄く、着柄部には台形状の隆起部をもち、柄は左斜めに傷る差着となる。	クヌギ 節
4 0002	曲柄平縁	53.3+α×10.5×2.2	④ SD3004 II 弥生後期	柱目	柄表着部先端僅かに欠損	表裏面に平坦な加工痕を残し先端部は極めて薄く、着柄部先端は細く削り込まれ段をなす。肩部は硬やかな台形状である。	コナラ 節
5 0018	曲柄平縁 (柄杓)	63.1+α×12.7×2.0	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	刀部先端欠損	着柄部先端は内外面からの削りにより丸く作りだし、長さ2.0cmに抉り平坦な段部をつくる。肩部の作りだし幅狭くて平で肩となる。	クヌギ 節
6 0015	曲柄平縁	57.9+α×13.2×2.6	④-1 SD3004 弥生後期	柱目	着柄部先端僅かに欠損	外面、着柄部先端に粗い加工痕が残る。肩部は角削、刀部先端は内外面から削られ薄く。	クヌギ 節
7 0040	曲柄平縁	46.0+α×12.8×2.2	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部欠損	外面、内面の刀部先端に加工痕を残す。肩部を平坦に作りだし硬やかに広がる平面形状である。刀部先端は削りにより極めて薄く。	クヌギ 節
8 1054	曲柄平縁	27.4×4.6+α×1.2	④-1 SD6007 弥生中期	柱目	刀部/着柄部の一部欠損	着柄部は断面扁平となり刀部方向にやや広がる形状となる。肩部は緩く傾斜し刀部は最大幅を下にもつ下彫れ形状となる。先端部は薄く削り込まれる。	カバノ 木属
9 1053	用途不明 器具か	19.1×2.2×1.7	④-1 SD6007 弥生中期	削りだし	ほば完存 先端僅かに欠損	曲柄側の着柄部形状である。外面から断面両斜めに削りだしられ先端部は尖る。	—
10 0039	曲柄又縁	45.4+α×11.8×1.6	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部欠損/刀部先端僅かに欠損	外面に加工痕を残す。又部は刀部下寄りで作られ、先端は外側からの削りにより突起を作りだしている。鉄刀装着が想定される。	コナラ 節
11 0046	曲柄又縁	39.9+α×9.3+α×2.1	④ SD3004 弥生後期	柱目	片側刀部欠損	外面に加工痕を残す。着柄部にはなで肩の肩部を作りだし、先端部は外面からV字状に削られ頭部が作りだされる。刀部は肩部から一端斜めに広がり、又部の位置で直線に下に伸びる形状である又部の作りだしは方形に近い。	クヌギ 節
12 0013	曲柄又縁	55.8+α×16.3+α×2.6	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部先端/片側刀部の一部欠損	刀部上と着柄部に加工痕を残す。又部の作りだしは方形、肩部はなで肩となる。着柄部幅が比較的厚い。	クヌギ 節
13 1035	曲柄又縁	55.3+α×11.7+α×2.2	④ SD3004 弥生後期	柱目	片側刀部欠損	内外面に粗い削り痕を残す。肩部を水平に作りだし刀部中断まで硬やかに開き、中断から直線気味に開く形状となる。着柄部には削りが残り先端部に頭部突起を作りだす。	クヌギ 節
14 0014	曲柄又縁	44.7+α×15.6×2.5	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部/刀部先端欠損	板目であるが、表面は削り込みが入全である。着柄部が刀部より薄く平坦である。	クヌギ 節
15 0017	曲柄又縁	55.4+α×17.4+α×1.7	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部/刀部先端欠損	左刀部着柄付近に加工痕を残す。二又部は内外面からの作りだし。	クヌギ 節
16 0032	曲柄又縁	56.4+α×13.8+α×1.8	④-1 地点不明	柱目	着柄部先端/片側刀部先端欠損	刀部相互の間隔が狭く、平面形状は縦長で肩部から緩い直線をなして刀部先端に伸びる。刀部外面の一部に加工痕が残る。	クヌギ 節
17 0035	曲柄又縁	47.5+α×16.4×1.9	④-1 SD3003 古墳前期	柱目	着柄部先端/刀部先端欠損	外面に粗い加工痕を残す。着柄部は製煉からの抉りだしにより段をもちナス型初期の形態に近い。着柄部側縁には、緩あたり痕が残る。	クヌギ 節
18 0054	曲柄又縁	58.3+α×17.4+α×1.5	④ SD3004 古墳前期	柱目	着柄部/片側刀部の一部欠損	肩部が丸みをもっており、縦長の形状である。刀部先端は側縁からの削りにより尖る。	クヌギ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
19 0036	曲柄又鎌	53.4+α×18.4×1.8	①-2 SD3004 古墳前期	柱目	着柄部先端/ 刃部先端欠損	外面着柄部付近に加工痕を残す。平面長卵形となり、肩部を明確に作りださないで柄の形状となる。	クヌギ 節
20 0029	曲柄又鎌	65.5+α×11.3+α×1.6	①-1 SD3004 古墳前期	柱目	着柄部先端/ 片側刃部欠損 乾燥割れ	平面紡錘形の大型又鎌に属する。肩部を有し縁やかに磨らむ形状である。乾燥のため表面加工不明。	クヌギ 節
21-① 21-② 0025	曲柄又鎌	32.4+α×8.2+α×2.6 18.7+α×3.7×1.6	③ SD3004 I 下層 弥生後期	柱目	着柄部と刃部 接合部/片側 刃部欠損	着柄部先端は丸く、0.7cmの段をもつ。刃部外面には加工痕が残る。肩部はなで周となる。	クヌギ 節
22 0030	曲柄又鎌	43.5+α×15.3+α×2.0	①-1 SD3004 古墳前期か	柱目	着柄部/刃部 先端欠損	内面に加工痕を残す。二又刃部の間隔が広く約り鐘型の平面形状で又部作りだしも内に近い。肩部はなで周である。	クヌギ 節
23 0067	曲柄又鎌	40.7+α×5.8+α×1.3	①-1 SD3004 付近	柱目	刃部約1/3残存 乾燥歪み顯著	乾燥によるためか刃部厚は極めて薄く、均一の刃部幅であることから縦長の形状が推定される。	クヌギ 節
24 0023	曲柄又鎌	31.5+α×9.7+α×2.5	③ SA4001 古墳前期	柱目	刃部欠損	着柄部先端は丸く、1.0cmの段を持ち溝状に挟られている。着柄部外面に加工痕を残す。又部作りだし円形で粗造。	コナラ 節
25 0058	曲柄又鎌	37.2+α×9.6+α×2.2	①-2 SA3008 弥生後期	柱目	着柄部先端/ 刃部先端欠損 乾燥による歪	肩部など円となり刃部は緩く広がる。内面着柄部下方を湾状に削り込み刃部厚を厚くしている。	クヌギ 節
26 0065	曲柄又鎌	42.7+α×5.5+α×1.6	①-1 SD3003 古墳前期	柱目	着柄部/刃部 約1/3残存	外面に粗い加工痕を残す。幅狭の刃部で紡錘形になると推定される。	コナラ 節
27 0079	曲柄又鎌	25.4+α×9.5+α×0.9	③ SD3004 I 弥生後期	柱目	片側刃部/着 柄部の一部残 存	肩部を短く水平にもち一帯緩く広がり、又部と柄部との一部残存位置から縦長に伸びる形状である。刃部厚は乾燥のためか薄い。	クヌギ 節
28 0037	曲柄又鎌	24.5+α×5.1+α×1.4	①-1 SD3003 古墳前期	柱目	着柄部/刃部 の一部残存	外面面輪脚型であり、外面周縁を削り、稜を作り出す。	—
29 1007	曲柄又鎌	16.1+α×11.4+α×2.4	③ SD3004 I 弥生後期	柱目	着柄部の一部 残存	内外面には削り痕が残る。全形不明。	クヌギ 節
30 b120	曲柄平鎌 ナスビ	70.1+α×12.2+α×1.8	①-1 SD2024 古墳前期	柱目	周縁部欠損 乾燥による歪	内側着柄部に段を作る。刃部は笠部下から緩やかに開く縦長の形状となる。先端部は薄く削りだしされ、欠損するが尖っていたと推定。	クヌギ 節
31 b4	曲柄平鎌 ナスビ	66.4+α×13.6+α×1.5	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	着柄部先端/ 刃部先端欠損	着柄部は幅の狭い縦長形状であり、刃部は最大幅が下にある下彫りとなる。	クヌギ 節
32 b38	曲柄平鎌 ナスビ	56.3+α×10.8+α×1.0	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	着柄部/刃部 先端欠損	刃部は笠部下から緩やかに広がり縦長形状となる。先端は薄く削る。	—
33 0021	曲柄平鎌 ナスビ	58.5+α×13.6×1.4	③ SD3004 I 古墳前期	柱目	着柄部先端/ 刃部側縁欠損	内面刃部先端周辺に加工痕を残す。着柄部は欠損しているが先端に段を削りだしした可能性ある。	クヌギ 節
34 b60	曲柄平鎌 ナスビ	75.2+α×15.4×0.5	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	刃部先端/側 縁の一部欠損 乾燥による歪	刃部は笠部下から緩やかに開き最大幅が下にある下彫り形状となる。先端部は尖る。刃部中央寄り幅3.0cmの流線型遺かし(彫)がある。	—
35 0070	曲柄平鎌 ナスビ	54.7+α×15.7×1.7	③ SD3012 古墳前期	柱目	刃部先端/着 柄部内面の一 部欠損	着柄部外面に加工痕を残す。着柄部内面は段を平坦に。先端は頭部を作り出す。刃部中央に流線型の意を看する。	クヌギ 節
36 b6	曲柄又鎌 ナスビ	48.9+α×12.3×1.5	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	着柄部先端/ 刃部先端欠損	外面着柄部の木端に削り痕を残す。刃部は笠部下から直線状に開く形状である。	クヌギ 節
37 b39	曲柄又鎌 ナスビ	70.6+α×19.2+α×1.3	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	周縁部欠損 乾燥による歪	着柄部を削り段を作る。刃部は笠部下から内湾状に広がりが最大幅が下部にある下彫り形状となる。	—
38 0016	曲柄又鎌 ナスビ	55.2+α×15.4×1.9	③ SD3004 I 上層 古墳前期	柱目	着柄部の一 部/片側刃部 先端欠損	着柄部に加工痕が残る。刃部先端は突起状となる。突起部は厚みをもつ。二又部は外面からの作りだし。	クヌギ 節
39 0011	曲柄又鎌 ナスビ	58.0+α×15.6×1.8	③ SD3004 I 古墳前期	柱目	着柄部欠損	刃部上方着柄部付近に加工痕が残る。刃部から着柄部までの平面は紡錘形となる。刃部縁辺は表面に向かって丁寧に削り込まれる。	クヌギ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
40 0003	曲柄又鍔 ナスビ	62.9×10.7+α×1.5	⑬ SD3004 I 古墳前期	砥目	片刃刀部欠損	表裏面に平直な加工痕を明確に残す。着柄部先端は外面からの削りにより丸い。	クヌギ 節
41 0049	曲柄又鍔 ナスビ	45.6+α×14.4×2.0	⑬ SD3004 II 古墳前期	砥目	着柄部/刀部 側縁の一部欠損	刀部先端に加工痕を残し、薄く作りだされている。左刀部幅が右に比べ広い。	クヌギ 節
42 43	曲柄又鍔 ナスビ	55.6+α×13.5×0.4	⑭ SD1016 古墳前期	砥目	刀部先端欠損 乾蝕による歪	刀部は笠部下から緩やかに広がり縦長形状となる。	—
43 117	曲柄又鍔 ナスビ	50.0+α×9.3+α×1.7	⑭ SD1016 古墳前期	砥目	刀部欠損	刀部は笠部下から直線気味に開き、最大幅を下にもつ下膨れの形状となる。片刃の幅は均一。	クヌギ 節
44 0062	曲柄又鍔 ナスビ	31.6+α×8.6+α×2.3	⑭ 水田層 古墳前期	砥目	刀部欠損	外面に加工痕を残す。着柄部を作りだし細長い着柄部に縦部突起をもつ。又部は方形。	クヌギ 節
45 67	曲柄鍔	37.9+α×7.5+α×0.6	⑭ SD1016 古墳前期	砥目	着柄部残存 乾蝕による歪	着柄部の幅、長さからナスビ形とした。	—
46 44	曲柄又鍔 ナスビ	45.5+α×14.6+α×0.6	⑭ SD1016 古墳前期	砥目	着柄部/片側 刀部欠損 乾蝕による歪	刀部は大きく内湾し、最大幅が中間に絞れる紡錘形の形状となる。ナスビ形とした。	—
47 0022	曲柄三又鍔 ナスビ	24.2+α×13.5+α×1.9	⑭-1 SD3003 古墳前期	砥目	着柄部先端/ 刀部欠損	中央刀部がやや左に偏るが、三又鍔とした。着柄部は欠損しているが先端に段を削りだした可能性がある。	クヌギ 節
48 0045	曲柄三又鍔 ナスビ	81.2+19.0+α×2.0	⑭ SD3004 II 古墳前期	砥目	左刀部欠損	内外面に細かな加工痕が残る。着柄部先端は縦部が作りだされ突起状に隆起する。中央刀部は幅状であるが厚みが長い。刀部先端部は削られ薄い。	クヌギ 節
49 0008	曲柄三又鍔 ナスビ	66.9+α×12.3+α×1.9	⑭ SD4005 古墳前期	砥目	右刀部/右刀 部と身部の接 合部欠損	表面は丸みを持ち、内面は平直である。中央の刀部が最も長く厚みをもつ。着柄部には細かな加工が残っており先端は突起を有する。	クヌギ 節
50 0043	曲柄三又鍔	34.0+7.0+α×13.1+α×1.4	⑭-1 SD3003 古墳前期	砥目	着柄部/左刀 部/刀部先端 欠損	扁平な断面形状である。中央刀部が幅状で右刀部の刃となる。	カエデ 質
51 0024	曲柄三又鍔 ナスビ	57.1+α×11.5+α×1.5	⑭-1 SD3004 古墳前期	砥目	着柄部先端/ 左刀部/刀部 先端欠損	中央刀部は細く、厚く作りだされ、着柄部内側には段をもつ。着柄部に紐と状の縦線があるが柄装束と関係があるかは疑問。	クヌギ 節
52 102	曲柄鍔	23.9+α×7.3+α×2.0	⑭-1 SD3003 古墳前期	砥目	着柄部のみ残存	着柄部は外面からの削りにより横が残る。着柄部外面には粗い削りがある。	—
53 0056	曲柄平鍔	26.6+α×5.2+α×1.7	⑭ SD3004 II 古墳前期	砥目	着柄部破片	外面周縁は後加工、先端部の突起作りだしの加工痕が残る。	クヌギ 節
54 0074	曲柄鍔	14.0+α×3.6+α×2.1	⑭ SD3004 I 弥生後期	砥目	着柄部先端の み残存	断面半円形に削られ、先端部は外面から削られ頭部を作り出す。	クヌギ 節
55 0073	曲柄鍔 ナスビ	18.2+α×3.9+α×1.7	⑭ SD3004 II 古墳前期	砥目	着柄部の一部 残存	ナスビ型の着柄部片側の突起のみ残存。内外面から後を作り出す。木取り、形状から鍔とした。	クヌギ 節
56 0031	曲柄鍔 ナスビ	15.5+α×5.1+α×1.8	⑭ SD3004 II 古墳前期	砥目	着柄部破片	内外面に平直である。木取り形状からナスビ型の鍔身とした。	クヌギ 節
57 0086	曲柄鍔 ナスビ	20.3+α×4.5+α×1.4	⑭ SD3004 I 下層 弥生後期	砥目	着柄部付近の 一部残存	外面に横をもち、内面平直の断面鐘形となる。木取り、形状から鍔とした。全形不明。	クヌギ 節
58 0019	曲柄平鍔	37.3+α×14.5×1.5	⑭ 水田層 弥生後期	砥目	着柄部欠損	外面に細かな加工痕を残す。刀部先端は内外面からの削りだし。	クヌギ 節
59 160	曲柄平鍔	29.1+α×7.8+α×1.8	⑭ SD1016 古墳前期	砥目	刀部約半残存	表面、残存する木端面には削りが残る。残存状況から直線的な縦長形状の刀部になると推定される。	コナラ 節
60 0048	曲柄平鍔	22.7+α×11.8+α×1.2	⑭-1 SD3004	砥目	刀部約半残存	外周縁が削られ、後を作り出す。木取り断面形状から鍔とした。	フジキ
61 0044	曲柄又鍔	46.9+α×10.2+α×1.7	⑭ SD3004 I 古墳前期	砥目	左刀部/刀部 先端欠損	外面に加工痕を残す。刀部幅は均一で、平面長方形となること推定される。	クヌギ 節

図録番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径) cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	留痕
62 0053	曲柄又鋸	37.4+α×15.6+α×1.5	④ SD3004	榫目	右刃部/左刃部破片	出土地点、木取り質感が同じであることから同一産地とした。側縁部又部内縁部が直線であることから縦長の形状と推定する。	クヌギ節
63 0034	曲柄又鋸	37.3+α×5.1+α×1.2	④-1 SD3003 古墳前期	榫目	片側刃部のみ 古墳前期	幅の狭い刃部で、縦長の形状となる。外面周縁を削り、稜を作り出す。	—
64 0033	曲柄又鋸	37.5+α×6.2+α×1.2	④-1 SD3003 古墳前期	榫目	片側刃部のみ 残存	先端部幅が広くなり、平面非形状となることと推定され、ナスビ型の可能性ある。外面周縁を削り稜を作り出す。	クヌギ節
65 0090	曲柄又鋸	43.0+α×7.5+α×2.7	④ SX4001 古墳前期	榫目	片側刃部残存 乾燥による歪	刃部上方の巻柄部付近が隆起する。歪み著しく全形不明。	クヌギ節
66 0051	曲柄又鋸	32.8+α×5.4+α×2.3	④-2 SD3004 古墳前期	榫目	片側刃部残存	厚みのある刃部で、内外面周縁から削りだし稜を作る。全体の形状は長楕円と推定する。	クヌギ節
67 ビ 82	曲柄又鋸	24.5+α×5.7+α×1.4	④ SD1016 古墳前期	榫目	片側刃部の一 部残存	刃部先端には外面からの削りにより稜を作り尖細りとなる。又部は直線が縦長形状の刃部に嵌元される。	クヌギ節
68 0050	曲柄又鋸	18.5+α×6.6+α×1.0	④-1 SD3003 古墳前期	榫目	左刃部先端の み残存	外面に加工痕を残す。縦線は内外面からの削りにより稜を作り出す。全体形状不明。	クヌギ節
69 0099	曲柄又鋸	13.2+α×4.9+α×0.9	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部先端部残 存	刃部内面からの加工で稜を作り、尖鋭に削りだしコナラ節	コナラ節
70 0052	曲柄又鋸	26.2+α×7.0+α×0.7	④ SD3004	榫目	右刃部破片	扁平な断面形状となる。又部内縁部が直線となることから縦長の形状と推定する。	クヌギ節
71 0080	曲柄又鋸	39.0+α×4.5+α×0.5	④ SA3101 古墳前期	榫目	刃部片側残存 乾燥による歪	乾燥のため歪み著しく詳細不明。縦線形状に推定される。	クヌギ節
72 0026	曲柄又鋸	42.1+α×6.2+α×0.8	④-1 SD3003 古墳前期	榫目	右刃部のみ残 存	刃部先端が外面からの削りによって、薄く作りだし、全体の形状等から又鋸の刃部とした。	クヌギ節
73 1027	曲柄又鋸	32.7+α×5.4+α×1.2	④ SD3004	榫目	片側刃部のみ 残存	又部は直線の伸び、外形は先端方向に膨らむ形状となる。	クリ
74 0087	曲柄又鋸	4.0+19.0+α×4.7+α×1.0	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部先端のみ 残存	刃部内面が直線に伸び、刃部幅の均一な縦長形状になると推定。	クヌギ節
75 0081	曲柄又鋸	25.7+α×6.1+α×1.2	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部破片	内外面から削り、稜を有する。木取り、形状から又とした。	クヌギ節
76 1034	曲柄又鋸	16.0+α×7.2+α×1.6	④ SA4012 弥生後期	榫目	刃部破片	又部は内面に傾斜する形状となる。	フジキ
77 1031	曲柄又鋸	14.2+α×6.1+α×0.9	④ 水田層 弥生後期	榫目	刃部破片	刃部先端近くの破片。又部は直線状となる。	クヌギ節
78 0097	曲柄又鋸	11.9+α×6.4+α×0.7	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部破片	刃部先端の一部で内外面から稜を作り出す。	クヌギ節
79 0096	曲柄又鋸	8.9+α×6.4+α×0.9	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部破片	刃部先端の一部で外面から稜を作り出す。	クヌギ節
80 1001	曲柄又鋸	10.1+α×4.3+α×0.6	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部破片	先端方向に湾曲形状となる。全形不明。	クヌギ節
81 075	曲柄又鋸	18.0+α×7.0+α×0.9	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	刃部先端の一 部残存	断面は扁平、内外面から削り稜を有する。木取り、形状から又とした。	—
82 1056	曲柄又鋸	14.6+α×4.4+α×1.7	④-2 SD3004	榫目	片側刃部先端 のみ残存	外縁部は湾曲し刃部先端が尖っていたと推定される。	—
83 0095	曲柄又鋸	7.3+α×4.0+α×0.8	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	片側刃部破片	内外面から稜を作り出す。木取り、断面形状から又とした。	コナラ節
84 1002	曲柄又鋸	12.2+4.7+α×4.0+α×0.9	④ SD3004 I 弥生後期	榫目	片側刃部破片	外縁部、又部は直線状となる。全形不明。	モミ属
85 0020	直柄平鋸 (柄殺型)	28.0×10.0+α×4.8 (5.5+α×2.6)	④ SD3004 I 弥生後期	榫目 丸木 芯もち	片側刃部縁欠 損/柄部の一 部残存	外面に舟形隆起をもち、加工痕が残る。内面(巻柄側)は平坦である。巻柄部上方は丸い。	クヌギ節 (ケヤ)
86 0047	直柄平鋸	33.4+α×8.7+α×4.4	④-3 水田層 弥生後期	榫目	身部分残存/ 周縁部欠損	外面に舟形隆起をもち、円形孔巻柄部脇長方形の丸除け装着孔が穿たれている。さらに丸除け装着孔の側縁には台形状の抉込みがある。	コナラ節

図版番号 発掘番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
87-① 87-② 0012	直柄平鍔 (柄装束)	26.2+α×8.4+α×3.8 (5.5+α×2.8)	③ SD3004 弥生後期	柁目 丸木 芯もち	刃部周縁欠損	外面に椀形の隆起部をもつ。刃部の上は丸く 状態形状となる。柄部は、外面先端に向かって 僅かに径を増す。	ツメギ 節 (777)
88-① 88-② 0007	直柄平鍔 (柄装束)	32.1+α×12.3+α×4.0 (7.0+α×3.0)	③ SD3004 弥生後期	柁目 丸木 芯もち	片側縁部の一部 刃部周縁 欠損	外面に縦やかな隆起部があり、端柄部上方に加工 痕を残す。	ツメギ 節 (777)
89 0402	直柄平鍔	16.2+α×16.8+α×3.1	①-2 SD3004 溝底 弥生後期	柁目	刃部周縁欠損	幅狭の隆起部があり、隆起部の下から刃部が縦 やかに膨らみ、突出部は逆「T」字型になる。 表面は滑らかである。端柄部が僅かに確認され 直柄鍔とした。	フジキ
90 1033	直柄平鍔	20.0+α×5.8+α×4.8	③ SA4012 弥生後期	柁目	隆起部のみ残 存	長方形に削りだされた隆起部となる。直柄部が 一部残り鋭角に傾斜する。	フジキ
91 1036	直柄平鍔	13.8+α×5.2+α×3.1	③ SA3514 I 弥生後期-古 墳前期	柁目	隆起部の一部 残存	端柄隆起部の一部残存。全形不明。	サワラ
92 0055	直柄平鍔	7.5+α×5.7+α×1.6+α	③ SD3004 I 底 弥生後期	柁目	円形隆起部破 片	円形隆起部の一部で加工痕が残される。	クヌギ 節
93 0425	用途不明	23.3+α×11.0+α×1.8	③ SD4006 古墳前期	柁目	一端の木口 のみ残存	片面の一端木口寄りには緩く傾斜した段を削り だしている。片面は平坦で滑らかである。器具 としたが部材の一部か。	クヌギ 節
94 0608	用途不明	20.4+5.4+α×18.8×4.0	③ SD3004 I 下層 弥生後期	柁目	一端の木口欠 損	残存する木口は厚く、平坦に削られる。段部を 削りだした欠損木口に向かって薄く削り込まれる。 裏面は平坦で部分的に削り痕を残す。	クヌギ 節
95 0028	曲柄又鍔 未製品	50.0+α×18.4+α×2.0	③ SD3004 I 底 弥生後期	柁目	端柄部刃部周 縁欠損	端柄部先端には肩部が削りだされているが、表面 は粗い加工痕が残る。左方部幅が右の2倍で あり、又部作りだしは方形で粗雑。	クヌギ 節
96 0042	曲柄又鍔 未製品	42.3+α×16.0×2.5	①-1 SD3004 弥生後期	柁目	端柄部先端/ 刃部先端欠損	断面二等辺三角形となり、外面には粗い加工 痕が残る。肩部を作らないで扇形状となる。	クヌギ 節
97 1013	曲柄鍔 未製品	59.4+α×7.4+α×4.7	①-1 SD3003 古墳前期	柁目	端柄部のみ残 存	削り材を素材とし表面に削りかたを残す。残存する 木口は両木端からの粗い削りにより有頭状となる。 木口面は削りにより丸くなる。	—
98 1040	曲柄鍔 未製品	41.9+α×7.4+α×4.5	③ SA 4001 古墳前期	柁目	刃部欠損	削り材を素材とし、粗い削りを顕著に残し先端 部は角状となる。残存する木口面は周縁からの 削りにより尖る。	クヌギ 節
99 1061	曲柄鍔 未製品か	39.3+α×5.7+α×3.7	①-1 SD3003 古墳前期	柁目	一端の木口欠 損	偏平な板材。残存する木口は周縁からの粗い削 りか残り断面円形となり、曲柄鍔部部の計上に 類似することから未製品とした。	—
100 0041	曲柄又鍔	58.1+α×7.3+α×1.8	③ SD3004 I 弥生後期	柁目	片側刃部残存	端柄部寄りに加工痕を残し、外面周縁を削り作り だし。形状は縦長になると推定される。	クヌギ 節
101 1058	曲柄鍔 未製品か	19.5+α×4.0+α×2.7	③ SD3004 I 弥生後期	柁目	一端の木口欠 損	偏平な板材。両木端には削りか残り一端の木口 は尖る。曲柄鍔部部の形状に類似することから 未製品とした。	クヌギ 節
102 0098	曲柄鍔 未製品か	25.9+α×6.1+α×6.1	③ SD3004 I 弥生後期	柁目	両端欠損	断面角状に削りだされ、偏平に削り込むための 加工痕が明瞭に残る。	クリ
103 1029	部材か	30.2+α×5.9+α×6.6	③ SD300	削りだし	一部残存	削り材を素材とし角状に削りだし。木口は炭化 により欠損。5.0×3.0cmの納孔が2ヶ所にある。 部材の可能性が高い。	モミ属
104 0059	膝柄	103.0(全長)×3.7(柄部径) 27.1×3.7×2.9(着身部)	③ SD3004 弥生後期	丸木 芯もち 脱木	完存	柄部は直線をし、先端は削りにより丸い。着 身面に加工痕を残し、突起状の軸頭を作りだし 柄部とのつけ根部付近には装束の紐あたりが 観察される。	カヤ
105 0077	膝柄	105.0(全長)×3.5(柄部径) 17.0+α×3.1×2.4(着身 部)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち 脱木	着身部の表面 磨滅 ほぼ完存	着身部は平坦で、上部がやや左に傾斜する。 上端は欠損しているが、裏部の隆起部作りだし があったと推定される痕が残る。	カヤ
106 0006	曲柄 (膝柄)	19.8+α×7.5×4.5+α	①-2 SD3004 弥生後期	削りだし	着身部のみ残 存	着身面、裏部の突起の作りだし面には明瞭な加工 痕が残る。	モクレ ン属

図版番号 整理番号	器 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹 種
107 1014	膝柄	63.0+α(全長)×3.5(柄部径) 10.8+α×3.8×2.9(着身部)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち 脱木	柄部先端/着身部先端欠損	着身部は平坦となり、頂部をグリッパ状に削りだす。	-
108 0060	膝柄	34.5+α(全長)×3.7×2.3(柄部) 26.7×4.3×2.2(着身部)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち 脱木	柄部先端欠損	柄部が逆反りする形状であるが、乾燥によるものかは不明。着身部上方の突起作りだしは、104に比べて大きく粗造。	サクラ属
109 1057	膝柄	31.1+α(全長)×2.5(柄部径) 9.4+α×3.0×3.3(着身部)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち 脱木	着身部両端/柄部先端欠損	小形の膝柄。着身部は平坦となり、端部にはグリッパ状の削りだしがあった痕跡を残す。	-
110 ビ 93	膝柄	12.4+α×4.7×3.9	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	着身部の一部欠損	断面に丸みがあり、一端の水口が平坦に削られている。工具製の柄と推定される。	クヌギ属
111 ビ 96	反柄	68.1+α×4.4+α×2.3	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	一端の水口/一端の水口の一部分欠損	断面楕円形の真っ直ぐな削りだし材で、一端の水口は42°の面に削られる。着身部面が小さいが反柄とした。	サクラ属
112 1032	反柄	87.9+α(全長)×3.8(把手部径) 4.0×2.3(柄部)	④ SD4005 古墳前期	削りだし	一端の水口欠損	断面円形もしくは偏平楕円形の削りだし材。残存する木口面を斜めに削りだし片面に突出する突起部がある。	タリ
113 0064	柄 一木軸か	23.8+15.4+α(全長)×6.1×5.6(把手部径) 4.3(柄部径)	④ 水田層 古墳前期	削りだし	一端の水口残存 2 個体	削材から断面円形に削りだす。頂部は一回り大きく作られ断面六角形となる。大形の柄である	ケンボナンシ属
114 0093	膝柄 未製品か	80.4+α(全長)×3.6(柄部径) 20.5×6.8(着身部)	⑤ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち 脱木	一端の水口欠損	着身部作りだし部、柄部2ヵ所に枝打ちの深い加工痕が残る。膝柄としての加工はないが形状から未製品とした。	サワラ
115 1005	膝柄 未製品か	90.0+α(全長)×6.0(柄部径) 24.4×8.5(着身部)	⑤ SA4011 弥生後期	丸木 芯もち 脱木	両端水口欠損	幹部が1/8削り材となり削りを部分的に残す。幹部の一部が炭化。膝柄の未製品とした。	-
116 ビ 94	用途不明 未製品か	24.1+α×8.8+α×6.0	⑤ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	一端の水口/片側の木端欠損	丸木材を偏平な形状に削りだす。両端水口には深い削り痕があり、中央部には湾曲する抉り状の削りが残る。	モミ属
117 0038	一木平歯	53.7+α×8.8×2.5 2.5(柄部径)	④ SD3004 I 弥生後期	榎目	柄部/刃部先端欠損	柄部、刃部幅は狭く、柄部の軸線に対して右刃部幅が広い。刃部先端に向かって薄くなる。	クヌギ属
118 0076	一木平歯 木鏝の用途もある	100.0+α×14.4+α×2.9 3.6(柄部径)	④ SD4006 弥生後期	榎目	握り部/刃部の一部欠損	刃部が片側に偏り、片側のみ緩く傾斜する肩部がある。先端が欠損して断面形が不明であるが軸線部は、先尖りに薄く削りだされる。把手部、柄部の表面は磨らかに加工されている。	クヌギ属
119 0010	一木平歯	46.1+α×14.6×2.6 3.5(柄部径)	④ SD4005 弥生後期	榎目	柄部/刃部の一部欠損	表面には加工痕が残る、刃部先端は薄く削り込まれている。	クヌギ属
120 0083	一木平歯	37.6+α×14.3+α×2.5	④ SD3004 I 弥生後期	榎目	柄部/刃部周縁欠損/磨滅	柄部中央の軸線上が膨らみ断面三角に近い形状となる。刃部先端は丸みを帯びた形状となる。	-
121 1018	一木平歯	74.2+α×13.0×1.4 2.9(柄部径)	④ SA3514 I 弥生後期-古墳前期	榎目	柄部先端/刃部先端欠損	刃部は左右対称の肩部となり、先端部が幅広く表面からの削りにより薄くなる。表面に削り痕が残る。柄部は断面正円の削りだしとなる。	-
122 ビ 2	一木平歯	46.5+α×14.8×1.6 2.4(柄部径)	④ SD1016 古墳前期	榎目	柄部欠損	乾燥のため柄部断面は偏平な楕円形であり、乾燥による歪み、肩部は左右長さが異なる。刃部先端は逆台形状の緩やかに狭まるスコップ形。	クヌギ属
123 0078	一木平歯	49.9+α×13.2×4.0 3.6×3.6(柄部)	④ SA4006 弥生後期-古墳前期	榎目	柄部/刃部先端欠損	表面には加工痕が残る、刃部周縁には稜を作りだす。片側に偏りを持つ刃部となる。平面形状から推定したが柄部断面が方形で肩部が厚いことから用途の異なる部材の可能性もある。	ケンボナンシ属
124-① 124-② ビ155 A, B	一木平歯	65.4+32.0+α×6.1+α×1.4 2.4(柄部径)	⑦ SK2648 古墳前期	削りだし	両端水口欠損 乾燥による歪 2 個体	乾燥により変形しているが柄部断面は正円形であったと推定される。刃部は肩を水平に作りだし先端が丸くなる幅の狭い形状である。	-

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
125 0407	一木鐃	91.9+α×10.1+α×3.3 3.6(柄部径)	⑬ SD3004II 古墳前期	板目	柄部/刃部先端欠損 表面磨滅	柄部と刃部の境界が不明瞭で、なで削になる。刃部断面は中央が厚い流線型となる。覆の形状であるが鋸とした。	スギ
126 0027	一木又鐃	54.6+α×16.0×2.4 3.1(柄部径)	⑪-1 水田層 古墳前期	板目	柄部欠損	又部は方形で、刃部先端は外側からの削りにより尖っている。左刃部は突起状にも見える。	クヌギ 部
127 ビ01	一木又鐃	103.8+α×17.3×2.4 3.1(柄部径)	⑫ SD1016 古墳前期	板目	刃部先端欠損	把手部は逆三角形に半円の孔があけられ、横木をやや太めに削りだす。柄部は均一な断面円形で刃部付近で扁平形状になる。肩部及び刃部端は左右異なり、刃部先端は丸い。又部は方形の削り込みである。	クヌギ 部
128 ビ62	一木又鐃	44.0+α×13.3+α×0.4 3.0×1.3(柄部)	⑭ SD1016 古墳前期	板目	柄部/刃部周縁欠損 磨滅による歪	肩部は幅広く水平となる。刃部端は左右異なり左刃部が傾斜となる。又部は方形の削り込み。	—
129 ビ36	一木又鐃	67.1+α×12.4+α×1.0 2.6×1.4(柄部)	⑬ SD1016 古墳前期	板目	柄部欠損 磨滅による歪	肩部は幅広く水平となる。刃部端は左右異なり刃端には丸い。又部は方形の削り込み。	クヌギ 部
130 ビ148	一木又鐃	43.3+α×4.9+α×2.4 3.5×2.4(柄部)	⑮ SD1016 古墳前期	板目	柄部/刃部片側/刃部先端欠損	柄部断面は隅丸の長方形に削りだされる。刃部は板一部分の残存であるが又部は方形であったと推定される。	クヌギ 部
131 ビ03	一木鐃	38.2+α×10.6+α×2.4 (柄部径)	⑰ SD1016 古墳前期	板目	把手部/柄部片側残存	把手部は逆三角形に半円の孔があけられ、両端を扁平に、上部横木をやや太めに丸く削りだす。	クヌギ 部
132 ビ05	一木鐃	35.2+α×10.3+α×2.3 (柄部径)	⑰ SD1016 古墳前期	板目	把手部/柄部片側残存	把手部は逆三角形に半円の孔があけられ、両端上部横木とも扁平に削りだす。上端のみ丸い。	クヌギ 部
133 ビ85	一木鐃	7.6+α×3.5+α×1.5	⑮ SD1016 古墳前期	削りだし	把手部の一部	一木鐃の把手の一部。均一な厚みをもち、五角形状の孔があつたものと推定される。	ケヤキ
134 ビ33	一木鐃	5.9+α×2.9×1.8	⑰ SD1016 古墳前期	削りだし	把手部破片	一木鐃の把手の横木部。断面は長方形となる。	クヌギ 部
135 ビ34	一木鐃	2.6+α×2.8×2.7	⑰ SD1016 古墳前期	削りだし	把手部破片	一木鐃の把手の横木端。側面は円形となる。磨滅が著しいため全体形状がつかぬ。	クヌギ 部
136 ビ118 (ビ159)	一木鐃	43.5+α×8.3+α×2.8	⑰ SD1016 古墳前期	削りだし	柄部残存 乾燥による歪	把手は隅丸の長方形となり先端部は薄く削られる。柄部との境は水平に近い作りだしである。柄部断面は方形に近い形状となる。	コナラ 部
137 0005	一木鐃	38.4+α×6.3+α×3.8	⑬ SD3004II 古墳前期	斜め (板目)	把手部/柄部一部残存	把手部は柄部径より薄く平坦で、扁平となる。外面に加工痕を残す。	—
138 0057	一木鐃	18.0+α×5.7+α×3.2	⑱ SA4004 古墳前期	斜め	柄部先端	断面は長方形に近く、握り部には角状に作りだした鋭い加工痕が残る。磨滅とした。	モミ属
139 0104	田下駄	35.0×12.0×3.0	⑮ SD3004 弥生後期	板目	前部の木口僅かに欠損	約2.0cmの正方形緒孔を3ヵ所に残す。平面縦長の形状でかかと後方が長い。全体的に粗雑な作りで木目が目立つ。	モミ属
140 0101	田下駄	42.1+α×9.9×1.2	⑮ 水田層 古墳前期	斜め	両端木口欠損 一部乾燥歪	径約0.8cmの円形緒孔を3ヵ所に残す。平面縦長の長方形で、後方両木端に長方形の抉りあり	スギ
141 0134	田下駄	29.4+α×8.4+α×1.9	⑪-1 SD3003 古墳前期	板目	木端の一部残存	約2.0cmの方形緒孔が残る。先端の緒孔跡には方形の抉りがある。厚み、断面形状から田下駄としたが異なる部材の可能性もある。	クリ
142 0138	田下駄	35.4×8.3+α×1.9	⑪-1 水田層 古墳前期-中期	板目	片側の木端欠損	径0.8cmの円形緒孔が1ヵ所。1ヵ所には緒孔の痕跡が残存。全形は長辺の短い長方形が推定される。	—
143 0128	田下駄	29.6+α×12.2×2.0	⑬ SD3004II 古墳前期	板目	一端の木口/片側の木端一部欠損	径0.5cm円形の緒孔が1ヵ所に残り、対象となる緒孔の痕跡が認められる。全形は長辺の短い長方形が推定される。	サワラ
144 0132	田下駄	25.5+α×7.6+α×1.5	⑮ 水田層 古墳前期	板目	後部の木口一部残存	径約0.6cm円形緒孔。残存する木口寄りに不整形の孔が穿たれている。木口には縦線からの抉りがあり、輪カンジキの枠止めと推定した。	モミ属
145 0135	田下駄	20.5+α×8.7×1.3	⑪-1 水田層 平安	斜め	一端の木口欠損	木裏には加工痕が明確に残る。径0.5と径0.8cmの不整形緒孔が認められる。幅の狭い形状。	サワラ

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(毫)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	製種
146 0131	田下駄	32.9+α×4.4+α×1.4	④ SD3004 I 弥生後期	斜め	後部の木口一部残存	径約0.5cmの楕孔が1ヵ所に残存。木口には斜めの切断面が残る。厚み、断面形状から田下駄としたが異なる部材の可能性はある。	ヒノキ
147 0103	田下駄	36.5+α×12.0×1.4	①-1 木田層 平安	斜め 平安	前部の木口欠損/肩縁遺残	磨減著しいが、楕孔は大形の楕円形状となる。	-
148 0102	田下駄	29.7+α×10.8×1.2	①-1 木田層 平安	板目	前部の木口欠損	径約0.8cmの円形楕孔を1ヵ所に残す。平面縦長の長方形で、両木端に斜角な状込みあり。	モミ属
149 0126	田下駄	27.4+α×10.9+α×2.0	④ SD3011	板目	一端の木口欠損	1.0cm角の方形楕孔が2ヵ所に残される。残存する木口は両端から削られ、平面形状となる。	モミ属
150 0121	田下駄	38.4×5.5+α×1.4	④ SD3011 平安	板目	片側の木端欠損/約1/4残存	約0.5cm角の不等方形の楕孔が3ヵ所に残され、両端には同一重複、形状の孔が残る。輪カンジキ田下駄の幹部正孔と推定した。	スギ
151 0105	田下駄	29.2+α×5.6+α×1.6	①-2 SD3002 古墳後期～	板目	片側の木端一部残存	長方形の楕孔を1ヵ所に残す。木取り、平面形状から田下駄とした。	モミ属
152 0133	田下駄	12.9+α×6.3+α×1.5	④ 木田層 平安	斜め	後部の木口一部残存	径約0.9cmの楕孔が窪められ、木口は斜めに削られた加工痕が残る。厚み、断面形状から田下駄としたが異なる部材の可能性はある。	サワラ
153 0137	田下駄	18.8+α×3.2+α×1.1	①-2 SD3004	斜め	片側の木端一部残存	1.2×0.6cmの楕円楕孔が1ヵ所に残存。厚み、断面形状から田下駄としたが異なる部材の可能性はある。	-
154 0129	田下駄	28.2+α×6.1+α×1.6	①-1 木田層 平安	板目	片側の木端一部残存	2.5×1.8cmの方形の楕孔が1ヵ所に残る。木口が表面に残るが平直である。厚み等から田下駄とした。	モミ属
155 0084	田舟	78.8+α×7.8+α×5.0	④ SD3004 I 弥生後期	斜め(残存箇所)	軸コーナーの上部残存	全容は不明。船の一端が残存。縦い傾斜をもって斬る。全形は丸みのある大型船と推定。	コナラ 節
156 0130	田下駄神材 縦神	45.0+α×6.7×1.6	④ SD3004 I 古墳前期	板目	一端の木口欠損	先端は両側から削り三角形に尖る。横溝を受ける方形の孔が6ヵ所に残される。断面形状は長方形に近い形状である。	クマギ 節
157 0106	田下駄神材 縦神	39.0+α×5.3×1.3	④ SD3004 II 古墳前期	板目	一端の木口欠損	先端は両側から削り三角形に尖る。横溝を受ける方形の孔が3ヵ所に残される。断面形状は長方形に近い形状である。	クマギ 節
158 0114	田下駄神材 縦神	32.1+α×4.8×0.9	④ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口/木端の一部欠損	横溝を受ける方形の孔が1ヵ所に残る。断面形状は流線型である。出土状況から縦神とした。	-
159 0110	田下駄神材 縦神	11.7+α×5.8×0.9	④ SD3004 II 古墳前期	板目	一端の木口欠損	先端は両側から削りにより丸い。横溝を受ける方形の孔が2ヵ所に残される。断面形状は流線型である。	クマギ 節
160 0112	田下駄神材 縦神	15.3+α×5.2×1.0	④ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口/木端の一部欠損	横溝を受ける方形の孔が1ヵ所に残る。断面形状は流線型である。	クマギ 節
161 0119	田下駄神材 横機	15.1+α×4.6×0.9	④ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口/木端の一部欠損	断面は扁平な流線型となる。形状、出土状況から横機とした。	クマギ 節
162 0113	田下駄神材 横機	24.0+α×3.8×0.9	④ SD3004 II 古墳前期	板目	一端の木口欠損	2.0×1.5cmの方形突起が片側の木口に残存。突起には擦れによる磨減痕が残る。	クマギ 節
163 0118	田下駄神材 横機	6.0+α×3.6+α×0.6	④ SD3004 II 古墳前期	板目	突起部先端/一端木口欠損	方形突起が片側の木口に残る。形状出土状況から横機とした。	クマギ 節
164 0111	田下駄神材 横機	44.1+α×5.1×1.0	④ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口欠損	突起部は残存していない。形状、出土状況から横機とした。	クマギ 節
165 0108	田下駄神材 横機	42.1+α×4.6×0.7	④ SD3004 II 古墳前期	板目	木端の一部欠損	2.0×1.5cmの方形突起が両端の木口に残存。一端の突起には擦れによる磨減痕が残る。鋼線を削りだした断面流線型の整った形状。	クマギ 節
166 0107	田下駄神材 横機	42.4+α×5.1×1.0	④ SD3004 II 古墳前期	板目	一端の木口欠損	2.0×1.5cm角の方形突起が片側の木口に残存。鋼線を削りだした断面流線型の整った形状。	クマギ 節
167 0115	田下駄神材 横機	16.9+α×5.1×1.0	④ SD3004 II 古墳前期	板目	突起部先端/一端木口欠損	方形突起が片側の木口に残存。断面は扁平な流線型となる。	クマギ 節
168 0125	田下駄神材 横機	17.4+α×4.5×0.9	④ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口欠損	突起部は残存していないもの、欠損部に突起の痕跡を残す。断面は流線型である。	クマギ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	附随
169 0117	田下駄軒村 横棧	7.2+α×2.9+α×0.9	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	突起部先端/ 一端木口欠損	方形突起が片側の木口に残る。形状、出土状況から横棧と推定。	クヌギ 節
170 0091	田下駄 軒村	15.0+α×6.1×1.2	㊦ SD3004Ⅰ 古墳前期	柱目	突起部先端/ 一端木口欠損	断面は流線型となり、一方木口に約2.0cmの突起を作りだす。	クヌギ 節
171 0109	田下駄軒村 横棧	29.8+α×5.1×1.1	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	一端の木口欠損	一端に突起部残存。突起部から約20cmの位置に外面からの削りによる段が作りだされる。足板を乗せる凹部になると考えられる。	クヌギ 節
172 0124	田下駄軒村 横棧	32.3+α×5.2×1.2	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	突起部先端/ 一端木口欠損	突起部は残存していないもの、欠損部に突起の痕跡を残す。断面は長方形に近い形状である。	クヌギ 節
173 0123	田下駄軒村 横棧	34.4+α×5.8×1.1	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	突起部先端/ 一端木口欠損	突起部は残存していないもの、欠損部に突起の痕跡を残す。断面は長方形に近い形状である。	クヌギ 節
174 0122	田下駄軒村 横棧	10.2+19.4+α×4.9×0.9	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	木口欠損	2.0×1.5cmの方形突起が一端の木口に残存。突起には削れによる磨減痕が残る。	クヌギ 節
175 0116	田下駄軒村 横棧	10.9+α×4.5×0.8	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	一端の木口欠損	2.0×1.5cmの方形突起が片側の木口に残存。突起には削れによる磨減痕が残る。	クヌギ 節
176 0120	田下駄軒村 横棧	9.8+α×3.6+α×0.8	㊦ SD3004Ⅱ 古墳前期	柱目	両端木口/片 側の木端欠損	断面は扁平な流線形状となる。形状、出土状況から横棧とした。	—
177 0160	蓋片	100.7×9.6(径)握き部 3.5(径)握り部	㊦ SD3004Ⅰ 古墳前期	割りだし	完存	両端の握き部先端は使用時の握れ痕が顕著に残り丸い。表面は滑らかで成形時の加工痕を残さない。	クヌギ 節
178 0161	蓋片	77.2+α×7.1(径)握き部 3.6(径)握り部 6.9(径)ソロバン玉	㊦ 水田層 弥生後期	割りだし	約1/2残存	握り部の中央にソロバン玉状の突起を持つ。握き部断面形状は角に近い楕円形となり、握り部近くは段を有する。握き部は先端が丸い。	コナラ 節
179 ビ41	蓋片	41.3+α×8.6(径)	㊦ SD1016 古墳前期	割りだし	握き部の一部 残存	握き部先端は使用による磨減で丸い。表面の一部磨化。	—
180 1050	蓋片	72.5+α×9.6×8.7	㊦-2 SA3011 古墳前期	割りだし	握り部の木口 欠損	握き部先端は削れにより丸くなる。握り部木口は両面からの削りにより斜めとなる。削りの両木端には切込みがあり風車形状を削りだし、蓋片を転用した加工である。表面大半磨化。	クヌギ 節
181 0158	蓋片	42.0+α×9.2(径)	㊦ SD3004	割りだし	約1/2残存	両端の握き部先端は使用時の握れ痕が顕著に残り丸い。握り部には加工痕が僅かに残る。	クヌギ 節
182 0172	蓋片	54.1+α×8.1(径)	㊦ SD3004Ⅰ 弥生後期	割りだし	約1/2残存	全面磨化しており、加工、使用痕不明。断面形状はほぼ円形となる。	—
183 0164	蓋片 (横棧)	29.8+α×9.5(径)	㊦ SA4002 古墳前期	割りだし	握き部の残存	握き部先端は使用時の握れ痕が顕著に残り丸い。一面には蹴きによる著しい凹みを有する(2次使用か)。187と同様の使用痕から横棧とした。	クヌギ 節
184 ビ83	蓋片	46.7+α×9.6(径)	㊦ SD1016 古墳前期	割りだし	約1/2残存	握き部先端は使用による磨減により僅かに丸くなる。表面は滑らかで断面正円の割りだし材である。	クヌギ 節
185 ビ78	蓋片	15.3+α×7.2(径)	㊦ SD1016 古墳前期	割りだし	握き部先端の 一部残存	握き部先端は使用時の握れ痕が顕著で丸い。	クヌギ 節
186 0151	横棧 (柄装着)	45.2×9.0×8.5 5.7+α×2.7(径)柄部	㊦-1 SD3003 古墳前期	割りだし 丸木 芯もち	表面の一部欠 損	握き部先端は使用時の握れ痕が顕著に残り外面(柄部が鈍角となる方)が著しく削り斜めの形状となる。内側表面と柄部装着平凸面に加工痕が残る。柄は上下、左右とも斜めに装着され柄孔は鈍角となる方が大きい。	クヌギ 節(ツブ)
187 0153	横棧 横装としての 用途あり	59.5×10.9(径) 柄孔径3.3(大) 2.5(小)	㊦ SA4011 古墳前期	割りだし	ほぼ完存	握き部先端は使用時の握れ痕が顕著に残り、外面(柄部が鈍角となる方)が著しく削り斜めの形状となる。また片面全面に敷きによる凹凸が見られる(2次使用か)。柄孔は上下、左右とも斜めに穿たれ、鈍角側が大きい。	クヌギ 節
188 0169	蓋片	44.4+α×8.7(推定径)	㊦ SD3004Ⅰ 弥生後期	割りだし	握き部の残存	握り部には粗い加工痕が残るが、握き部先端には使用により丸く磨減している。	クヌギ 節
189 0156	横棧 未製品	47.2×9.9×8.5	㊦ SD4006 古墳前期	割りだし	ほぼ完存 表面の一部磨 減	断面は隅丸方形となり、表面には粗い加工痕が残る。握き部先端は平滑であり、柄の作りだし部には片側に段差をもつ。横装未製品の可能性もある。	クヌギ 節

図番番号 製品番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 穴損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
190 ピ40	案件	44.4+α×8.5(径) 24.3×12.2×8.5(径)蹴打部	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	掻き部の一部 現存 乾燥による歪	欠損著しく原形不明。掻き部先端は使用による磨減で丸い。	—
191 0157	横楕	51.7(全長) 29.0×18.1×9.1+α 蹴打部 22.7×3.6(径)柄部	⑨ SD3004 土手 古墳前期	削りだし 芯もち	裏面の一部欠 損	蹴打部は先端方向に広がり、先端部には幅5.0cm、深さ3.0cmの縦溝状の切りがある。柄部の作りだしは柄部をもたず緩やかに削りだされ、蹴打部が柄部よりも長い形状である。	盛塔クワ
192 0152	横楕 杵としての 用途あり	33.4(全長) 17.9×6.3(径)蹴打部 15.5×3.2(径)柄部	⑩-1 SD3004 古墳前期	削りだし	完存	蹴打部先端は使用時の擦れ痕が顕著に現れ、丸みを帯びる。中央部一面に鋭い稜による凹凸が現る。柄部先端は削り痕がある。	クヌギ 節
193 0155	横楕	48.8+α(全長) 25.1+α×12.6+α×8.0+ α 蹴打部 23.7+α×5.0(径)柄部	⑨ SD3004 I 弥生後期	削りだし	蹴打部の片欠 損	蹴打部、柄部に粗い加工痕が残る。柄部は水平に作りだされ明瞭な肩をもつ。蹴打部が柄より長くなる形状である。	ケヤキ
194 0170	横楕	58.3(全長) 24.7×12.2×8.5蹴打部 34.0×4.2(径)柄部	⑩-2 SD3004 古墳前期	削りだし 芯もち	ほぼ完存 蹴打部に磨減 あり	蹴打部中央全面に使用による凹みが著しく、一面には使用時の縦状痕を残す。柄の作りだしは鋭く蹴打部に肩をもたない柄部の長い形状。	ヤマブ クワ
195 0166	横楕	59.0(全長) 20.8×19.1×11.9蹴打部 38.2×6.3(径)柄部	⑩-2 SD3004	削りだし 芯もち	ほぼ完存	柄部、蹴打部に粗い加工痕を残す。柄部は完全な断面円形とならず、蹴打部からの作りだしも斜めである。	コナラ 節
196 0167	横楕	45.2(全長) 24.7×15.7×11.5蹴打部 20.5×4.5(径)柄部	⑩-2 SD3004	削りだし 芯もち	ほぼ完存 表面の一部欠 損	蹴打部中央全面に使用による凹みが顕著に残る。蹴打部先端、柄部作りだし部には粗い加工痕が残る。蹴打部に肩部を作る柄が短い形状。	クヌギ 節
197 0165	横楕	21.3+α(全長) 14.7+α×6.9+α×6.2蹴 打部 6.6+α×5.6(径)柄部	⑨ SA4002 古墳前期	削りだし	蹴打部先端/ 握り部欠損	蹴打部一面に使用による凹みが現る。柄の作りだし部には斜めの粗い加工痕がある。小型の横楕であるが全形不明。	クヌギ 節
198 0159	横楕	56.2(全長) 26.7×9.3+α(径)蹴打部 29.5×4.7(径)柄部	⑩-1 SD3003 古墳前期	削りだし 芯もち	蹴打部の表面 欠損	蹴打部先端、柄部表面に粗い加工痕が残る。柄部は水平に作りだされ肩をもつ。柄部が長い形状となる。	コナラ 節
199 0171	横楕	58.3(全長) 28.0×9.1×8.2蹴打部 30.3×4.9(径)柄部	⑩-1 SD3003 古墳前期	削りだし 芯もち	ほぼ完存 表面の一部欠 損	蹴打部中央一面は使用による凹みが著しい。柄の作りだし部及び柄部には細かな加工痕を残す。蹴打部に肩をもつ柄部の長い形状である。	クヌギ 節
200 0154	横楕	47.1+α(全長) 20.5+α×8.5+α×6.4+ α 蹴打部 26.6+α×3.7(径)柄部	⑩-1 SD3003 古墳前期	削りだし	柄部先端/蹴 打部先端使用 時の欠損	蹴打部片面に凹み、先端に著しい磨減による欠損を残す。柄部の作りだしは肩部をもたず緩やかに削りだされ、柄の長い形状となる。	クヌギ 節
201 0168	横楕	48.9+α(全長) 17.8+α×12.0×8.3蹴打 部 31.1×4.5(径)柄部	⑩-1 SD3003 古墳前期	削りだし 芯もち	蹴打部先端欠 損 乾燥による歪	柄部先端、蹴打部からの柄作りだし部に加工痕を残す。柄部の作りだしに鋭い肩をもつ柄長の形状となる。	クヌギ 節
202 ピ81	横楕	16.7+α×8.6(径)	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	蹴打部	蹴打部断面は正円形で均一な太さをもつ。先端部は周縁からの削りにより角が落とされ平坦面を作り出す。柄部の作りだし部には斜めの粗い削りが残る。使用による磨減はない。	クヌギ 節
203 0162	横楕	52.8(全長) 25.8×16.0×11.4蹴打部 27.0×3.5(径)柄部	⑩-1 SD3003 古墳前期	削りだし 芯もち	ほぼ完存 表面の一部欠 損 根節付近	柄部及び柄作りだし部に粗い加工痕が残る。根節付近の材を素材としており、全体的に湾曲する形状となる。使用痕は認められない。	コナラ 節
204 ピ146	横楕	24.8+α×12.9×7.5(径)	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし 芯もち	柄部欠損 乾燥による割 れ	蹴打部先端は平坦で、柄部は斜めに肩部を削りだしている。全体的に粗澁を作りである。一部炭化痕を残す。	ヤブツ タギ
205 0163	横楕	70.1(全長) 28.3×13.4×8.6蹴打部 41.8×5.1(径)柄部	⑨ SD3004 古墳前期	削りだし 芯もち	ほぼ完存 表面の一部欠 損	1ヵ所に蹴打痕が見られ著しい凹みを有する。柄部及び柄作りだし部は粗い加工痕が残る。肩部が鋭く、柄長の形状となる。	ヤマブ クワ

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
206 ビ138	横結	30.5(全長) 17.0×8.0(径) 敲打部 13.5×3.6-2.6(径) 柄部	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	ほぼ完全 表面の一部欠損	敲打部は断面正円形で平面円錐形となり、先端は角が丸く削られている。柄部は肩を水平に削りだし直線状となる。柄部先端には径3.6cmのグリップが削りだされる。敲打部に使用痕は残らず表面は滑らかである。	カバノキ属
207 ビ07	横結	27.8(全長) 14.0×6.5×5.8(径) 敲打部 13.8×2.0-3.0(径) 柄部	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	敲打部先端欠損 乾燥による歪	柄部は円形、敲打部は隅丸の方形に近い断面に削りだす。肩を作りださず緩やかに膨らむ形状で、柄部先端にはグリップがある。敲打部中央に使用痕による凹みが残る。	カバノキ属
208 ビ42	横結	16.4+α(全長) 10.8×6.0(径) 敲打部 5.6×1.5(径) 柄部	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	ほぼ完全 乾燥による歪	全形は敲打部先端から柄部先端まで円錐形となる。肩部は斜めに削られ柄部先端にはグリップを作りだす。敲打部先端は平坦である。	-
209 0069	有頭状木製品 用途不明	95.4+α×6.1×3.2	⑩-2 SD3002 古墳後期か	削りだし	一端の木口欠損	両端を塔型に削り尖らせ、両側縁から挟り込み頭部を三角形に作りだす。軸部断面は波線型となり表面は滑らかに仕上げられている。	クリ
210 1203	有頭状木製品 用途不明	86.9+α×6.0×3.3	⑩ SD3004	削りだし	一端の木口/木端の一部欠損	断面隅円形状の削りだし材。残存する木口は両木端からの削りにより尖る。両木端に挟りださずあり有頭部が2段となる。	モミ属
211 0063	有頭状木製品 用途不明	155.4+12.7+α×6.1×2.5	⑩-1 SD3003 古墳前期	板目	一方の有頭部接点欠損	両端を塔型に削り尖らせ、両側縁から挟り込み頭部を菱形に作りだす。軸部断面は波線型となり表面は滑らかに仕上げられている。	オニグルミ
212 0210	有頭状木製品 用途不明	32.5+α×3.2×1.2	⑩-1 SD3004 弥生後期~	板目	一端の木口欠損	両木端からの削りにより三角形の挟込みが片側の木端2ヶ所ずつある。木口部は両側から削り尖らせている。	スギ
213 0201	有頭状木製品 用途不明	32.1+α×2.8×1.1	⑩-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口欠損	左2.5cm右3.0cmの長方形に近い削りが両木端にある。頭部が比較的垂直に挟り込まれている。	スギ
214 0202	有頭状木製品 用途不明	39.1+α×3.1×1.1	⑩-1 SD3003 古墳前期	板目	両端木口欠損	両木端に長方形の削りによる挟りがある。木端には長い削り痕を残す。頭部の長い形状となる。	スギ
215 0248	有頭状木製品 剣先型 用途不明	18.7+α×4.5×0.7	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口欠損	両木端に削りによる長方形の挟りがある。挟り部は角を落とすとして滑らかである。頭部は翼縁からの削りにより尖らせている。	スギ
216 0204	有頭状木製品 剣先型 用途不明	17.5+α×3.5×1.4	⑩-2 SD3004 古墳前期	板目	一端の木口欠損	両木端に削りによる長方形の挟りがある。挟り部は角を落とすとして滑らかである。頭部は木表からの削りにより尖らせている。	スギ
217 0274	有頭状木製品 用途不明	33.9+α×3.5×1.2	⑩-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口/有頭部側縁の一部欠損	両木端からの削りにより長方形の挟込みがある。頭部先端は、両面両側縁から角が削られている。欠損部にも挟りだす痕を残し、両端に頭部があったことが推定され、全長は39cmに復元される。	-
218 0293	有頭状木製品 用途不明	27.6+α×3.4×1.2	⑩ SA4006 弥生後期~古墳前期	板目	両端木口欠損	両木端からの削りにより長方形の挟りがある。断面、片面に加工痕が残る。断面は不均一な長方形である。	スギ
219 0292	有頭状木製品 用途不明	11.3+α×3.0×0.7	⑩ SA4006 弥生後期~古墳前期	板目	両端木口欠損	両木端からの削りにより三角形の挟りがある。挟りは頭部下が水平となり、片面に加工時の縮み痕が2条残る。頭部先端は平坦になると思われる。	サクラ
220 0267	有頭状木製品 用途不明 衝物か	23.3+α×2.1×2.0	⑩-2 SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面不正円形に削りだし、木口先端は両側からの削りで長方形の挟りを作り有頭状となる。先端部は側縁からの削りによって尖る。ほぼ中央部に片側縁からの削りによる方形の挟込みがある。小製品の部材の一部と考えられる。	モミ属
221 0235	有頭状木製品 用途不明	14.9+α×3.3×1.1	⑩ 水田層 古墳前期	板目	一端の木口欠損	片側の木端に三角形の挟込みが残存する。欠損木端にも同様な挟りがあったと思われる。頭部は丸く削る。	ヒノキ

図版番号 整理番号	器 種	長さ×幅×厚さ(括) 欠損による許測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
222 0205	有蓋状木製品 輪カンジキ 田下駄特材 か	47.4×6.0×1.5	⑬ 水田層 古墳前期	斜め	完存 乾燥による変	両端に、両木端からの削りによる三角形の快込みがある。頭部は丸く削る。木表面の快り部を結んだ線上にあたり痕を残す。輪カンジキ田下駄の特材とした。	モミ属
223 0206	有蓋状木製品 輪カンジキ 田下駄特材 か	41.5×4.9×1.9	⑬ 水田層 古墳前期	板目	完存 乾燥による変	一端は両木端からの削りによる三角形の快込みもう一端は長方形の快りがある。頭部は丸く削る。快り部側縁の一部にあたり痕を残す。輪カンジキ田下駄の特材とした。	ヒノキ
224 0214	有蓋状木製品 用途不明	24.7×3.6×0.9	⑬-3 水田層 弥生後期	板目	ほぼ完存 側縁部僅かに 磨滅	両端に、両木端からの削りによる三角形の快込みがある。一端の木口は磨滅により快り部と頭部が同一幅となる。	ヒノキ
225 0208	有蓋状木製品 用途不明	31.9+α×4.0×1.4	⑬ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口欠損	両木端に台形状の削りによる快りがある。木端側縁に削り痕があり、頭部は切頭痕が残り平らである。	クスギ 属
226 0287	有蓋状木製品 用途不明	30.0+α×3.5×1.9	⑬ SD3004	板目	一端の木口欠損	両木端より緒長く削られ、三角形の快込みがある。頭部先端は木表からの削りにより斜めに加工されている。	モミ属
227 0238	有蓋状木製品 用途不明	22.0+α×3.3×0.9	⑬ SD3004 I 弥生後期	板目	両端木口欠損	両側縁に、両木端からの削りによる三角形の快込みがある。頭部形状不明。	サワラ
228 0286	有蓋状木製品 部材か	36.3+α×2.6×2.0	⑬-1 SD3003 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	両木端及び片面に快込みを作りだしている。頭部先端には細かな加工痕が残り、丸くなる。側縁部にも粗い削りが残る。欠損する木口表面にも平直な快込みがあったことが推定される。小形製品の部材か。	ネズコ
229 0266	有蓋状木製品 用途不明	58.4×3.6×2.2	⑬-2 SD3004	板目	完存	両端に両側の木端からの削りによる深い快込みがある。木口先端は平直で、一端が木表からもう一端が木裏から斜めに削られている。	スギ
230 0272	有蓋状木製品 用途不明	30.3+α×1.9×1.7	⑬ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口欠損	両木端からの削りにより三角形の快込みがある。頭部先端は側縁からの加工により丸みを作りだす。欠損部にも快りの痕跡を残し、両端に頭部があったことが推定され、全長は32.5cmに復元される。	モミ属
231 0295	用途不明	28.7+α×4.4×1.7	⑬ SA4002 古墳前期	板目	両端木口/片 欠損	片側の木端に方形の快りがある。表面は滑らかな。	モミ属
232 0203	有蓋状木製品 柄か	39.5+α×4.3×2.1	⑬-2 SA3011 古墳前期	板目	一端の木口欠損/表面の一部欠損	頭部片面に幅2.0cmのあたり痕と思われる凹みが観察される。頭部先端は丸い。両木端の削り頭部方が水平で三角形になる。	グリ
233 0215	有蓋状木製品 用途不明	31.9+α×3.5×1.8	⑬ SD1016	削り材	両端木口欠損	両木端から削りにより湾曲形状に快り込まれている。頭部の一部に木端からの斜めの削りがあり、先端は尖っていた可能性がある。	ムラサ キシキ ブ属
234 0296	有蓋状木製品 用途不明	33.5+α×4.0×1.7	⑬ SA4002 古墳前期	板目	両端木口欠損	両木端からの斜めの削りにより長方形の快りがある。全体は中央部から曲がった形状となる。頭部先端は平坦になるとと思われる。	モミ属
235 0269	有蓋状木製品 用途不明	74.3+α×4.5×3.1	⑬ 地点不明	板目	一端の木口欠損	両側の木端からの削りにより三角形の快込みがある。頭部先端は丸みのある方形形状。側縁部に削り痕が残る。	モミ属
236 0209	有蓋状木製品 用途不明	51.9×5.7×3.2	⑬ 水田層 古墳前期	板目	ほぼ完存 表面の一部欠損	両端に、両木端からの削りにより三角形の快込みがある。頭部は短く先端は平直。木表面には粗い加工痕が残り側縁が削られ断面形状が台形になる。部材と思われる。	クスギ 属
237 0260	有蓋状木製品 用途不明	70.0×3.3×1.8	⑬ SD3004 I 下層 弥生後期	斜め	ほぼ完存 有頭部の一部欠損	断面薄鈍型に削りだされ、両端に両木端からの削り込みにより長方形の快込みがある。頭部は角が丸く削られている。加工痕は主として木表のみに残る。	モミ属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
238 0211	有頭状木製品 用途不明	37.8+21.9+28.8+α× 3.4(径)	㊸ SD3013 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損 3個体	丸木材を多方向から削り頭部を作りだしている。 先端部も多方向からの削りにより尖る。	ヤナギ 属
239 0207	有頭状木製品 用途不明	60.0×4.2×2.3	㊸ SD3004 I 弥生後期	斜め	片側の木端一 部欠損	両端に、両木端からの削りによる三角形の抉込 みがある。頭部は丸く削る。木表面中央寄りに あたり底を残す。	モミ属
240 29	有頭状木製品 用途不明	36.6+α×5.4×3.0	㊸ SK2756 古墳前期	徑目	頭部の木端/ 一端の木口欠 損	両木端からの削りにより台形状の抉込みがある。 頭部先端は表面からの削りで角が落とされ六角 形となる。頭部及びその下は炭化痕が顕著にあ る。	ヒノキ 属
241 1205	有頭状木製品 用途不明	43.6+α×3.2×2.4	㊸ SD3004	角材 板目	両端木口欠損	断面方形の角材、各角に切込み状の削りがあり 頭部を作りだす。表面は滑らか。	モミ属
242 0243	有頭状木製品 建築部材か	132.2 + α×5.5×4.0	㊸ SD3004 II 古墳前期	削りだし	一端の木口/ 有頭部の一部 欠損	頭部を作りだす加工は磨滅のため不明瞭。頭部 先端は平直に削られ、頭部形状も直方形に近い 断面は台形状となるが不整形。	ヒノキ
243 0226	有頭状木製品 用途不明	66.8×4.4(径)	㊸ SD3004 II 古墳前期	削りだし	ほぼ完存	断面不整形円形の削りだし材。両端に数方向か らの粗い加工痕を残し、方形に近い頭部を作り だす。頭部先端は平直に切断されたままである。	サワラ
244 0237	有頭状木製品 用途不明	45.4+α×6.4×2.8	㊸ SC3524 弥生後期	板目	一端の木口欠 損	両木端に側線木炭からの削りにより湾曲する抉 込みがある。頭部先端は平直で、有頭部の加工 は全て木炭屑から行なわれている。軸カンジキ 田下駄付材の可能性ある。	モミ属
245 0294	有頭状木製品 用途不明	35.1+α×2.9×2.4	㊸ SA4007 古墳前期	削りだし	一端の木口欠 損	断面不正円形に削りだされ、側線部からの斜め の削りにより長方形の抉りがある。頭部は平面 から削りにより斜めになる。	モミ属
246 0222	弓状木製品 用途不明	196.7×2.4(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	ほぼ完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は磨 滅からの削りであり先端は平直に削ら れている。内湾面は平直な加工痕が顕著に残る。	イヌガ ヤ
247 0218	弓状木製品 用途不明	100.2+α×3.5(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口には 1方向からの削りであり先端を尖らせている。内湾 面は平直な削り痕が顕著に残る。一端木口炭化	カヤ
248 0246	弓状木製品 用途不明	130.5+α×2.6(径)	㊸ 地点不明 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となり、外湾面は平直な 加工痕が顕著に残る。断面は半円形、先端部は 3方向からの短い削りにより尖らせている。	イヌガ ヤ
249 0221	弓状木製品 用途不明	85.8+α×1.3(径)	㊸ SC3521 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口には 内湾面1方向からの削りであり先端を尖らせている。 内湾面は平直な削り痕が顕著に残る。	カヤ
250 0255	弓状木製品 用途不明	139.5+α×4.5(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	ほぼ完存	弓なりに湾曲する形状となり、内湾面は平直な 加工痕が顕著に残る。残存する木口先端は1方 向からの緩やかな削りであり尖らせている。	-
251 0219	弓状木製品 用途不明	87.3+α×2.0(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口には 4方向からの削りであり先端を尖らせている。外湾 面に平直な削り痕が顕著に残る。	イヌガ ヤ
252 0264	弓状木製品 用途不明	106.5+α×2.3(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となり、外湾面に平直な 削り痕が顕著に残る。残存する先端部は外湾面 と側線からの削りにより尖る。	カヤ
253 0220	弓状木製品 用途不明	74.2+α×2.5(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、外湾面は一部に 平直な削り痕が顕著に残る。部分的に平直面を 作りだした加工痕が残る。断面は不正多角形と なる。	イヌガ ヤ
254 0273	弓状木製品 用途不明	100.0+α×2.6(径)	㊸-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	弓なりに湾曲する形状となる。残存する木口は 外湾面からの緩やかな加工と1側線からの削りによ って尖らせる。	-
255 0258	弓状木製品 用途不明	166.0×3.1(径)	㊸ SD3004 弥生後期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は数 方向からの削りによって尖り、一方の先端は内 湾面からの大きな削りと外湾面からの単純な削り によって鈍角に尖らせている。	-

図版番号 処理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 穴損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	製種
256 0244	弓状木製品 用途不明	105.5×2.5(径)	⑨ SA4009 弥生後期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は数方向からの削りで鋭角に、もう一端は1方向からの削りで鈍角に尖る。枝打ち痕が随所に残る。	イヌガヤ
257 0801	弓状木製品 用途不明	140.4+α×3.8(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、残存する木口先端は外湾面からの削りをもって尖る。	カヤ
258 0288	弓状木製品 用途不明	65.2×2.3(径)	⑨ SD3004	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は4方向からの細かな削りにより尖り、もう一端の木口は内湾面から鋭かれた痕があり、更に単純な削りにより斜めに加工している。	カヤ
259 0285	弓状木製品 用途不明	116.2×2.5(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は数方向からの細かな削りにより尖り、もう一端の木口は内湾面から鋭かれた痕を呈し、単純で小さな削りにより斜めに加工している。	-
260 0284	弓状木製品 用途不明	90.2×2.5(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は側縁1方向からの細かな削りにより尖り、もう一端の木口には内湾面に鋭かれた痕を呈している。	-
261 0278	弓状木製品 用途不明	41.0+α×3.0(径)	①-1 SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、残存する木口は内湾面からの単純な削りにより尖る。	クリ
262 0265	弓状木製品 用途不明	37.4+α×1.6(径)	④ SD3004 I 底 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。残存する木口先端部は1方向の加工により尖る。	イヌガヤ
263 0252	弓状木製品 用途不明	90.3+α×2.3(径)	④ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。両木口先端部に内湾面からの削り痕がある。一端は細かな加工によって尖らせている。	カヤ
264 0270	弓状木製品 用途不明	147.0×3.6(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	ほぼ完存	弓なりに湾曲する形状となり、粗い枝打ち痕が随所に残る。一端の木口は内湾面から鋭かれた痕があり鈍角に尖り、もう一方の先端は2方向からの削りにより尖る。	カヤ
265 0282	弓状木製品 用途不明	120.5+α×3.2(径)	①-2 SD3004	丸木 芯もち	両端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は内湾面1方向からの単純な削りにより尖り、もう一端の木口は内湾面に鋭かれた痕を呈している。枝打ち痕がない。	-
266 0268	弓状木製品 用途不明	73.5+α×2.6(径)	①-2 SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、残存する一端の木口は3方向からの削りによって先端を尖らせている。表面2か所に炭化痕あり。	イヌガヤ
267 1207	弓状木製品 用途不明	43.3+29.0+α×2.1(径)	⑥ SA4004 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口は内湾面側からの単純な削りにより尖る。	カヤ
268 0281	弓状木製品 用途不明	67.7+α×2.5(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は内湾面1方向からの単純な削りが残り、枝打ち痕を随所に残す。	-
269 0290	弓状木製品 用途不明	68.0+α×3.1(径)	⑥ SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、残存する木口は数方向からの削りにより尖る。枝打ち痕がない。	カヤ
270 1208	弓状木製品 用途不明	67.7×1.9(径)	⑥ SD3004	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口は外湾面に削りが残り、先端は尖る。もう一端の木口は内湾面を削いた痕があり平坦面を作る。	-
271 0261	弓状木製品 用途不明	69.5+α×2.6(径)	④ SD3004 I 下層 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は内湾面に大きく鋭いた痕を呈し、もう一端の木口は側縁に細かな削り痕を残す。	カヤ
272 0224	弓状木製品 用途不明	116.0×2.8(径)	④ SD3013 古墳前期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となり、一端の木口には1方向からの削りで先端を尖らせている。	カヤ
273 0253	弓状木製品 用途不明	105.5+α×3.8(径)	④ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。残存する木口先端部は内湾面から大きく削られ、その後細かな加工によって先端を尖らせている。	イヌガヤ
274 0245	弓状木製品 用途不明	122.0+α×3.1(径)	⑨ SA4007 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	残存する木口には1方向からの削りで鈍角に尖らせている。枝打ち痕が残る。	イヌガヤ
275 0249	弓状木製品 用途不明	95.7×3.3(径)	④ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	ほぼ完存 表面一部欠損	弓なりに湾曲する形状となり、両端の木口は数方向からの単純な加工で削り尖らせている。枝打ち痕を残す。	イヌガヤ

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
276 0250	弓状木製品 用途不明	137.0×2.3(径)	㊸ SD3004 I 古墳前期	丸木 芯もち	ほぼ完存	弓なりに湾曲する形状となり、両端の木口は1方向からの単純な加工で削り尖らせている。枝打ち痕が随所に残る。	カヤ
277 0263	弓状木製品 用途不明	126.0+α×2.0(径)	㊸ SD3004	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。枝打ち痕を部分的に残し、外湾面に割いた痕がある。	カヤ
278 0275	弓状木製品 用途不明	132.0+α×3.1(径)	㊸-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、枝打ちの粗い加工痕を随所に残す。一部欠損しているが、木口は鋼線からの削りにより尖る。	-
279 1206	弓状木製品 用途不明	58.3+α×2.5(径)	㊸ SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、両端の木口先端は外湾面側からの鈍角な削りにより尖る。	カヤ
280 1136	弓状木製品 用途不明	64.5+α×2.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。残存する木口は内湾面からの1度の削りで先端部を尖らせている。枝切断痕を随所に残す。	イヌガヤ節
281 0254	弓状木製品 用途不明	127.0×2.2(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	完存	弓なりに湾曲する形状となる。一端の木口は内湾面からの削りによって鈍角に尖り、一方の先端は平直に削られている。枝打ち痕を随所に残す。	カヤ
282 0289	弓状木製品 用途不明	74.5+α×2.0(径)	㊸ SD3004	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、木口には内湾面から割かれた痕がある。枝打ち痕が一部に残る。	カヤ
283 1204	弓状木製品 用途不明	52.0+α×1.5(径)	㊸-2 SA3011 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となる。枝打ちの削り痕を随所に残す。	イヌガヤ
284 0251	弓状木製品 用途不明	82.0+α×2.7(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠損か	弓なりに湾曲する形状となるが、両端とも原形は保っていないと思われる。一端は割いた痕が残る細かな削りがある。枝打ち痕が随所に残る。	カヤ
285 0259	弓状木製品 用途不明	47.3+α×3.0(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	炭化により両端/表面欠損	弓なりに湾曲する形状となる。外湾面一部に加工痕を残す。表面は直接被熱を受けた状態で炭化が著しい。	カヤ
286 0271	弓状木製品 用途不明	186.5+α×2.0(径)	㊸ SD3004 I	丸木 芯もち	一端の木口僅かに欠損	弓なりに湾曲する形状となる。残存する木口は内湾面からの単純な削りがあり先端鈍角となる。	カヤ
287 0223	弓状木製品 用途不明	122.0+α×1.4(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端の木口僅かに欠損	弓なりに湾曲する形状となり、枝打ち痕が随所に残る。残存する木口は平直に削られている。	イヌガヤ
288 0230	弓状木製品 用途不明	58.8+α×2.2(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、1ヵ所に削り、随所に枝打ち痕を残す。	イヌガヤ
289 0242	弓状木製品 用途不明	47.0+α×1.8(径)	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	弓なりに湾曲する形状となり、枝打ち痕を残す。	イヌガヤ
290 0071	鹿状木製品 用途不明	47.3×3.9(径)	㊸ SD3004 II 古墳前期	削りだし	ほぼ完存	断面円形に削りだし、壘く切断した頭部をもつ頸部から約10cm下方に段をもつ断面半円形に削りだされる。先端部に突起状の作りだしが推定される。段差部幅3.0cmを除いて炭化痕が残る。炭成のない部分は異なる部材のあたり痕か。	サワラ
291 0072	鹿状木製品 用途不明	30.8+α×3.9(径)	㊸-3 水田層 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面円形に削りだし、壘く切断した頭部をもつ頸部から約9.0cm下方に段をもつ断面半円形に削りだされる。段差部幅3.0cmを除いて炭化痕が残る。炭成のない部分は異なる部材のあたり痕か。	ヒノキ
292 1010	鹿状木製品 用途不明	34.3+α×3.1×2.1	㊸-2 SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面楕円形の削りだし材。一端の木口は尖り、両木端には等間隔の円形窪痕が左右対称に5ヵ所ある。木端先端一部を残し全面炭化。	サワラ
293 1015	棒状木製品 用途不明	56.4+α×3.2(径)	㊸-1 SD3003 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の削りだし材。残存する木口面は丸い表面は磨らか。	-
294 1046	棒状木製品 用途不明	53.7+α×3.0(径)	㊸ SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の削りだし材。残存する木口面は丸い表面は磨らか。	モミ属
295 1051	棒状木製品 用途不明	10.5+α×3.0(径)	㊸-3 水田層 弥生後期	削りだし	一端の木口欠損	断面は四角となり、先端部は緩を残し削りだしされている。	クヌギ節
296 1051	棒状木製品 用途不明	44.7+α×2.8×2.0	㊸-2 SD3002 平安	削りだし	一端の木口欠損	断面不正円形の削りだし材。残存する木口面は研の平直の削りがある。	モミ属

図版番号 観測番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
297 1028	棒状木製品 用途不明	75.8+α×2.9(径)	①-2 SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の削りだし材。残存する木口方向が細くなり先端は丸い。径が細くなる位置に径0.3cmの小孔が斜めに貫通する。	モミ属
298 0085	組み合わせ 鉄筒	73.9+α×2.8(径) 2.7+α×1.7(着身部)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	着身部が平坦に削られ断面形は半円となり、外面1ヵ所に径2.0cmの隆起を有する。隆起部から先端にかけて越あたり痕が観察される。	モミ属
299 1025	棒状木製品 用途不明	42.2+α×2.4(径)	④ SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の小形削りだし材。残存する木口面は丸い。表面は滑らか。	サワラ
300 1042	棒状木製品 用途不明	16.9+α×2.1(径)	④ SA4001 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面楕円形の小形削りだし材。残存する木口面は丸く先端から2.0cmの位置まで径縮減がある。表面一部炭化。	モミ属
301 1217	棒状木製品 用途不明	24.0+α×2.6(径)	①-1 SA3001 近世	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の削りだし材。一端の木口は細く尖る。表面は滑らか。	-
302 1008	棒状木製品 用途不明	63.4+α×2.7(径)	④ SA3101 古墳前期	削りだし 芯もち	一端の木口欠損	丸木材を素材とした断面円形の削りだし材。残存する木口は先細りとなり木口面は平坦となる。	ヒノキ
303 1311	棒状木製品 用途不明	16.4+α×1.2(径)	①-1 試掘坑 古墳-平安	削りだし	一端の木口欠損	断面正円形の削りだし材。残存する木口方向に径が小さくなり、木口面は丸い。表面は滑らか。	-
304 1039	棒状木製品 用途不明	71.5+α×2.8(径)	④ SA4002 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の削りだし材。残存する木口面は丸く表面は滑らか。	モミ属
305 1041	棒状木製品 用途不明	67.0+α×3.2(径)	④ SA4006 弥生後期-古 墳前期	削りだし	両端木口欠損	一端の径を細くした断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
306 1048	棒状木製品 用途不明	46.7+α×2.7(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
307 1049	棒状木製品 用途不明	41.0+α×2.4(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
308 1037	棒状木製品 用途不明	34.3+α×3.6(径)	④ SA3101 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	サワラ
309 0082	棒状木製品 用途不明	41.6+α×3.1(径)	①-1 SD3004 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	表面は滑らかで、断面は均一な円形に削られている。	モミ属
310 1022	棒状木製品 用途不明	43.3+α×2.5(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の小形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
311 1019	棒状木製品 用途不明	37.6+α×2.8(径)	①-2 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	-
312 0092	棒状木製品 用途不明	37.0+α×2.5(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	表面は滑らかで、断面は均一な円形となる。	モミ属
313 1021	棒状木製品 用途不明	40.9+α×3.1(径)	①-2 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	-
314 1023	棒状木製品 用途不明	34.7+α×2.8(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
315 1038	棒状木製品 用途不明	38.2+α×3.0×2.5	①-1 SA3002 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面楕円形の削りだし材。表面は滑らか。	クスギ 属
316 1043	棒状木製品 用途不明	29.1+α×3.0(径)	④ SA4007 古墳前期後半	削りだし	両端木口欠損	一端は断面円形。一端は扁平な楕円形状の削りだし材。表面は滑らか。	クスギ 属
317 0094	棒状木製品 用途不明	32.0+α×3.0(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	表面は滑らかで、断面は均一な円形となる。	モミ属
318 0068	棒状木製品 用途不明	8.1+α×3.1(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	断面均一な円形に削りだされる。柄としての用途不明。	クスギ 属
319 1047	棒状木製品 用途不明	10.2+α×3.2(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	ケヤキ
320 1026	棒状木製品 用途不明	15.0+α×3.2×2.4	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面楕円形の小形削りだし材。表面は滑らか。	ケヤキ
321 1003	棒状木製品 用途不明	35.4+α×2.8(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	コナラ 属

図番番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
322 1004	棒状木製品 用途不明	10.3+10.5+α×3.0(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損 2個体	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	ヤマブ
323 1017	棒状木製品 用途不明	28.0+α×2.0(径)	④-1 SD3003 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
324 1044	棒状木製品 用途不明	16.5+α×2.4(径)	④ SA4005 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	断面円形の小形削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
325 0066	棒状木製品 柄か	17.5+α×1.6(径)	④ SD3004II 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面均一な円形に削りだされる。柄としての用途不明。	サワラ
326 1030	棒状木製品 用途不明	58.8+α×2.4(径)	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。一端は扁平な隅九角形に近い形状となる。表面には削り痕が残る。	サワラ
327 用途不明 ビ 92	棒状木製品	31.6+α×2.2(径)	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面は正円形と長方形に削りだされる。断面形の境界部に径0.2cmの小孔がある。表面は滑らかで、製品の柄の可能性もある。	クスギ 属
328 0298	棒状木製品 用途不明	56.3+α×3.4×1.3	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面半円形の均一な削りだし材。表面は滑らか。	サワラ
329 用途不明 ビ134	棒状木製品	28.3+α×3.0×3.0	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面形状は台形状となり、中央部が方形、両端が扁平方形の断面形状となる。表面には粗い削り痕が残る。	クスギ 属
330 0088	棒状木製品 用途不明	26.5+α×2.5×1.8	④ SD3004 I 弥生後期	柱目	両端木口欠損	断面形は角の丸い台形となり、幅は均一であるが一端は薄く削られている。	ケヤキ
331 0445	棒状木製品 用途不明	66.9+α×2.2×1.9	④ SD3012 古墳前期	柱目	両端木口/片 側の木端欠損	先端部は細く断面楕円形に、一端は太く角状に削りだしている。中間部と先端部に削りがあり先端部には斜めのあたり痕が残る。	モミ属
332 1052	棒状木製品 組み合わせ 箇所か	34.7+α×3.0×2.8	④-1 SA5001 弥生中期	削りだし	両端木口欠損	柄部は断面円形に削りだされ、着身部は0.7cmの段差を作り幅状となる。先端部には突起を削りだした痕跡を残し、幅3.2cmに圧迫痕が残る。	コナラ 属
333 1055	棒状木製品 用途不明	40.7+α×3.6×2.4	④-1 SD3003 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面楕円形の削りだし材。表面は滑らか。	-
334 用途不明 ビ123	棒状木製品 又鍔刃部か	13.6+α×2.6×1.8	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面楕円形の削りだし材。表面は滑らかである。多又鍔の刃部の一部の可能性もある。	クスギ 属
335 1020	棒状木製品 用途不明	41.6+α×3.4×2.7	④-1 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面楕円錐形の削りだし材。表面は滑らか。	-
336 1011	棒状木製品 用途不明	33.3+α×3.2(径)	④-2 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面楕円錐形の削りだし材。表面は滑らか。	ケヤキ
337 1024	棒状木製品 用途不明	28.1+α×2.8×2.0	④ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面楕円錐形の小形削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
338 1210	棒状木製品 用途不明	29.9+α×2.4×1.2	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	断面三角形の削りだし材。表面は滑らか。	-
339 0089	棒状木製品 用途不明	15.7+α×2.3×1.2	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	均一の幅で断面半円形となる。表面は滑らか。	サクラ
340 1006	棒状木製品 用途不明	25.8+α×3.3(径)	④ SD3004 I	削りだし 芯もち	一端の木口欠 損	丸木材を素材とした断面円形の削りだし材。残存する木口には周縁からの削りがあり丸い。表面に粗い削り痕が顕著に残る。	カヤ
341 用途不明 ビ 97	棒状木製品	21.7+α×2.9(径)	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし 芯もち	一端の木口欠 損	一端の木口は周縁からの削りにより角が落とされ平頭型を作りだしている。	ニワト コ
342 1045	棒状木製品 用途不明	40.8+α×2.9(径)	④ 水田原 弥生後期-古 墳前期	削りだし 芯もち	両端木口欠損	丸木材を素材とした断面円形の削りだし材。表面は滑らか。	モミ属
343 1009	棒状木製品 用途不明	68.9+α×3.0(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし 芯もち	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。一端の木口は一面からの斜めの削りがある。表面は滑らか。	モミ属
344 0256	棒状木製品 用途不明	168.5+α×5.6(径)	④ SD3004 II 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面形は扁平な不正円形となり、一方の木口に幅を僅かに広げる形状となる。表面は滑らかである。	-

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
345 0257	棒状木製品 用途不明	145.4+α×5.6×4.1	⑤ SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面形は偏平な不正円形となるが、一方の木口が細く方形に近い形状になるように削られ、平坦面をもつ。この平坦面2ヵ所に炭化痕を残す。表面は滑らかである。	—
346 1016	棒状木製品 用途不明	103.7+α×4.5(径)	①-1 SD3003 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面楕円形の削りだし材。一端は太く偏平楕円形となる。表面は滑らか。	—
347 0280	棒状木製品 用途不明	63.6+α×5.9×2.5	①-1 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面は偏平な楕円形となり、一方の木口方向に幅を狭かに広げる形状となる。表面は滑らか。	—
348 0241	棒状木製品 用途不明	68.0+α×4.0×3.4	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口欠損	断面楕円もしくは方形に削りだされ、部分的に加工痕が残る。柄の可能性ある。	モミ属
349 1060	棒状木製品 用途不明	35.4+α×3.9×3.5	①-1 SD3003 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	一端の木口を円形、もう一端の木口を方形に削りだす。表面には粗い削り痕が残る。	—
350 0239	棒状木製品 用途不明	34.8+α×4.9×3.7	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	一端の木口欠損	残存する木口に幅を増すように、断面方形に削りだされている。木口は丸く加工されている。	ヤマブキ
351 0627	棒状木製品 用途不明	90.2+α×5.2×3.1	④ SD3004 II 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	一端の木口が先細りとなり断面不整形長方形となり、一端の木口断面は偏平の楕円形状となる。	サワラ
352 0240	棒状木製品 柄か	82.3+α×3.7×2.8	④ SD3004 II 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面は台形に近い楕円形となる。表面は滑らかに削りだされている。(圖) 柄の可能性ある。	ヒノキ
353 0233	棒状木製品 用途不明	65.0×4.3(径)	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	ほぼ完存	一端の木口は1方向から斜めに削られ、もう一端の木口は軸方向から削り鋭角に尖らせている。表面は全体的に滑らか。	モミ属
354 1059	棒状木製品 用途不明	83.4+α×4.2(径)	①-1 SD3004	削りだし	両端木口欠損	断面円形の削りだし材。中央部より一端に向かって細くなり、断面形が徐々に楕円型となる。表面は滑らか。	モミ属
355 1649	棒状木製品 用途不明	44.6+29.1+α×6.2×6.1	①-1 SD3003 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面多角形となり部分的に削り痕が残る。残存する木口は起始部からの削りがあり角状となる。先端部が細くなる形状であり、建築部材の可能性ある。	—
356 び632	棒状木製品 用途不明	156.4+α×4.0(径)	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面正円形の均一削りだし材。	モミ属
357 0973	棒状木製品 用途不明	152.0+α×3.6(径)	⑧ 地点不明	削りだし	一端の木口欠損	断面円形の大型削りだし材。残存する木口面は丸く、先端から1.6cm幅に圧迫痕がある。	—
358 0291	棒状木製品 用途不明	54.7×1.1(径)	⑥ SA4002 古墳前期	削りだし	ほぼ完存	断面は円形で全体はほぼ均一の形状となる。表面には明瞭な加工痕を残し、両木口は細かな削りを残し丸くなる。先端に使用の磨痕はない。	ネズコ
359 0277	筒状木製品 用途不明	38.7×2.6×1.6	④-3 水田層 古墳前期	削りだし	ほぼ完存	一端の木口は踵部からの削りにより緩く尖り、断面は径1.8cmの円形となる。ほぼ中央から断面が長楕円形状となり先端部は、丸く削りだされる。表面は滑らかである。	—
360 0276	筒状木製品 用途不明	10.6+α×2.4+α×1.6	④-3 水田層 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	断面は均整のとれた楕円形に削られ、表面は滑らかである。359と同一形態と考えられる。	—
361 び137	棒状木製品 用途不明	31.7+α×3.2(径)	⑤ SD1016	削りだし	両端木口欠損	断面は不正楕円形であり一端の木口寄りに垂直な切込みがある。表面は削り痕が顕著である。	カエデ
362 0283	用途不明	34.0+α×2.6×1.5	①-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口欠損	断面は長方形となりほぼ均一幅の板材。残存する木口は両木端からの削りにより尖る。	—
363 0236	棒状木製品 用途不明	28.8+α×0.9×0.7	④ SD3004 II 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	先端が削りだしによって尖っている。断面は不整形多角形であるが部分的に円となる。	ヒノキ
364 び76	用途不明 錐形か	26.2+α×2.4×1.1	⑤ SD1016 古墳前期	板目	一端の木口欠損	残存する木口面は錐状の削り方が作りだされ、断面形は楕円もしくは長方形となる。表面は滑らか。	クヌギ 属
365 0347	筒状木製品 用途不明	16.6×2.6×2.2	④ 水田層 古墳前期	削りだし	頭部/先端部 僅かに欠損	断面楕円形に削りだす。頭部は更に削り込み、不整形球状を作りだす。先端部は緩く尖る。	モミ属
366 び91	有孔棒 用途不明 柄か	14.6+α×3.0(径)	⑤ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端の木口には意図からの粗い削りがあり偏平に尖る。削り面に0.3cm角の方形小孔がある。もう一端の木口は炭化痕が残る欠損する。	ヤマギ 属

図版番号 整理番号	器 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
367 ビ 18	残物素材か 漆製木製品	5.9(平面径)×3.7	㊦ SD1016	削りだし	先端部/欠損	線条形状であり、先端部は欠損するもの出土時は削り痕が確認され、上面にも粗い削り痕を残す。側縁部断面は正円となり、表面は滑らかである。	コナラ 節
368 0352	棒状木製品	15.5+α×1.6(径)	㊦ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端を周縁数方向から単純な削りで尖らせている。部分的に削痕を残す。	クロモ ジ属
369-① 0302	鳥形木製品 胴部	37.9×8.1×0.95	㊦ SD3004 II 水田土手 古墳前期	板目	充存 369-②・369-③と組み合わせ	木表、木裏ともに縦方向の粗い加工痕が残る。胴部先端は木裏からの削りで台形状に作られる。先端部は尖らない。尾部木口には湾曲する浅い快込みがある。中央部に径1.1cm円孔、尾部左方向に径0.5cmの小円孔がある。中央円孔は軸部との隙れによる磨減痕が残る。	サワラ
369-② 0301-①	鳥形木製品 翼部	48.0×14.5×0.8	㊦ SD3004 II 水田土手 古墳前期	板目	充存 369-①・369-③と組み合わせ	平面台形となり翼縁は削りにより傾斜する。木表、木裏とも横方向の粗い加工痕が残る、ほぼ中央部に径1.2cm円孔、底辺左方向に径0.5cmの小円孔がある。中央部円孔には軸部が入れられて出土したためか磨減がある。	サワラ
369-③ 0303	鳥形木製品 軸部	13.7×2.0×1.4(胴部) 1.1(径)(差込部)	㊦ SD3004 II 水田土手 古墳前期	削りだし	充存 369-②・369-③と組み合わせ	胴部断面は不整形、挿入軸部は断面径1.0cmの正円形に削りだされている。挿入軸部には粗い削り痕が残る、下部木口から約4.0cm上に粗い削りによる浅い快込みがある。翼、胴部の接合部には明確な圧迫痕が観察される。	サワラ
370-① 0306	鳥形木製品 胴部	29.3×13.5×1.0	㊦ SD3004 II 水田土手 古墳前期	板目	充存 370-②と組み合わせ	胴部は両側縁からの削りにより尖り、尾部方向へ緩く外湾気味に広がる「ロケット形」の形状である。尾部木口には湾曲する浅い快込みがある。木裏に粗い削り痕が残る、中央部に径1.2cmの円孔、胴部寄りに2.2×1.5cm、尾部寄りに2.0×1.5cmの方形孔がある。方形孔は木表からの削りにより、頭部孔には磨減痕がある。	ヒノキ
370-② 0307	鳥形木製品 翼部	34.5+α×11.5×0.9	㊦ SD3004 II 水田土手 古墳前期	板目	木端の一部欠損 370-①と組み合わせ	木表の一部に粗い加工痕を残す。ほぼ中央部に節状の円孔がある。両側の木口は半分から斜めに削られ平面台形となる。	ヒノキ
371 0355	鳥形木製品 翼部	34.1+α×8.4×1.3	㊦ 地点不明 トレンチ	板目	一端の木口欠損	平面形状は台形で、木表面と残存する木口面に削り痕が残る。ほぼ中央に径0.7cmの小孔、短辺木端寄りに径0.4cmの孔がある。鳥形木製品の翼部としたが、異なる部材の可能性もある。	サワラ
372 0364	鳥形木製品 翼部	35.9×8.7×1.7	㊦ SD3012 古墳前期	板目	両側の木端部 部分的に欠損	平面台形となり、両側の木口は斜めに切断されている。中央部、片側の木口切断部に磨減痕が残る。底辺部片側あたり痕がある。鳥形としたが異なる部材の可能性もある。	ヒノキ
373 0390	竿	141.8×4.2(径)	㊦ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	充存	胴部は枝わかれした部分で、平坦に削られている。先端は数方向からの削りにより尖る。	-
374 0389	竿 鳥竿か	152.4×5.1(径)	㊦ SD3013 古墳前期	丸木 芯もち	充存	胴部は両側縁からの削りにより角を落とす平面台を作る。胴部中央部に径1.3cm、深さ約3.5cmの円形の快込みがある。先端は数方向からの削りにより尖る。枝打ち痕を随所に残す。	-
375 ビ179	削鞘	18.1+α×3.3×2.0	㊦ 1 SK242 古墳前期	削りだし 木皮	頭部/先端一 部欠損	幅0.5-1.0cmの断面が巻かれていた。一本の削りだし材を素材とし、半切りしたものを削る。断面紡錘形となり磨減部が環状に作りだされる。	-
376 0392	削鞘	26.3+α×3.6×2.0	㊦ SD3004 II 古墳前期	削りだし	削りだした木皮	断面楕円形の削りだしの木を半分削り溝を削りだしている。材質は削り込みによって環状に作りだす。片面内削りが深い。	サワラ サワラ
377 0308	横快み	10.7+α×1.1(径)線条部 1.0(径)芯部	㊦ SD3004 I 弥生後期	削りだし 木皮	線条部先端 欠損	基部断面は径1.0cmの円形に、線条部は楕円形に削りだされている。表面には粗い削り痕が残る基部先端に細くなる形状である。約3.0cmにわたり木皮巻きが残る。	カバノ キ属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
378 ピ 50	用途不明 形代か	11.9+α×2.8×0.8	⑦ SK2832 古墳前期	板目	一端の木の口欠損	断面は均一な扁平台形に削りだす。一端の木の口寄りに径0.4cmの小孔がある。残存する木口は斜めに削られる。片側の木端には数度の削りの切込み痕がある。	ヤブラ
379-① 0353	飾り弓	35.2+α×1.6×1.2	④ SD3004 I 古墳前期	板目	一端の木の口欠損	断面隅丸の方形に削りだし、両部方向に細くなる形状である。木口に平直面を作り、黒漆が塗られている。弓は断面円形に削りだしている。表面は極めて滑らか。	カバノ キ属
379-② 0354	飾り弓	40.6+α×2.3×1.3+α	④ SD3004 I 古墳前期	板目	両端の木の口欠損	断面隅丸の長方形に削りだし、木口に溝状の平直面を作りだされ、黒漆が塗られている。表面は極めて滑らか。	カバノ キ属
380 0212	飾り弓	41.5+α×3.2×2.2	④ SD3004 I 弥生後期	削りだし	一端の木の口欠損	両部は断面円形に削りだされ、圧迫されたあたり痕を残す。表面は滑らかで加工痕を残さない欠損部方向に細くなる形状である。弓としたが種の可能性もある。	ヤブラ
381 0394	弓	42.5+α×2.8+α×1.8	④ SD3004 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木の口欠損	湾曲する形状となり外湾面は平坦な削り痕が顕著に残り断面半円形となる。外湾面、削り痕を残す側面に細かな線状痕がある。弓は内湾面からの削りだして頭状となる。	スギ
382 0396	弓	58.0+α×3.5(径)	①-2 SD3004 弥生後期	削りだし	一端の木の口欠損	棒状の真つ直ぐな形状となり湾曲しない。削付近は半円形、中央部付近は円形に断面を削りだしている。弓は外面、側面から頭状に削りだされ、先端は丸く作りだされる。	-
383 0357	盾 赤彩板	56.3+α×11.6+α×1.7	④ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木の口のみ残存	残存する木口は丸みを帯びた直線に削られる。横並び7段の貫通小孔が19ヵ所、未貫通孔がまどまど3段15ヵ所ある。未貫通孔には木釘が残されているものもある。貫通孔を通して縦線が1条の他に3本の縦線が残る。赤彩は広範囲に確認され、未貫通孔には塗彩がない。	モミ属
384 0386	盾	45.8+α×9.2+α×2.1	④ SD3004 I 弥生後期	斜め	片側の木端のみ残存	残存する木端は平坦に削られ、台形の斜辺を作る平面形状となる。貫通小孔が横並び等間隔に3段9ヵ所、他3ヵ所の計12あり、未貫通孔が5段14ヵ所ある。未貫通小孔は斜め方向に穿たれている。	モミ属
385 0360	盾	29.4+α×12.4+α×1.7	④ SD3004 I 弥生後期	斜め	一端の木の口/片側の木端欠損	残存する木端は斜めに削られ、平面台形状となる。貫通小孔は横並びで1段4ヵ所、未貫通孔は貫通孔を挟み込む形で横並び各2段17ヵ所に残る。未貫通孔は斜めに穿たれている。	モミ属
386 0388	盾	44.7+α×8.8+α×1.6	④ SD3004 I 弥生後期	板目	片側の木端/一端の木の口のみ残存	未貫通の小孔が2つの罫まりをもって20ヵ所にある。小孔の規則性は不明。残存する木口、木端は丸く削られている。表面一部炭化痕が残る。	モミ属
387 0362	盾 赤彩板	60.6×5.5+α×1.8	④ SD3004 I 弥生後期	板目	両端木端欠損	木表面に部分的に赤彩が残る。縦列3ヵ所貫通する小孔があり孔上に距離が残る。貫通孔は全部で10ヵ所確認された。未貫通小孔は横並びで7段21ヵ所あり、斜め方向に穿たれている。両木口は丸く削りだされる。	モミ属
388 0380	盾 赤彩板 木釘	49.3+α×15.8+α×1.5	④ SD3004 I 弥生後期	板目	両端木口/両側木端欠損	木表に部分的に赤彩が残る。横並びに2段貫通小孔、未貫通小孔があり、外れた箇所貫通する孔が2ヵ所ある。未貫通孔1ヵ所に木釘が残存する。	モミ属 (カバノ キ属)
389 0391	盾	26.3+α×4.5+α×1.5	④ SD3004 I 弥生後期	斜め	一端の木の口のみ残存	残存する木口は丸く削られている。貫通する小孔が1ヵ所、未貫通孔が横並び4段9ヵ所にある。	モミ属
390 0310	盾 赤彩板	31.8+α×4.3+α×1.6	④ SD3004 弥生後期	板目	一端の木の口のみ残存	片面に加工痕と赤彩が残る。0.2cm大の貫通小孔が1ヵ所あり、貫通しない小孔が1ヵ所ある。	モミ属
391 0382	盾 赤彩板	23.4+α×8.5+α×1.1	④ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木の口のみ残存	表面数ヵ所に部分的に赤彩が残る。	モミ属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	附録
392 0309	甕 赤彩板	20.3+α×14.1×1.5	⑨ SD3004 弥生後期	斜め	一端の木口欠損	木表面に赤彩が部分的に残り、木表面の一部に削り痕が残る。木端は斜めに削られ木端断面が鋭角になる。0.2cm大の小孔が3ヵ所あり、欠損する木口には11ヵ所の小孔の痕跡を残す。	モミ属
393 0366	甕	12.0+α×9.2+α×1.4	⑨ SD3004 I 弥生後期	斜め	片側の木端が部分的に残存	貫通孔が横並びに7ヵ所確認される。木取り、残存形状から推定した。	モミ属
394-① 394-② 394-③ 0358	甕 木釘 #	64.3+α×18.5+α×2.0	⑨ SD3004 I 弥生後期	板目	片側の木端のみ残存 木釘残存	残存する木端は削りにより断面斜めになる。木端部に縦並び1列の貫通小孔が8ヵ所、中央部斜めに2ヵ所あり。未貫通孔は横並びに10段50ヵ所あり。木釘が28ヵ所に斜めに入り込んでいる状況が確認された。木表面下部付近に幅1.0cmのあたり痕が残る。	モミ属 キヤブ属 ミカド
395 0385	甕	34.2+α×5.8+α×1.3	⑨ SD4006 古墳前期	板目	両端木口/片側の木端欠損	断面長方形の均一な板材。片側の木端寄り1ヵ所の中央部2ヵ所に径4.0cmの小孔がある。	モミ属
396 0399	甕	35.4+α×5.5+α×1.4	⑨ SD3004 弥生後期	板目	周縁全て欠損	木面に軽い削り痕が残る。貫通小孔が2ヵ所、未貫通小孔が1ヵ所にある。残存する木端に木釘孔が1ヵ所認められる。木取り、孔から推定した。	モミ属
397 0395	甕	46.3+α×10.8+α×1.7	⑨ SD3004 弥生後期	斜め	木端の一部のみ残存	縦並びに貫通小孔が6ヵ所、木面に横並び3段の未貫通孔が7ヵ所、木面に横並び1段のみ貫通孔4ヵ所がある。残存する木端面は、斜めに削られている。	-
398 0381	甕	19.2+α×7.8+α×1.2	⑨ SD3004 I 弥生後期	板目	片側の木端のみ残存	未貫通の小孔が縦並びに11ヵ所確認される。残存する木口は斜めに削る。木取りなどから推定した。	モミ属
399 0398	甕	21.8+α×6.8+α×1.5	⑨ SD3004 弥生後期～	斜め	片側の木端一部残存	表、裏面の一部に削り痕が残る。貫通小孔、未貫通小孔が各1ヵ所にある。残存する木口は平坦に削る。木取り、孔の状況から推定した。	モミ属
400 0359	甕	30.6+α×6.6+α×1.8	⑨ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口のみ残存	残存する木口は外湾気味に削られ、木面に削り痕を残す。中央部に斜め方向に穿たれた貫通小孔が3ヵ所ある。	モミ属
401 1307	甕	28.5+α×6.4+α×2.0	⑨ SA4006 弥生後期～ 古墳前期	板目	一端の木口のみ残存 木釘残存	残存する木口面は平坦である。貫通する小孔が2ヵ所あるが本来は未貫通であったものと推定。未貫通小孔が8ヵ所ランダムにあり、4ヵ所に木釘が残存する。	モミ属
402 1302	甕	19.8+α×5.8+α×1.5	⑨ SA4002 古墳前期	板目	片側の木端のみ残存 木釘残存	残存する木端は断面斜めとなる。径0.3cmの貫通する小孔が2ヵ所、未貫通小孔が1ヵ所あり。貫通孔1ヵ所に木釘が残存する。	モミ属
403 0393	甕	17.0+α×5.3+α×1.7	⑨ SD3004 I 弥生後期	板目	周縁部欠損 木釘残存	貫通する小孔が1ヵ所、未貫通孔が2ヵ所ある。貫通孔の木表面に群集が残る。未貫通孔1ヵ所に木釘残存	モミ属
404-① 404-② 1301	甕 木釘	17.0+α×6.3+α×1.4	⑨ SD3004	板目	一端の木口のみ残存 木釘残存	残存する木口は木表面からの削りにより尖る。径0.3cmの貫通する小孔が4ヵ所、未貫通小孔が5ヵ所にあり、未貫通孔4ヵ所に木釘が残存する。	モミ属
405 0361	甕	58.2+α×11.2+α×1.7	⑨ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口/片側の木端欠損	木表面には削り痕が残る。別の部材をはめ込む幅2.0cmの溝が彫り込まれる。溝を挟んで2対4ヵ所に小孔がある。延長した縦列に貫通孔2ヵ所、未貫通孔が1ヵ所あり、深下7.0cmに溝と平行するあたり痕がある。残存する木端にも同様の溝とあたり痕がある。	モミ属
406 0383	甕	47.9+α×10.5+α×1.5	⑨ SD3004 I 弥生後期	斜め	片側の木端/一端の木口の一部残存	木表面には別の部材をはめ込む幅1.0cmの溝が上下2ヵ所に彫り込まれる。溝を挟んで斜め方向に小孔が1対ある。貫通小孔は溝と溝の間の中央部に3ヵ所、外に1ヵ所ある。	モミ属

図面番号 標榜番号	器 種	長さ×幅×厚さ(図)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	備 註
407 0384	盾	34.4+α×10.6×1.2	④ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口欠損	木裏には削り痕が顕著に残る。残存木口には木裏からの斜めの削りによる切断痕がある。縦並びに径0.4cmの小孔が2ヵ所ある。盾としたが異なる部材の可能性もある。	モミ属
408 0397	盾	37.4+α×8.1+α×1.5	④ SA4006 弥生後期-古墳前期	斜め	片側の木端/ 一端の木口欠損	表、裏面ともに粗い削り痕が残り特に木裏面に顕著である。木裏面中央部に削り込みによる段があり、残存する木口には斜めの削りによる切断痕が残る。貫通小孔、未貫通孔が各1ヵ所にある。盾としたが異なる部材の可能性もある。	モミ属
409-① 409-② 1304	盾 漆形板	48.9+α×12.3+α×1.9	①-2 SA3011 古墳前期	斜め	一端の木口のみ残存 木釘残存	木裏面の一部に赤彩がある。木面に削り痕が顕著に残り、残存する木端面は平直である。木裏面に径0.2~0.3cmの小孔が横並び8列に38ヵ所あり、内10ヵ所が貫通するが木表面の漆が働いて小さいことから全て未貫通の孔であったと推定した。12ヵ所に木釘が残存する。	モミ属
410 0606	盾	31.1+α×11.1×1.2	④ SD3004 I 弥生後期	板目	両端の木口/ 片側の木端の一部欠損	厚み1.2cmの均一な板材。両端は薄く削られ斜めとなる。木表に粗い削り痕が残る。両木端寄り2ヵ所に0.2cm径の貫通小孔がある。	モミ属
411 1305	盾	20.5+α×4.9+α×1.7	④ SA4011 弥生後期	板目	片側の木端のみ残存	残存する木は平直である。木表に径0.4cmの未貫通小孔が3ヵ所ある。一端の木口は炭化痕が残る。	モミ属
412 1310	盾	23.3+α×6.9+α×1.6	①-1 SD3004	板目	片側の木端のみ残存	残存する木端面は平直となる。木表面に未貫通小孔が2ヵ所ある。	-
413 0618	盾	55.1+α×11.9+α×2.5	④ SD3004 I 弥生後期	斜め	一端の木口/ 両側木端欠損	残存する木口は浅い湾曲形状となる。木表に粗い削り痕が顕著に残る。径0.1~0.2cmの小孔が4ヵ所ある。	モミ属
414 0659	盾	60.4+α×14.2×2.0	④ SA4006 弥生後期-古墳前期	斜め	両端木口欠損	片側の木端は断面垂直、片側は断面斜めとなる。表面には粗い削り痕が顕著に残り、部分的に幅2.0cmの交差する変色部がある(あたり痕)。径0.4cmの小孔の不規則に6ヵ所、径1.0cmの孔が木端寄りに1ヵ所ある。	モミ属
415 1303	盾 漆形板	50.0+α×17.3+α×1.8	④ SD3004	斜め	片側の木端のみ残存	木表面の広範囲に赤彩がある。木表には粗い削り痕が残る。残存する木端面は木裏からの削りにより厚くなる。径0.5cmの貫通する小孔が赤彩部分中に2ヵ所ある。	モミ属
416 1308	盾	19.2+α×7.9+α×1.3	④ SA4002 弥生後期	板目	一端の木口のみ残存	残存する木口面は平直である。径0.2cmの貫通する小孔が2ヵ所ある。	モミ属
417 0387	盾	27.5+α×3.7+α×1.3	④ SD3004 I 弥生後期	板目	肩縁部欠損	木表に粗い削り痕を顕著に残す。一端の木口寄りに径0.5cmの小孔がある。	モミ属
418 1309	盾	41.6+α×7.0+α×2.2	④ SD3004	板目	片側の木端のみ残存	木表に粗い削り痕が顕著に残る。残存する木端面は断面斜めの削りにより薄い。径0.3cmの貫通する小孔が2ヵ所縦列に並ぶ。	モミ属
419 0432	有孔板 用途不明	62.8+α×6.1×1.6	①-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口欠損 木皮残存	木裏に平直な粗い削り痕を顕著に残す。残存する木口寄りに幅0.8cmの浅い溝が彫られ樹皮が残る。周囲には7ヵ所に縦線孔がある。	-
420 0621	有孔板 用途不明	57.4+α×6.1×1.6	④ SD3004 I 弥生後期	板目	一端の木口欠損	残存する木口面は平直で木裏に斜めの削り痕が残る。この木口寄りに径0.2cmの小孔がある。	サワラ
421 1306	有孔板 用途不明	45.9+α×7.3×2.3	④ SA4006 弥生後期-古墳前期	板目	一端の木口欠損	木裏に粗い削り痕が残る片側の木端面が傾斜する断面形となる。残存する木口寄りに径0.2cmの小孔がある。	モミ属
422 0434	有孔板 用途不明	23.5+α×7.9+α×1.3	①-1 SD3004 古墳前期	板目	一端の木口/ 片側の木端欠損	均一な幅、厚みのある板材。残存する木口、両木端は平直に削られ、縁が丸く磨らかとなる。木端寄りに径0.3cmの小孔が2ヵ所斜めにある。	-
423 0437	有孔板 用途不明	25.5+α×6.4+α×1.1	④ SD3004	板目	一端の木口/ 片側の木端欠損	残存する木口、木端は平直に削られ、1ヵ所に径0.5cmの小孔が残存。	モミ属

図版番号 照会番号	器 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	附 属
424 1212	有孔板 用途不明	37.0+α×5.9+α×1.8	①-1 SD3004	板目	一端の木口の み残存	残存する木口には木表裏からの削りがあり突る み残存。木表に部分的な削りがあり、中央部に径0.4cm の小孔が2ヵ所にある。	—
425 0365	用途不明 部材か	52.8×18.9+α×2.7	⑤ SD3004 I 発生後期	板目	両側木端/ 一端の木口部分 的欠損	ほぼ長方形であり、残存する木口は表面からの 削りの方向の削りにより切断されている。片側 木口寄りに小孔があり、留め線の板痕残存。表 面は塗げによる変化が著しい。	モミ属
426 0431	用途不明 曲物か	56.9+α×9.5+α×1.4	①-1 SD3003 古墳前期	斜め	木端の一部残 存	木端が部分的に残りほぼ楕円形の平面形状と推 定される。木端寄りに2.5×1.5cmの楕円の孔が 確認されたが、欠損の可能性もある。	—
427 0433	用途不明	38.1+α×10.0+α×1.5	①-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口/ 片側の木端欠 損	均一な幅、厚みのある板材。残存する木口、両 木端は平坦に削られ、縁が丸く滑らかとなる。	—
428 0436	用途不明	30.9+α×7.7×1.7	①-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口欠 損	均一な幅、厚みのある板材。残存する木口、両 木端は平坦に削られ、縁が丸く滑らかとなる。	—
429 0442	用途不明	21.5+α×11.0×1.5	④ 水田層 古墳前期～	斜め	一端の木口欠 損	均一な幅、厚みのある板材。残存する木口、両 木端は平坦な削り。	ヤワラ
430 0429	腰掛け 指物	58.4×11.4×2.8	②-2 SD3004 古墳前期	板目	ほぼ完存 一端の木口の 一部欠損	両端の木口は丸みをもって削られ、5.0×2.5cm の楕円形板の柄杓が両端にある。柄杓を通る 形で木表には幅約3.5cmの脚部はめ込みのあたり 底が明瞭に残る。	モミ属
431 0626	用途不明 指物	59.5×18.2×3.0	⑤ SA 4011 発生後期	板目	ほぼ完存 一端の木口欠 損	4.0×3.0cmの柄杓が両端の木口寄りにあり、片 表面の一部欠損が残る。一端の木口寄りは木端か らの削りが残り台形となる。この削り面は新しく 本来は平面長方形の板材であったと推定され る。	クヌギ 部
432 0603	柄 指物	33.5×20.2×2.4	⑤ SD3004 II 上層 古墳前期	斜め	ほぼ完存 乾燥による歪 み	平面台形の板材。片側の木端中央部を削り、半 円形の袈刈を作る。両木端は斜めに削られてい る。	ヒノキ
433 1622	部材 指物	43.2+α×6.8×2.5	①-1 SD3003 古墳前期	板目	一端の木口欠 損	残存する木口は木表裏からの削りにより突る。 木口下には両木端からの削りがあり、平面台形 状となる。台形の中央部に2.3×1.0cmの長方形 柄杓があり、下部に2.3cm幅のあたり底が残る。 指物の部材。	ヤワラ
434 1201	用途不明 部材	44.3+α×4.7×3.0	①-2 SA3004 古墳前期	削りだし	一端の木口欠 損	断面不整形長方形の削りだし材。残存する木口面 は平坦に削り、木表からの削り底が残る。片側 木端に切込みがある。	モミ属
435 0435	用途不明 部材	27.1+α×5.5×2.3	①-2 SD3004 古墳前期	板目	一端の木口欠 損	均一な幅、厚みのある板材。残存する木口には 両木端からの削り底がある。頭部があった可能 性もある。	—
436 1614	用途不明 有孔板	33.6+α×7.8×2.0	⑤ SD3004	板目	一端の木口/ 片側の木端欠 損	残存する木口、木端面は平坦となる。中央部に 径0.8-1.2cmの楕円形孔が2ヵ所にある。	モミ属
437 1672	用途不明 部材か	20.0+α×6.2×1.5	⑤ SD3003 古墳前期	斜め	一端の木口欠 損	均一な厚さの長方形板材。残存する木口、木端 面は木表からの削りにより断面が傾斜する形状 となる。表面は滑らか。	モミ属
438 1298	用途不明	20.8+α×3.2+α×1.1	⑤ SD1016 古墳前期か	板目	片側の木端の み残存	断面均一な厚みをもつ板材。残存する木端は木 口に向かい緩やかに湾曲する平面形状に削る。	ヒノキ
439 0127	用途不明 部材	47.8+α×4.9+α×1.4	①-1 水田層 平安	板目	一端の木口/ 片側の木端欠 損	不整形の結孔が2ヵ所、方形の孔が2ヵ所残 存。結孔2ヵ所は横位置にやや近い。厚み、断 面形状から田下敷としたが異なる部材の可能性 がある。	ヤワラ
440 1213	用途不明 部材	38.4+α×5.6+α×1.9	①-1 SD3003 古墳前期	斜め	一端の木口/ 片側の木端欠 損	残存する木口面は木表からの削りで斜めとなる。 1.7×1.2cmの長方形柄杓が2ヵ所にある。	—

図版番号 発掘番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
441 0446	棒状木製品 用途不明	55.3+α×3.2×2.2	⑨ SA4011 弥生後期～	削りだし	一端の水口欠損	断面形状もしくは楕円形に削りだされ残存する木口は斜めに削られている。木口寄り1.5×0.5cmの方形の孔、幅1.0cmの長方形の狭込みがある。	モミ属
442 0441	棒状木製品 用途不明	42.5+α×2.1+α×1.7	⑨ SA3514 I 弥生前期～古墳前期	削りだし	一端の水口/片側の木端欠損	断面三角形に削りだされる。残存する木口には斜めの削りがあり、1.0cm角の方形孔が残る。	カヤ
443 0227	用途不明 部材	39.9×6.9+α×1.9	⑩-1 SC3001 平安水田畦畔	板目	片側の木端欠損	木端無縁部及び両端木口には削り痕が残る。2.0×1.5cmの長方形の孔が2カ所、径0.8cmの円形の孔が2カ所に残る。部材の可能性はある。	サワラ
444 0229	有孔板 用途不明	37.4×5.7+α×1.9	⑩-1 SC3001 平安水田畦畔	板目	片側の木端欠損	ほぼ中心部の1カ所に径0.4cmの孔が残り、欠損する木端3カ所に同様の孔が残る。両端の木口には切断痕が残る。	モミ属
445 0225	有孔板 用途不明	37.4×5.1+α×1.5	⑩-1 SC3001 平安水田畦畔	板目	片側の木端欠損	ほぼ中心部の1カ所に径0.4cmの孔が残り、欠損する木端3カ所に同様の孔が残る。両端の木口には切断痕が残る。	モミ属
446 0412	有孔板 用途不明	22.4×11.0+α×1.2	⑩ SD3004 II 古墳前期	板目	片側の木端の一部欠損	表裏面、木端とも粗い削り痕が顕著に残る。一端の水口寄りの中央に1カ所、約1/3の位置に對になるように2カ所、径0.3cmの小孔がある。	カヤ
447 0439	用途不明 曲物底板か	27.5+α×8.3+α×1.1	⑩ SD3004 上層 古墳前期	斜め	一端の水口のみ残存	残存する木口に削り込みによる段が作りだされカキ底状となる。層積部は炭化痕が残る。曲物底板の一部か。	グリ
448 0217	有孔板 用途不明	16.1+α×5.3+α×1.0	⑩ 水田野 古墳前期	板目	両端の木端の一部/一端の水口欠損	残存する木口は丸く削られている。木口寄り2カ所に0.8cm角の方形孔が残る。	-
449 0213	有孔棒 用途不明	26.2+α×2.8×2.0	⑩ SD3004 I 弥生後期	斜め	両端木口欠損	一端の水口寄りに径0.3cmの小孔が2カ所ある。中央付近には木炭、片側の木端に圧迫されたあたり痕が残る。	モミ属
450 0234	有孔棒 用途不明	16.2+α×2.9×1.1	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	両端木口欠損	中央部に径0.3cm不整形の孔が2カ所ある。片側の木端に段を作るか摩滅のため加工痕不明瞭。	クヌギ 類
451 0405	把手付き 用途不明	22.5+α×12.4+α×6.6	⑩ SD3004 II 古墳前期	板目	握み部約1/3 端欠損	板材に断面楕円形の把手状の作りだしがある。小孔の形状の部材の可能性はある。	モクレン属
452 ビ63	用途不明 部材	6.5+α×8.9×2.3	⑦ SD1016 古墳前期	板目	一端の水口欠損	表面が削りだされ断面は扁平な形となる。裏面には段があり幅0.4cmの縁帯がある。滑らかな表面であり部材の一部の可能性はある。	-
453 ビ153	用途不明 把手か	12.7×2.9×2.7	⑦ SK1084 中世	斜め	ほぼ完存	角材を素材として、木口、木端の角が削り落とされている。両端木口寄りに径0.6cm×2.0cmの不整形孔がある。釘留めの織造材の一部。	-
454 ビ141	用途不明 底板か	2.4+α×1.0×0.3	⑦ SK1084 中世	板目	コーナー部分 破片	木口、木端には斜めの削りが残る。561・557と同製品か。	サワラ
455 0350	木札状木製品 用途不明	23.7×2.5×0.4	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	木端の一部欠損	均一な幅、厚みをもつ板材で表面は滑らかである。両端の水口寄りに小孔があり、縦じ紐として木皮が残存する。木皮は縮まった状況で残っている。	サワラ
456 305	木札状木製品	28.3×4.1×0.4	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	ほぼ完存 木端の一部僅かに欠損	均一な幅、厚みの板材でやや蛇行する形状となる。両木端からの削りにより三角形の狭込み、一端木口寄りに径0.5cmの小円孔がある。	サワラ
457 304	木札状木製品	25.9×3.8×0.4	⑩ 水田野 古墳前期	板目	完存	均一な幅、厚みの板材で表面に加工痕を残す。一端木口寄りに径0.5cmの小円孔がある。	ヒノキ科
458 0356	木札状木製品	26.2×3.7×0.6	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	ほぼ完存 一端の水口の一部欠損	均一な幅、厚みの板材で、両木口が丸みをもって削られている。ほぼ中央部に0.8×0.5cmの方形の孔、一端の水口寄りに径0.5cmの小孔がある。	サワラ
459 0351	木札状木製品	17.2+α×3.2×0.9	⑩ SD3004 II 古墳前期	板目	両端木口欠損	一端の水口寄りに径0.5cmの円孔がある。断面長方形の均一な板材である。	サワラ
460 0349	筒状木製品 用途不明	13.6+α×3.4×0.5	⑩ SD3004 I 弥生後期	板目	両端木口欠損	平面はスプーン形状となり両木端に削り痕が残る。表面は滑らか。	スギ

図説番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(器) 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
461 1214	木札状木製品	13.8×5.8×0.7	④ 水田層 古墳前期	柱目	ほぼ完存	両端木口は湾曲形状となり、平面分割形となる。片側の木端僅かに欠損	—
462 0502	整筒	2.3+α×2.6+α×0.3	④ 水田層 古墳前期		筒部欠損	表面に黒漆が施されている。筒は13本2単位のムネ部のみ残存	—
463 ビ180	整筒	8.5+α×2.4+α	⑦ SD1016 古墳前期		筒部の一部欠損／乾燥による破損、歪	ムネ部には黒漆が残存、12単位24本の筒が残る。筒間は1.0cm幅の扁平である。	—
464 0501	髹状木製品	14.3×0.9×0.4	④ 水田層 古墳前期		胴部の一部欠損	胴部は主頭形に削り、両木端に湾曲の伏込みを2段入れている。先端部は扁平になる。胴縁部に赤漆が塗られていた痕が残る。	ヒノキ
465 0348	琴	30.0+α×6.5×1.4	①-2 SD3004 弥生後期～	板目	突起部の一部／琴尾部分欠損	断面は扁平な薄板形であり、表面は平坦。突起部を欠損し4（5か）つの突起であったと思われる。頭部付近には部分的に赤色が確認された。	サワラ
466 466-①② 048-①②	琴	39.6+α×9.8+α×1.8 53.0+α×9.4+α×1.4	④ SD3004 I クランク下部 弥生後期	板目	片側の木端／一端の木口欠損	突起部が3つ残存。琴頭先端から12cm琴尾寄りの木端に浅い溝状の削りがある。この溝を狭め込むように10か所ほど削り込みの削り込みが認められた。突起部作りだし部に3か所未貫通の小孔がある。	サワラ
467 0315	葺串	27.5+α×1.9×0.7	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部の一部欠損	胴部は両木端の切断によって主頭形となる。頭部下の両木端に頭部方向から5か所切込み羽状の削り痕を残す。先端は削りにより鋭く外湾して尖る。	モミ属
468 312	葺串	28.9+α×2.0×0.4	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	先端部欠損	胴部は両木端からの削りにより主頭形となり、先端部は両木端からの削りにより鋭く外湾して尖る。木口に削り痕が残る。	ヒノキ
469 0317	葺串	33.3+α×2.0×0.5	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	先端部／両端木端欠損	胴部は両木端からの切断によって主頭形となる。先端部は両木端からの削りにより鋭く外湾して尖る。木口に削り痕が残る。	ヒノキ
470 0316	葺串	32.9+α×1.9×0.6	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部／先端部の一部欠損	胴部は主頭形。先端部は両木端からの削りにより尖っていたと推定される。頭部下の両木端に頭部方向から4～5か所、先端方向から6～7か所切込みがあり羽状の削り痕を残す。表面は削り取りのままである。	ヒノキ
471 0314	葺串	23.4+α×2.0×0.4	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	先端部欠損	胴部は両木端の切断によって主頭形となる。表面は削り取りのままである。	ヒノキ
472 0337	葺串	6.9+α×1.5+α×0.5	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	両端木口／片側の木端欠損	残存する木端には胴部方向から11か所に切込みがあり、羽状の削り痕を残す。	—
473 0331	葺串	13.1+α×0.9×0.6	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	先端部辺の一部欠損	胴部は表面からの削りにより主頭形となる。先端方向に幅が僅かに狭くなる。	ヒノキ
474 0340	葺串	3.2+α×1.4×0.3	①-2 SC3002 平安埴埴峠	斜め	頭部残存	胴部は両木端からの切断により主頭形となる。表面は削り取りのままである。	—
475 319	葺串	8.4+α×1.4×0.1	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部残存	胴部は両木端からの切断によって主頭形となる。表面は削り取りのままである。	サワラ
476 320	葺串	13.6+α×3.9×0.6	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部の一部残存	胴部は両木端からの削りにより主頭形となる。表面は削り取りのままである。	サワラ
477 311	葺串	27.3+α×1.8×0.5	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部欠損	先端部は両木端からの削りにより鋭角に尖る。表面は削り取りのままである。	サワラ
478 0321	葺串	27.4+α×2.1×0.4	①-2 SC3002 平安埴埴峠	板目	頭部欠損	先端部は両木端の切断によって鋭く尖る。表面表裏ともに鈍角もしくは螺旋状に描かれた墨書が残る。	サワラ
479 0327	葺串	8.5+α×2.0×0.3	①-2 SC3002 平安埴埴峠	斜め	両端木口欠損 頭部方の一部残存	両木端には数か所に先端方向からの切込みによる羽状削りを入れていた痕跡を残す。片面に墨書が残る。「」	ヒノキ

図版番号 照像番号	器種	長さ×幅×高さ(深) 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	副種
480 0323	甬串	13.1+α×1.9×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	先端部残存	先端部は両木端からの削りにより鋭く外湾して尖る。木表に削り痕が残る。	サワラ
481 0338	甬串	6.6+α×1.6×0.6	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	残存する両木端には頭部方向から数カ所に切込みがあり、羽状の削りの痕を残す。	-
482 0330	甬串	9.5+α×1.5×0.7	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	先端部一部残存。両木端からの削りにより尖っていたと推定される。	モミ属
483 0344	甬串	12.7+α×1.8×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	表面は削り取りのままである。	サワラ
484 0343	甬串	14.5×1.5×0.5	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	ほぼ充存 舞踏の一部欠損	両端の木口は対照的に片側の木端から斜めに切断され、頭部、端部とも片側の木口が尖る同一の形状となる。表面は削り取ったままである。	サワラ
485 313	甬串	13.4+α×2.7×0.8	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	頭部欠損	先端部は片側の木端から鋭く斜めに切断し尖る。	サワラ
486 0339	甬串	5.7+α×0.8×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	頭部欠損	先端部は片側の木端から鋭く斜めに切断し尖る。表面は削り取り。	-
487 0334	甬串	6.5+α×1.4×0.6	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	一端の木口欠損	頭部は斜めに切断され一端は尖る形状となる。表面は削り取りのままである。	-
488 0329	甬串	14.6+α×1.5×0.2	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	先端部/片側の木端欠損	先端部は切断によってやや斜めの直頭形となる。中央部に小孔があった痕跡を残す。	-
489 0322	甬串	6.2+α×1.7×0.4	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	頭部残存	頭部は削りによって直頭形となる。頭部下側面に三角形の切欠きがある。(筒孔形) 片面に削り痕を残す。	モミ属
490 0333	甬串	6.5+α×1.9×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	頭部残存	頭部は切断により直頭形となる。表面は削り取りのままである。	トウヒ属
491 0326	削り屑 甬串か	7.4+α×2.3+α×0.6	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	一端の木口/ 片側の木端欠損	両端の木端に斜めの削り痕が残る。縦断面は平行四辺形となる。	キブシ
492 0367	馬形	21.3×2.3×0.4	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	充存	舞踏が切込まれ、頭部、口、尾部、鞍部が作りだされる。頭部には両面に鼻、目が削り込まれている。また両面頭部には足を蓋込んだ斜めの切込みが4カ所残る。	ヒノキ
493 0328	馬形	7.0+α×2.2+α×0.4	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	片側の木端一部/ 一端の木口欠損	残存する木端に削り痕が残る。頭部は尖り面に小孔状の形込みがある。	ヒノキ
494 0335	甬串	11.0+α×1.4×0.6	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	破片のための形状不明。表面は削り取りのままであるが、片側の木端に段をもち。	-
495 0325	馬形	11.2+α×0.6×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	先端部の一部残存	先端部の片側木端のみ残存。削りにより尖る。	-
496 0332	甬串	9.2+α×2.1×0.4	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	破片のための形状不明。表面は削り取りのままである。表蓋両中央部に魚げの痕がある。	モミ属
497 0324	甬串	5.7+α×1.8×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	表面は削り取りのままである。	マツ属
498 0336	甬串	9.5+α×1.8×0.6	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	破片のための形状不明。表面は削り取りのままである。	-
499 0318	甬串	5.6+α×1.7×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	両端木口欠損	表面は削り取りのままである。	-
500 0341	甬串	4.9+α×1.3×0.5	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	破片	破片のための形状不明。	-
501 0345	馬形	4.2+α×0.5×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	破片	破片のための形状不明。	-
502 0342	甬串	2.9+α×1.5×0.3	①-2 SC3002 平安坪境畦畔	板目	破片	破片のための形状不明。	-
503 0377	小刀状木製品 形代か	11.7+8.4+7.6+α× 2.2×1.5	⑨ SD3006 I 中世	削りだし	一端の木口欠損 3破片	断面刀形に削りだし、先端及び片側の木端を削りによって小刀状に作りだしている。表面は滑らか。	カバノ キ属

図版番号 整理番号	器 種	長さ×幅×高さ(径) 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
504 0378	用途不明 銅形か 削り屑か	20.1×3.0×1.2	㊦ SD3006 I 中世	斜め	完存	縦断面は先端先細りの形状となり、表裏面に粗い削り痕が残る。頭部は斜めの削りによる切っ痕がある。形代としたが削り屑の可能性あり。	ヒノキ
505 0368	用途不明	10.2+α×1.4×0.9	㊦ SD3006 II 中世	削りだし	一端の木口欠損	断面三角形に削りだし残存する木口を削りにより小刀状に作りだしている。503と同一器種。	-
506 0369	呪符木簡	25.1×4.9×0.7	㊦ SD3006 II 中世	板目	ほぼ完存	頭部は丸く切斷され、虫頭形に近い形状となる。裏面には斜めの線状痕が多数残る。 墨書残存 □□□□■ 西 □□□□■ 急難如律令	サワラ
507 0370	呪符木簡	24.9×4.6×0.5	㊦ SD3006 II 中世	板目	ほぼ完存	頭部は丸く切斷され、虫頭形に近い形状となる。 墨書残存 □□鬼鳥 北 □□鬼 急々如律令	ヒノキ
508 0373	呪符木簡	20.7×3.6+α×0.3	㊦ SD3006 II 中世	板目	片側の木端欠損	両側の木口は切斷され直線となる。 墨書残存 「鬼！」	サワラ
509 0371	呪符木簡	25.2×5.0×0.4	㊦ SD3006 II 中世	板目	完存	頭部は丸く切斷され、虫頭形に近い形状となる。 墨書残存 「□ □□□■ 南カ ■ □□□■ 急難如律令」	サワラ
510 0372	呪符木簡	25.0×4.6×0.6	㊦ SD3006 II 中世	板目	頭部の一部欠損	頭部は丸く切斷され、虫頭形に近い形状となる。 墨書残存 「天羅羅」	サワラ
511 0376	呪符木簡	8.9+5.3+α×2.2+α×0.35	㊦ SD3006 II 中世	板目	端部/墨書部の一部残存	墨書残存 「 ■」	ヒノキ
512 0375	呪符木簡	4.9+α×1.0+α×0.3	㊦ SD3006 II 中世	板目	頭部近くの一部分が残存	墨書残存 「 □□□□」	ヒノキ 科
513 0374	呪符木簡か	5.0+α×2.5+α×0.25	㊦ SD3006 II 中世	柱目	一端の木口欠損	平面三角形で、頭部は両側面からの切込みにより筒状形状となる。墨書なし。	-
514 0403-㊦ 0403-㊧	樽 列物	44.9+α×35.6+α×2.8 36.6+α×12.9+α×3.1	㊦-1 SD3003 古墳前期-中期	板目	約1/3残存	樽形状となり、残存する頭部に外湾する把手状の削りだしがある。内面一部に蝕による削り痕が残る。内面底に炭化痕がある。	ケヤキ
515 ビ114	樽 列物	7.1+α×4.4+α×3.0	㊦ SD1016 古墳前期		破片	樽湾曲部の破片。全形不明。	カツラ
516 0438	方形盤 列物	29.1×12.5×3.1	㊦ SD3004 溝底 弥生後期	柱目	ほぼ完存 一端の木口僅かに欠損	平面長方形の板材で一端の木口には切斷の粗い削り痕が残る。中央部は粗い削りか痕害に残り板状に窪む。器蓋とした。	クリ
517 0430	罎皿 列物	8.7(口径)×6.6(底径)× 1.1(器高)	㊦ SD3006 I 中世		ほぼ完存 口縁一部欠損	器厚は0.3cmと極めて薄く、底を除く全てに黒漆が残る。	バナナ
518 ビ13	曲物 底板	23.5(径)×1.7	㊦-2 SK2254 中世(井戸)	板目	ほぼ完存	周縁部は平坦に削られ、木釘孔が8カ所あり内3カ所には木釘が残る。片面に塗げによる炭化痕があり窪みとなる。519の底板。	ヒノキ
519 ビ17	曲物 側板	24.0(径) 11.0+α(幅)×1.2	㊦-2 SK2254 中世(井戸)	柱目	上下の木端欠損	内面に縦平行線のケビキを8条残す。縦じ合わせは1カ所で2段確認される。518の側板。	ヒノキ
520 ビ19	曲物 蓋板	20.7(径)×1.1	㊦ SK1084 中世(井戸)	柱目	ほぼ完存	周縁部は平坦に削られ、内面の角に丸みがある。内面に刃物による線状痕が残る。	ヒノキ
521 ビ32	曲物 底板 木釘	17.8(径)×1.2	㊦ SK2645 中世(井戸)	板目	完存	クレ底であり周縁に側板を留めた木釘痕が4カ所あり内2カ所木釘が残る。裏面に線刻による「田」の文字があり、周辺には刃物による線状痕が残る。	サワラ スギ
522 ビ26	曲物 底板	21.5(径)×1.3	㊦-1 SK2193 中世(井戸)	板目	ほぼ完存	クレ底となり周縁には11カ所の木釘孔があり3カ所に木釘が残る。	サワラ
523 ビ51	曲物 底板 側板	21.5(径)×1.7	㊦-2 SK2289 中世(井戸)	板目	完存	クレ底となり周縁は炭が付着する。木釘孔が22カ所ある。	サワラ ヒノキ

図版番号 観察番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
524 ピ08	曲物 底板 木釘	20.5(推定径)×0.9	⑤ 地点不明	柱目	一部欠損 側板の一部 残存	周縁部には削り痕が残る。木釘孔が2カ所あり1カ所には木釘が残る。表裏面とも刃物による線状痕がある。クレ底。	ヒノキ ヒノキ
525 ピ09	曲物 蓋板	18.7(径)×1.6	⑦ SK2642 中世(井戸)	板目	縁辺の一部欠損 破断による歪	周縁部は平坦に削られ滑らか。一部縁辺が片面に傾斜する断面形状である。木端に目釘孔は認められなかった。	ヒノキ
526 ピ158	曲物 側板	21.0(径)×11.0(器高)	⑤-1 SK1066 中世(井戸)	柱目	表面/木端磨減	依存状態が悪く、線紋等が残されていなかった。527の側板。	-
527 ピ158	曲物 底板	18.5(径)×1.0	⑤-1 SK1066 中世(井戸)	板目	ほぼ完存 乾燥による歪	クレ底となり側面に、6カ所の木釘孔があり2カ所に木釘が残る。526の底板。	-
528 ピ27	曲物 蓋板	19.3(推定径)×1.1	⑦ SK1088 中世(井戸)	柱目	約1/5欠損	周縁部には削り痕が明確にある。片面に刃物による線状痕があり、片面には点線状のあたりがある。	ヒノキ
529 ピ15	曲物 底板	32.2(推定径)×1.7 8.7(残存幅)	⑦ SK1088 中世(井戸)	板目	一端の木口僅かに欠損/底板約1/2残存	平円の板材を連結した底板である。連結木端には3カ所に木釘孔があり2カ所に脚状の木釘が残る。周縁部に8カ所に木釘孔があり3カ所に木釘がある。	サワラ
530 ピ20	曲物 底板	8.6(径)×0.6	⑤-2 SK2254 中世(井戸)	柱目	ほぼ完存 周縁部僅かに欠損	周縁部は平坦に削られ、目釘孔はない。	ヒノキ
531 ピ14	曲物 底板	7.6(径)×1.3	⑤ SD1008 中世	板目	ほぼ完存	周縁部には明確な削り痕が残る平坦面を作る。縁辺の断面は片面にやや傾斜する形状である。	クスギ 節
532 ピ427	曲物 蓋板	21.2(推定径)×1.2 6.2(残存幅)	④ 水田層 平安	板目	約1/2残存	周縁部を丸く削りだす。縁辺断面はやや傾斜がある。	ヒノキ
533 ピ145	曲物 底板 側板	8.8(径)×0.6	⑤-1 SK2024 中世(井戸)	柱目	残存	周縁部は平坦に作りだした削り痕が残る。クレ底となる。小版片で側板も供伴した。(側板は樹種のみ)	-
534 ピ73	曲物 底板	6.5(径)×1.5	⑦ SD1008 中世	板目	完存	平面形は隅丸方形となる。クレ底で側縁には木釘孔が3カ所あり、2カ所に木釘が残る。	-
535 ピ415	曲物 蓋板	18.2+α×5.7+α×0.9	④ SD3006II 中世	斜め	一端の木口僅かに欠損	残存する木口は丸く削る。内面に花模様焼き印が残る。外面には刃物による線状痕が残る。	ヒノキ
536 ピ75	曲物 底板 転用材か	22.6+α×6.2+α×0.9	⑤ SD1008 中世	板目	一端の木口/片面の木端欠損	残存する木口は木表側からの削りで平坦。木表には刃物による線状痕がある。底板転用と推定され、木表には細かな削り、木口寄りに0.3cm角の小孔がある。炭化痕が部分的にある。	サワラ
537 ピ31	曲物 底板	16.6(推定径)×1.0 4.9(残存幅)	⑦ SK2645 中世(井戸)	板目	両端木口残存	クレ底であり側縁に1カ所目釘孔を残す。	ヒノキ
538 ピ417	折敷 底板	27.7×11.4+2.9+2.1+ α×0.6	④ SD3006II 中世	斜め	片側の木端欠損	周縁部に4カ所2～3対の粗紐じ結合の孔がある。両木口0.5cm内側には幅0.2cmの脚板のあたり痕が残る。	ヒノキ
539 ピ416	折敷 蓋板か	27.2×19.2+α×0.9	④ SD3006II 中世	斜め	両端木端欠損	3枚の板からなる。木口の角を丸く削る。表裏面とも刃物によるランダムな線状痕が残る。	ヒノキ
540 ピ420	折敷 蓋板か	26.5+α×6.0+α×0.6	④ SD3006II 中世	斜め	一端の木口/片側の木端欠損	残存する木端は中央部がやや膨らみ形状となる。表裏面とも刃物による線状痕が残る。	ヒノキ
541 ピ423	折敷 側板	19.5+α×3.7+α×0.5	④ SD3006II 中世	柱目	一端の木口のみ残存	平面、側面ともに直線をなす。目釘孔が1カ所ある。	サワラ
542 ピ424	折敷 側板	17.2+α×5.2+α×0.4	④ SD3006II 中世	柱目	一端の木口/片側の木端欠損	平面、側面ともに直線をなす。目釘孔が2カ所ある。	ヒノキ
543 ピ418	折敷 側板	13.0+α×1.0+α×0.3	④ SD3006II 中世	柱目	木口の一部残存	側板との粗紐じ結合の孔が2カ所残存。	-
544 ピ419	折敷 側板	7.7×2.5×0.5	④ SD3006II 中世	柱目	片側の木端の一部欠損	頭部は切断により直頭形となる。頭部下に両木端からの切欠きがある。	ヒノキ
545 ピ421	折敷 側板	10.8+α×2.2+α×0.5	④ SD3006II 中世	柱目	片側の木端のみ残存	平面、側面ともに直線をなす。目釘孔が1カ所ある。	ヒノキ

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
546 0413	折敷 蓋板か	28.5+α×5.3+α×1.0	㊸ SD3006 I 中世	柱目	片側の木端欠損	周縁は内、外面からの削り痕跡が残る。コーナ ーを深く切り込む装飾がある。内面は外縁ミ リ幅で縁取りし壁が厚き立つ削りがある。外面 には刃物による縁状痕が水平に残る。	ヒノキ
547 0414	折敷 蓋板か	26.3+α×5.0+α×1.0	㊸ SD3006 I 中世	柱目	片側の木端欠損	周縁は内、外面からの削り痕跡が残る。コーナ ーを深く切り込む装飾がある。内面は外縁ミ リ幅で縁取りし壁が厚き立つ削りがある。外面 には刃物による縁状痕が斜めに残る。	ヒノキ
548 ビ21	曲物 底板	16.6(推定径)×0.6	㊸-2 SK2064 平安	柱目	周縁の一部欠損 木皮残存	周縁部に段を削りだしたカキ底となる。4カ所 に銜板を結合した木皮がある。表面面に刃物 による縁状痕が残る。	ヒノキ 科
549 ビ71	曲物 底板	27.7+α×7.5+α×1.3	㊸ SD1008 中世	板目	周縁の一部残存	クレン底となり残存する側縁部には削りが残る。 木表に刃物による縁状痕がある。	-
550 0410	曲物 底板	10.2+α×5.8+α×0.6 19.2(推定径)	㊸ 水田層 平安	柱目	約1/4残存	乾燥のためか、薄く器厚であり、カキ底となる が、銜板との接合部の段差が小さい。	ヒノキ
551 0428	曲物 底板	44.3+α×4.3+α×1.3	㊸ 水田層 平安か	板目	両端木端欠損	残存する木口はカキ底に削られ幅広の段を作る 一端の木口寄りには小孔が2カ所ある。木裏側 (内面)に刃物による縁状痕が残る。	ヒノキ
552 ビ30	曲物 蓋板 木釘	23.6(推定径)×1.2	㊸ SK2645 中世(井戸)	斜め	縁辺の一部欠損	中央部に径0.8cmの円孔に推し込みがはめ込まれ ている。外側には幅3.5cmのあたり板があり小 孔が5カ所、内1カ所のみ貫通する。板状の把 手が留められていたものである。直線をなす木 口には木釘が3カ所残り欠損部を連結した蓋板 である。表面は煤で黒い。周縁の断面は内面に 傾斜する。	ヒノキ ヒノキ
553 0409	曲物 有孔板	17.3(推定径)×1.0	㊸ 水田層 平安	柱目	約1/4残存	周縁部は断面斜めに削られ、ほぼ中央に径約 1.5×3.0cmの不正形円孔がある。	ケヤキ
554 0404	曲物 底板樟皮紐 付き	61.4+α×11.8+α×1.5	㊸ SD3003 上層 古墳中期	斜め	片側の木端欠損 木皮残存	長方形の平面形状でカキ底。縦横比結合であり 木皮残存。縦横比の他に小孔が1カ所、 2.0×1.5cmの方形の孔が中央部にある。後者の 方形孔は転用の可能性もある。	-
555 0426	曲物 底板	32.2+α×9.7+α×1.4	㊸ 水田層 平安	板目	一端の木口のみ残存	残存する木口はカキ底となり、小孔が4カ所 ある。外面には外翼と平行する縁状痕がある。	ヒノキ
556 0443	用途不明	21.7+α×2.1+α×1.5	㊸ SA3101 古墳前期	柱目	木口の一部残存	均一な幅、厚みに削りだされ、片側の木端には 双円状に両端する狭込みがある。	サワラ
557 ビ142	折敷 蓋板	7.7+α×5.5+α×0.8	㊸ SK1084 中世(井戸)	柱目	一端の木口/ 片側の木端欠損	残存する木口、木端は水平に削られ、内側に径 0.3cmの樟皮留の小孔が3カ所ある。並列する 小孔の内面に幅0.2cmの銅板のあたり板が残る。 表面には刃物による縁状痕がある。	ヒノキ
558 ビ59	折敷 底板	21.2×9.2+α×1.0	㊸ SD1008 中世	斜め	木端の一部欠損	一端の木口が水平、もう一端が内湾する形状と なる。木口寄りに3カ所、中央部に1カ所0.3 cmの小孔があり、2カ所に樟皮孔と押紐がある。 木裏には幅1.5cmのあたり板がある。	-
559 ビ103-2	曲物 銅板か	32.3+α×6.0×1.1	㊸-1 SK1020 中世	柱目	両端木口欠損	厚さ1.2cmの均一板材。両木端は平坦に削られ 表面は滑らか。560とは接合しないが同一の材 とした。	-
560 ビ103-1	曲物 銅板か	22.8+α×5.4×1.2	㊸-1 SK1020 中世	柱目	両端木口欠損	厚さ1.2cmの均一板材。両木端は平坦に削られ 表面は滑らか。559とは接合しないが同一の材 とした。	-
561 ビ140	折敷 底板	8.4+α×1.9+α×0.6	㊸ SK1084 中世(井戸)	板目	一端の木口/ 残存の片側木 端欠損	残存する木口は水平に削られ、内側に径0.3cm の樟皮留の小孔がある。木端は木表から削られ 断面斜めの形状となる。454、557と同一か。	サワラ
562 ビ115	楕状木製品 用途不明 曲物底板転 用	7.1×3.3×1.1	㊸ SD1008 中世	柱目	完存	一端の木口は両面から削られ尖り、もう一端は 角が削られ平坦となる。片面に曲線のあたり板 があり片面には刃物による縁状痕が1本ある。 曲物底板の転用材と推定される。	-

図解番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種	
563 ピ139	用途不明 曲物底板板 用	14.0+α×3.4×0.8	⑦ SK1084 中世(井戸)	斜め	一端の木口欠損	残存する木口は木裏面に削りがあり、欠損木口寄りには幅0.3cmの凹み(あたり痕)がある。曲物底板の再加工と推定される。	サワラ	
564 0406	杓子形木製 品 例物	83.5+α×8.5×5.1	④ 水田層 弥生後期		柄部先端/杓部の一部欠損	匙部は、先端方向に湾曲する平面形状で、片側の木端が明出し、片側の木端が水平になる削り方である。柄部は断面円形に削りだされる。	カエデ 属	
565 ピ35	漆器碗 残物	15.0(口径径) 8.0 (器高) 7.9 (高台径) 1.5 (高台高)	⑥-2 SK2305 中世		ほぼ完存 高古一部欠損	外面は黒漆の地に赤漆の木葉文様が彫形される。内面は黒漆。	ブナ属	
566 ピ28	漆器碗 残物	3.2(残存器高) 7.2(底径)	⑦ SK1084 中世(井戸)		底部の一部残存 稀弱	全形不明。内外面ともに黒漆の地に赤漆の模様が残されている。模様は不明。	カツラ	
567 ピ54	漆器碗 残物	3.0(残存器高) 5.3(底径)	⑦ SD1007 中世		底部破片	底径から量とした、内外面に部分的に黒漆が残る。	-	
568 ピ52	漆器碗 残物	1.7(残存器高) 7.5(高台径)	⑥-2 SK2281 平安-中世		底部破片	高古が欠損。内外面に赤漆が残る。	-	
569 ピ113	漆器碗 残物	1.5(残存器高) 5.2(底径)	⑦ SD1008 中世		底部	彫形された漆は全て剥落している。全形不明。	-	
570 ピ87	杓	31.1+α×2.7(径)	⑦ SD1016 古墳前期		削りだし	両端木口欠損	柄部断面は正円形となり横木装着部に径の太い削りだし部がある。表面は全て炭化している。	カバノ キ属
571 ピ80	杓	34.2+α×2.6(径) 2.0(横木装着部径) 1.5(柄部径)	⑤ SD1016 古墳前期		削りだし	一端の木口欠損	横木装着部、柄部とも正円の断面形状に削りだされる。欠損木口寄りには0.5cm幅の凹んだあたり痕がある。柄部表面は滑らか。	サワラ
572 0448	台 あたり	25.8+α×9.0+α×4.5	①-1 SD3003 古墳前期	板目	約1/2残存	平面円形。断面台形に復元され、表面面ともに平坦に削りだされる。	-	
573 ピ16	紡錘車	7.6(径)×0.5	⑦ SD1016 古墳前期	柱目	乾燥による歪	中央部に径0.6cmの円形孔がある。乾燥のため厚みを減じているが、紡錘車と推定した。	クヌギ 属	
574 0401	有孔杓 機軸か	48.4+α×3.6×1.3	①-1 SD3003 上層 古墳中期	柱目	一端の木口破 かに欠損	表裏面、両木端に削り痕が残る。中央部が厚く膨らみ、両端木口が窄く細みの形状となる。径0.2cmの小孔が中央部に1、両木口寄りに各2カ所ある。	クヌギ 属	
575 ピ109	杓	55.9+α×3.8×1.8	⑤ SD1016 古墳前期	板目	両端木口/木端の一部欠損	中央軸部装着の段が半分残る。0.5-0.2cmの小孔が5カ所あり、木表側から中央部方向に斜めに木裏に貫通する。断面は均一な長方形である。	サクラ	
576 0411	用途不明	45.4×4.1+α×1.3	① 水田層 平安	柱目	片側の木端欠損	残存する木端は両端が外湾気味に削られ、中央部に鋭く湾曲する狭込みがある。片側には2カ所径0.8cmの円形の孔がある。	サワラ	
577 ピ23	下敷	14.4+α×6.6(高さ)×9.8 2.9(歯部厚) 1.2(草履部厚)	⑦ SK1083 中世	板目	草履部分/歯部2カ所残存	木取りの一本作りである。歯幅は草履部幅より広く、下に台形状に開く形態である。歯部下面には使用による擦れが目立つ。草履厚は均一で板状となり、緒孔が2カ所に部分的に残る。	ケヤキ	
578 0422	箸	9.4+α×0.6(径)	① SD3006II 中世		削りだし	両端木口欠損	断面均一な円形に削りだし僅かに段を残す。	モミ属
579 ピ10	箸	10.9+α×0.6×0.5	⑦ SK1088 中世		削りだし	一端の木口欠損	両丸の方形に削りだされ木端には段を残す。先端部は断面円形の先細りとなる。	-
580 ピ11	箸	10.1+α×0.8×0.5	⑦ SK1088 中世		削りだし	一端の木口欠損	両丸の方形に削りだされ木端には段を残す。先端部は断面円形の先細りとなる。	-
581 0669	建築部材 梯子	258.8+α×19.2×13.0	④ SD3004II 古墳前期		削り材片	両端木口/木端の一部欠損	1/3削り材を素材とし、木表側から粗い削りによる狭込みが3カ所ある。木裏に部分的な削り痕が残る。未製品の可能性がある。	-
582 0916	建築部材 梯子	172.0+α×10.8+α×8.0	④ SD3004I 弥生後期	柱目	両端木口/両側木端欠損 乾燥による歪	片面には梯子状の段があり2カ所削りだし、裏面には7.5×3.5cmの方形の浅い削り込みがある。	-	
583 ピ48	建築部材 梯子	54.4+α×19.3×9.8	⑦ SK2757 古墳前期	板目	一端の木口欠損	先端部は両縁からの粗い削りが残り尖る。平面湾曲形状となる。表面には段部1段が突出に削られ部分的に削り痕が残る。	ヒノキ	

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
584 ㄮ58	建築部材 梯子	125.3+α×13.4×9.3	⑦ SK2648 古墳前期	柱目	一端の水口欠損	先端部は表面からの削りにより斜めになる。段部は傾斜して削りだされ3段残る。側縁は平坦であり断面均一な長方形となる。表面は先端部の一部以外全面炭化。	—
585 0601	建築部材 梯子	57.2+α×11.8×7.9	⑨ SD3004 弥生後期	柱目	両端水口/突段部欠損	段部は破れ削りだされ、表裏面、木端に粗い削りが残る。一端の水口、表面一部に炭化痕が残る。	ケヤキ
586 ㄮ49	建築部材 梯子	56.5+α×13.1×8.3	⑦ SK2746 古墳前期	斜め	一端の水口欠損	先端部は周縁から粗い削りが残り鈍角に突る形状となる。表面には段部1段が垂直に削られ裏面には削り痕が部分的に残る。	ヒノキ
587 ㄮ53	建築部材 梯子	77.2+α×17.8×12.0	⑩-1 SK1022 古墳前期	柱目	一端の水口/表面欠損	先端部は表面からの削りにより突る。段部を水平に削りだし側縁は平坦であり断面均一な長方形となる。	—
588 ㄮ182	建築部材 梯子	62.0+α×17.2×8.0	⑩-1 SK2492 古墳前期	削り材片	一端の水口欠損	片削り材を素材とし木端に水肌を残す。段部と平坦部の境は明瞭な凸形突起状に段部が作りだされる。先端は木表、木裏からの削りにより三角形状に抉り込まれる。	—
589 ㄮ181	建築部材 梯子	81.0+α×20.0×5.2	⑩-1 SK2436 古墳前期	板目	一端の水口欠損	両木端は平坦に削られ均一板の板材となる。段部を作りだした粗い削りが顕著に残る。先端は木表、木裏からの削りにより半円形に抉り込まれる。	—
590 ㄮ116	建築部材 梯子	88.3+α×15.0×10.2	⑩-1 SK2473 古墳前期	斜め	一端の水口欠損	先端部は表裏面、両木端からの削りがあり突る。段部は垂直に削られ断面は均一な長方形となる。段部は2カ所残り、部分的に削り痕がある。	サワラ
591 1696	建築部材 梯子	66.1+α×12.5×9.2	⑩-2 第2巻 出函 弥生後期	削りだし 芯もち	両端水口/段部表面欠損	丸木材を素材とし断面長方形に削りだすが、木端側面には木肌を残す。段部は大きな削りによる斜めの抉りがある。表面は摩滅欠損が大きく段部に枝の芯部が残る。	モミ属
592 2614-A	建築部材 板材	64.5+α×23.6×4.9	⑩-2 SD3004	板材 板目	肩縁欠損	凸状突起部を削りだし、一端の水口には5.0cm幅の納孔がある。	コナラ 節
593 2614-B	建築部材 板材	41.7+α×26.7×5.5	⑩-2 SD3004	板材 板目	一端の水口欠損	凸状突起部を削りだし、延長上に幅5.5cmの欠込みがある。残存する水口は木表側からの削りにより鈍角な面をつくる。一端の水口には5.0cm幅の納孔がある。	コナラ 節
594 2611	建築部材 板材	26.3+α×4.9×6.1	⑩-1 SD3004 古墳前期	削りだし	突起部破片	まぐさ材の凸状突起部。片面の木端に円形の納孔の痕跡を残す。	—
595 1606	建築部材 板材	81.6+α×25.4×5.3	⑩ SD3004	板材 板目	両端水口/木端の一部欠損	均一板の板材。中央に凸状隆起の痕跡があり、一端の水口には5.0cm幅の欠込みが残る。凸状隆起を挟んで木端寄りに各1カ所1.0cm、1.2cm角の方形孔がある。残存する水口面には木表からの削りが残る。	—
596 0673	建築部材 柱材	235.6+α×13.4×10.8	⑨ SD3004 古墳前期	削りだし	一端の水口欠損	断面均一な円形の削りだし材。残存する水口は数方向からの細かな削りにより突る。削り長は長い。	コナラ 節
597 0663	建築部材 柱材	206.4+α×12.8(径)	⑨ SD3004 II 古墳前期	削りだし	一端の水口欠損(転用加工か)	断面均一な円形の削りだし材。一端の水口径が大きく、8.8×15.0cmの頭貫がある。頭貫面は平坦で表面は滑らか。一端の水口は摩滅が著しい。	—
598 0662	建築部材 柱材	198.0+α×11.5(径)	⑨ SD3004 II 古墳前期	削りだし	一端の水口欠損(転用加工か)	断面均一な円形の削りだし材。一端の水口径が大きく、5.0×15.0cmの頭貫がある。一端の粗い水口は数方向からの削りにより鈍角に突る。またこの水口周辺は摩滅が著しく形状も歪む。	—
599 0650	建築部材 柱材	169.7+α×10.3×6.1 13.9(径)	⑩ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端水口欠損	丸木材を素材とし、丸木部と削りだしかなる。均一な断面長方形の削りだし部をもち、先端には方形の納孔があった状況となる。丸木の一部に炭化痕が残る。組込み柱と想定される。	コナラ 節
600 0688	建築部材 柱材	124.0+α×15.2×9.2	⑩ 水田層 古墳前期	丸木 芯もち	一端の水口欠損	残存する水口は丸く削りだされ、全通する3.2cm幅の抉り部がある。本来は丸木であった可能性がある。	コナラ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
601 1653	建築部材 柱材	85.9+α×15.0×11.0	①-1 SD3004	削りだし	一端の木口 片面欠損	片面欠損するが、削り材から部分的に木肌面を残し断面円形に削りだした大形の丸木削りだし材。残存する木口は両面を削り筋を作り出す。木口面には削り痕を残し湾曲する。	—
602 1699	建築部材 柱材	114.5+α×15.2(径)	①-2 SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	大形丸木材。残存する木口は一面からの大きな削りとし木口面の細かな削りが残る。湾曲形状に尖る。	—
603 1608	建築部材 柱材	138.7+α×12.4×6.7	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠 損	①削り材を素材とし側面に削りを残し平坦となる。残存する木口は木表、両端木端からの削りにより先端が鋭く尖る。部材転用の可能性がある。	—
604 0247	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	198.2×5.4(径) 4.5(有頭部径) 8.8(挟り部径)	④ SD3511 古墳前期	丸木 芯もち	完存	有頭部は不整形球形に作りだされ粗い加工痕を残す。先端部も数方向からの削りにより尖る。クビレ部下約12.0cmに断面が鋭く湾曲する挟りがある。その挟り込みと反対面の先端は一方からの削りで尖る。表面には細かな加工痕が残る。	モミ属
605 0232	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	110.9+α×7.2(径)	④ SD3012 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	有頭部は不整形球形に作りだされ粗い加工痕を残す。先端部は七角形に削りだされ、クビレ部下約17.0cmに挟りがあり、部分的に圧迫痕が残る。欠損部は熱処理による炭化痕がある。	モミ属
606 1643	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	98.0+α×5.5×5.7	⑤ SA3514 弥生後期	削りだし	一端の木口欠 損	削り材を素材とし断面内に近い形状に削り出す。残存する木口寄りには数方向からの削りが残り頭部を作り出す。頭部は周縁からの削りが残り球状となる。挟り部下に約3.0cm幅の圧迫痕があり、更に下には片面からの湾曲面を作る削り込みがある。	—
607 ビ150	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	29.0+α×3.9×3.7	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	両端木口欠 損	①削り材を素材とし木肌を一部に残す。芯部側を削り断面三角の挟りがある。頭部は削り面、芯部側からの斜めの削りにより方形に作りだされる。頭部先端は平坦であったと推測される。	モミ属
608 1628	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	62.7+α×5.9(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	真一直ぐな丸木材。一端の木口寄りを数方向から削り頭部を作り出す。頭部先端は2方向からの削りにより尖る。頭部削りだしの挟り部に炭化痕が残る。	—
609 0228	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	45.7+α×4.8(径)	④ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口/ 側面欠損	有頭部は不整形球形に作りだされ粗い加工痕を残す。先端部も数方向からの削りにより尖る。クビレ部下約13.0cmに挟りの痕跡を残す。	モミ属
610 1642	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	45.6+α×5.5(径)	①-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	残存する木口寄りには周縁4方向からの削りがあり頭部を作り出す。1方向からの削りは幅が広く、大きな湾曲面を作る。頭部先端木口には周縁からの粗い削りが残り尖る。	クヌギ 類
611 ビ157	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	26.3+31.3+α×5.8(径)	⑤ SD1016	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	頭部削りだしの粗い削りが残り、頭部先端は周縁からの削りにより尖る。	クヌギ 類
612 1654	建築部材 漆木	103.7+α×7.1(径)	① 水田層 古墳中期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	真一直ぐな丸木材を素材としている。残存する木口寄りには片面からの湾曲面を作る挟りがあり、両木端からの削りにより頭部を作り出す。頭部先端は尖る。先端の挟りに対して90°の面に1か所湾曲面を作る削りがある。	モミ属
613 1686	建築部材 漆木	75.2+α×8.3×5.1	⑨ SA4007 古墳前期後半	削り材 片	一端の木口欠 損	一端の木口には木表からの削りが残り段を作り薄く削り込まれ更に両木端から削りにより細くなる。木口面は平坦となる。納材の可能性が有る。	クヌギ 類
614 0231	建築部材 漆木 (有頭状木 製品)	62.7+α×5.7×3.7	④-2 SD3002 古墳前期	削りだし 杖列	頭部を含め両 端木口欠損	有頭部を欠損するが頭部削りだしの粗い加工痕が残る。クビレ部下約15.0cmに挟りがあり、断面は緩やかな凹面となる。	コナラ 類

図版番号 整理番号	種類	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
615 0444	建築部材 垂木 (有頭状木 製品)	53.3+α×5.5×5.2	⑬ SD3013 古墳前期	削りだし	片側の木端の 一部欠損	両端の木口は炭化痕があり、付近に削りが残る 三角の削り込みが片面にあり、垂木の基部、先 端部が燃焼により欠損したものである。	サワラ
616 0671	建築部材 柱首	190.5+α×9.6(径)	⑬ SD3013 古墳前期	丸木 芯もち	ほぼ完全 両端木口の一 部欠損	一端の木口は周縁からの削りにより尖る。この 木口寄りに幅26.0cm幅の削りを残した大きな袈り がある。またこの袈込みに対し90°の面に 36.0cm間隔の袈りが3カ所ある。一端の木口は 3カ所並ぶ袈り面からの削りにより断面斜めとな り、反対面2カ所に凹みあり痕がある。	—
617 0670	建築部材 屋根構造材	181.6+α×9.6×6.6	⑬ SD3004 I 上層 弥生後期	削りだし	一端の木口/ 木端の一部欠 損	ノコギリ材を素材とし、一端木口寄りを削りだし 断面角状となる。木表には著しい削り痕が残る 先端木口面は木表面からの削りにより斜めとな る。また木口寄りに4.0cm角の方形の納孔が65° の角度に穿たれている。	—
618 0661	建築部材 垂木	282.8+α×7.2(径)	⑬ 木田町 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口の 一部欠損	一端の木口面は丸木の一部を削りだし、角状の 仕込みを作りだしている。	—
619 0992	建築部材 垂木	204.8+α×9.6(径)	⑭ 地点不明 弥生後期～古 墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	残存する木口には1方向からの斜めの削りがあ る。その下に同一方向からの削りによる三角形 状の袈りがある。削り面を顕著に残す。	コナラ 節
620 0694	建築部材 垂木	241.4+α×9.4×8.8	⑬ SX4001 古墳前期	削りだし	一端の木口欠 損	削り材を素材とし断面を楕円形に削りだす。一 端の木口面は両木端から鋭い湾曲形状に削りだ され、スプーン状の曲面をもつ納孔がある。	—
621 1668	建築部材 垂木	89.9+α×6.3(径)	⑬ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	真っ直ぐな丸木材。一端の木口寄りに片面か らの削りが残り湾曲面の袈りがある。削り込み 部にも削りがあり断面三角状に尖る。先端部は 両木端、裏面からの削りにより角状に尖る。	ヤブツ ブ
622 1687	建築部材 垂木	40.4+α×5.0(径)	⑭-2 SD3002 奈良	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端の木口には片面からの細かな削りが残り、 大きな湾曲形状の袈りがある。裏面にも削りが 残り先端は尖っていたものと推定される。	ケンボ ナシ属
623 0262	建築部材 屋根構造材	116.7+α×6.3×4.6	⑬ SD3012 古墳前期	削り材1/2	一端の木口欠 損	木表は平坦に削られ、木表は枝打ち痕の他自然 面を残す。両面縁にも平坦加工があり、部分的 に断面形状が台形もしくは扇形となる。残存す る木口は木表両側縁からの削りにより先端を尖 らせる。	モミ属
624 1112	建築部材 垂木 (有頭状木 製品)	127.5×5.8×3.0	⑬ SD1016 古墳前期	削り材1/2 完全	完全	木表面に粗い削りが残り、木表面には枝打ち痕 がある。一端は木表面からの削りにより断面が 作りだされ、一端は4方向からの削りにより尖 る。建築構造材の部材と推定した。	ヒノキ
625 0672	建築部材 屋根構造材	143.4+α×7.2(径)	⑬ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端の木口は2方向からの削りにより尖るが、 納孔の痕跡を残す。一端の木口寄りに6.0×3.0 cmの長方形の納孔が2カ所並ぶ。	—
626 0646	建築部材 屋根構造材	119.0+α×8.6(径)	⑬ SD3004 II 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	先端部は1方向からほぼ斜め45°の削りがある。 斜めの削りの反対面に幅4.0cmの納孔がある。 この納孔と90°の面の一端の木口には、欠損す るが方形の納孔がある。	モミ属
627 1688	建築部材 屋根構造材	93.1+α×4.7(径)	⑭ 地点不明	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	一端の木口は周縁からの細かな削りにより尖る。 もう一端の木口には表面面からの削りによって 斜めの面が作られ、幅1.2cmの納孔がある。	モミ属
628 0802	建築部材 垂木	127.6+α×4.4(径)	⑬ SD3004	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	真っ直ぐな丸木材。枝打ちの削り痕が随所に残 る。先端には1方向からの斜め削り痕を残す。	モミ属
629 1673	建築部材 垂木	50.9+α×4.0(径)	⑬ SD3012 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	真っ直ぐな丸木材。一端の木口を1方向から斜 めに削る。垂木先端と推定した。	モミ属
630 1669	建築部材 垂木	61.6+α×4.2(径)	⑬ SA3102 弥生後期～古 墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	真っ直ぐな丸木材で枝打ちの削り痕を随所に残 す。一端の木口は1方向からの1度の削りによ り斜めに尖る。	モミ属
631 0894	建築部材 垂木	72.2+α×6.3(径)	⑬ SD3013 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端の木口には1方向からの斜めの削りが残る。 木口寄りに枝打ちの削り痕がある。	モミ属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
632 0990	建築部材	215.6+α×36.4×12.4	① SD3004 古墳前期	板材 板目	一端の木端欠損	均一の厚みをもつ長方形の板材。片側の木端は木表側からの削りにより断面斜めとなる。片側の木端には、三角(長方形)状の納孔が大小2カ所ある。1.5cm角と5.0cm角の方形孔が中央部同一線上の木端寄りに2カ所ある。	モミ属
633 0997	建築部材	58.4+47.2+α×29.2×2.4	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損 2個体	残存する木口面、片側木端面には木表からの斜めの削りがある。木口は平面三角形状となる。中央部に17.6cm角の方形孔が2カ所ある。	—
634 1607	建築部材	63.8+α×25.8×3.5	①-1 SD3004	板材 板目	一端の木口欠損	芯部側に湾曲する断面形状となり、一端の木口には木表、木裏から削り残りが残り切断面となる。木表、木裏とも木端寄りに削り残りを残す。片側木端寄りに4.5cm幅の納孔がある。	モミ属
635 0996	建築部材	197.2+α×29.8×4.0	① SD3004 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な厚み、幅の板材。両側の木端面は木表からの削りにより断面斜めとなる。一端の木口面は平直に削られ平面三角形状となる。木表裏とも削り残りが残る。片側木端寄り中央に3.2×1.6cmの長方形孔が2カ所、1.6×0.8cmの長方形孔が1カ所ある。	モミ属
636 0623	建築部材	72.6+α×28.6×2.6	② 水田層 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの板材で残存する木端面は平直となる。部分的な削りが木表に残る。3.0×2.5cmの不整形方形、3.5×1.5cmの楕円形の納孔がある。	トネリコ属
637 ビ634	建築部材	95.2+α×30.0+α×4.4	① SD1016 古墳前期	板材 板目	両端木口/片側の木端欠損	片側の木端に幅8.0cmの長方形の納孔があり、対する木端近く(に)3.2×1.2cmの長方形の納孔がある。また納孔幅で変色したあたり痕がある。	—
638 910, 913	建築部材	321.4+α×28.8+α×4.4	② SA4003 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	均一の厚さの大形長方形板材。木裏面に削り(手摩痕)が顕著に残る。	モミ属
639 0911	建築部材	114.8+α×30.4+α×4.0	② SA4003 弥生後期	板材 板目	両端木口/片側の木端欠損	均一の厚さの大形長方形板材。木裏面に削り(手摩痕)が顕著に残る。638と同一材。	モミ属
640-① 640-② 640-③ 2612 A, B, C	建築部材	89.2+67.6+119.7+α×24.4×2.7	② 水田層 古墳前期後半	板材 斜め	3個体	均一な厚さ、幅の大形長方形板材。3個体の接合はできなかったが出土状況、木取り等から同一とした。一端の木口面は表裏面からの削りにより断面斜めに尖り、もう一端の木口面は平直となる。両端木口寄りに7カ所の納孔が確認された。納孔は2.0×1.5cm~2.2×2.0cmの長方形と径2.6cmの円形のものがある。一部に炭化痕が残る。	—
641 0915	建築部材	162.0+α×42.4×2.1	② SD3004 古墳前期	板材 板目	ほぼ完存 周縁部の一部欠損	均一な厚さの大形長方形板材。表裏面に削り残りが顕著に残り表面に浅い凹凸がある。木端は断面斜めに削りだされ、片側の木端寄り8カ所に径0.3cmの小孔が並び、2カ所に0.8cm角の小孔がある。一端の木口寄りに中央に4.0cm角、木端寄りに1.5×2.0cmの方形孔、もう一端の木口寄りに3.2cm角の孔がある。	モミ属
642 ビ101	建築部材	85.8×22.3+α×2.7	⑦ SK1084 中世	板材 板目	片側の木端欠損	両木口、残存木端は平直に削られる。一端の木口に半円の浅い抉りがあり、残存する木端中央が緩やかに内湾する形状となる。木裏に部分的な削り残りが残る。	サワラ
643 0652	建築部材	82.6+α×18.2+α×2.3	② SA3104 古墳前期	板材 板目	一端の木口/片側の木端欠損	均一な幅、厚さの大形板材。残存する木端面は平直で滑らか。	ケヤキ
644 1619	建築部材	56.0+α×18.5×2.8	② SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	両端木口欠損	残存する木口面は尖り気味となる。ほぼ中央に2.0×1.5cmの楕円形の納孔がある。	トネリコ属
645 0624	建築部材	71.0+α×20.5×2.6	② 水田層 古墳前期	板材 斜め	一端の木口欠損	残存する木口は、表裏から切断のための斜めの削りがあり尖る。中央部片側木端寄りに3.5×2.5cmの方形納孔がある。	トネリコ属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
646 0667	建築部材	145.0+α×24.0×3.8	㊸ 水田層 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの板材。中央に4.0cm角、6.0×2.5cmの長方形納孔が2カ所残り、欠損部、一端の炭化木口面にも同様な納孔の痕跡があり4カ所納孔が並んでいたことが想定される。片側の木端には小孔が1カ所ある。木口面は炭化している。	—
647 0616	建築部材	95.3+α×16.0×4.5	㊸ SD3004II 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	一端の木口には表裏から切断のための斜めの削りがある。中央部に6.0×5.0cmの不整形な納孔があり、欠損木口寄りに局所的な炭化がある。	モミ属
648 0644	建築部材	66.5+α×15.5×2.7	㊸ SD3004I 弥生後期	板材 板目	両端木口/木端の一部欠損	均一な厚さの板材。中央に4.0×2.7cmの長方形納孔が1カ所。この孔と本来同一形状であったものが不整形に変形した納孔が1カ所ある。一端の木口には木炭からの削りによる段差がある。	モミ属
649 1637	建築部材	127.9+α×14.5×4.2	㊸-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	均一な幅の大形板材で断面は木端側へ薄く中央部が厚くなる。両端木口には4.0×3.5cm、4.0×6.0+αcmの納孔。中央部には4.2×2.0cmの隅丸長方形の納孔が2カ所にある。	—
650-㊸ 650-㊸ ビ156	建築部材	171.8+α×13.0+α×2.2 115.4+α×10.4+α×2.2	㊸-2 SD1016 古墳前期	板材 板目	両端部全て欠損 2個体	均一な厚みの大形板材で、1カ所に2.7×4.2cm長方形の孔がある。全形不明。	モミ属
651 ビ154	建築部材	64.1+α×24.0×3.4	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	残存する木口には切断の削りがあり、断面が斜めになる。中心部木口寄りに7.2cm角の方形孔があり、これを狭み込み形で1.8cm角の方形孔が2カ所にある。炭化痕が表面に広く残る。	モミ属
652 0640	建築部材	93.8+α×10.9+α×2.5	㊸ SD3004 弥生後期～	板材 板目	一端の木口/ 片側の木端の 一部残存	木表には粗い削りが顕著に残り、残存する木口面は平坦で平面形状は外湾する。中央に1.0cm角の方形納孔。欠損する木口に長方形の納孔がある。	モミ属
653 0629	建築部材	71.0+α×12.7+α×3.6	㊸ SD3004 弥生後期～	板材 板目	片側の木端のみ残存	残存する木端面は平坦で、木表側に粗い削りが部分的に残る。2.5×1.5cmの長方形納孔が縦並びに3カ所ある。	モミ属
654 1675	建築部材	78.1+α×14.7×1.3	㊸ SD4005 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。一端の木口寄りに3.0×2.5cmの長方形の納孔がある。木表に幅0.3cmの横長い圧迫痕がある(紐のあたり痕か)。	モミ属
655 0636	建築部材	138.4+α×6.0+α×1.5	㊸ SD3004II 南土手 古墳前期	板材 板目	一端の木口/ 片側の木端欠損	木表には粗い削りが残る。残存する片側の木端寄りに2.0×1.0cmの方形納孔が5カ所縦一列の等間隔にある。	モミ属
656 0610	建築部材	124.1+α×11.9×1.4	㊸ SD3004II 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損 木皮残存	断面やや湾曲するが均一な厚みの板材である。片側の木端寄りに1.6×0.6cmの楕円孔が3カ所。もう片側の木端寄りに1カ所あり、0.8cm角の方形孔が木口寄りに1カ所、木皮を残す小孔が2カ所並列してある。	ヒノキ
657 ビ61	建築部材	74.4+α×11.2×2.5	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	一端の木口/ 木端の一部欠損	断面長方形の均一な板材。中央部に1.2×0.9cmの不整形な納孔が2カ所並列してある。表裏面ともに炭化痕が残る。	—
658 1689	建築部材	48.5+α×10.0×2.4	㊸ SA4010 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの板材。木表側に粗い削り痕を顕著に残す。中央に1.2×1.0cmと2.3×1.2cmの長方形納孔がある。	モミ属
659 0379	建築部材	67.0+α×19.9×3.2	㊸ SD3004I 弥生後期	板材 板目	一端の木口欠損	表裏面に粗い削り痕が顕著に残り、残存する木口には木表側からの斜めの削りによる切断痕が残る。ほぼ中央部に1.8×1.0cmの長方形の孔がある。	モミ属
660 1603	建築部材	81.7+α×19.0×3.2	㊸ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木表、木裏には粗い削り痕が残る。残存する木口には木表、木裏からの切断に削りが残る。片側の木端には9.0cm間隔に5カ所切欠きがある。木口寄りに1.2×2.0cmの長方形の納孔が4カ所ある。	スギ

図版番号 写真番号	器種	長さ×幅×厚さ(±)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
661 1621	建築部材	51.0+α×8.7+α×2.7	⑤ SD3004 I 弥生後期	板材 柱目	片側の木端のみ残存	均一な厚さの板材。周縁は摩滅し、残存する片側木端も丸くなる。中央部に片側から穿った直径1.0cmの納孔がある。転用材か。	クリ
662 1665	建築部材	32.2+α×7.8+α×2.0	⑤ SD3004	板材 板目	一端の木口のみ残存	均一な厚さの板材。残存する木口には木表、木裏からの削りがあり実る。木端面は丸みがある。中央部に1.5cm角の納孔がある。木裏からの削りのため木表には剥き取りの痕跡がある。	ヤワラ
663 1627	建築部材	36.9+α×11.3×1.8	①-1 SD3003 古墳前期	板材 柱目	両端木口/片側の木端の一部欠損	均一な幅、厚さの板材。片側の木端面は木面に對して垂直面となり、もう片側の木端は実る。片側木端寄りに1.5×1.0cmの長方形納孔がある。	—
664 1610	建築部材	74.3+α×6.6×5.0	①-2 SC3002 平安	削りだし 平安	一端の木口欠損	削り材から断面多角形に削りだした削り痕、削り面が顕著に残る。残存する木口方向に一旦薄く削り、木口は扇状に膨らんだ形状となる。薄く削りだされた木口寄りに3.0×6.0cmの長方形の孔がある。残存する木口面は削りが残り平坦となる。	モミ属
665 0602	建築部材	78.2×13.5×2.5	⑤ SD4005 古墳前期	板材 斜め	木端の一部欠損	均一な厚みの長方形板材。両端の木口はやや丸くなる。中央部、木口寄りの2か所に3.5×2.5cmの長方形の孔がある。	ケンボナン属
666 1656	建築部材	80.3+α×13.6+α×2.9	①-1 SD3004	板材 板目	片側の木端一部残存	均一な厚さの板材。木裏には粗い削りが顕著に残り、残存する木端寄りに1.0cm角の方形納孔がある。	—
667 1664	建築部材	18.8+α×6.2+α×1.3	⑤ SD3004	板材 板目	片側の木端残存	均一な厚さの板材。木表には削り痕を残し、残存する木端は木面に対して垂直面となる。	モミ属
668 1655	建築部材	56.0+α×5.7+α×2.2	①-2 SD3004	板材 柱目	両端木口/片側の木端欠損	均一な幅、厚さの板材。表裏一部に削り痕を残しはば中央部に1.4×4.5cmの長方形納孔がある。残存する木端面は尖り気味となる。	—
669 ビ79	建築部材	26.7+α×6.6×2.3	⑤ SD1016	板材 柱目	両端木口欠損	木表に削り痕があり、中央に1.0×2.6cmの長方形の孔がある。一端の木口に炭化痕がある。	ヤワラ
670 0447	建築部材	11.3+α×4.6+α×0.5	⑤ SA4006 弥生後期一	板材 柱目	両端木口欠損	ほぼ中央部に1.0×0.8cmの方形の孔がある。	モミ属
671 0440	建築部材	14.8+α×3.4+α×1.5	③ 木田層 古墳前期	板材 柱目	一部残存	1.0cm角の方形孔が1か所残存。	ヤワラ
672 1657	建築部材	25.5+α×8.5+α×2.1	①-2 SD3004	板材 板目	一端の木口/片側の木端欠損	木表に粗い削りが残り、残存する木口、木端面は木面に対して垂直面となる。木口寄りに1.0×0.5cmの納孔がある。	—
673 0632	建築部材 転用材	74.7+α×9.2+α×2.5	⑤ SA4007 古墳前期後半	板材 斜め	一端の木口/片側の木端欠損	先端木口は片側の木端からの削りにより実る。木端面に削り痕は残らない。木表裏には粗い削りが顕著に残り2.0cm角の方形納孔がある。部材からの矢板転用。	モミ属
674 1602	建築部材	73.3+α×12.5×2.5	①-1 SD3004	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木表木裏とも粗い削りが顕著に残り、残存する木口には木根から切断のための斜め削りがある。	モミ属
675 1611	建築部材	67.3+α×8.7×2.5	①-1 SD3004	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木表、木裏、木端面に削り痕を顕著に残す。木端寄りに径0.5cmの孔があり、中央部縦並びに未貫通小孔と貫通する孔が各1か所ある。木裏に炭化痕がある。	カヤ
676 1658	建築部材	47.5+α×16.4×2.7	①-2 SD3004 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの板材。木表、木裏には粗い削り痕が顕著に残る。片側の木端面は木面に対して垂直面となり、片側の木端面は丸くなる。	—
677 0363	建築部材	67.3+α×14.3×2.2	⑤ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	両端木口欠損	木表、木裏とも粗い削り痕が残る。一端の木口には湾曲する伏込みがある。	モミ属
678 0614	建築部材	66.8+α×16.4+α×2.2	⑤ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	両端木口/片側の木端の一部欠損	木表に粗い削りが残り一端の木口寄りに切断のための斜めの削りがある。両側の木端には切欠き状の削りが絶対して各2か所にある。	モミ属

図面番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
679 1615	建築部材 盾か	73.7+α×16.3+α×1.7	①-1 SD3004	板材 板目	一部の木口/ 周縁部分的に 欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木裏には削りか 残り、残存する木口、木端面は木面に対して垂 直となる。木端寄りに縦並び2カ所、中央縦並 び2カ所の貫通する小孔がある。	モミ属
680 1670	建築部材	60.0+α×13.1×2.7	② SD3004	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木裏には粗い削 り痕が顕著に残り、両木端面は木面に対して垂 直となる。片側木端寄りに径0.5cmの小孔が2 カ所ある。片側木端面に径1.5cmの炭化痕がある。	モミ属
681 1604	建築部材 盾か	65.5+α×4.8+α×1.7	①-1 SD3004	板材 板目	周縁欠損	均一な厚さの板材。木表木裏には粗い削り痕が 残る。2カ所に小孔がある。	モミ属
682 1209	建築部材	32.9+α×8.7×0.8	②-1 SD6002 殊生中期	板材 板目	木端の一部欠 損	周縁部の木口、木端面は平坦であり一端の木口 は平面三角形となる。片側木端寄りに3カ所ま とって径0.2~0.4cmの小孔がある。	クヌギ
683 0297	建築部材 盾か	31.7+α×4.9×1.2	③ 水田畧 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	片側の木端寄りに径0.5cmの小孔があり、小孔 の下面及び両側縁に圧迫によるあたり痕が残る。	モミ属
684 0665	建築部材	217.6+α×13.6×4.8	③ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	両端木口欠損	均一な大形板材。一端の木口寄りを薄く平坦 に削りだし中央部に3.2cm角の納孔がある。段 部から下方を厚く削り徐々に薄く削りだす。	—
685 0908	建築部材	185.0+α×20.0×6.1	③ SD3004 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠 損	残存する木口面は湾曲形状となり、段をもって 薄く削り中央部に約3.0cm角の納孔がある。挟 り部より下はやや厚みを増した形状となる。片 側木端に削りが残る。	—
686 0677	建築部材	158.8+α×13.6×4.0	③ SA4007 古墳前期後半	板材 斜め	両端木口/両 側木端の一部 欠損	均一な幅、厚さの板材。一端の木口寄りに幅 4.0cmの突起を削りだす。	クリ
687 0906	建築部材	204.4+α×14.0×5.2	③ SA4007 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠 損	ほぼ均一な厚さ、幅の板材。一端の木口寄りを 厚く削りだす。厚い木口面には納孔があった可 能性がある。	—
688 0914	建築部材	65.2+α×20.8×6.8	③ SD3004 上層 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口欠 損	断面長方形に削りだし木表側木端を削る。残存 木口寄りには木表側から段をつくり薄く削る。 中央部に8.8cm角の方形の納孔がある。段部 は厚く徐々に薄く削りだす。	コナラ 節
689 0682	建築部材	182.7+α×13.2×6.8	③ SD3004II 古墳前期	板材 板目 芯もち	両端木口欠損	芯部のある均一な幅と厚さの板材。中央部は22.5 cm幅で傾り込まれ5.0×2.5cmの納孔がある。また 両端の木口にも欠損するが4.0cm角の方形納 孔が3カ所あったことが推定される。片側の木 端面には中央納孔を中心に左右等間隔の位置に 3.2cm幅の方形削り込みがある。	モミ属
690 0902	建築部材	136.8+α×15.2×6.0	③ SD3004II 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの長方形板材。中央に5.0×4.0cmの 不正方形の納孔があり、納孔から等間隔の両木 口に同形の納孔の痕跡がある。	—
691 0619	建築部材	107.7×11.1×5.4	③ SD3004I 殊生後期	板材 斜め	ほぼ完全 表面一部欠損	両端木口には表裏から切戻りのための斜めの削り で実る。7.0×4.0cmの長方形の納孔と4.0cm角 の納孔があり、納孔寄りに径5.0cmの凹みがあ る。	コナラ 節
692 1636	建築部材	70.9+α×7.6+α×3.4	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口/ 片側の木端欠 損	断面長方形の均一な板材。残存する木口は凹み をもった形状に削りだしされ、木口面は丸い。 2.0cm角の納孔がある。	—
693 0625	建築部材	128.3+α×12.5×3.1	③ SD3004I 殊生後期	板材 斜め	一端の木口欠 損	残存する木口は幅が狭くなり木裏からの削りが 残る。4.7×4.2cm、2.7×1.2cmの方形納孔が木口 寄りにある。	コナラ 節
694 1639	建築部材	64.4+α×8.4×3.8	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口/ 片側の木端の 一部欠損	削り材を素材とし断面は芯部側に傾斜する台形 形状となる。木表、木裏、両木端には部分的に削 りが残る。残存する木口は斜め形状となり木口 寄りに5.5×4.0cmの長方形納孔がある。	—

図面番号 登録番号	部 類	長さ×幅×厚さ(図)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
695 0633	建築部材	106.2+α×12.2×4.4	⑬ SA4002 古墳前期	板材 榫目	一端の木口欠損	一端の木口は両側木端からの削りにより尖る。この木口寄りに4.4cm角の方形納孔がある。片面には匠道によるあたりが広範囲にある。	コナラ 節
696 1694	建築部材	42.5+α×7.0×1.8	⑭-1 第1棟 出圃 平安か	板材 榫目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの板材。残存する木口は木端面に削り痕を残し斜め形状となる。木口寄りに1.2cm角の納孔、中央部に2.0×1.5cmの長方形の納孔がある。	モミ属
697 0645	建築部材 転用材	81.5+α×10.7×2.3	⑬ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	一端の木口/ 片側の木端の 一部欠損	木表裏とも粗い削りが顕著に残る。一端の木口には湾曲形状となる。ほぼ中央に3.0×5.0cmの長方形の納孔がある。	タリ
698 1659	建築部材 転用材	72.4+α×8.7×5.3	⑭-1 SD3004	削りだし	一端の木口欠損	断面は片側木端に導く三角形状となる。残存する木口は、幅が狭くなり周縁からの削り痕を残し尖る。一端の木口寄り、厚みのある木端面に3.0×2.0cmの卵形の納孔、欠損面にも同様の納孔がある。納孔内周縁には横れた匠筋を残す。枕へ転用した可能性がある。	-
699 1623	建築部材 転用材	132.4+α×10.0×4.0	⑭-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	一端の木口/ 片側の木端の 一部欠損	木表には部分的に粗い削りを残し、片側の木端からの削りによって一端の木口が尖る。片側の木端断面は斜め、もう片側は尖る形状となる。転用材の可能性が高い。	-
700 0658	建築部材	131.0+α×8.0×4.8	⑬ SA4011 弥生後期	板材 榫目	両端木口/ 片側の木端の 一部欠損	芯部のある板材。片側の木端には9.0×3.0cmの納孔がある。納孔部分を除いた木表、木端に炭化痕がある。	モミ属
701 0689	建築部材 転用材	182.4+α×8.8×6.8	⑬ SD3004 II 南土乎 古墳前期	角材 榫目	一端の木口欠損	1/8削り材を素材とし芯部、木肌筋を削り角材としている。残存する木口は各面からの削りで尖る。中央部に7.0cm幅の納孔がある。表面の大部分が炭化する。	スギ
702 2604	建築部材	85.3+α×19.8×5.4	⑭-1 水田層 古墳前期-古 墳中期	板材 榫目	一端の木口欠損	均一な厚さの長方形板材。木表、両木端には削り痕を顕著に残し平坦面となる。残存する木口は緩やかに外湾し、平面「5」の字型の納孔がある。	モミ属
703 0638	建築部材	84.6+α×6.1×4.3	⑬ SD3004 I 弥生後期	角材 榫目	両端木口/ 片側の木端の 一部欠損	削り材を素材とし断面均一な長方形に削りだし、芯部側の木端面のみが加工される。3.0-3.3cmの納孔が両端木口にあり、4.0cm幅の湾曲する浅い狭りが1カ所にある。	ヤマザ クラ
704 0637	建築部材	49.6+α×11.5×2.2	⑬ SA4006 弥生後期-古 墳前期	板材 榫目	両端木口欠損	均一な厚さの板材。片側の木端には方形の納孔一方の木端は湾曲する削りがある。	スギ
705 ヒ121	建築部材	66.2+α×8.0×4.8	⑭-1 SK1020 中世	板材 榫目	両端木口/ 片側の木端の 一部欠損	断面均一な長方形の角材である。一端の欠損木口には3.0cmの方形納孔があり、対する木端にも4.0×7.5cmの長方形納孔がある。片面に幅8.0cm、深さ0.8-1.0cmの削り込みがある。	モミ属
706 0615	建築部材	89.3+α×11.5+α×5.0	⑬ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	両端木口/ 片側の木端欠損	片側の木端に5.0×3.7cmの長方形の納孔がある。片側木端寄りが厚くなる。木表は平坦。	コナラ 節
707 2621	建築部材	86.8+α×11.6×5.2	⑬ SA3514 I 弥生後期-古 墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	表面に部分的な削りを残し、片側木端には23.2×4.0cmの長方形の納孔がある。	-
708-① 708-② 1629	建築部材	143.2+α×25.0×3.8	⑬ SA4005 弥生後期	板材 榫目	両端木口/ 木端の一部欠損 2個体	均一な幅、厚さの大形板材。木表に部分的な削り痕を残し、残存する木端は水面に対して垂直面となる。片側木端寄りに13.0×11.0cmの納孔がある。	-
709 2613	建築部材	101.5+α×18.6×7.9	⑬ SD3004	板材 斜め	一端の木口/ 裏面欠損	表面、一端の木口裏面に粗い削りが顕著に残る。片側の木端寄りに径8.0cmの納孔がある。	モミ属
710 ヒ102	建築部材	65.7+α×11.7×5.5	⑬ SD1016 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	一端の木口は片面からの削りにより斜めに削り形状となり、片側の木端に半円形の抉込みがある。表面部分的に削りを残す。	カヤ

図版番号 表題番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
711 0917	建築部材	90.0+α×15.6×4.8	㊦ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口/ 側面木端の一部欠損	一端の木口に方形の納孔。片側の木端に半円形の納孔がある。	クスギ 節
712 0649	建築部材	130.4+α×14.1×5.2	㊦ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	一端の木口には片側からの削りによる方形の納孔の一部が残存、片側の木端には両曲する残存がある。	クスギ 節
713 0921	建築部材	103.6+α×15.8×3.6	㊦ SD3004	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの板材。片側木端には緩く両曲する残存があり、一端の木口には納孔の痕跡を残す。	モミ属
714 1677	建築部材	61.4+α×9.5+α×2.7	㊦ SC4015 弥生後期	板材 板目	両端木口/片 側の木端の一 部欠損	表面には粗い削りが顕著に残り、一端の木口方向に薄くなる。片側木端に両曲形状の納孔がある。木表、木裏に炭化痕を残す。	ケンボ ナン属
715 0605	建築部材	50.0+α×12.8+α×2.2	㊦-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	両端木口/片 側の木端欠損	均一な厚みの板材。残存する木端は大きく両曲する形状となる。	モミ属
716 0607	建築部材	25.3+α×6.2+α×2.2	㊦ 水田層 平安	板材 板目	一端の木口/ 両側木端欠損	一端の木口は平坦に削る。もう一端の木口は納孔状の削りがあるが本来は方形孔であったと推定される。両端に中央部に不正円形の孔がある。	ヒノキ
717 0620	建築部材	65.2+α×9.7+α×4.1	㊦ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	片側の木端の み残存	断面は緩い凸状となり、木表に粗い削りが残る。片側の木端には削りにより両曲形状の残存がある。	ツグ属
718 1674	建築部材	61.7+α×9.4×3.3	㊦ SC3524 弥生後期	板材 板目	一端の木口欠 損	均一な厚さの板材。木表、木裏には粗い削りが残り残存する木口、木端面も平坦となる。片側木端にL字形の削り込みがある。	モミ属
719 0684	建築部材	170.8+α×13.8+α×6.6	㊦ SA3102 弥生後期	板材 板目 芯もち	両端木口/片 側の木端欠損	芯部のある板材。両端木口には方形の納孔の痕跡がある。	コナラ 節
720 0611	建築部材	109.4+α×13.5+α×4.0	㊦ SD4005 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠 損/木端の一 部のみ残存	残存する木端寄りに傾斜する断面の板材。木表木端に削りを残し、一端の木口には方形の納孔がある。	カツラ
721 1613	建築部材	77.4+α×10.9×2.5	㊦-2 SD3004 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	木表には削り痕が部分的に残り、残存する木端面は木面に垂直となる。一端木口には片側木端からの削りにより納孔が作りだされる。木口面は丸い。	モミ属
722 1632	建築部材	76.7+α×10.6×5.2	㊦-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	平面形は斜辺が鋭角となる長い三角形となる。一端の木口には4.5×6.0cm+αの納孔がある。	クリ
723 0699	建築部材	159.2+α×14.6×4.6	㊦ SA4002 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	ほぼ均一な厚さ、幅の板材。全面炭化するが一端の木口には方形の納孔の痕跡を残し、その木口寄りに炭化の特に濃い部分があり凹みが生じている。	-
724 0901	建築部材	117.2+α×13.6×5.2	㊦ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの長方形板材。一端の木口には方形の納孔の痕跡がある。表面は全面炭化している。	-
725 1650	建築部材	109.2+α×24.7+α×3.5	㊦ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	片側の木端の み残存	均一な厚さの板材。残存する木端は木表に対して垂直となる。一辺16.6cmの方形納孔の痕跡を残す。この納孔周辺の木表に炭化痕を残す。	-
726 2601	建築部材	100.3+α×14.0×5.1	㊦-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	ほぼ均一な厚さの長方形板材。両端の木口に幅5.0cmの長方形納孔がある。	ウツラ
727 0648	建築部材	71.1+α×20.0×5.8	㊦ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	両木端面が傾斜する断面台形状の板材。残存する木口面には木表側からの削りがある。一方の木口には長方形であった納孔がある。	クスギ 節
728 1620	建築部材	68.9+α×15.0×2.8	㊦ SA4006 弥生後期-古 墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木端は木表の削りにより断面台形状となる。一端の木口に6.0cm角の納孔がある。木表に炭化痕が残る。	モミ属
729 1691	建築部材	22.9+α×10.0×3.8	㊦ SD3004	板材 板目	両端木口欠損	削り材を素材とし木肌面が薄くなる台形状の断面となる。一端の木口には幅5.0cmの納孔がある。	コナラ 節
730 と66	建築部材	78.3+α×15.6×3.1	㊦ SD1016 古墳前期	板材 板目	両端木口/木 端の一部欠損	厚さ、幅とも変みのある板材。一端の木口には幅7.0cm、もう一端の木口には幅5.6cmの方形の納孔がある。	-

図版番号 発掘番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
731 0604	建築部材	40.0+α×15.1×4.1	③ SD3004 II 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損 乾燥による歪	中央が膨らむ酒罎形状の板材である。一端の木口は欠損するが中央部と同様の5.5cm角の長方形の孔があったと推定される。	サワラ
732 1679	建築部材	20.3+α×15.1+α×4.9	③ SA4001 古墳前期	板材 斜め	一端の木口/ 片側の木端欠損	残存する木口は湾曲形状となり木表からの削りで断面斜めとなる。一端の木口に7.0cm幅の納孔がある。	クリ
733 0668	建築部材	213.0+α×12.7(径)	③ SD3004	丸木 芯もち	両端木口欠損	一端の木口寄りに8.0cm角の納孔がある。表面に削りなどの加工痕はない。	-
734 0666	建築部材	92.0+α×9.6(径)	③ SD3004 II 弥生後期	丸木 芯もち	両端木口欠損	中央部に8.0×6.0cmの長方形の納孔がある。	-
735 1640	建築部材	91.2+α×15.7×9.1	①-1 SD3003 古墳前期	削り材残 片側の木端欠損	両端木口/ 片側の木端欠損	断面半円形の木肌を残した削り材である。中央部に幅6.0cm長さ11.0cm+αの長方形納孔がある。一部に炭化痕が残る。	コナラ 類
736 1626	建築部材	53.0+α×13.1×6.8	①-1 SD3003 古墳前期	削り材残	一端の木口欠損	断面半円形の木肌を残した削り材を素材としている。木表面には粗い削り痕が部分的に残り、一端の木口には直径9.0cmの納孔がある。	-
737 1635	建築部材	48.7+α×13.8×8.1	①-1 SD3003 古墳前期	削り材残	一端の木口/ 片側の木端欠損	断面半円形の木肌を残した削り材を素材とし片側の木端には7.0cm幅の納孔がある。部分的に残存する木口面は木表からの削りにより粗斜する。	-
738 1616	建築部材	51.7+α×10.8×7.6	①-2 SD3004	削りだし	両端木口欠損	1/8削り材を素材とし断面半円形に削りだしている。表面には部分的に削り痕が残る。一端の木口には板状に削りだした面に幅4.0cmの納孔がある。	コナラ 類
739 2607	建築部材	38.0+α×10.1×7.9	①-1 SD3003 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	削り材を素材とし、断面六角形に近い角材に削りだす。表面には粗い削り痕が随所に残る。一端の木口には幅4.0cmの納孔がある。	クヌギ 類
740 1681	建築部材	100.3+α×10.4+α×7.5	③ SA4006 弥生後期-古 墳前期	削りだし	一端の木口/ 片側の木端 一部残存	削り材(1/4)を素材とし断面均一な半円形に削りだす。表面には粗い削り痕が残る。残存する木口は突起状の削りだしがあり、外縁は尖り気味、内側は平広面を作りだす。	クリ
741 2615	建築部材	69.6+α×11.6(径)	③ SA4006 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	丸木材の二又部を素材とし、二又部片側の幹木口には削り痕を残す。幹部の木口に幅6.4cmの納孔がある。表面全面炭化。	-
742 1648	建築部材	28.2+55.3+α×10.4+ α×5.0	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠 損	残存する木口は木表からの粗い削りが残り、断面斜めとなる。残存する木口寄りの木表、木端には削り痕が残る。2個体の接点がないが4.2×5.0cm+αの納孔の痕跡を残す。	クリ
743 0630	建築部材	151.3+α×9.6+α×12.1	③ SD3004 I 弥生後期	削りだし	両端木口/ 片側の木端欠損	別の削り材を素材として削りだしにより長方形断面の部材を作りだす。残存する木端には段差があり、粗い削りを顕著に残す。対する木端面には5.0×2.5cm+α、8.0+α×6.2cm+αの方形の納孔が2カ所にある。	コナラ 類
744 1695	建築部材	39.4+α×7.4+α×7.5	①-1 SD6002 古墳前期	角材 板目	両端木口/ 片側の木端/ 片面欠損	角材を削りだし約2.5cmの段部をつくる。表面一部に削り痕が残る。	モミ属
745 0657	部材	41.6+α×8.6×6.9	③ SD3004 I 弥生後期	角材 板目	両端木口/ 木裏の一部欠損	芯部のある角材の木表を削り込んだ大きな段がある。	モミ属
746 0660	建築部材	50.8+α×14.3×11.6	③ SD3004 I 弥生後期	削りだし 芯もち	一端の木口欠 損	丸木材を削りだし角材としている。中央部に粗い削りが顕著に残り台形状の抉込みがある。	モミ属
747 1667	建築部材	63.7+α×9.8×4.8	③ SA1002 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	1/8削り材から断面隅丸長方形に削りだす。一端の木口には炭化痕が残り、炭化面に粗い削り痕がある。一端の木口は故意に裂かれた痕跡がある。	モミ属
748 ヒ37	建築部材	40.6+α×8.8×5.0	⑤ SD1016 古墳前期	角材 板目	両端木口欠損	一端の木口には斜めの粗い削りがあり、片側の木端には幅7.0cmに数度の削り痕が残る。削り部分以外は全面炭化。	ヒノキ 属

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	附録
749 0692	建築部材	236.4+α×9.4(径)	④ SD3004II 古墳前期	丸木 芯もち	ほぼ完存 表面一部欠損	丸木材を素材とし表面を削り角状の面を作る。両端の木口は浅い削りによる納孔がある。	—
750 0686	建築部材	174.8×10.4(径)	④ SD3004 I 発生後期	丸木 芯もち	表面一部欠損	丸木材を素材とし表面に磨しい削りを残し均一な窪とする。一端の木口面は斜めとなり3.2cmの削りによる納孔がある。もう一端の木口にも削りが残り浅い納孔がある。両端の納孔は90°の位置関係にある。	コナラ 節
751 0664	建築部材	210.4×14.0×11.6	④ 水田原 古墳前期	角材 板目	ほぼ完存 表面摩滅	削り材の芯部削を削り角材とし部分的に木肌を残す。木口両端には幅広く削りが残り同一木端面にL字形の納孔がある。中央部には粗い削りによる浅く湾曲する決りがある。	—
752 0685	建築部材	208.0+α×8.4×7.2	④ SD3004II 古墳前期	角材 板目	一端の木口欠損	断面不整形の角材。表面の一部に削りが残る。一端の木口は欠損するが、方形の納孔があり、もう一端の木口は切込み状の凹みがある。木肌側の表面を主として炭化痕がある。	ヤブワ
753 0944	建築部材	154.0+α×8.0×3.0	④ SD3004II 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの板材。一端の木口には納孔があり、木表面に部分的な削りが残る。	—
754 0991	建築部材	89.2+α×8.2×7.6	④-1 SD3003 古墳前期	角材 斜め	一端の木口欠損	残存する木口は木表からのL字形の納孔がある。	モミ属
755 0609	建築部材	96.7+α×5.8×5.0	④ SD3012 古墳前期	板材 斜め	一端の木口欠損	断面方形の角材。一端の木口には湾曲形状の縦長の納孔がある。	モミ属
756 ピ100	建築部材	66.1+α×7.0×5.1	④-1 SK1020 古墳前期	角材 斜め	両端木口欠損	断面は均一な長方形となり、部分的に削りを残す。	モミ属
757 0994	建築部材	130.0+α×10.4×6.8	④-1 SD3003 古墳前期	角材 板目	両端木口欠損	削り材の木肌質、芯部削を削り角材としている。両側木端には削りが顕著に残る。	モミ属
758 0635	矢板 部材転用	83.1+α×6.4×2.4	④ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	ほぼ完存 一端の木口の一部欠損	一端の木口は両側木端からの削りが残り突る。もう一端の木口は、平面凸凹となる。木表裏に削りが顕著に残る。転用材か。	モミ属
759 1840	矢板 部材転用	81.8+α×9.9×1.6	④ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口欠損	均一な厚さの板材。木表には粗い削り痕が顕著に残り、両側の木端面は木肌を斜めに傾斜する断面形状となる。一端の木口には両側木端から削り痕が残り突る。部材からの転用矢板と推定した。	モミ属
760 0634	矢板 部材転用	92.9+α×9.0×3.2	④ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口欠損	先端木口は両側の木端からの削りにより突る。木端面には削り痕が顕著に残る。転用材か。	スギ
761 0843	矢板 部材転用	80.0+α×15.3×4.9	④-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの板材。木表には粗い削り痕が顕著に残り、両側木端は木表に対して垂直面となる。一端の木口には両側木端から削り痕が残り突る。部材からの転用矢板と推定した。	—
762 0631	矢板 部材転用	84.1+α×9.4×2.8	④ SA4003 発生後期	板材 板目	一端の木口欠損	先端木口は両側の木端からの削りにより突る。木端面には削り痕が顕著に残る。転用材か。	ヤブワ
763 1618	矢板 部材転用	73.5+α×11.9×3.3	④ SA4006 発生後期-古 墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な厚さの板材。木表には粗い削り痕が顕著に残る。一端の木口は両側木端に削りが残り細く突起形状を作りだす。木口面には削りが残り突る。転用材の可能性が高い。	モミ属
764 0989	矢板 部材転用	97.0+α×19.0+α×2.8	④-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	両端木口/片 端木端欠損	均一な厚みの板材。両側木端からの削りにより突った先端を作りだす。木表には削りが顕著に残る。転用材の可能性が高い。	—
765 1609	矢板 部材転用	79.0+α×20.8×4.5	④-1 SD3004 板列 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。断面は芯部削に湾曲する形状となる。木表には粗い削り痕が顕著に残り、一端の木口には片側の木端からの斜めの削りが残り先細りとなる。	ヒノキ
766 1633	矢板 部材転用	64.9+α×10.8×4.5	④-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	一端の木口欠損	均一な厚さの板材。両側の木端に粗い削りが顕著に残り先端が突る。先端面は平坦であり炭化痕が残る。両木端の削りが炭化痕を削り込んでいたので転用材とした。	—

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(括弧) 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	器種
767 1692	矢板 部材転用	61.4+α×13.0×3.4	⑤ SD3004	板材 板目	一端の水口欠損	均一な長方形板材。断面は年輪形状に平行して湾曲する。残存する水口は両端端からの削りが残る平面形状の凸となる。	モミ属
768 0653	矢板 部材転用	99.9+α×12.1×3.5	⑤ SA3104 古墳前期	板材 斜め	一端の水口欠損 乾燥による歪	残存する水口は木肌側の木端からの粗い削りと表裏からの単純な削りにより突る。矢板か。	クリ
769 0641	矢板 部材転用	97.2+α×8.9×4.4	⑤ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	一端の水口欠損	先端水口は割面木端からの削りにより突る。片側木端面には削り痕が顕著に残る。先端に炭化痕があるが、削り面は炭化しない。部材を矢板に転用したものである。	サワラ
770 1641	矢板 部材転用	89.2+α×14.0+α×5.0	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	両端水口欠損 片側木端乾燥 により収縮	一端の水口は両側木端からの粗い削りが残り尖片側木端乾燥により収縮。削り形状は片側木端が斜め、もう片側は直線状となる。	-
771 1624	矢板 部材転用	78.2+α×15.5×5.1	①-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	一端の水口欠損	均一な厚さの板材。木表面に削り痕を残す。一端の水口寄りには割面木端からの削りにより幅が狭くなる。水口面には丸味がある削りが残る。	-
772 1662	矢板 部材転用	80.8+α×5.9×3.0	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	両端の木端には削り痕が残る。一端の水口を枕先状に削りしている。一端の水口は炭化痕が残る。整え取った痕跡がある。	-
773 1682	矢板 部材転用	100.6+α×9.1+α×3.0	⑤ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の水口/ 片側の木端の 一部欠損	断面長方形の板材で残存する水口方向に厚くなる。残存する水口は木端からの削りにより湾曲形状となる。	モミ属
774 0978	矢板 部材転用	77.8+α×12.6+α×2.8	① 地点不明 弥生後期-古 墳前期	板材 板目	一端の水口/ 片側の木端欠 損	残存する水口面には削りがあり斜めの平面形となる。表裏木端寄りに粗い削り痕を顕著に残す。	-
775 0628	建築部材	86.2×15.5+α×3.1	⑤ SD4005 古墳前期	板材 斜め	片側の木端欠損	均一な厚さの板材。残存する水口面には木肌からの切断のための斜めの削りがあり突る。もう一端の水口には柵孔の削りがあるが痕跡、形状は不明。	モミ属
776 1612	建築部材	56.9+α×18.2+α×3.7	①-1 SD3003 古墳前期	板材 斜め	一端の水口/ 片側の木端欠 損	均一な幅、厚さの長方形板材。断面は湾曲する形状となる。木表、木裏に粗い削り痕が残る。残存する水口には木表からの切断のためと思われる削り痕が残る。木裏に3.0cm幅の磨れ痕が斜めにある。	-
777 1678	建築部材	68.2+α×19.2×5.7	⑤ SA4006 弥生後期-古 墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	均一な幅、厚さの大形板材。表裏面とも粗い削りが残る。残存する木端、水口面は表面に対して垂直平坦となる。欠損する水口には柵孔の痕跡を残す。	トネリ コ属
778 1202	部材	31.5×18.0×2.1	⑤ SD3004	板材 板目	木端の一部/ 表面の一部欠 損	均一な厚さの板材。一端水口が三角形となり表裏面に削り痕が残る。もう一端の水口面は平坦となる。	フジキ
779 1645	建築部材	97.6+α×16.7+α×4.1	⑤ SA4004 古墳前期	板材 板目	両端水口/ 片側の木端欠 損	均一な厚さの板材。残存する木端面は木面に対して垂直となる。	-
780 2609	建築部材	103.4+α×12.1×4.0	⑤ SA4006 弥生後期-古 墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	均一な厚さ、幅の長方形板材。表面一部に粗い削り痕が残る。残存する水口は表裏面からの削りが残る丸く尖り気味となる。	コナラ 属
781 0279	建築部材	27.7+α×5.2×1.6	①-2 SD3004	板材 板目	両端水口/ 木端の一部欠 損	断面は均一な長方形となり片面に加工痕を残す。両端木端は削られ、幅5.2cmの長い板材になる。	モミ属
782 1663	建築部材	39.4+α×5.5×2.8	⑤ SD3004	板材 板目	両端水口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。片面には粗い削り痕を顕著に残し、両側木端を木面に対して垂直に削る。	モミ属
783 1631	建築部材	93.3+α×9.6+α×3.8	①-1 SD3003 古墳前期	板材 板目	両端水口/ 片側の木端欠 損	残存する木端は曲線形状となり木端面は丸みを帯びる。表面は滑らか。	-
784 1660	建築部材	60.6+α×5.7×3.9	①-1 SD3004	内材 板目	両端水口欠損	一端の水口方向に細くなる形状となる。木面は滑らか。	-

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
785 1617	建築部材	79.0+α×11.8×3.1	㊸ SD3004	板材 斜め	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木表、木裏に粗い削り痕が顕著に残る。残存する木口面は木面に垂直となり、角は丸くなる。	モミ属
786 1666	建築部材	76.7+α×12.5+α×2.7	㊸ SD3004	板材 板目	両端木口/片側の木端欠損	残存する片側の木端に薄くなる断面形状である。木表には粗い削り痕が顕著に残る。	モミ属
787 1652	建築部材	70.3+α×16.0×2.7	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 板目	両端木口/木端の一部欠損	均一な厚さの長方形板材。木表には粗い削り痕が顕著に残り、残存する木端は表面に対して垂直面を作る。	—
788 1684	建築部材	59.5+α×6.6×1.4	㊸ 水田層 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。残存する木口面は平坦であり、表面は滑らかとなる。	モミ属
789 0617	建築部材	60.5+α×18.5×2.5	㊸ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	両面木端面は平坦であり、木裏に粗い削り痕が残る。削りによる木目が浮き出る。	モミ属
790 1693	建築部材	61.7+α×11.8×2.0	㊸ SD3004	板材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの長方形板材。木端面は表面に押し垂直面を作る。	モミ属
791 2602	建築部材	36.6+α×7.6×1.8	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの長方形板材。木裏に粗い削り痕が残る。片側の木端は断面が斜めとなる。	—
792 2608	建築部材	51.6+α×9.3+α×1.6	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 板目	片側の木端の一部残存	残存する木端は表面に押し垂直で平坦となる。表面は滑らか。	—
793 1685	建築部材	52.3+α×6.2+α×2.0	㊸-2 SA3011 古墳前期	板材 斜め	片側の木端の一部残存	均一な厚さの板材。部分的に残存する木端は湾曲形状となる。	モミ属
794 0639	建築部材	78.3+α×14.0+α×3.4	㊸ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	片側の木端のみ残存	均一な幅の板材。片面に粗い削り痕が残る。	モミ属
795 1675	建築部材	50.4+α×15.0×4.4	㊸ SA4006 弥生後期～古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	木表に粗い削り痕が残る。一端の木口方向が薄くなる。片側の木端がやや湾曲形状となる。	モミ属
796 1680	建築部材	50.0+α×12.2+α×1.7	㊸ SA4002 古墳前期	板材 板目	両端木口/片側の木端欠損	均一な厚さの板材。木表には粗い削り痕が残る。残存する木端は表面に押し垂直面となる。	モミ属
797 1683	建築部材	37.9+α×9.5+α×3.0	㊸ 水田層 弥生後期	板材 斜め	一端の木口/片側の木端欠損	均一な厚さの板材。残存する木口は粗い削り痕が残る。削りによる段差を作る。	モミ属
798 1630	建築部材	70.7+α×9.7×3.0	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	断面は片側木端に薄くなる三角形となり均一である。木表には粗い削り痕が顕著に残る。一端の木口には木裏からの削り痕が残る。	モミ属
799 1211	建築部材	29.0+α×9.6×1.4	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	厚さ均一の長方形板材。木表に粗い削り痕が残る。	—
800 0622	建築部材	36.0+α×5.1+α×1.0	㊸ SD3004 I 弥生後期	板材 斜め	片側の木端のみ残存	残存する木端面は細かな削り痕があり断面斜めとなる。	スギ
801 1312	建築部材	19.1+α×10.5+α×1.6	㊸-1 SD33003 古墳前期	板材 板目	一端の木口/片側の木端欠損	均一な厚さの板材。残存する木口面は平坦で角を斜めに削る。木裏に粗い削り痕が顕著に残る。	—
802 1651	建築部材	56.2+α×3.8×2.6	㊸-1 SD33003 古墳前期～中期	角材 板目	両端木口欠損	均一な幅、厚さの角材。片側木端面に粗い削り痕が顕著に残る。	—
803 1218	建築部材	50.4+α×3.4×2.1	㊸-2 検出面 弥生	角材 削りだし	両端木口/表面欠損	断面隅丸方形の削りだし材。木裏面には部分的に削りがあり平坦となる。	モミ属
804 1671	矢板 部材転用	47.6+α×3.0×2.9	㊸ SA3102	角材 板目	両端木口欠損	木表、木裏全面に粗い削り痕が残る。一端の木口は間接からの削りにより尖る。板目材の一部を転用した可能性がある。	モミ属
805 と124	建築部材	93.9+α×3.5+α×2.1	㊸-2 SD1016 古墳前期	板材 板目	両端部欠損	厚さ2.1cmの板材。木裏面に粗い削り痕が顕著に残る。建築部材の一部と推定した。	ヒノキ
806-㊸ 0680	建築部材	112.0+α×9.2(径) 352.8(接合長)	㊸ SD3004 弥生後期～古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	丸木材を素材とし表面には滑しい削り痕が残る。表面の大半には炭化痕が残る。	—

図版番号 整理番号	部 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
806-㉔ 0904	建築部材	128.4+α×9.5(径)	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損 806-㉔、806- ㉔と接合同一 材	丸木材を素材とし、外面に粗い削りを顕著に残し断面多角形となる。表面一部炭化。	-
806-㉔ 0918	建築部材	120.8+α×9.2(径)	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期	丸木材 芯もち	一端の木口欠 損 806-㉔、806- ㉔と接合同一 材	丸木材を素材とし、外面に粗い削りを顕著に残し断面多角形となる。残存する木口は一方から の角度の削りにより尖る。表面一部炭化。	-
807 0988	建築部材	260.8+α×8.8(径)	㉑-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	丸木材を素材とし表面を削り断面円形に作りだす。一端の木口には片面からL字の削りがあり 2.0cm角の納孔がある。表面は大半が炭化する。	モミ属
808 0613	建築部材	89.6+α×10.5×9.3	㊸ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	丸木材の表面を削り断面多角形に作りだしてい る。先端木口は削りにより丸い。木口下に 2.0×5.0cmの長方形納孔。側縁を三角に抉って 作りだされている。粗い削り痕が随所にある。	モミ属
809 2603	建築部材	112.7+α×8.7(径)	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	丸木材を素材とし断面正円形の円柱材にしてい る。表面に粗い削りを残し、残存する一端の木 口面には幅1.5cm、深さ1.5cmの溝が削り込まれ ている。	モミ属
810 0995	建築部材	110.8+α×6.0(径)	㉑-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	残存する木口は周縁から削られ細くなるが、木 口面は平坦となる。	コナラ 属
811 0642	桶状木製品 部材 判物	34.9+α×24.6×13.8	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期		削りだし 表面一部欠損	丸木材の芯部を削り、断面U字形の樋を作る。 一端の木口には粗い削りが顕著に残り、木端面 1か所に浅い抉りがある。	クリ
812 1601	桶状木製品 部材 判物	65.9+α×15.4+α×11.4	㊸ SA4002 古墳前期		削りだし 周縁欠損	深さ5.0cm、底幅5.0cm断面逆台形の溝が削り込 まれる。内面には粗い削り痕が残る。内面木口 が斜めに削られ船形となる。外面は部分的に木 肌を残しており、丸木の削りだし材であったと 推定される。	モミ属
813 0935	建築部材	232.0+α×9.1(径)	㊸ SA3514 I 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	中央部から屈曲する形状となる。残存する木口 には片面からの粗い削りが残り納孔を作りだす。 木口面は丸い。	-
814 0993	建築部材	166.2+α×7.6(径)	㉑-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	一端の木口は片面からL字に削られ先端面が 尖る。枝打ち削り痕が4か所にある。	クリ
815 0698	建築部材	122.8+α×12.8(径)	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	一端の木口/ 表面欠損	丸木材を素材とし表面には削りが残り角状の面 を作る。残存する木口は1方向からの斜めに削 りがある。	-
816 2606	建築部材	53.1+α×8.5×6.2	㉑-1 SD3003 古墳前期	削りだし 芯もち	一端の木口欠 損	丸木材を素材とし、芯部を残したまま断面不整 長方形に削りだしている。表面、木口には粗い 削り痕が残る。木口面は尖り気味となる。	-
817 0982	部材	101.2+α×12.3+α×12.0	㉑-1 SD3003 古墳前期	削り材片	一端の木口/ 片側の木端欠 損	片削り材であった可能性が高い。一端の木口は 側面木肌側からの削りがあり断面斜めとなる。 全面炭化するが中央部に14.0cm幅の炭化しない 部分がある。	-
818 0903	建築部材 柱材か	218.8+α×11.2(径)	㊸ SA4002 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	残存する木口は1方向から斜めに削る。一端の 木口は二又部である。枝払い切断削りが随所に 残る。	-
819 0691	建築部材 柱材か	228.4+α×9.4(径)	㊸ SD3004 弥生後期-古 墳前期	丸木 芯もち	両端木口欠損	先端二又の丸木材を素材とし、表面を削り角状 の面を作る。一端の木口は大きく斜めに削る。 柱材か。	-
820 0998	部材	165.8+α×6.2(径)	㉑-1 地点不明 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	枝を素材とし、平面形状は鈍形する。幹寄り に片面から3.2cm角の方形の納孔がある。	-
821 1638	建築部材	91.0+α×10.5(径)	㉑-1 SD3003 古墳前期	丸木 芯もち	一端の木口欠 損	真っ直ぐな丸木材。残存する木口面には、木輪 に対して垂直方向からの削り痕を顕著に残す。	-
822 0647	建築部材	166.4+α×15.0×5.0	㊸ SD4006 古墳前期	板材 板目	両端木口/ 木端の一部欠損	一端の木口には長方形の納孔があった痕跡を残 す。木表には粗い削りが顕著に残る。	クリ

図版番号 整理番号	券種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
823 2620	建築部材	135.2+α×20.0+α×4.8	㊸ SA3514 弥生後期-古墳前期	板材 斜め	一端の水口/ 片側の木端欠損	均一な厚さの大形長方形板材。木裏面に部分的な削りが残る。残存する木口面には木表からの削りが部分的に残る。	-
824 ヒ631	建築部材	145.2+α×10.8×3.5	㊸-2 SD1016 古墳前期	板材 斜め	両端木口欠損	均一な厚さの大形板材。木表に粗い削りが顕著に残る。両木端は木表からの削りにより断面斜めとなる。	-
825 ヒ601	建築部材	139.2+α×11.6×3.3	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	両端木口/片 側一部欠損	残存する木端面には削りが残り平坦となる。木表に部分的削りがある。長い板材になると推定される。	-
826 ヒ633	建築部材	40.4+α×40.8×3.8	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	一端木口欠損 表面摩滅	残存する木口に木表からの削りがあり、木口面は平坦となる。	-
827 0905	建築部材	148.4+α×21.6+α×6.2	㊸ 水田層 古墳前期	板材 板目	一端の水口/ 片側の木端欠損	断面形、厚さ不均一の板材。残存する木端は木表からの斜めの削りがある。木表には粗い削りが顕著に残り、大きく凹む。	-
828 0912	建築部材	106.6+α×25.4×6.2	㊸ 水田層 弥生後期	板材 斜め	一端の水口欠損	残存する木口は切断のための平坦な削りがある。木裏面に削り(手斧痕)が顕著に残る。	モミ属
829 0678	建築部材 素材か	261.6+α×9.2×4.6	㊸ SA4003 弥生後期	板材 斜め	両端木口欠損	削り材を素材とし削り面を更に削り板材としている。素材か。	コナラ 節
830 0676	建築部材	293.0+α×14.0×6.8	㊸ SD3004II 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	断面不整形長方形の大形板材。木表の一部に削りの痕がある。	サワラ
831 ヒ606	建築部材	299.5+α×15.2×3.4	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損 表面一部摩滅	木裏面に部分的な削りがある。大形の板材。	-
832 0931	建築部材	305.6+α×17.6+α×4.0	㊸-1 SC3001 平安	板材 板目	両端木口欠損	木表には粗い削りが残り木裏は髪き取りった表面となる。大形の板材であり重厚か。	-
833 0907	建築部材	174.0+α×18.0×5.6	㊸ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	両端木口/片 側の木端の一部欠損	断面長方形の板材。木表に一部削りを残す。	-
834 0927	建築部材 梯子か	161.6+α×31.2×12.4	㊸ SA3514 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損 表面摩滅	両木端に粗い削りがあり木端面は平坦となる。木表に3段の削り込みがあり梯子の段と同様の加工となる。	-
835 2619	建築部材	152.0+α×12.4×3.2	㊸ SA3514 I 弥生後期-古墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	均一な幅の長方形板材。木裏には部分的削り痕が残るが厚さに歪みがある。残存する木端は木裏に対して垂直面となる。	-
836 0674	建築部材	166.4+α×12.8+α×10.2	㊸ SC3521 弥生後期	角材 板目 芯もち	全面炭化 原形不明	表面、側面全体に炭化による変質が著しい。芯のある板材であったと推定される。	モミ属
837 0687	建築部材	229.0+α×16.8×6.4	㊸ SA4001 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	1/8削り材の木肌側を更に削り断面不整形三角形状となる。表面は削り髪いたままで削り痕跡はない。素材の可能性もある。	-
838 0695	建築部材	235.2+α×15.9+α×5.5	㊸ SA3101 古墳前期	板材 板目	一端の水口/ 片側の木端欠損	断面不整形長方形の大形板材。残存する木口面には削りが残り、平面形が斜めとなる。片面には粗い削りが顕著に残る。	-
839 2623	建築部材	232.4+α×8.6×4.8	㊸ SD3004 I 弥生後期	板材 板目	一端の水口欠損	片側木口が厚みを増す大形長方形板材。表面、片側木端に部分的な削りがある。残存する木口は木端、表面からの削りにより斜め形状に突出する。	-
840 ヒ608	建築部材	195.6+α×10.8×2.9	㊸ SD1016 古墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	残存する木口に木端と片面からの削りがある。中央部に幅4.0cmの溝状の削りがある。	-
841 0697	建築部材	184.0+α×14.4+α×5.8	㊸ SC4014 弥生後期	板材 板目	両端木口欠損	均一な厚さの削り材。表面に削り等の加工は認められない。素材の可能性もある。	-
842 0933	建築部材	181.6+α×20.8×5.7	㊸-1 SD3002 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	削り材を素材とし片面に粗い削りを残して板材としている。残存する木口には表裏面からの粗い削りがあり断面斜めとなる。	-
843 0656	建築部材	161.9+α×15.6×5.6	㊸ SD3013 古墳前期	板材 板目	一端の水口欠損	均一な厚さの板材。残存する木口は表裏面からの鈍角な削りがある。またこの木口削りの片面に刃物による線状痕がランダムにある。	トネリコ属

図版番号 整理番号	部 種	長さ×幅×厚さ(括弧) 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
844 6109	建築部材	185.4+α×10.4×2.2	⑦ SD1016 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	均一の大形板材。片側木口に浅い切りがある。	-
845 0999	建築部材	91.0+22.8+α×9.0×8.0	①-1 SD3003 古墳前期	角材 板目	一端の木口欠損 2個体	残存する木口は片側の木端からの削りにより先細りとなる。表面に粗い削りが残る。	-
846 0923	建築部材	112.4+α×7.6×4.0	①-1 SD3004	板材 板目	一端の木口欠損	木口に粗い削りを残し平面を作る。残存する木口は鈍角に尖る。	-
847 0696	建築部材	162.8+α×9.6×9.2	④ SD3004II 古墳前期	角材 斜め	両端木口欠損	断面長方形の均一な角材。削り面の端の部分に削り痕を残す。	-
848 0909	建築部材	134.4+α×8.0×7.6	④ SD3004II 古墳前期	角材 板目	両端木口欠損	断面長方形の角材。一端の木口には納孔の痕跡がある。両端木口寄りは炭化。	-
849 1698	建築部材	127.7+α×8.7×6.1	①-1 SD3003 古墳前期	角材 板目	一端の木口欠損	一端の木口には数方向からの粗い削りが残り断面多角形状となる。木口面は平直となり尖らない。表面に部分的な削り痕が残る。	-
850 0690	建築部材	150.8×8.8×8.4	④ SD3004I 弥生後期	削りだし	ほぼ完存 表面の一部欠損	1/8削り材を素材とし断面不規則形に削りだす。木口は両端とも極端により丸くなる。表面には部分的に削りがある。	-
851 0924	建築部材	35.2+α×10.4×9.8	①-1 水田層 古墳前期	削り材/丸	両端木口欠損	均一な幅、厚さの削り材。木端木口に削り痕を残す。素材か。	-
852 0930	建築部材	190.4+α×6.8+α×5.5	①-1 SD3003 古墳前期	削り材	一端の木口/ 片側の木端欠損	断面三角形であるが木端面は裂けた状況となる。本来は厚もしくは丸木であった可能性がある。残存する木口寄りは炭化しているが、削りが残り切りがある。	-
853 1647	建築部材	173.8+α×7.4×5.4	④ SD3004I 弥生後期	削り材/丸	一端の木口欠損	1/8削り材を素材とし、削り面に粗い削り痕を残す。残存する木口は芯部側、削り面側からの斜めの削りがある。	-
854 0928	建築部材	259.6+α×8.8×5.4	①-2 SD3004 古墳前期	削り材/丸	一端の木口欠損	木端木口に削り痕を残す。	-
855 6104	建築部材	182.4+α×10.0×6.8	⑦ SD1016 古墳前期	削り材/丸	両端木口欠損	1/8削り材の木肌側に部分的な削りがある。側面に削りはない。素材の可能性もある。	-
856 0675	建築部材	172.8+α×12.4×7.4	④ SD3004	削り材/丸	両端木口欠損	1/8の大形削り材。表面は、削り裂いたままである。素材の可能性もある。	クスギ 節
857 0693	建築部材	312.0+α×11.6×10.8	④ SD3004II 古墳前期	削り材/丸	両端木口欠損	1/8削り材を素材とし木肌を部分的に残す。ほぼ中央部に削り痕が顕著にあり切欠き状の段差を作る。部分的に炭化痕を残す。	-
858 0654	部材 古か	54.1+α×18.4×7.9	④ 水田層 弥生中期	削りだし	一端の木口欠損	削り材を削りだし平直三角形状(残存形状)となる。残存する木口は木端からの削りが残り丸くなる。もう一端の木口は炭化痕が深い。	サワラ
859 0655	部材	94.1+α×10.3+α×4.2	④ SD3004I 弥生後期	角材 斜め	一面木表のみ 残存	残存する木端、木表から角材と推定される。表面には粗い削りが部分に残るが全体的に滑らか。	モミ属
860 0651	建築部材	100.0+α×16.5+α×5.3	④ SD3014 古墳前期	削り材/丸	一端の木口一 部残存	芯部側に湾曲する断面形状となり、残存する木口には炭化痕、削り痕が残り平面形に磨く。欠損著しいが大形の削り材になると推定した。	サワラ
861 0683	建築部材	165.3+α×8.8×8.2	④ SD3004 弥生後期-古 墳前期	削りだし	一端の木口欠損	削り材を素材とし表面を削り角状の面を作る。残存する木口は角材から削りが残り鈍角に尖る。もう一端の木口寄りには圧迫された痕跡がある。	-
862 2622	建築部材	168.8+α×11.6×7.6	④ SA3514I 弥生後期-古 墳前期	角材 斜め	両端木口/ 片側欠損	片側が欠損し枝の芯部を残す角材と推定される。残存する面は平直で一部に炭化痕が残る。	-
863 0679	建築部材	143.2+α×13.0×10.4	④ SA4007 古墳前期後半	削りだし	両端木口欠損	削り材を素材とし、角材に削りだす。表面の一部に削り残る。	フジキ
864 0681	建築部材	152.6+α×11.4×8.0	④ SD3004II 古墳前期	削りだし	両端木口/ 表面の一部欠損	表面は炭化が著しく原形不明。部分的に削りが残り角材であったと推定される。	サワラ
865 0966	建築部材	196.8+α×8.0×4.3	④ SD3004II 古墳前期	板材 板目	一端の木口欠損	断面長方形の均一な板材。木口に削りが顕著に残る。一端の木口寄りに炭化痕がある。	-

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(注) 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
866 0936	建築部材	163.2+α×6.4×4.0	①-1 SD3004	板材 板目	一端の木口炭化により欠損	断面長方形の均一な板材。残存する木口には削り材が丸くなる。約1/4炭化痕が残る。	—
867 1644	建築部材	179.0+α×11.6×5.8	③ SD3004II 古墳前期	割り材	一端の木口欠損	割り材を素材とし一端木口が彫らむ形状となる。木表面は部分的に削りがあり、木裏は平坦となる。残存する木口は木裏からの削りが残り丸くなる。木口寄り3カ所に圧痕が残る。	—
868 0961	建築部材	165.6+α×9.2×4.0	⑤ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	一端の木口欠損	木表面に縦き面を残し、木表に一部削りがある。	—
869 1661	建築部材	110.5+α×9.8×4.4	③ SD3004 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	板目の木取りで断面楕円形に削りだし、木表には削り痕が部分的に残る。一端の木口方向に幅を狭くする形状となる。	—
870 2610	建築部材	85.6+α×4.7×2.4	⑤ SD3012 古墳前期	削りだし	両端木口欠損	板目を素材とし断面隅丸長方形の細長い材に削りだす。表面は滑らか。	クリ
871 1634	建築部材	94.8+α×14.1×7.4	①-1 SD3003 古墳前期	削りだし	一端の木口/片面の一部欠損	断面半円形の浅削り材を素材としている。表面には粗い削り痕が残る。部分的に残存する木口は木軸に対して斜めの削りがある。	クヌギ 節
872 1605	建築部材	69.9+α×13.5×6.7	①-2 SD3004	削りだし	両端木口/片面の木端の一部欠損	割り材から断面半円形に削りだしている。表面には削り痕が顕著に残る。	フジキ
873 ビ104	建築部材	81.3+α×10.1×7.9	⑥-1 SK2492 古墳前期	削りだし	一端の木口欠損	断面六角形に削りだされ残存する木口は角を斜めに削り方形の凸部を作りだす。残存木口を主として炭化痕が残る。	サワラ
874 ビ122	建築部材	43.3+α×6.9×4.3	⑤-2 SK2063 古墳前期	角材 板目	一端の木口欠損	断面不等方形であり、先端部は表裏、片面側面に削りがあり丸い形状となる。表面一部に削りがあり木端の一部に炭化痕が残る。	クヌギ 節
875 0612	建築部材 転用材	39.2+α×15.5×6.4	①-1 SD3004	板材 板目	一端の木口欠損	割り材を素材とし断面が芯部を頂点として三角形になる。木口寄りに幅広く段を削りだし、木端からの削りにより先端は三角形に突る。	フジキ
876 0643	建築部材	67.6+α×20.3×7.2	④ SD3004II 古墳前期	板材 板目	両端木口欠損	一端の木口には木表からの削りによる段がある。	ヒノキ
877 1697	建築部材	40.8+α×12.0×2.0	①-2 SD3004	板材 斜め	一端の木口/木端の一部欠損	木表に粗い削りを残す長方形板材。一端木口寄りに段を作りだし厚みを薄くしている。部材への差込み部分か。	—
878 1625	台	41.4×16.6×5.2	⑥ SH4001 古墳前期	板目	ほぼ完存	木裏面が平坦となり難痕がある。両端木口は木表もしくは木裏からの削り痕が顕著に残り断面斜めとなる。両側木端面は深く突る。大形削り層の転用材とした。	—
879 ビ107	部材	72.9+α×4.1(径)	⑥-1 SK2193 中世	丸木 芯もち	両端木口欠損	二又の枝部先端を1方向から削り尖らせる。枝打ち痕が数カ所にある。	クリ
880 ビ105	部材	67.6+α×5.4(径)	⑦ SK2649 丸木 芯もち	丸木 芯もち	一端の木口欠損	残存する木口は1方向から数度におたる難かな削りが残り鈍角に丸くなる。	サワラ タギ
881 ビ135	部材	19.6×5.8+α×4.1	⑤-2 SD1016 古墳前期	割り材	片面の木端欠損	一端木口は木表からの細かい削りが残り斜めに丸く作りだされる。もう一端の木口は木裏からの削りが残り丸い形状となる。	コナラ 節
882 ビ106	部材	29.5+α×8.1×4.0	⑥-1 SK2193 中世	割り材	一端の木口欠損	残存する木口は数度におたる難かな削りが残り丸くなる。	モモ
883 ビ72	建築部材 差木か	38.3+α×3.7(径)	⑦ SD1008	丸木 芯もち	一端の木口/先端木端の一部欠損	残存する木口は1方向からの単純な削りにより鈍角に突る。枝切面痕が1カ所にある。	—
884 ビ70	削り層	29.9+α×3.2×3.5	⑦ SD1016	割り材1/8	一端の木口欠損	残存する先端部に向かって厚くなり、先端部には1方向からの単純な削りの一部がある。	—
885 0299	用途不明	21.3+α×5.0(径)	⑥ 水田層 古墳前期	丸木 芯もち	両端木口の先端欠損	一端の木口は数方向からの削りにより杭状に先端を尖らせ、もう一端の木口は1方向からの削りにより斜めに加工されている。	カエデ 属

図版番号 整理番号	群 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
886 ピ84	用途不明	18.4+α×7.1(径)	⑤ SD1016	丸木 芯もち	一端の水口欠損	先端は3方向から1度の削りにより尖る。欠損水口裏りに幅5.0cmの方形の窪みが削りだされる。一部が炭化している。建築部材の一部の可能性はある。	クスギ 節
887 ピ25	用途不明	12.0+α×2.8(径)	⑤-2 SK2064 平安	丸木 芯もち	両端水口欠損	枝部切断のための削り痕が顕著に残り、両水口欠損部近くに刀物による線状痕がある。	—
888 ピ143	用途不明	22.9+α×4.8×4.1	⑦ SD1016	板目	両端水口欠損	肉材の側面に粗い削り痕があり挟り込まれている。対する裏面にも刀物による線状痕が平行に残る。部材の未製品の可能性がある。	カヤ
889 ピ95	削り屑	7.8+α×10.9+α×4.4	⑤ SD1016 古墳前期	板目	一部残存	1/8削り材を素材としている。一端の水口は削り面からの鈍角削り痕がランダムに残り、平面は円形に近い。	クスギ 節
890 ピ86	削り屑	13.4+α×11.4+α×3.1	⑤ SD1016 古墳前期	板目	一端の水口/片削の水口欠損	板目材の一部で、一端の水口には木表からのランダム削り痕がある。	モミ属
891 ピ89	削り屑	5.9+α×7.1×1.4	⑤ SD1016 古墳前期	板目	一端の水口欠損	両水口は平並に削られ、一端の水口には削り面からの斜めの削り痕がある。	コナラ 節
892 ピ149	削り屑	13.2+α×12.1+α×1.3	⑥ SD1016 古墳前期	板目	一端の水口欠損	残存する水口は湾曲し断面は斜めの削り痕が残る削り屑と推定したが製品の可能性もある。乾燥による歪	クスギ
893 ピ69	削り屑	32.0+α×3.9×2.0	⑦ SD1016	削りだし	一端の水口欠損	残存する先端部に向かって厚くなり、先端部には削り屑の一部としての線状削り痕がある。	—
894 ピ22	削り屑 板状	4.7×4.6×1.3	⑤-1 SD1016	板目	一端の水口の一部欠損	平面方形。縦断面は平行四辺形となる。削り痕が両水口の切断面、表面にある。	ヒノキ
895 ピ74	削り屑	11.6×9.4×2.5	⑤ SD1016 古墳前期	板目	ほぼ完存	両水口に木表からの鋭角削り面が残る。表面に木孔を残し扇形は方形となる。	モミ属
896 ピ77	用途不明	13.6+α×6.4×4.8	⑤ SD1016 古墳前期	削りだし	両端水口欠損	断面が長方形の均一な肉材である。残存する水口は表裏、両水口からの削り痕があり尖る。	トネリ コ属
897 ピ152	削り屑	13.5+α×5.6×4.3	⑦ SD1016 古墳前期	板目	両端水口欠損	一端の水口には木表からの鈍角削り痕と木表からの鋭角削り痕がある。木表面は平並である。	カヤ
898 ピ65	用途不明	6.9+α×3.0(径)	⑦ SD1016	丸木 芯もち	一端の水口欠損	先端部は1方向からの1度の削りによって尖っている。	—
899 ピ144	用途不明	7.5+α×3.3(径)	⑦ SK1084 中世	丸木 芯もち	一端の水口欠損	先端には周縁から数度の単純削り痕が残り、先細りとなるが端部は尖らず平並である。	サイカ チ
900 ピ64	削り屑	10.1+α×3.2×3.1	⑦ SD1016 古墳前期	削りだし	一端の水口欠損	削り材の削り屑。残存する水口及び対する部分に鈍角削り痕がある。削り面は湾曲形状。	—
901 ピ58	籠	0.6(皮幅)	⑤ SD1016 古墳前期		両端欠損	12.0cm前後の深さをもつ袋状の籠に復元される。六角形の籠目を作る編み方で口縁には重ね巻きがある。	—
902 ピ55	籠	0.5(皮幅)	⑤ SD1016 古墳前期		一部乾燥による歪	全形不明。六角形の籠目を作る編み方である。	—
903 ピ45	籠	0.3(皮幅)	⑤ SD1016 古墳前期		一部残存	0.2~0.3cm幅の樹皮に同様の樹皮を螺旋状に編み込んでいる。円錐形の籠になると推定。	—
904 ピ47	籠	0.4(縦皮幅)、0.15(横皮幅)	⑦ SD1016 古墳前期		一部残存	幅0.4cmの縦樹皮に細い横樹皮が交互に編み込まれる。円錐形の籠になると推定。	—
905 ピ199	籠	0.35(縦皮幅)、0.1(横皮幅)	⑥ SD1016 古墳前期		一部	全形不明。幅0.4cmの縦樹皮に0.1cm幅の横樹皮が交互に編み込まれる。籠の底部部分。	—
906 ピ198	籠	0.4(縦皮幅)、0.1(横皮幅)	⑥ SD1016 古墳前期		一部	全形不明。幅0.4cmの縦樹皮に0.1cm幅の横樹皮が交互に編み込まれる。	—
907 ピ57	籠	0.3(皮幅)	⑥ SD1016 古墳前期		一部	全形不明。0.2~0.4cm幅の樹皮を交互に重ねて編み込む。籠の底辺りと推定。	—
908 ピ56・57	籠	0.3(皮幅)	⑥ SD1016 古墳前期		一部	全形不明。0.2~0.4cm幅の樹皮を交互に重ねて編み込む。籠の底辺りと推定。	—
909 ピ56	籠	0.2(皮幅)	⑥ SD1016 古墳前期		一部	全形不明。0.2cm幅の樹皮を交互に重ねて編み込む。籠の底辺りと推定。	—

図版番号 整理番号	群 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴	樹種
910 ビ46	編み物	0.6(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部残存	0.4~0.6cm幅の帯皮が数単位で編み込まれる。 平坦な袋物状の編み物と推定される。	—
911 ビ24	笄子 竹編物	14.4+α×17.3+α× 0.1~0.3 1.0(皮幅)	㊸-1 SK2249	コーナー 1カ所残 存	折り返しの縁 部残存 約4残存か	平面形は八角形に近い形状が推定される。素材 (竹)の先端を尖らせ、縁を折り返している。	ヒノキ
912 ビ197	木皮	7.0(皮幅)	㊸-1 SD2024 古墳前期		一部	平面楕円形に丸くなる。紐留結合のための素材 と思われる。913と同一。	—
913 ビ196	木皮	6.6(皮幅)	㊸-1 SD2024 古墳前期		一部	平面楕円形に丸くなる。紐留結合のための素材 と思われる。912と同一。	—
914 ビ191	木皮	5.0(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面5~6重の冢円形となる。素材と思われる が断面円形の製品に巻かれていた可能性もある。	—
915 ビ12	木皮	3.8(皮幅)	㊸-㊸ SD1016		一部	冢円にカールしている。製品に巻かれていた痕 跡はない。	—
916 0216	紐状木皮	3.2×1.2×0.2 1.0(皮幅)	㊸ SD3004 I 弥生後期		一部	4重に巻かれていた木皮で、残存状況から約 3.0cm角のものに巻つけられていたと推定され る。	—
917 ビ185	木皮	1.6(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面円形となる。幅広であることから紐留結合 の素材と思われる。	—
918 ビ186	木皮	1.7(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面円形となる。幅広であることから紐留結合 の素材と思われる。	—
919 ビ189	木皮	1.05(皮幅)	㊸-1 SD1016 古墳前期		一部	平面2重の円形となる。紐留の紐の一部と推定 される。	—
920 ビ187	木皮	1.0(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面円形となる。紐留の紐の一部と推定される。	—
921 ビ195	木皮	1.8(皮幅)	㊸-1 SD2024 古墳前期		一部	平面3重に円形となる。幅広であることから紐 留結合の素材と思われる。	—
922 ビ192	木皮	2.3(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面3重の「の」の字状となる。幅広であるこ とから紐留結合の素材と思われる。	—
923 ビ193	木皮	1.5(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面4重の円形となる。紐留の紐の一部と推定 される。	—
924 ビ188	木皮	0.6(皮幅)	㊸-1 SD1016 古墳前期		一部	平面2重の円形となる。紐留の紐の一部と推定 される。	—
925 ビ190	木皮	0.7(皮幅)	㊸-1 SD1016 古墳前期		一部	平面3重の円形となる。紐留の紐の一部と推定 される。	—
926 ビ194	木皮	0.9(皮幅)	SD1016 古墳前期		一部	平面円形となる。紐留の紐の一部と推定される。	—
927 ビ184	木皮	0.3(皮幅)	㊸ SD1016 古墳前期		一部	平面2重の円形となる。紐留の紐の一部と推定 される。	—

抗観票表

杭の本取り及び先端加工形状の分類の略号

木取り

削り形状①は削りの方向及び角度の状況

I Ⅰ部…丸木芯もち材	A…周縁線方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものの B…周縁線方向から比較的鈍角に先端を削りだしたものの C…1方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたものの D…1方向もしくは片面から比較的鈍角に先端を削りだしたものの	削り形状②は削りの傾度、面数 a…角度にわたる細かな削り痕が残るもの b…単純な削り痕を残すもの		
			削り形状③は削りの長さ S…短いもの M…中間の長さのもの L…長いもの LL…際立って長いもの	
				Ⅱ Ⅰ部…削り材
				Ⅱ'1部…削り材 芯部削削り
Ⅱ'2部…削り材 木肌削削り				
Ⅲ Ⅰ部…角材	A…周縁線方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものの B…周縁線方向から比較的鈍角に先端を削りだしたものの C…削り面もしくは木肌側に削り痕がないもので鋭角に先端を削りだしたものの D…削り面もしくは木肌側に削り痕がないもので鈍角に先端を削りだしたものの			
Ⅳ Ⅰ部…板用材				

図面番号 整理番号	器 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
928 ピ108	杭	31.4+α×4.7×3.0	④ SA1001	削り材 1/8	頭部欠損	ⅡAa-L…4方向	ユクノ キ
929 ピ111	杭	21.9+α×4.7×2.9	④ SA1001 古墳前期	削り材 1/8	頭部欠損	Ⅱ'2Aa-M…5方向	ユクノ キ
930 1851	杭	34.0+α×3.6(径)	⑤ SA4003 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Cb-M…1+α方向	トチノ キ 根
931 1841	杭	61.3+α×8.4×3.8	⑤ SA4003 弥生後期	板材 斜め	頭部/先端の 一部欠損	IVAb-L…4方向	ヤマグ ワ
932 1849	杭	46.0+α×6.8×3.5	⑤ SA4003 弥生後期	削り材 1/8	頭部/先端の 一部欠損	Ⅱ'2Ab-L…2方向	ヤマグ ワ
933 1853	杭	91.6+α×6.9×4.8	⑤ SA4003 弥生後期	削り材 1/8	頭部欠損	Ⅱ'2Ab-M…5方向	ヤマグ ワ
934 1855	杭	43.5+α×6.0(径)	⑤ SA4004 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ba-S…5方向	クスギ 節
935 1850	杭	88.6+α×6.4(径)	⑤ SA4004 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/全体の 欠損	I Da-S…4+α方向	コナラ 節
936 1839	杭	79.8+α×7.8×5.0	⑤ SA4004 弥生後期	角材 斜め	頭部/先端の 一部欠損	ⅢAb-M…6方向	ヤマグ ワ
937 1854	杭	83.1+α×8.0×4.1	⑤ SA4004 弥生後期	削り材 1/8	頭部欠損	Ⅱ'2Ab-M…5方向	ヤマグ ワ
938 1848	杭	62.3+α×6.7×4.0	⑤ SA4004 弥生後期	削り材 1/8	頭部欠損	Ⅱ'1Ab-M…3方向	ヤマグ ワ
939 1846	杭	66.2+α×3.5(径)	⑤ SA4005 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Cb-S…1方向 枝打ち削り痕を残す	クスギ 節
940 0846	杭	137.5+α×6.7(径)	⑤ SA4008 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ba-S…6方向	-
941 1819	杭	39.4+α×5.6(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ca-L…2方向	ヤナギ 属
942 1832	杭	71.2+α×8.2(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向	ヤマグ ワ
943 1822	杭	30.4+α×4.4(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ca-L…2方向	ヤナギ 属
944 1827	杭	52.2+α×6.2(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…7方向	ヤマグ ワ
945 0847	杭	133.7+α×7.3(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…7方向	-
946 0850	杭	116.2+α×7.7(径)	⑤ SA4006 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Db-S…1方向	-
947 0855	杭	131.7+α×8.0×4.8	⑤ SA4006 弥生後期～	削り材 1/8	頭部欠損	ⅡCa-L…3方向	-

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り①・②・③)	樹種
948 1828	杭	55.6+α×6.0×5.9	㊟ SA4006 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II'2Ab-M…4方向	クリ
949 1825	杭	87.7+α×8.4×4.8	㊟ SA4006 弥生後期～	割り材 1/8	頭部/先端の 一部欠損	II Ca-L…1方向+Bb-S…5方向	クリ
950 1829	杭	51.6+α×7.5×4.4	㊟ SA4006 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II Ca-L…1方向	ヤマブ クワ
951 1802	杭	40.3+α×4.7×5.0	㊟ SA4012 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II Ab-M…6方向	クリ
952 1804	杭	24.8+α×5.9(径)	㊟ SA4012 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ba-S…5方向	クヌギ 節
953 1812	杭	31.7+α×7.7×3.0	㊟ SA4012 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II'1Aa-L…4方向	ヤマブ クワ
954 1813	杭	60.5+α×6.0×5.3	㊟ SC4015 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II Da-S…1方向	クヌギ 節
955 1803	杭	50.5+α×4.6(径)	㊟ SC4015 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Db-S…1方向	ウコギ 属
956 1806	杭	55.9+α×5.0(径)	㊟ SC4015 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Bb-S…4方向	クヌギ 節
957 1821	杭	48.2+α×6.8×3.9	㊟ SC4015 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II Cb-S…3方向	クヌギ 節
958 1814	杭	63.5+α×6.0(径)	㊟ SC4015 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…2方向+Db-S…2方向	ウコギ 属
959 2605	杭	100.1+α×4.2(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ba-S…6方向 枝打ち削り痕を編所に残す 配用材の可能性ある	-
960 1808	杭	50.5+α×5.4(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…6方向	鐵椎ク ワ
961 0821	杭	114.1+α×5.3(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…6方向	サワフ タギ
962 1805	杭	32.2+α×6.2(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…5方向	エノキ 属
963 1820	杭	33.0+α×3.3(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…6方向	クヌギ 節
964 0895	杭	25.5+α×3.9(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ca-L…1方向	エノキ 属
965 1816	杭	120.0+α×3.7(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Db-S…1方向	ニワト コ
966 0899	杭	25.1+α×3.0(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…4方向	クヌギ 節
967 1609	杭	67.5+α×3.5(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Db-S…1方向	コナラ 節
968 0898	杭	50.8+α×7.6(径)	㊟ SA4011 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/全体の 欠損	I Aa-M…4+α方向	エノキ 属
969 0876	杭	41.6+13.6+α×5.2(径)	㊟-2 SA3012 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…3方向+Db-S…2方向	-
970 0882	杭	29.5+α×5.3×4.1	㊟-2 SA3012 弥生後期～	割り材 1/8	頭部欠損	II Aa-L…4方向+Bb-S…4方向	-
971 0860	杭	46.8+α×4.0(径)	㊟-2 SA3012 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-L…4方向	-
972 1811	杭	110.0+α×8.0×5.7	㊟ SC3521 弥生後期	割り材 1/8	頭部/先端の 一部欠損	II Ca-M…1方向	カヤ
973 1818	杭	63.1+α×6.7×4.6	㊟ SC3521 弥生後期	角材 斜め	頭部/先端の 一部欠損	III Aa-M…5方向	クヌギ 節
974 1810	杭	38.6+α×2.5(径)	㊟ SC3521 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Cb-M…1方向	クヌギ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
975 0896	杭	25.4+α×5.5×3.2	④ SC3522 弥生後期	板材 柱目	頭部欠損	IVCa-M…1方向	クスギ 節
976 1801	杭	85.4+α×7.9×5.6	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部欠損	IIAb-L…5方向	クスギ 節
977 0813	杭	76.1+α×6.6×3.5	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部欠損	IIAb-M…4方向	クスギ 節
978 1807	杭	89.3+α×6.4×5.0	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部/先端の 一部欠損	II'IAa-L…5方向	クスギ 節
979 0816	杭	56.0+α×7.5×4.4	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部欠損	IIAa-L…6方向	クスギ 節
980 1815	杭	96.0+α×7.4×4.3	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部/先端の 一部欠損	IIAa-M…6方向	クスギ 節
981 0819	杭	107.0+α×7.5×5.0	④ SC3524 弥生後期	割り材 1/8	頭部欠損	IIAa-L…5方向	クスギ 節
982 0892	杭	31.5+α×4.0(径)	④ SC3526 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Bb-S…2方向	クスギ 節
983 0897	杭	52.3+8.8+α×4.8(径)	④ SA3102 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-S…3方向 枝打ち削り痕を獲す	ケヤキ
984 0886	杭	124.4+α×7.3(径)	④ SA3102 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICa-L…2方向	ケヤキ
985 0880	杭	45.7+α×6.7(径)	④ SA3102 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IBa-S…2方向	ヤナギ 属
986 0803	杭	58.6+α×4.9(径)	④ SA3102 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	IAb-M…4方向	クリ
987 0879	杭	107.1+α×6.5(径)	④ SA3102 弥生後期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	IAa-L…6方向	エノキ 属
988 0807	杭	120.7+α×7.7×6.6	④ SA3102 弥生後期～	割り材 片	頭部欠損	II'2Aa-L…6方向	モミ属
989 0851	杭	111.7+α×6.4×5.6	④ SA3102 弥生後期～	割り材 片	頭部欠損	II'IAa-L…6方向	-
990 0887	杭	50.5+α×5.6×3.5	④ SA3102 弥生後期～	角材 板目	頭部欠損	IIIBb-S…2方向	モミ属
991 0882	杭	66.3+α×6.7×4.4	④ SA3102 弥生後期～	角材 斜め	頭部欠損	IIIBb-S…2方向	モミ属
992 0808	杭	42.4+α×3.5×2.5	④ SA3102 弥生後期～	角材 板目	頭部欠損	IIIAa-L…4方向	モミ属
993 0888	杭	64.0+α×5.0×4.2	④ SA3102 弥生後期～	角材 板目	頭部欠損	IIIBb-S…2方向	モミ属
994 0810	杭	56.6+α×8.2(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	IAa-L…6方向	オニヅ ルミ
995 0884	杭	73.8+α×5.3(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IBa-S…4方向	モミ属
996 0825	杭	97.3+α×8.8(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-L…7方向	オニヅ ルミ
997 0835	杭	78.1+α×7.0(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAb-L…7方向+Db-S…3方向	クリ
998 0885	杭	85.9+α×7.5(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-M…6方向	モミ
999 0883	杭	93.3+α×6.5(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-L…7方向+Db-S…1方向	クリ
1000 0891	杭	46.8+α×5.3(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IBa-S…2方向	オニヅ ルミ
1001 0812	杭	83.9+α×6.5(径)	④ SA3104 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-L…6方向	コナラ 節

図版番号 写真番号	群 種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
1002 0815	杭	81.0+α×6.5×5.0	④ SA3104 弥生後期	割り材 片	頭部欠損	IIAa-L…3方向	クヌギ 節
1003 0889	杭	123.5+α×7.7×7.7	④ SA3104 弥生後期	割り材 片	頭部欠損	IIAa-L…7方向+Db-S…1方向 一部炭化 痕が残る 転用材の可能性ある	クリ
1004 0833	杭	82.0+α×11.2(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	ICA-L…3方向+Ba-S…2方向 枝打ち削り 痕を残す	クヌギ 節
1005 0877	杭	38.0+α×9.4(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICA-L…4方向	クヌギ 節
1006 0831	杭	56.2+α×6.9(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICA-L…2方向	クヌギ 節
1007 0832	杭	57.9+α×9.3(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICA-L…4方向+Db-S…2方向	クリ
1008 0834	杭	81.3+α×9.5(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICA-L…1方向+Db-S…1方向	クヌギ 節
1009 1877	杭	38.7+α×7.2(径)	④ SA2101 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	ICA-L…2方向	クヌギ 節
1010 1824	杭	29.0+α×4.8(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAb-L…6方向 枝打ち削り痕を残す	カエデ 属
1011 1823	杭	106.5+α×6.4(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAb-M…5方向 枝打ち削り痕を随所に残す	モミ属
1012 1825	杭	40.0+α×2.4(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	IAb-M…4方向	クヌギ 節
1013 1843	杭	61.8+α×2.5(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-M…6方向	クヌギ 節
1014 1830	杭	69.4+α×3.5(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-M…5方向 枝打ち削り痕を残す	クヌギ 節
1015 1831	杭	74.8+α×3.1(径)	④ SA4001 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAb-M…5方向 枝打ち削り痕を残す	クヌギ 節
1016 1833	杭	92.8+α×6.3×4.1	④ SA4001 古墳前期～	角材 板目	頭部欠損	IIIAa-L…6方向	コナラ 節
1017 1844	杭	44.5+α×5.8×3.0	④ SA4002 古墳前期～	割り材 1/8	頭部欠損	IICa-S…4方向	コナラ 節
1018 1845	杭	66.4+α×5.3(径)	④ SA4003 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-L…6方向	撒哈ク ワ
1019 1837	杭	82.0+α×3.8(径)	④ SA4002 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICb-M…1方向 枝打ち削り痕を残す	クヌギ 節
1020 1838	杭	72.5+α×5.3(径)	④ SA4002 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	ICA-M…1方向 枝打ち削り痕を残す	エノキ 属
1021 1856	杭	74.1+α×5.5(径)	④ SA4002 古墳前期～	割り材 片	頭部/先端の 一部欠損	II*IAb-S…4方向	アサゲ
1022 1836	杭	100.0+α×8.4×4.5	④ SA4002 古墳前期～	板材 斜め	頭部欠損	IVAa-M…6方向	クリ
1023 1834	杭	86.1+α×6.7×5.5	④ SA4002 古墳前期～	割り材 1/8	頭部欠損	IIDa-S…2方向	コナラ 節
1024 1835	杭	74.4+α×6.6×6.3	④ SA4002 古墳前期～	角材 斜め	頭部欠損	IIICa-M…1方向	コナラ 節
1025 1827	杭	33.8+α×5.2(径)	④ SA4007 古墳前期後半	丸木 芯もち	頭部欠損	IBa-S…7方向	クロモ シ属
1026 1858	杭	64.6+α×7.5(径)	④ SA4007 古墳前期後半	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	IAa-M…5方向 枝打ち削り痕を残す	コナラ 節
1027 1842	杭	52.7+α×8.0×1.8	④ SA4007 古墳前期後半	板材 板目	頭部欠損	IVCa-L…3方向	モミ属
1028 1859	杭	37.5+α×2.4(径)	④ SA4010 古墳前期～	丸木 芯もち	頭部欠損	IAa-M…5方向	クヌギ 節

図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
1029 1857	椀	48.8+α×4.0(径)	⑨ SA4010 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Ab-M…6方向	コナラ
1030 1852	椀	55.4+α×5.2×4.1	⑨ SA4010 古墳前期～	角材 板目	頸部/先端の 一部欠損	III Ab-LL…5方向	モミ属
1031 1878	椀	57.8+α×5.6×2.7	⑩-1 SD3003 古墳前期～	角材 板目	頸部欠損	III Cb-L…2方向	-
1032 1880	椀	60.3+α×7.0×3.9	⑩-1 SD3003 古墳前期～	割り材 1/8	頸部欠損	II' I Ca-L…3方向	-
1033 0837	椀	103.5+α×4.1(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Ca-L…2方向	-
1034 0838	椀	110.0+α×11.1(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Aa-L…5方向+Bb-S…3方向 枝打ち削り痕を残す	-
1035 0865	椀	99.0+α×6.8(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Aa-L…5方向	-
1036 0842	椀	151.1+α×7.5(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Ab-S…5方向	-
1037 0840	椀	91.7+α×16.1(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部/全体の 欠損	I Ca-L…1方向	-
1038 0934	椀	138.4+α×10.8(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Aa-L…7方向 欠損する頸部には炭化痕がある	-
1039 0926	椀	148.4+α×8.6(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Ab-L…4方向 片側の削りは湾曲面を作りだしている 転用材の可能性ある	-
1040 0866	椀	115.0+α×9.6(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Aa-L…7方向 枝打ち削り痕を残す	-
1041 1895	椀	115.3+α×9.5×6.3	⑩-1 SD3003 古墳前期～	割り材 片	頸部欠損	II Ab-M…5方向	-
1042 0841	椀	126.6+α×10.7(径)	⑩-1 SD3003 古墳前期～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Aa-L…6方向	-
1043 0861	椀	104.0+α×10.6×7.4	⑩-1 SD3003 古墳前期～	割り材 片	頸部欠損	II Aa-L…6方向	-
1044 0922	椀	148.8+α×11.2×7.1	⑩-1 SD3003 古墳前期～	割りだし	頸部欠損	IV Aa-L…4方向 割り材1/8を素材とする	-
1045 0849	椀	156.5+α×10.5×7.7	⑩-1 SD3003 古墳前期～	角材 板目	頸部欠損	IV Aa-LL…6方向	-
1046 1863	椀	88.9+α×4.7×3.5	⑩-2 SA3011 古墳前期後半～	角材 板目	頸部欠損	IV Bb-S…5方向 木炭、両木端に削り痕を残す	モミ属
1047 0824	椀	115.7+α×5.0(径)	⑩-2 SA3011 古墳前期後半～	丸木 芯もち	頸部欠損	I Aa-L…9方向 枝打ち削り痕を随所に残す	イヌガヤ
1048 1881	椀	49.8+α×4.4(径)	⑩-2 SA3005 古墳前期	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Ab-S…6方向	-
1049 1873	椀	33.6+α×3.1(径)	⑩-2 SA3005 古墳前期	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Bb-S…4方向	-
1050 1817	椀	98.1+α×6.5(径)	⑩ SC3506 古墳前期	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Bb-S…4方向 枝打ち削り痕を残す	カヤ
1051 1874	椀	39.0+α×4.8(径)	⑩-2 SA3514 弥生後期～古 墳前期	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Cb-L…1方向	クスギ 節
1052 0881	椀	90.0+α×4.8(径)	⑩-3 水田層 弥生後期	丸木 芯もち	頸部欠損	I Aa-L…6方向	クスギ 節
1053 0974	椀	99.4+α×8.2(径)	⑩ SA3514 I 弥生後期～古 墳前期	丸木 芯もち	頸部/先端の 一部欠損	I Cb-L…1方向 枝部に顕著な削り痕を残す	-

図版番号 図説番号	群 種	長さ×幅×厚さ(径)の 欠損による計測値は+α	出土 位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
1054 0829	杭	31.4+α×3.8(径)	③ SA3101 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-L…6方向	ハリギ リ
1055 1875	杭	24.6+α×3.6(径)	③ SA3101 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-L…4方向	-
1056 1896	杭	9.1+α×2.0(径)	③ SD3014 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…4方向	-
1057 0826	杭	136.1×6.5(径)	③ SD4005 弥生後期	丸木 芯もち	完存	I Ab-L…6方向+Bb-S…3方向 一端の木 口は又木の部分でBb-S…2方向	サクラ 属
1058 0960	杭	98.2+α×11.3(径)	③ SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Db-S…4方向 頭部に粗い削りか残る	-
1059 0873	杭	44.6+α×9.8(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Da-S…2方向 枝打ち削り痕を残す	-
1060 0970	杭	102.4+α×9.1(径)	③ SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Bb-S…2方向	-
1061 0864	杭	83.0+α×9.7(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Da-S…1方向	-
1062 0870	杭	57.6+α×4.5(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ca-S…1方向	-
1063 0869	杭	45.4+α×4.6(径)	①-2 SA3008 古墳前期-中期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Bb-S…2方向	-
1064 1884	杭	33.8+α×5.5(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ba-S…2方向	クヌギ 属
1065 0806	杭	29.7+α×4.8(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ba-S…2方向	ガマズ ミ属
1066 0872	杭	56.5+α×5.0(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-M…4方向	-
1067 0858	杭	37.9+α×5.6(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…5方向	-
1068 0854	杭	197.5×6.6(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	完存	I Bb-S…4方向	-
1069 0823	杭	82.2+α×7.1×6.4	③ SD3004 I 弥生後期	削り材 片	頭部/先端の 一部欠損	II Db-S…5方向 枝打ち削り痕を残す	イヌガ ヤ
1070 0848	杭	206.5+α×7.4(径)	③ SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Bb-S…4方向	-
1071 0811	杭	33.2+α×4.5(径)	③ SD3004 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…6方向+Db-S…1方向	ケヤキ
1072 0874	杭	31.1+α×4.5(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-M…6方向 枝打ち削り痕を残す	-
1073 0958	杭	259.6+α×7.5(径)	③ SD3004 II 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…5方向	-
1074 0805	杭	126.8+α×8.2(径)	①-1 SD3004 古墳前期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向	コナラ 属
1075 0875	杭	31.5+α×4.4(径)	①-1 SD3003 古墳前期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…5方向	-
1076 0817	杭	68.9+α×4.8(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…7方向	モミ属
1077 0822	杭	127.0+α×7.5(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-L…6方向 枝打ち削り痕が随所に残る	モミ属
1078 0839	杭	119.2+α×11.9(径)	①-1 SD3004 弥生後期-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…4方向	-
1079 0830	杭	122.0+α×7.4×4.2	③ SD3004 I 弥生後期	削り材 片	頭部欠損	II Ab-L…6方向 枝打ち削り痕を残す	クリ
1080 0814	杭	69.3+α×5.2(径)	③ SD3004 I 弥生後期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…5方向 垂木材の転用か	カヤ

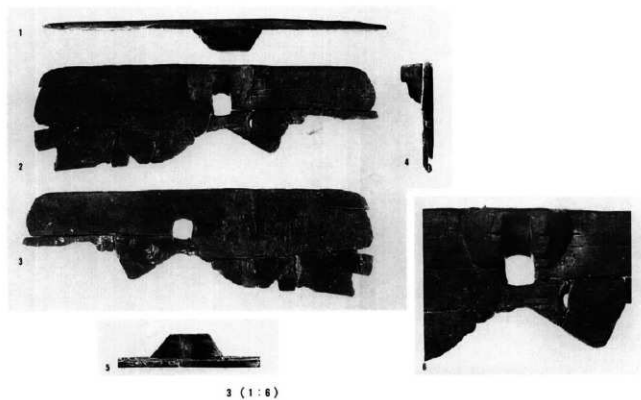
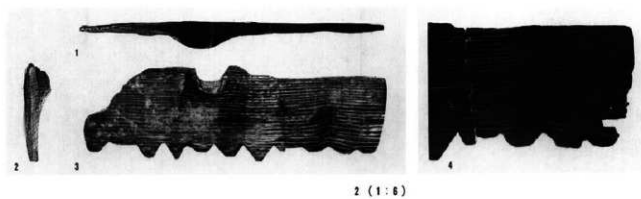
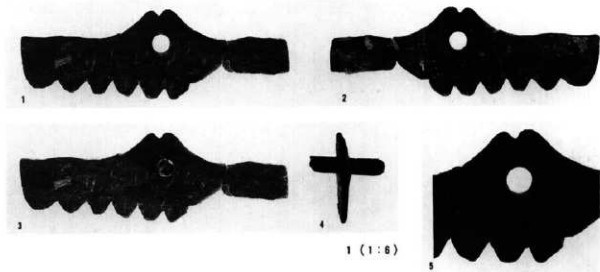
図版番号 図解番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	製法
1081 0959	杖	288.2+α×10.0(径)	⑨ SD3004II 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…5方向+Cb-S…1方向	-
1082 0867	杖	97.5+α×6.0(径)	⑩ SD3004 弥生後期~	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…7方向	クヌギ 類
1083 1690	杖	111.8+α×4.2(径)	⑨ SD3004 弥生後期~	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…6方向+Bb-S…5方向 枝打ち削り 痕を残す 転用材の可能性ある	カヤ
1084 0856	杖	130.5×6.9(径)	⑨ SD3004II 古墳前期	丸木 芯もち	全体の欠損	I Cb-S…2+α方向 一部に炭化痕を残す	-
1085 1862	杖	54.7+α×3.2(径)	⑨ SD3004 弥生前期~	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…5方向	カヤ
1086 0868	杖	18.5+α×3.9(径)	⑩-1 SD3004 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Cb-L…3方向	-
1087 0845	杖	60.9+α×5.2(径)	⑨ SD3004 弥生前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…7方向	-
1088 0857	杖	130.9×7.0(径)	⑨ SD3004II 古墳前期	丸木 芯もち	ほぼ完存	I Bb-S…5方向 両端の木口先端加工 I Bb-S…3+α方向	-
1089 0920	杖	174.4+α×8.4×6.8	⑨ SD3004II 古墳前期	角材 斜め	頭部欠損	IIIAb-M…5方向 転用材か	-
1090 0836	杖	89.2+α×9.7×7.1	⑨ SD3004I 弥生前期	角材 板目	頭部欠損	III Aa-LL…4方向+Bb-S…3方向	モミ属
1091 0871	杖	33.0+α×8.6×8.2	⑩-1 SD3004 古墳前期	割り材 1/8	頭部欠損	II Da-S…1方向	-
1092 0919	杖	117.4+α×9.2×7.6	⑨ SD3004II 古墳前期	角材 斜め	頭部/先端の 一部欠損	III Aa-L…5方向	-
1093 0859	杖	38.7+α×7.4×6.2	⑩-1 SD3004 古墳前期	角材 板目	頭部/先端の 一部欠損	III Aa-L…5方向	-
1094 0844	杖	134.7+α×9.8×4.3	⑨ SD3004 弥生後期~	割り材 1/8	頭部欠損	II *2Cb-M…2方向	-
1095 0820	杖	88.2+α×4.3×4.1	⑨ SD3004I 弥生後期	割り材 1/8	頭部欠損	II Aa-L…6方向	モミ属
1096 0852	杖	99.9+α×7.6×4.9	⑨ SD3004 弥生前期	角材 板目	頭部/先端の 一部欠損	III Aa-LL…6方向 転用材の可能性ある	-
1097 0809	杖	35.5+α×6.1×3.4	⑨ SD3004I 弥生後期	角材 板目	頭部欠損	III Ab-M…3方向	クリ
1098 0863	杖	108.8+α×6.0×5.5	⑩-1 SD3004 古墳前期	角材 板目	頭部欠損	III Ab-M…7方向	-
1099 0938	杖	152.8+α×6.8×4.3	⑩-2 SA3008 古墳前期~中 期	板材 斜め	頭部/先端の 一部欠損	IV Ab-M…6方向	-
1100 0804	杖	125.8×6.5×5.5	⑨ SD3004 弥生後期	角材 板目	完存	IV Ba-S…2方向 両端の木口先端加工 IV Bb-S…4方向	モミ属
1101 0853	杖	114.3+α×10.5×7.3	⑨ SD3004II 古墳前期	板材 板目	頭部欠損	IV Aa-L…4方向	-
1102 0818	杖	61.6+α×5.4×4.5	⑨ SD3004II 古墳前期	割り材 1/8	頭部欠損	II Aa-L…7方向	クリ
1103 ビ643	杖	45.0+α×8.4(径)	⑩-2 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…5方向	コナラ 類
1104 ビ649	杖	50.0+α×7.0(径)	⑩-2 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…7方向	クヌギ 類
1105 ビ652	杖	55.4+α×10.6(径)	⑩-2 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…7方向	クヌギ 類
1106 ビ644	杖	49.8+α×8.6(径)	⑨ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…7方向	クヌギ 類
1107 ビ651	杖	42.2+α×8.4(径)	⑨ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…8方向	クヌギ 類

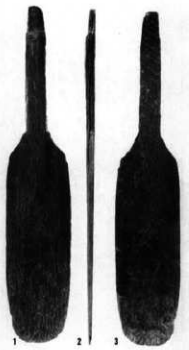
図版番号 整理番号	器種	長さ×幅×高さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り①・②・③)	樹種
1108 ヒ642	枕	86.9+α×11.6(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…9方向	コナラ 節
1109 ヒ653	枕	53.0+α×9.4(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…8方向	モクレン 属
1110 ヒ658	枕	33.2+α×6.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…5方向	クヌギ 節
1111 ヒ659	枕	32.0+α×7.6(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…7方向	クヌギ 節
1112 ヒ647	枕	62.4+α×10.2(径)	㊸-1 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向	サクラ 属
1113 ヒ646	枕	111.2+α×8.6(径)	㊸-1 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…8方向	コナラ 節
1114 ヒ648	枕	58.0+α×11.8(径)	㊸-1 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…7方向	コナラ 節
1115 ヒ656	枕	64.0+α×9.4(径)	㊸-1 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…8方向	クジキ
1116 ヒ650	枕	85.0+α×10.0(径)	㊸-1 SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…6方向	クリ
1117 ヒ657	枕	86.2+α×8.2×5.0	㊸-1 SD1016 古墳前期	角材 斜め	頭部欠損	III Aa-M…7方向 転用材か	コナラ 節
1118 ヒ635	枕	102.0+α×8.8(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…7方向	-
1119 ヒ637	枕	114.6+α×10.4(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…8方向	-
1120 ヒ640	枕	106.7+α×11.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…7方向	-
1121 ヒ654	枕	64.7+α×8.8(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…5方向	クヌギ 節
1122 ヒ655	枕	81.0+α×6.2(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…8方向	クヌギ 節
1123 ヒ645	枕	62.7+α×10.8(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…8方向	モミ属
1124 ヒ636	枕	116.0+α×12.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…7方向 枝打ち削り痕を残す	-
1125 ヒ638	枕	108.0+α×11.1×8.8	㊸ SD1016 古墳前期	角材 斜め	頭部欠損	III Aa-LL…7方向 転用材か	-
1126 ヒ639	枕	82.0+α×11.6(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-LL…7方向	-
1127 ヒ88	枕	85.9+α×6.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…4方向	クヌギ 節
1128 ヒ99	枕	67.7+α×5.4	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…4方向	クヌギ 節
1129 ヒ90	枕	39.9+α×3.1(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…3方向 枝打ち削り痕を残す	クヌギ 節
1130 ヒ147	枕	30.8+α×4.0(径)	㊸ SD1016 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…4方向	ヒノキ
1131 2617	枕	39.0+α×9.3(径)	㊸ SA1003 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向	クリ
1132 2616	枕	56.0+α×10.0(径)	㊸ SA1003 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…8方向	トナノ キ
1133 0878	枕	73.1+α×10.8×6.9	㊸ SA1002 古墳前期	割り材 片	頭部欠損	II'Ca-L…3方向	サワラ
1134 2618	枕	38.6+α×9.5(径)	㊸ SA2103 古墳前期	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-L…9方向	カエデ 属

図形番号 図形番号	器種	長さ×幅×厚さ(径)mm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	樹種
1135 ビ119	枕	33.4+α×6.5(径)	⑨ SA2102 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向	クスギ 節
1136 ビ110	枕	44.0+α×7.1(径)	⑦ SK1033 古墳前期	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-L…6方向 先端部に炭化痕が見る	コナラ 節
1137 1860	枕	67.6+α×7.7×3.3	①-2 SC3002 平安	板材 板目	頭部欠損	IV Aa-L…4方向	モミ属
1138 1861	枕	48.0+α×6.0×2.0	①-2 SC3002 平安	板材 板目	頭部欠損	IV Aa-L…4方向	モミ属
1139 0890	枕	23.6+α×8.0(径)	⑨ SD3006 I 中世	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Da-S…1方向	二葉松 類
1140 0828	枕	8.2+α×3.2(径)	⑨ SD3006 I 中世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…4方向	アカマ ツ
1141 0827	枕	10.5+α×2.5(径)	⑨ SD3006 I 中世	丸木 芯もち	頭部/全体の 欠損	I Ab-L…4方向	アカマ ツ
1142 1882	枕	23.5+α×4.4(径)	①-2 検出箇 中世-	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ab-S…6方向	アカマ ツ
1143 1883	枕	29.0+α×6.9(径)	①-2 検出箇 中世-	丸木 芯もち	頭部欠損	I Aa-M…5方向	アカマ ツ
1144 1866	枕	48.6+α×5.6(径)	⑧-1 第1ト レンチ 平安~中世	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Ca-M…3方向 枝打ち削り痕を残す	二葉松 類
1145 1864	枕	43.1+α×9.6×8.0	⑧-1 第1ト レンチ 平安~中世	覆り材 1/6	頭部欠損	II Aa-L…6方向	アカマ ツ
1146 1870	枕	22.0+α×3.5(径)	⑧-1 第2ト レンチ 平安~中世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…5方向	クリ
1147 1869	枕	21.9+α×3.0(径)	⑧-1 第2ト レンチ 平安~中世	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Cb-S…1方向	二葉松 類
1148 1891	枕	42.6+α×5.5(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…6方向 枝打ち削り痕を残す	-
1149 1892	枕	36.9+α×4.3(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Aa-M…4方向	-
1150 1890	枕	33.6+α×3.4(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ca-M…3方向	I -
1151 1888	枕	18.9+α×4.3(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部/先端の 一部欠損	I Cb-M…1方向	-
1152 1893	枕	23.1+α×4.1(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ca-M…3方向	-
1153 1887	枕	16.5+α×3.2(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ca-M…2方向	-
1154 1886	枕	18.5+α×4.5(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…5方向	-
1155 1889	枕	18.0+α×4.5(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Cb-M…1方向	-
1156 1894	枕	37.3+α×3.0(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Db-S…1方向	-
1157 1885	枕	12.1+α×4.9(径)	①-1 SA3001 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ba-S…4方向	-
1158 ビ131	枕	31.4+α×4.5(径)	⑩ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…4方向	アカマ ツ
1159 ビ130	枕	25.8+α×4.5(径)	⑩ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-L…4方向	アカマ ツ

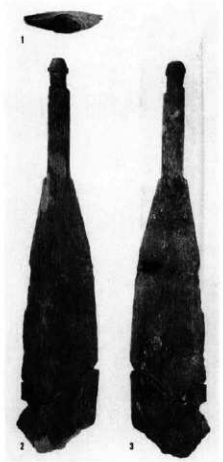
図版番号 整理番号	材種	長さ×幅×厚さ(径)cm 欠損による計測値は+α	出土位置	木取り	遺存状態	形状・加工の特徴(木取り・①・②・③)	産種
1160 ビ132	杭	10.7+α×28.3+α×3.4(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…4方向	アカマツ
1161 ビ125	杭	28.1+α×3.6(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…3方向	アカマツ
1162 ビ128	杭	19.4+α×4.2(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…3方向	アカマツ
1163 ビ126	杭	24.0+α×3.2(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-M…4方向	二葉松類
1164 ビ133	杭	12.2+α×2.8(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…4方向	二葉松類
1165 ビ129	杭	17.0+α×2.8(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部/先端一部欠損	I Cb-S…2方向	アカマツ
1166 ビ127	杭	14.6+α×2.7(径)	⑨ SA2005 近世	丸木 芯もち	頭部欠損	I Ab-S…3方向	二葉松類

写 真 图 版

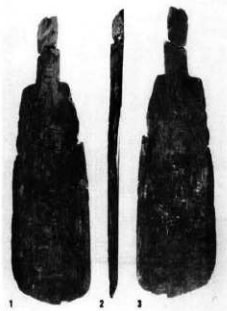




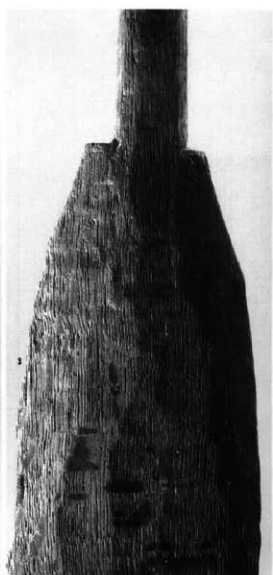
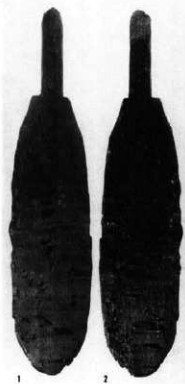
4 (1:6)



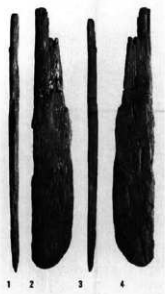
5 (1:6)



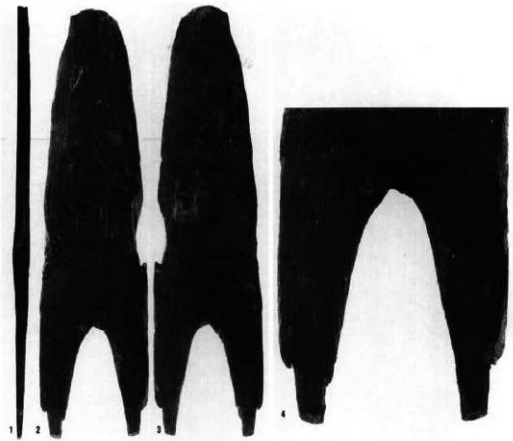
7 (1:6)



6 (1:6)



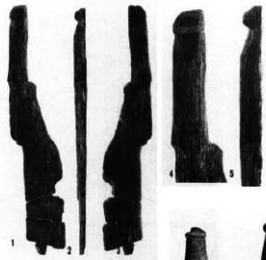
8 (1:4)



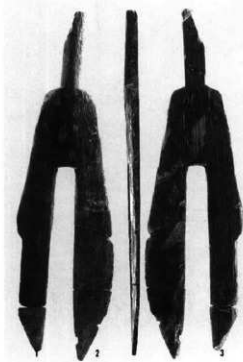
10 (1:4)



9 (1:4)



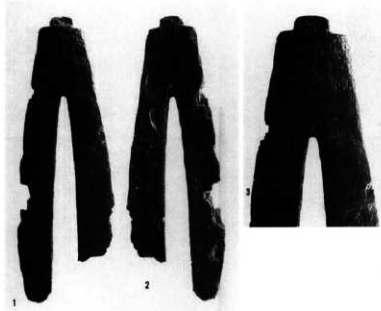
11 (1:6)



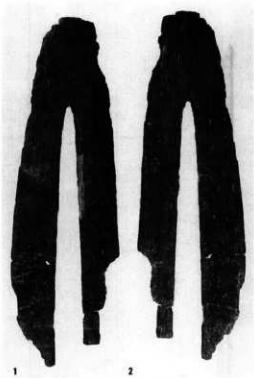
12 (1:6)



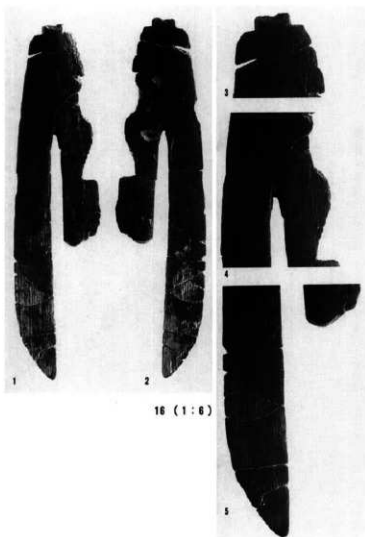
13 (1:6)



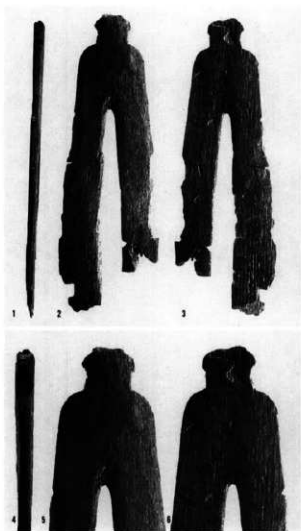
14 (1:6)



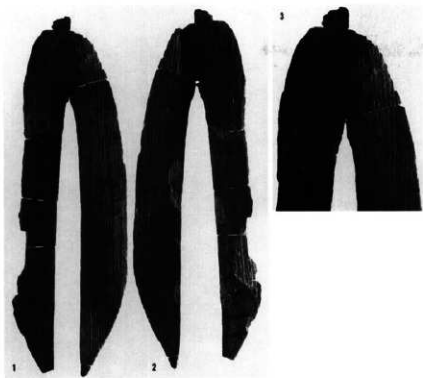
15 (1:6)



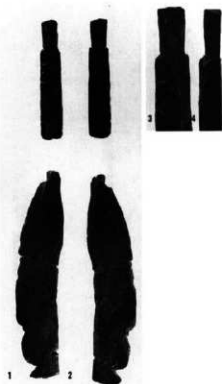
16 (1:6)



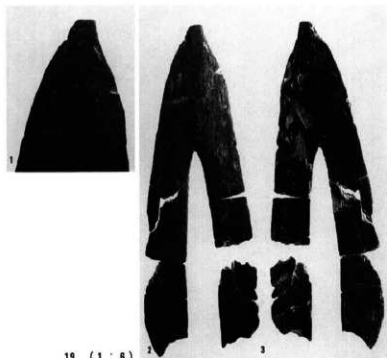
17 (1:6)



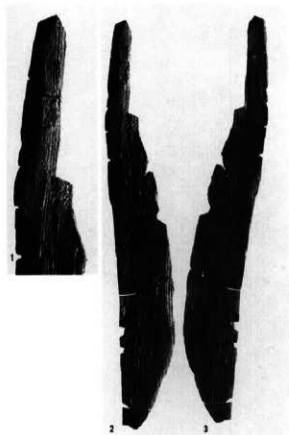
18 (1 : 6)



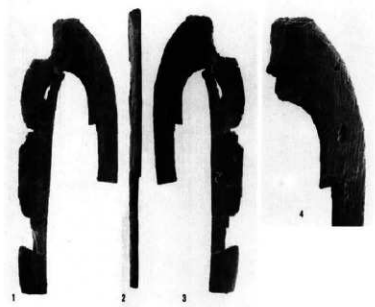
21 (1 : 6)



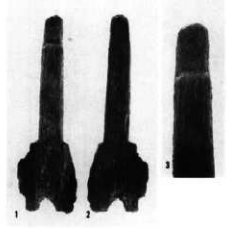
19 (1 : 6)



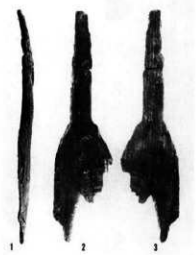
20 (1 : 6)



22 (1 : 6)



24 (1 : 6)



25 (1 : 6)



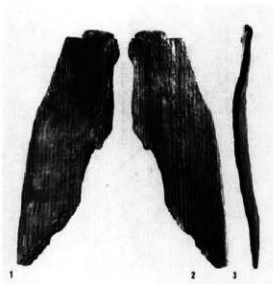
28 (1 : 6)



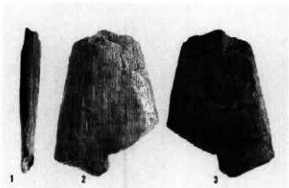
23 (1 : 4)



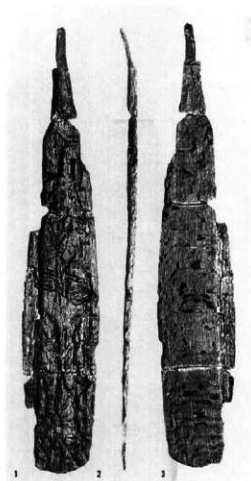
26 (1 : 4)



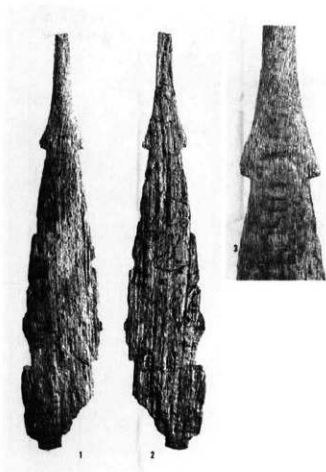
27 (1 : 4)



29 (1 : 4)



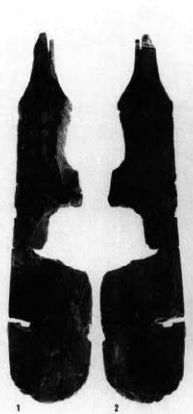
30 (1 : 6)



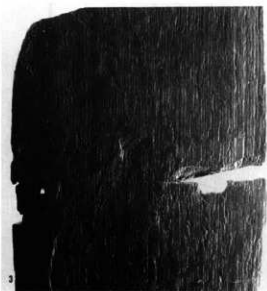
31 (1 : 6)

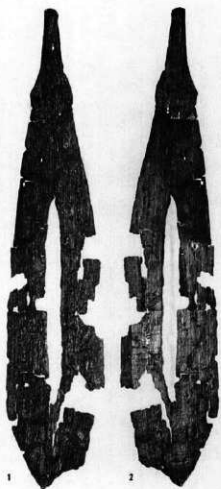


32 (1 : 6)

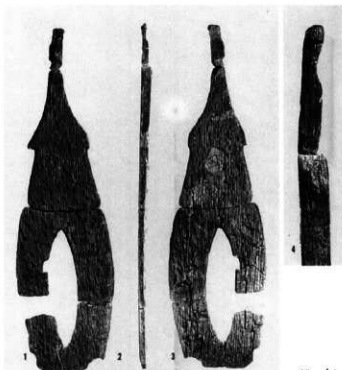


33 (1 : 6)

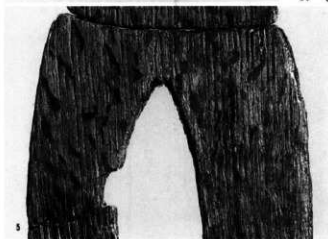




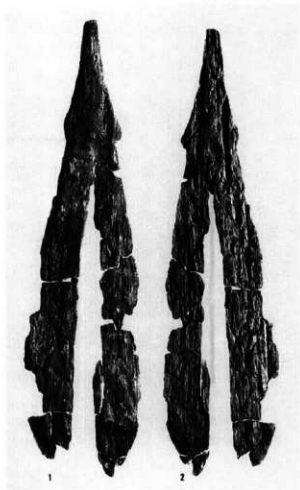
34 (1 : 6)



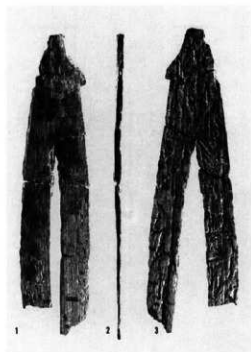
35 (1 : 6)



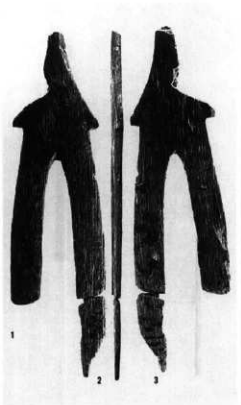
3



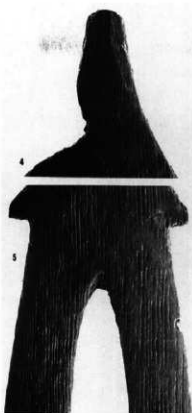
37 (1 : 6)



36 (1 : 6)



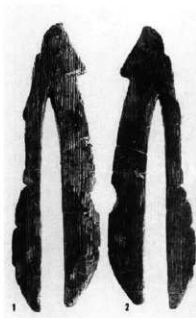
38 (1 : 6)



39 (1 : 6)



40 (1 : 6)

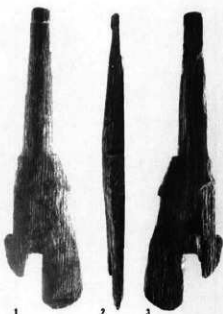


41 (1 : 6)





43 (1 : 6)



44 (1 : 4)



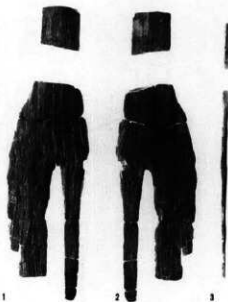
4



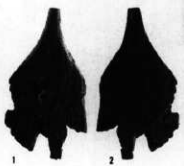
46 (1 : 6)



42
(1 : 6)



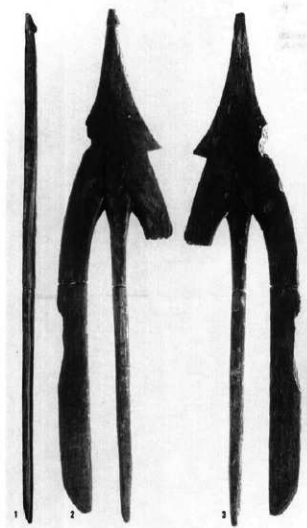
50 (1 : 6)



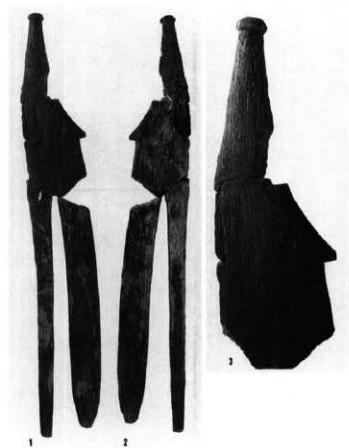
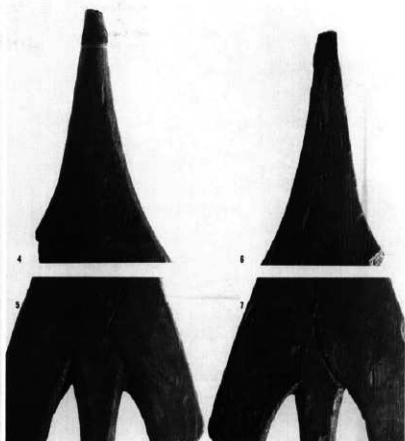
47 (1 : 6)



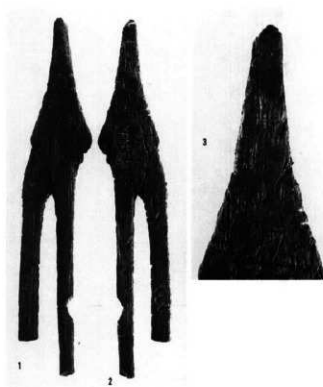
45 (1 : 4)



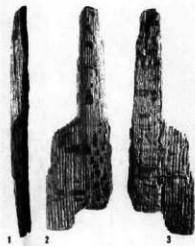
48 (1 : 8)



49 (1 : 8)



51 (1 : 8)



52 (1 : 4)



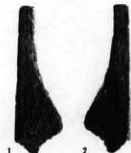
53 (1 : 4)



54 (1 : 4)



55 (1 : 4)



56 (1 : 4)



58 (1 : 4)



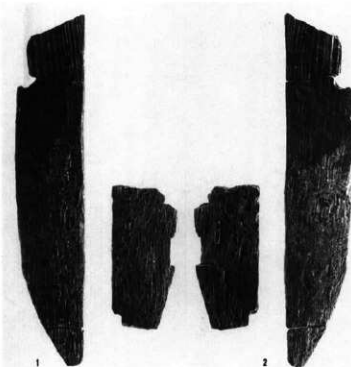
59

(1 : 4)

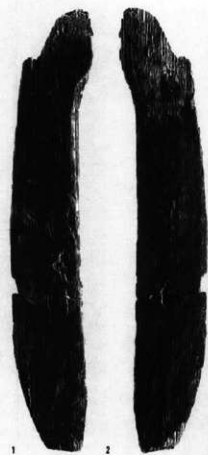


57

(1 : 4)

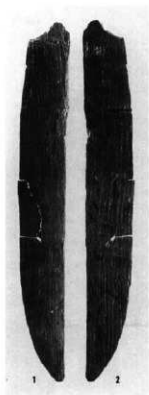


62 (1 : 4)

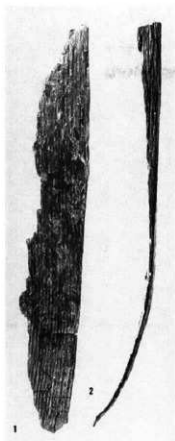


61

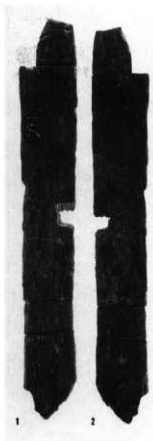
(1 : 4)



63 (1:4)



65 (1:4)



72 (1:4)



71 (1:4)



73 (1:4)



68 (1:4)



74 (1:4)



70 (1:4)



75 (1:4)



81 (1:4)



89 (1:3)



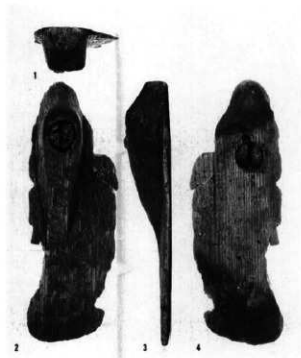
80 (1:3)



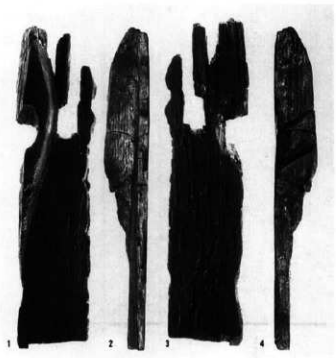
82 (1:3)



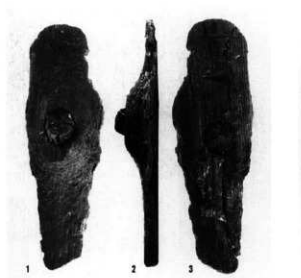
78 (1:3)



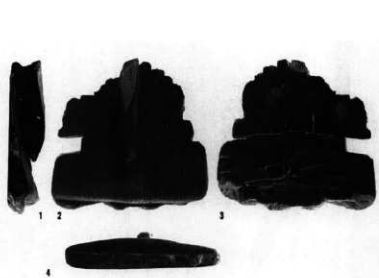
85 (1:4)



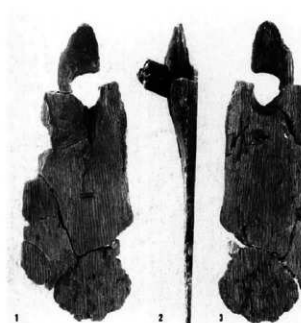
86 (1:4)



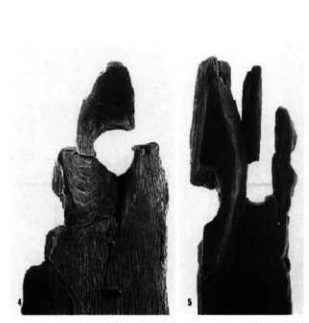
87 (1:4)



88 (1:4)



89 (1:4)



90 (1:3)

90 (1:3)



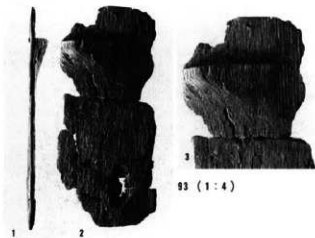
90 (1:4)



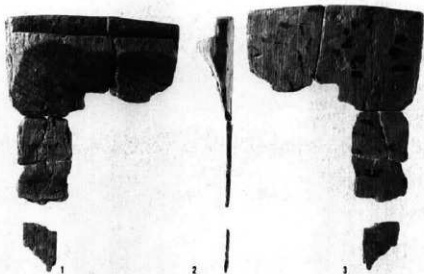
92 (1:4)



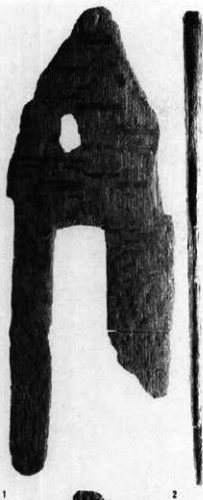
91 (1:4)



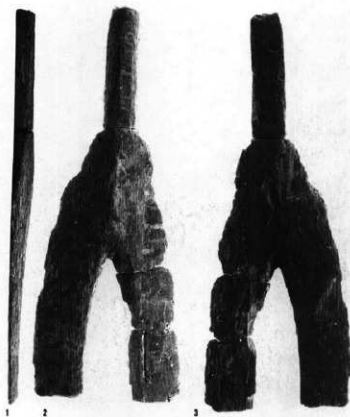
93 (1:4)



94 (1:4)

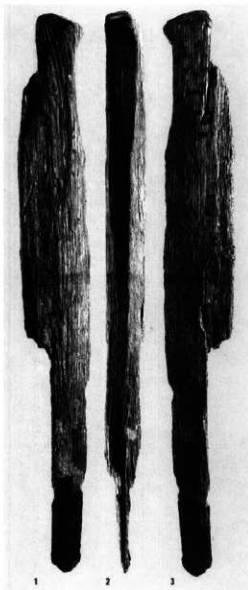


95 (1:4)



96 (1:4)





97 (1 : 4)



100 (1 : 4)



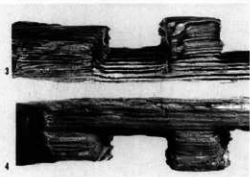
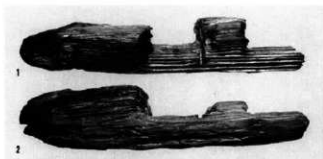
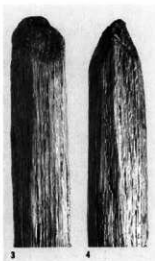
99 (1 : 4)



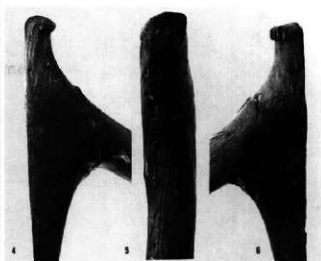
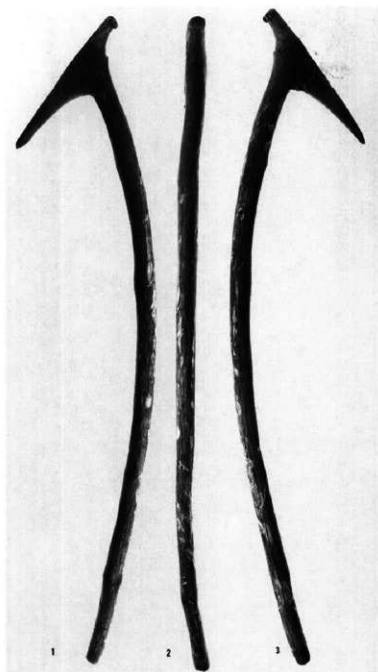
101 (1 : 4)



98 (1 : 4)



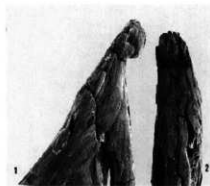
102 (1 : 4)



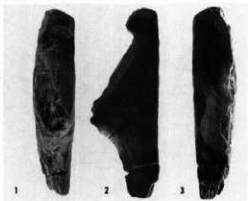
104 (1 : 3)



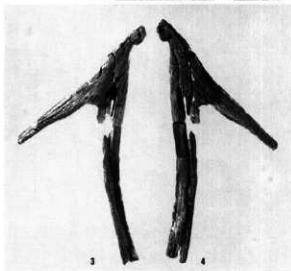
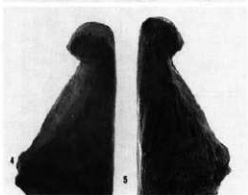
110
(1 : 3)



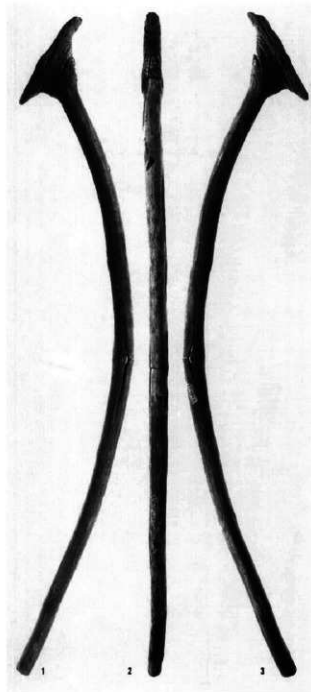
104
(1 : 6)



106
(1 : 4)



108 (1 : 6)

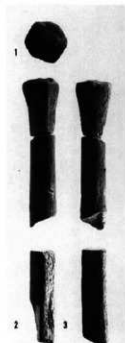


105 (1 : 6)

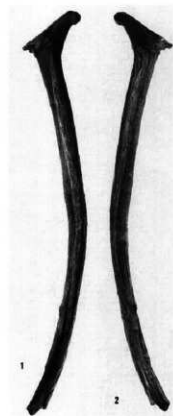
5
y



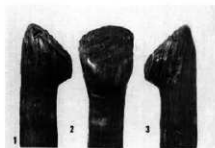
107 (1 : 6)



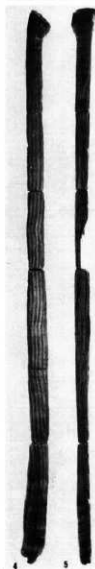
110
(1 : 6)



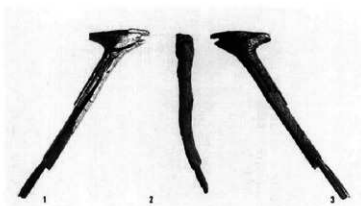
109 (1 : 6)



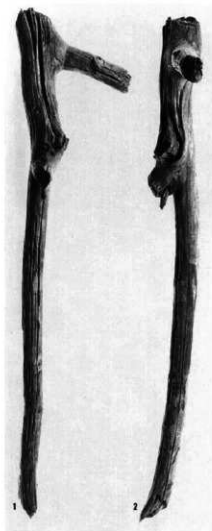
111 (1 : 6)



112 (1 : 6)

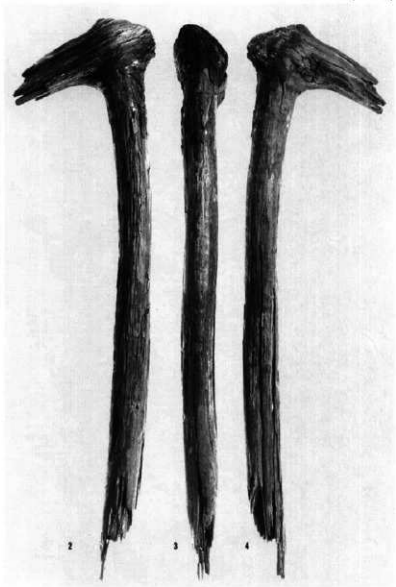
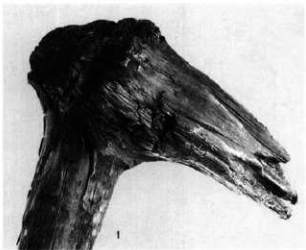


111 (1 : 6)

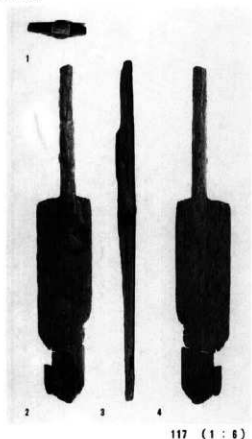


115 (1 : 6)

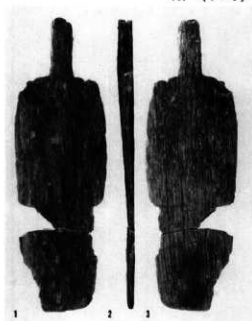
114
(1 : 6)



116
(1 : 4)



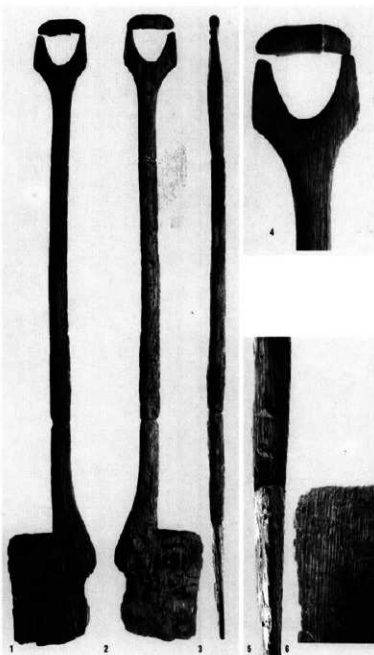
117 (1 : 6)



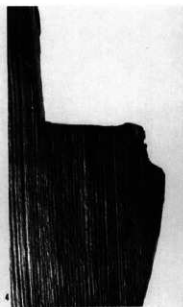
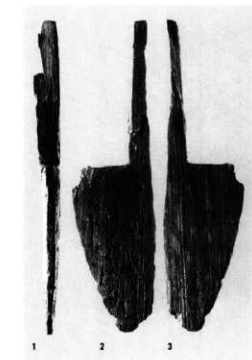
118 (1 : 6)



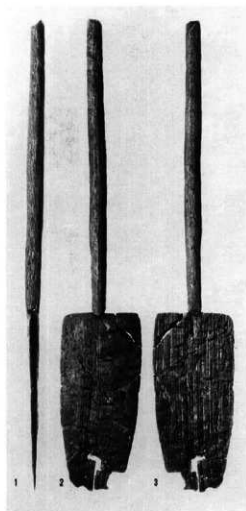
120 (1 : 6)



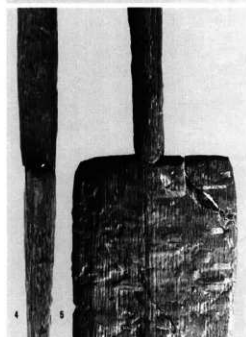
110 (1 : 6)



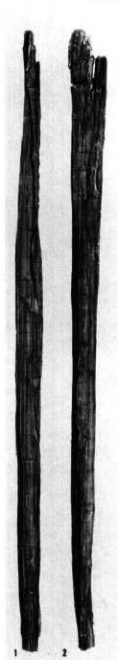
123 (1 : 6)



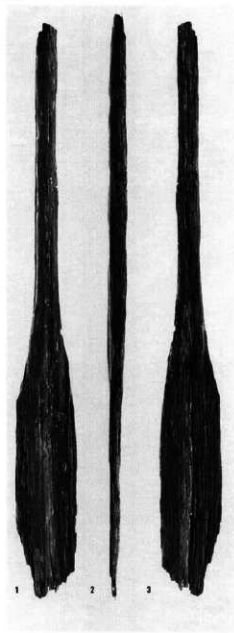
121
(1 : 6)



122 (1 : 6)



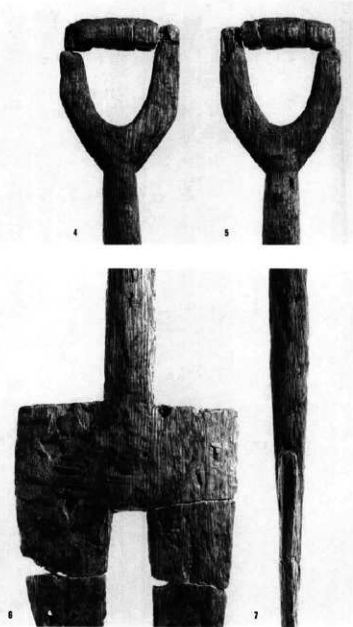
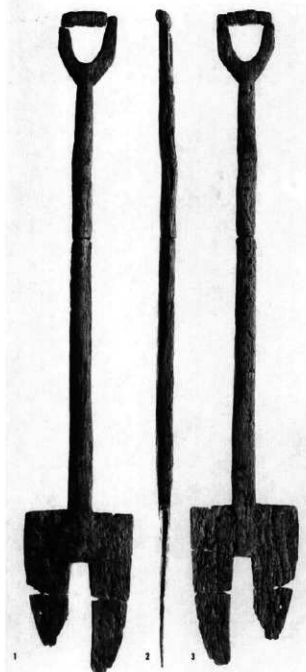
124-① (1 : 4)



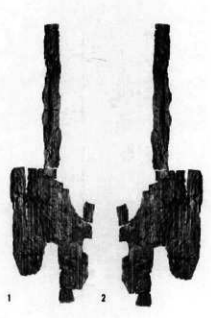
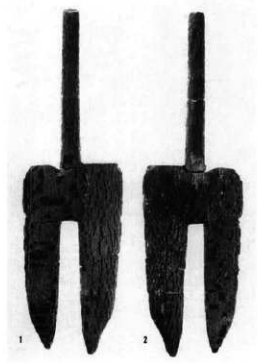
125 (1 : 6)



124-② (1 : 4)

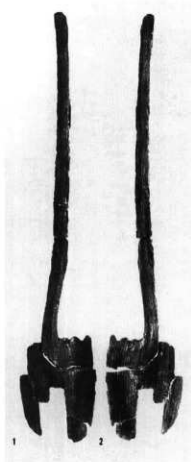


127 (1 : 6)

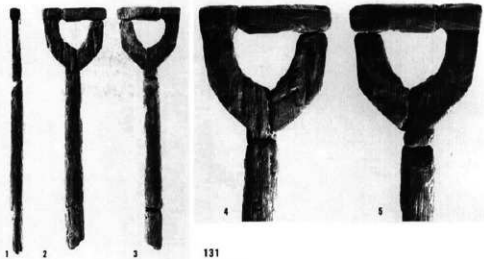


128 (1 : 6)

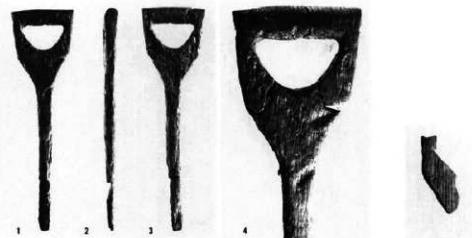
126 (1 : 6)



129 (1 : 6)



131
(1 : 6)

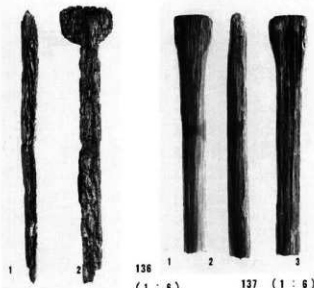


132
(1 : 6)

133 (1 : 4)



130 (1 : 6)



136
(1 : 6)

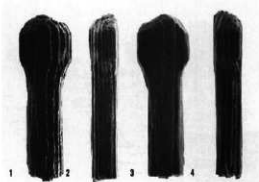
137 (1 : 6)



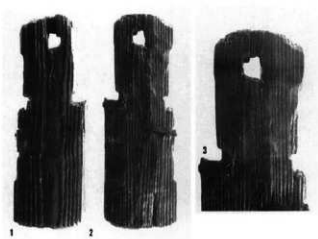
134 (1 : 2)



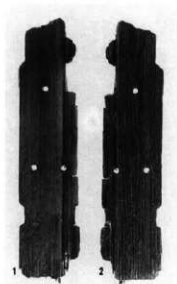
135 (1 : 2)



138
(1 : 4)



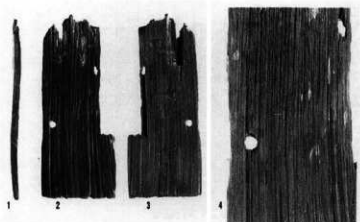
139 (1 : 6)



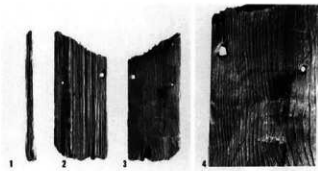
140 (1 : 6)



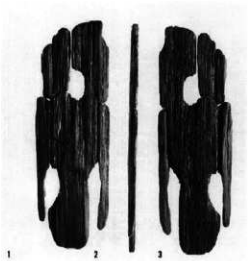
142 (1 : 6)



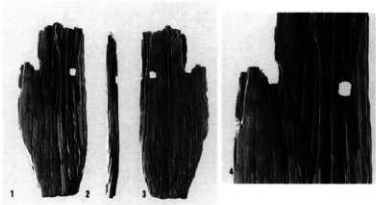
143 (1 : 6)



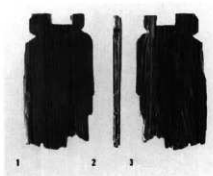
145 (1 : 6)



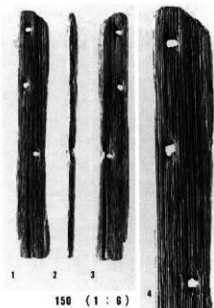
147 (1 : 6)



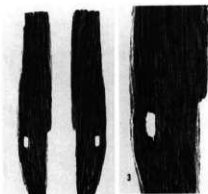
149 (1 : 6)



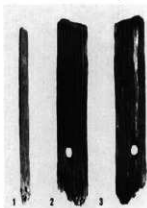
148 (1 : 3)



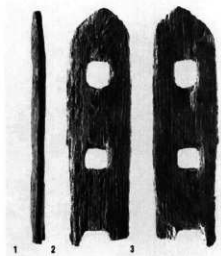
150 (1 : 4)



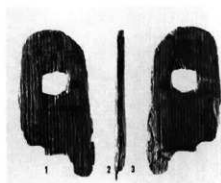
151 (1 : 3)



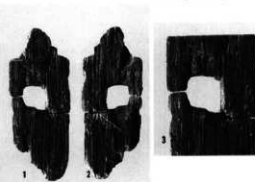
153 (1 : 4)



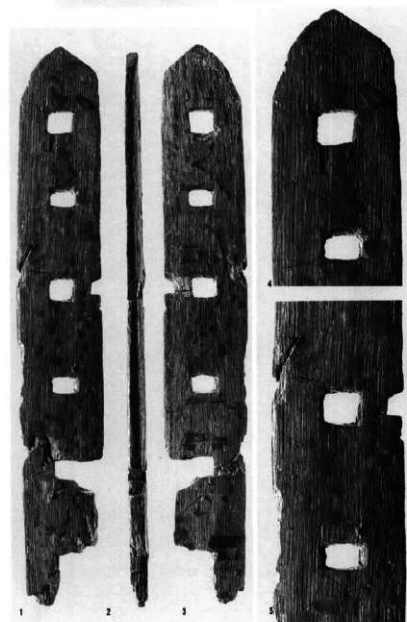
157 (1 : 3)



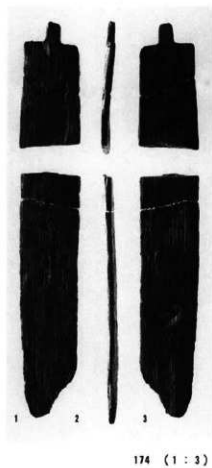
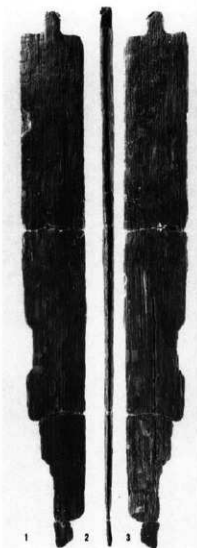
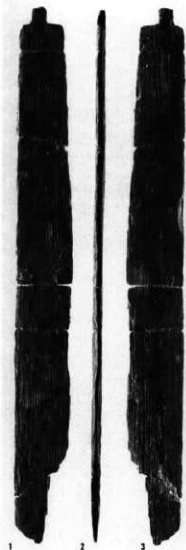
158 (1 : 3)



158 (1 : 3)

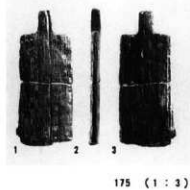


156 (1 : 3)



166
(1 : 3)

165 (1 : 3)



171
(1 : 3)

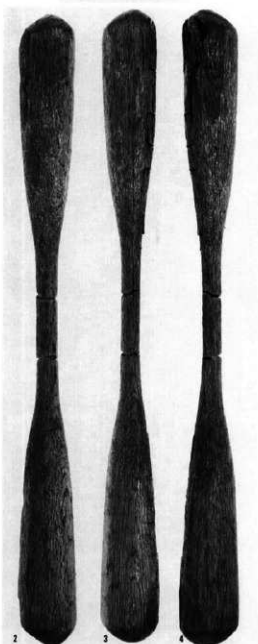
182
(1 : 3)

155 (1 : 6)





1

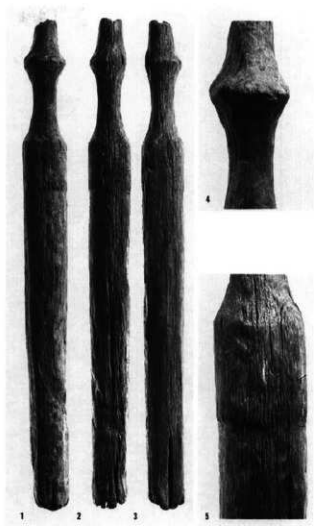


2

3

4

177
(1:6)



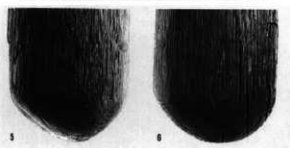
1

2

3

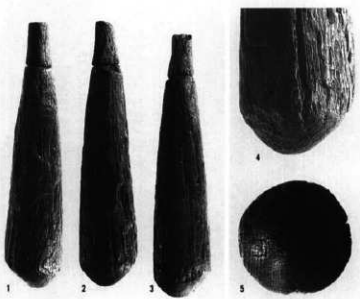
4

178 (1:6)



5

6



1

2

3

4

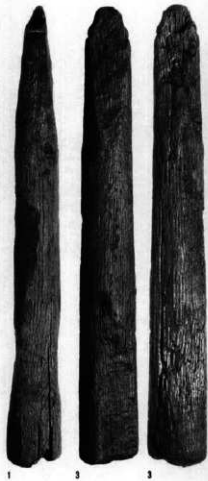


5

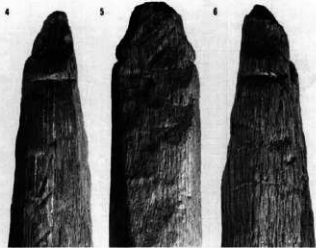
181 (1:6)



7



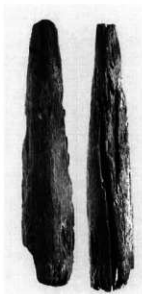
180 (1 : 6)



183 (1 : 6)



182 (1 : 6)



179 (1 : 6)



184 (1 : 6)



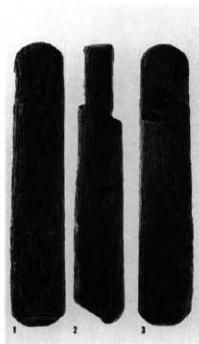
188 (1 : 6)



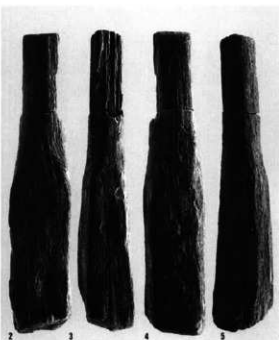
190 (1 : 6)



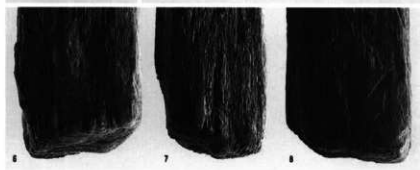
185 (1 : 3)

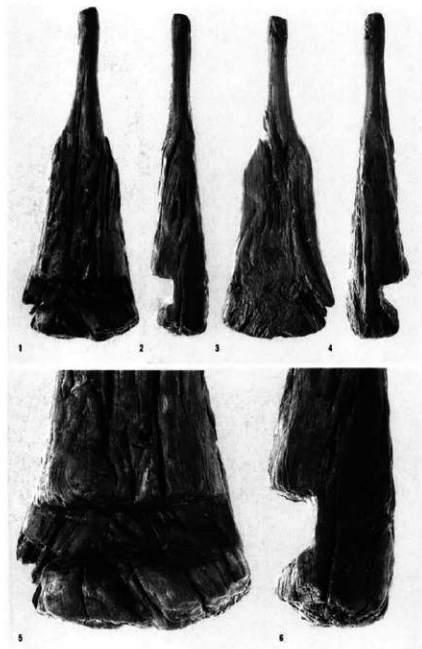


186 (1 : 6)



189 (1 : 6)

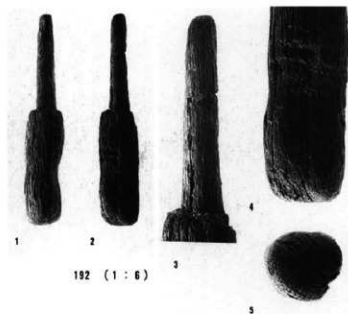




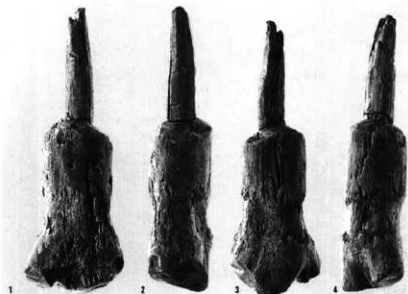
191



194



192 (1 : 6)



1

2

3

4

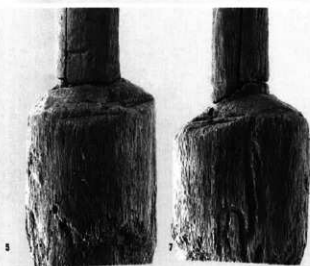
193
(1 : 6)



1

2

196 (1 : 6)



5

7



6

8



9



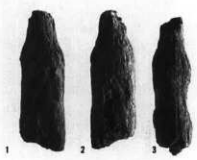
3



10



4

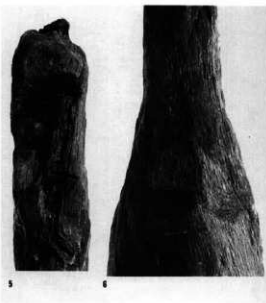
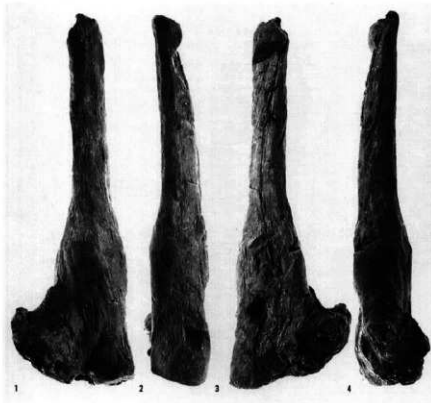


1

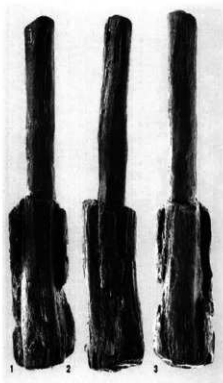
2

3

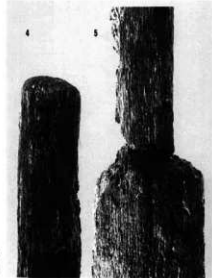
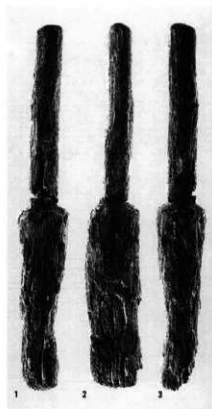
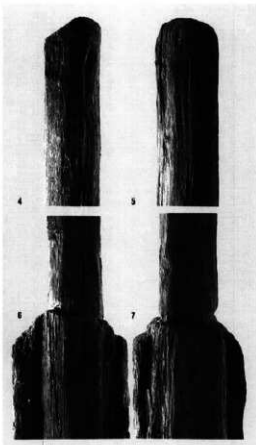
197 (1 : 6)



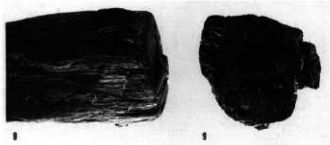
195 (1 : 6)

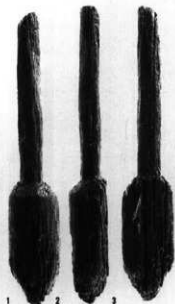


198 (1 : 6)



199
(1 : 6)

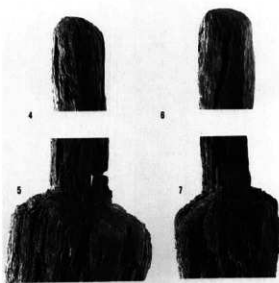
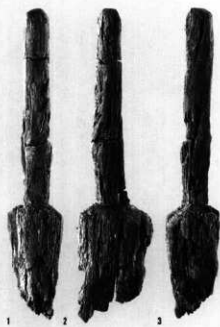




200
(1 : 6)

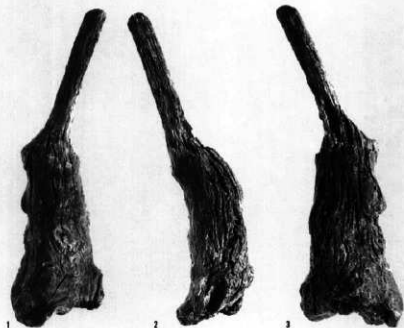


202 (1 : 4)



201
(1 : 6)

203 (1 : 6)



4



6